

令和6年度 厚生労働省委託事業
介護現場の生産性向上に関する普及加速化事業一式
事業報告書

令和7年3月

目次

第1章	本事業の概要	1
第1節	事業の目的と概要	1
第2章	事業の内容	2
第1節	「介護職員の働きやすい職場環境づくり内閣総理大臣表彰・厚生労働大臣表彰」の事務局業務	2
第2節	「生産性向上ガイドライン」の改訂	5
第3節	生産性向上の取組に関する介護事業所向けセミナーの実施	8
第4節	生産性向上の取組推進フォーラムの実施	118

第1章 本事業の概要

第1節 事業の目的と概要

第1項 背景・目的

高齢化の進展に伴い介護保険サービスの利用者が今後も増加する一方で、生産年齢人口が急速に減少していくことが見込まれており、制度の持続可能性を支える介護人材の確保は喫緊の課題となっている。こうした課題に対応するため、厚生労働省では、介護ロボット等のテクノロジーを活用し、業務の改善や効率化等を進めることにより、職員の業務負担の軽減を図るとともに、業務の改善や効率化により生み出した時間を直接的なケアに充て、利用者と職員が接する時間を増やすなど、介護サービスの質の向上にも繋げていくといった「介護現場における生産性向上」が促進されるよう、取組を進めている。具体的には、令和4年12月に「介護職員の働く環境改善に向けた政策パッケージ」を公表したこと、令和5年5月に介護保険法改正により、都道府県に対する介護事業所の生産性向上に資する取組が促進されるよう努める旨の新たな規定を設けたこと、岸田内閣総理大臣を本部長とする「デジタル行財政改革会議」において、「介護」が重点分野に位置付けられ、ICT等のデジタル技術活用の加速化に政府一体となって取り組むこととされていることなど、生産性向上の取組の普及・推進・支援へのニーズは急速に拡大している。これまで、厚生労働省では、現場の業務改善の手順や取組方法等を具体的に取りまとめた「介護サービス事業における生産性向上のガイドライン」（以下、「生産性向上ガイドライン」という。）等を作成するとともに、過年度事業等によって、継続的に介護事業者に対して生産性向上の取組に係る理解促進・定着支援を図るとともに、積極的に取組事例の横展開を図ってきた。

本事業においては、介護事業所の経営者層・介護従事者層が生産性向上の取組に関する知識や事業所での継続的な取組方法を学ぶセミナーの開催や個々の事業所の状況に応じた定着支援等を行うとともに、生産性向上の取組の普及・促進に資するフォーラムの開催や、「介護職員の働きやすい職場環境づくり内閣総理大臣表彰・厚生労働大臣表彰（優良賞）」の受賞事業所・施設（以下「受賞事業所」という。）の事例集作成及び生産性向上ガイドラインへの最新情報反映の改訂により、介護現場の生産性向上に関する取組を全国に普及・拡大することを目的に実施する。

第2項 概要

＜本事業の実施内容の全体像＞

本事業の実施内容における全体像については以下のとおり。

図表 1 本事業の実施内容の全体像について

(1) フォーラム・セミナーの開催	
①	生産性向上フォーラムの実施 →「介護職員の働きやすい環境づくり内閣総理大臣表彰・厚生労働大臣表彰」の受賞事業所の好事例の共有等により、介護現場の生産性向上の取組を始める気運を盛り上げることを目的としてフォーラムを開催する。
②	生産性向上の取組の普及・拡大に向けた介護事業所向けセミナー（ビギナーセミナー） →介護現場における生産性向上の取組の考え方や取組手順等、生産性向上ガイドラインの内容を踏まえた生産性向上の基本的な取組について、介護現場に具体的な取組方法を広く普及させることを目的としてビギナーセミナーを開催する。
③	生産性向上の取組の定着セミナー（フォローアップセミナー） →継続的な取組を実施するために必要な推進スキルを習得し、取組の実施計画を作成すること及び実際の取組状況を踏まえた課題の解決等に向けた支援を行い、地域におけるモデル事業所への育成支援を行うことを目的とする。
(2) 「介護職員の働きやすい職場環境づくり内閣総理大臣表彰・厚生労働大臣表彰」の事務局業務	
①	「介護職員の働きやすい職場環境づくり内閣総理大臣表彰・厚生労働大臣表彰」の事務局業務と事例集の作成 →介護職員の働きやすい職場環境づくり内閣総理大臣・厚生労働大臣表彰における選考に関する事務局業務を行うとともに、「介護職員の働く環境改善に向けた政策パッケージ」に基づき、対象事業所の取組を広く周知・普及させることを目的として、取組事例集を作成する。
(3) 生産性向上ガイドラインの改訂	
(3)	生産性向上ガイドラインの改訂 →生産性向上ガイドラインについて、生産性向上を取り巻く最新情報や、未反映の各種ツールや手引きのエッセンスを反映するとともに、各サービスのガイドライン間の共通部分と個別部分の整理を行い、介護現場でより使いやすいものとする改訂を行う。

第2章 事業の内容

第1節 「介護職員の働きやすい職場環境づくり内閣総理大臣表彰・厚生労働大臣表彰」の事務局業務

第1項 目的

「介護職員の働きやすい職場環境づくり内閣総理大臣表彰・厚生労働大臣表彰」は、「介護職員の働く環境改善に向けた政策パッケージ」（令和4年12月23日全世代型社会保障構築本部決定）に基づいて実施された。本表彰の目的は、職員の待遇改善、人材育成及び介護現場の生産性向上への取組が特に優れた介護事業所を表彰し、その功績をたたえ、広く紹介することを通じ、介護職員の働く環境改善を推進することである。

第2項 事務局の運営

1. 実施概要

令和6年度表彰について、都道府県から提出される事業所の推薦調書や資料の作成、とりまとめを行った。また、令和7年度表彰に向けた準備等を行った。

具体的なスケジュールおよび実施内容は以下のとおりである。

図表2 実施スケジュール

実施事項	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事務局の運営	都道府県より提出された推薦先のとりまとめ	選考委員会の委員委嘱、日程調整	委員採点	事務局採点の作成	事例の概要資料の作成	受賞事業者への表彰式	令和6年度事務局業務	全体スケジュール、評価基準の検討～決定	都道府県向け説明会	選考委員の選定～依頼	都道府県へ推薦先の提出依頼 ※切はR7年4月末頃を想定	令和7年度事務局業務
表彰事業所に関する事例集の作成							ヒアリング項目の検討	ヒアリング調査の実施		事例集（案）の作成		

2. 昨年度からの変更点

令和5年度事業の事業報告書で示した課題を踏まえ、令和7年度表彰に向けた公募手続きや資料作成等において以下の変更を行った。

(1) 事業所の応募ルートの新設

過年度事業における都道府県からの推薦数は、令和5年度は31自治体、令和6年度は42自治体に留まったことから、推薦数の少なさが課題となっていた。そこで令和7年度は、多くの介護事業所の参画を促す観点から、国に直接、応募するルートを新たに追加した。すなわち、介護事業所の応募ルートは3種類であり、①国に直接、自薦する、②関係団体・都道府県からの公募に応募、③関係団体・都道府県からの推薦、となった。①のルートで応募があった事業所の書類は、国から都道府県に送付される。都道府県は①・②・③のルートから集まった事業所のうち、1～3事業所を選定のうえ、推薦することとなった。

(2) 調書の記載項目の改良

過年度事業で用いた調書の様式は、自由記述欄が多く、読み込みに時間がかかったため、審査資料の作成およびとりまとめに相当の時間を要した。そのため、令和7年度の各種様式は、できる限り自由記述を減らし、チェックボックスや選択式の回答欄を増やした。また、自由記述欄は、記載例を設けたり、文字数制限をかけたことにより、業務効率化を図った。

(3) 受賞事業所のサービス種別の偏りに対する対応

令和5年度に引き続き、令和6年度においても、本事例集に大きく掲載した事業所（内閣総理大臣表彰、及び厚生労働大臣表彰 優良賞の受賞事業所）のサービス種別は、ほぼ施設系サービスであった。そのため、居宅系サービス事業所が本事例集を手に取りにくい・本表彰にエントリーしにくい可能性があると考えられる。そこで、令和6年度事業では、事例集において奨励賞を受賞した事業所の取組内容も一定程度、把握できる形で紹介した。

また、より多くのサービス種別の事業所の取組を紹介できるよう、令和7年度より、「居宅系サービス」、「施設・居住系サービス」それぞれで評価することとなった。すなわち、都道府県は、「居宅サービス」、「施設・居住サービス」それぞれ1事業所以上推薦することが求められる。

第3項 事例集の作成

1. 事例集の作成方針

本事例集は、作成するだけにとどまらず、その事例集を広く周知・普及させ、より多くの介護サービス事業所の経営者・職員に活用されることが重要である。

そこで、昨年度、事例集を作成する際は、令和4年度 厚生労働省委託事業「介護現場における持続的な生産性向上の取組を支援・拡大する調査研究事業」において検討した「生産性向上の普及に資する『見える化方策』に必要な要素」に基づくこととした。

本年度における事例集の作成にあたり、基本的には、昨年度設計した作成方針や事例収集にあたってのヒアリング項目、事例集の記載項目を踏襲しつつ、一部、今年度得られた内容を反映させた。

2. 事例集の概要

本表彰や事例集の認知を広めることを狙いとしているため、事例集のフォーマットは過年度事業で作成したものを用了。そのため、事例集の概要に昨年度と大きく変更はない。令和5年度から令和6年度にかけて、変更があった点について以下に記す。

・ よくある疑問と回答

今年度のヒアリング調査で得られた知見等を基に、介護サービスにおける生産性向上の取組や、働きやすい職場環境づくりに関するよくある疑問とその回答例を6つ紹介した。

・ 受賞事業所 一覧

厚生労働大臣 奨励賞の事業所について、取組の内容をカテゴライズし、当てはまる事業所名および所在する都道府県名を示した。

第4項 「介護職員の働きやすい職場環境づくり内閣総理大臣表彰・厚生労働大臣表彰」に関するまとめ

介護現場において職員の働く環境改善に対する取組を推進するための一つの手段として、本表彰を受賞した事業所の進め方をヒントにしながら取組を実施することが挙げられる。そのため、本表彰が広く周知され、事業所からの応募数を増加させることで、様々な知見が集まるように事務局が工夫を凝らすことが重要と考えられる。

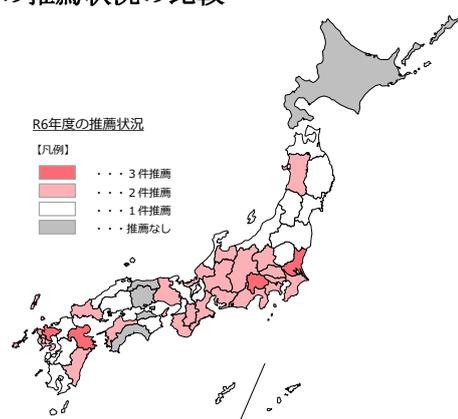
そこで本章では、1. 表彰事業の周知・普及、および2. 事例集の周知・普及の2つの観点から今年度の事業についてとりまとめる。

1. 表彰事業の周知・普及について

都道府県からの推薦事業所数やサービス種別の観点から令和5年度と令和6年度の実績を比較すると、以下の結果であった。

図表 3 令和5年度と令和6年度の推薦状況の比較

	令和5年度	令和6年度
推薦した都道府県数	31都府県	42都府県
公募を実施した都道府県数	8県	26道府県
合計の推薦件数	60件	71件
(うち、施設系サービス)	(51件)	(57件)
(うち、居宅系サービス)	(4件)	(7件)
(うち、上記以外のサービス)	(5件)	(7件)



令和6年度よりも推薦数は伸びているものの、まだ推薦数が0事業所の自治体が存在する。そのため、先述のとおり令和7年度事業では、全国の介護事業所が国に直接、応募するルートの新設することで、都道府県からの推薦数を増加させることを狙った。

今後は、推薦数が0であった自治体に対しては、介護生産性向上総合相談センターの協力を仰ぐことで、個別に働きかけを行うことが有効と考えられる。

2. 事例集の周知・普及について

令和5年度は、内閣総理大臣表彰、及び厚生労働大臣表彰 優良賞の受賞事業所はすべて施設系サービスであった。さらに、事例集においてはこれらの事業所の取組のみを紹介し、厚生労働大臣表彰 奨励賞を受賞した事業所の取組内容は紹介していなかった。

そこで、令和6年度の事例集においては、奨励賞を受賞した事業所の取組テーマを簡単に紹介すること、令和7年度の表彰事業では、都道府県から居宅系サービス事業所の推薦を促した。

今後は、類似事業（介護生産性向上総合相談センターに関する事業や、介護の労働環境に関する事業等）においても、本事例集の周知や活用を促し、本表彰事業のプレゼンスを高めることであらゆるサービス種別からの応募を促すことが有効と考えられる。

第2節 「生産性向上ガイドライン」の改訂

第1項 改訂の概要

厚生労働省で発行している「生産性向上に資するガイドライン」(居宅サービス分、施設サービス分、医療系サービス分、自治体分)は、令和2年度より改訂されていない。令和2年度より今日にかけて、生産性向上を取り巻く状況に変化があったものの、それらはガイドラインに反映されていない。また、生産性向上の取組を推進するための各種ツール・手引き等が発行されたが、これらについても、ガイドラインに反映されていない。

さらに、生産性向上の取組の進め方に関する記載等について、同じ趣旨であっても各サービスのガイドライン間で表現に差異が生じている。

そのため、介護サービス事業所にとってガイドラインがより使いやすいものとなるよう、今年度は先述の課題に対応したうえで、「各サービス共通冊子」と「サービス別冊子」(既存の3種類のガイドラインから、事例部分を抜粋したもの)の合計4種類に整理する形でガイドラインを改訂した。

なお、改訂にあたっては以下に留意した。

- ・ 施設系ガイドラインをベースとする。
- ・ 生産性向上の取組に関する基本的な考え方や進め方等は基本的に変更しない。
- ・ 各サービスの特徴を踏まえる。
- ・ 令和6年度介護報酬改定「生産性の向上等を通じた働きやすい職場環境づくり」の内容を踏まえる。

第2項 検討委員会の開催

生産性向上ガイドラインの改訂にあたり検討委員会を2回実施した。検討委員会の構成員および実施概要は次のとおりである。

なお、検討委員会では、主に「各サービス共通冊子」についてご意見をいただいた。

図表 4 検討委員会の構成員

氏名	所属・役職
鎌田 大啓	株式会社 TRAPE 代表取締役兼 CEO
斉藤 正行	一般社団法人全国介護事業者連盟 理事長
鈴木 健太	社会福祉法人 友愛十字会
◎内藤 佳津雄	日本大学文理学部心理学科 教授
服部 昭博	公益社団法人全国老人福祉施設協議会 介護保険事業等経営委員会 特別養護老人ホーム部会 部会長
松原 由美	早稲田大学 人間科学学術院 教授
光山 誠	公益社団法人全国老人保健施設協会 人材対策委員会 委員長
室井 勝一郎	一般社団法人日本在宅介護協会 理事

※50音順 敬称略

図表 5 第1回検討委員会 実施概要

開催日時	令和6年9月6日(金)17時から19時
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会のご挨拶 2. <報告>事業の全体像について 3. <議論>生産性向上ガイドラインの改訂について 4. 閉会のご挨拶
主な意見	<p>現行のガイドラインについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生産性向上の考え方や言葉は、介護業界に広がりつつあるが、十分ではない。今後、ガイドラインの活用を推進し、生産性向上の考え方を広めていくためには、なぜ生産性向上の取組が大切なのか、改めて記載してはどうか。 ・ 生産性向上に取り組んでみようと思う介護サービス事業所が一つでも増えるような工夫をしてはどうか。例えば、施設系サービスのガイドラインのサブタイトルにある「今日からできること」という文言をガイドラインのサブタイトルとして入れてはどうか。 ・ 生産性向上の取組は6つのステップに分かれており、ステップを順に踏んで進めることが効果的である。しかし、十分な体制構築や課題の見える化(ステップ1や2)を行わないまま、いきなり介護テクノロジーを導入する等、取組の実行(ステップ4)から始めてしまう事業所が多く見られる。ステップ1とステップ2の重要性を、改めてガイドラインに記載してはどうか。 ・ 施設系サービスのガイドラインにのみ、記載がある内容が多々ある。いずれも重要な内容であるので、残した方が良い。 ・ 今後、介護現場において持続的な介護サービスを提供するためには、外国人人材が活躍することが必須となってくる。例えば、外国人の定着・長期滞在化。技能実習が終了した外国人に対し、長期滞在化とキャリアパスの事例を新たに盛り込んでどうか。 <p>(その他、誤字脱字や表記ゆれ、わかりづらい表現の改善点等について、ご指摘をいただいた。)</p> <p>今後のガイドラインの改訂の方向性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現行のガイドラインには、現場改善の取組として7つの打ち手が記載されている。それ以外にも、現場を改善する打ち手として、介護助手をはじめとするタスクシフトや、より先進的なテクノロジーの活用といった様々なものがある。今後はそのような内容をガイドラインに盛り込めると良い。

図表 6 第2回検討委員会 実施概要

開催日時	令和7年1月16日(木)13時から15時
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会のご挨拶 2. <報告>事業の全体像および進捗について 3. <議論>生産性向上ガイドラインの改訂について 4. 閉会のご挨拶
主な意見	<p>現行のガイドラインについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生産性向上の取組は、いまだに「難しそう」という感想を持つ介護職員が多いのが現状である。そういった方々がガイドラインを読んで、「やっても意味がない」「難しそう」という感想を抱かないようにすることが大切ではないか。 ・ 生産性向上の考え方を広めていくためには、なぜ生産性向上の取組が大切なのか、具体的に記載してはどうか。例えば、生産性があがると職員の時間や気持ちに余裕が生まれるなど、働き手にとってのプラスの効果がある。 ・ 心理的安全性に関する記載では、対話を繰り返し行う文化を醸成することが大切であることや、質問しやすい雰囲気づくりが大切である、といった具体的な内容を盛り込んでどうか。 ・ 「U字の法則」について、大事な考え方であるため、より分かりやすくするために詳細な説明を入れてはどうか。 ・ 外国人人材の活躍に関するコラムが掲載された。外国人人材は常にスマートフォンを活用していることや、日本人よりも圧倒的にITリテラシーが高い傾向にあること等から、外国人人材の活躍とICTの活用はとても相性がよいテーマの組み合わせである。 <p>(その他、誤字脱字や表記ゆれ、わかりづらい表現の改善点等について、ご指摘をいただいた。)</p> <p>今後のガイドラインの改訂の方向性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護サービス事業所の職員は、課題が見える化した後の打ち手の選択に悩んでいるのではないか。どの課題をどういった打ち手を用いたらよいか選択しにくいと感じるので、体系化したプロセスに落とし込んでいくと、より分かりやすいのではないか。

第3項 「生産性向上ガイドライン」改訂版

検討委員会でいただいたご意見を踏まえ、ガイドラインの改訂を行った。改訂版のガイドラインは、別添資料で示す。

第4項 「生産性向上ガイドラインの改訂」に関するまとめ

今年度の改訂では、生産性向上の考え方や捉え方等の根本的な内容の変更ではなく、わかりやすさをより充実させることや、コラムを追加するといった点について改訂を行った。

今後、生産性向上ガイドラインが介護サービス事業所にとってより使いやすいものにするためには、今年度の改訂方針に加え、近年の政策動向やトレンドを押さえた内容の反映が必要である。なお、その際には介護事業者団体等の協力を仰ぎながら、現場の実態に即した内容となるよう留意することが重要と考えられる。

第3節 生産性向上の取組に関する介護事業所向けセミナーの実施

第1項 目的・実施概要等

1. 目的

生産性向上の取組に関する介護事業所向けセミナー（以降、本セミナーと称す）では、介護現場における生産性向上の取組の考え方や取組内容等、生産性向上ガイドラインの内容を踏まえた生産性向上の取組について、介護現場に広く普及させることを目的とする。

2. 実施概要

(1) セミナーの設計について

本セミナーでは、参加者にとって効果的な内容となるように、ビギナーセミナー、フォローアップセミナーの各段階に応じた到達目標を設定し、カリキュラムを作成した。本セミナーの開催概要は下記の通り。

図表 7 本セミナーの開催概要

	ビギナーセミナー	フォローアップセミナー
開催目的	<ul style="list-style-type: none"> 生産性向上ガイドラインの内容をふまえた介護現場における生産性向上に取り組む意義や考え方、取組手順等を全国に広く普及させること 受講事業所が生産性向上の取組をはじめ一歩を促すこと 	<ul style="list-style-type: none"> 受講事業所に、業務の改善活動を継続的活動として取り組むために必要な推進スキルを習得してもらうこと 各受講事業所の課題の見える化、実行計画の作成や取組の課題の解決等に向けた支援を行い、生産性向上の取組の実践を推進するとともに、地域におけるモデル事業所への育成支援を行うこと
対象	<ul style="list-style-type: none"> 介護事業所「経営者層」及び「従業者」 自治体 生産性向上総合相談センター、PF相談窓口 関係団体 等 <p>（特に参加をおすすめしたい方） 介護事業所において</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ これから生産性向上の取組をはじめようと考えている方 ✓ 既に生産性向上の取組を行っているものの、うまく進んでいない方や、さらに取組を推進したい方 	<ul style="list-style-type: none"> 介護事業所の「経営者層」及び「従業者」 <p>【参加要件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 過去（令和2年度から令和6年度）のビギナーセミナーの参加事業所 ※ 早期に生産性向上に取り組む意思のある者 ※ 経営層と従業者はペアの参加が必須。従業者は取組の中心となる職員複数名の参加が可能 ※ 事前課題・事後課題の実施、キャンセル不可に同意 <p>【その他（傍聴可）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自治体 関係団体 生産性向上総合相談センター、PF相談窓口等
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 受講者が生産性向上の取組の意義や基本的な考え方と取組手順を理解できること 他の事業所の取組を参考にすることで、自分たちの取組のヒントとしてもらうこと 受講した介護事業所が、生産性向上の取組に関心を持ち、改善活動をやってみようという動機を持つことができること 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所における課題を分析し明らかにすること及びその手法を習得すること 実行計画を作成し、経営者及び従業者が生産性向上に対する意思統一と取組開始の合意形成ができること 取組における障壁の解決方法を得て取組を継続できること 事業所が取組の振り返り等を行い、地域のモデル事業所として普及啓発に向けた活動準備ができること
開催方法	Web形式 ※全国より幅広く参加者を集う	Web形式 ※全国より幅広く参加者を集う
回数定員	全6回（2地域×各3回） 上限なし（各回400名以上を想定）	全18回（2地域×3セット3回）各回約30事業所 （1事業所 経営層1名、従業者1名以上） ※メンバーは最低4名以上を推奨

3. 周知方法

(1) セミナー開催における周知・広報について

セミナー参加者募集のために実施した広報活動は以下のとおりである。

<厚生労働省様による対応>

- ・ 介護保険最新情報を通じた周知案内
 - ・ 都道府県介護保険主管課（室）
 - ・ 各関係団体・関係機関
 - ・ ベンダー 等
- ・ 厚生労働省ホームページへの掲載（オンデマンドページの作成）
- ・ 厚生労働省 SNS への掲載

<事務局による対応>

- ・ 各関係団体・関係機関等への周知案内（順不同）
 - ・ 介護生産性向上総合相談センター
 - ・ 介護ロボットプラットフォーム事業の相談窓口
 - ・ 介護ロボットプラットフォーム事業における実証フィールド、NS 事業マッチングサポーター
 - ・ 令和5年度ビギナーセミナー・フォローアップセミナー申込者
 - ・ 令和5年度生産性向上推進フォーラム申込者（案内の承諾者のみ）
 - ・ 検討委員会委員
 - ・ マスコミ 等
- ・ 介護ロボットプラットフォームホームページへのセミナー開催リンクの掲載
- ・ NTT データ経営研究所 HP への掲載
- ・ NTT データ経営研究所 SNS への掲載

(2) チラシ・HP 等の作成

ビギナーセミナー・フォローアップセミナーの開催にあたっては、セミナーの目的・対象・内容をイメージしやすくするため、チラシやHP等の作成を行った。詳細は以下のとおり。

図表 8 セミナー開催案内チラシ

< ビギナーセミナー >

厚生労働省 令和6年度 介護現場の生産性向上に関する普及加速化事業一式

はじめの一歩を踏み出そう!

7月4日~順次開催!
参加無料

生産性向上 の取組の普及・拡大に向けた
介護事業所向け
ビギナーセミナー 2024

ビギナーセミナー講師紹介

<メイン講師>
株式会社TRAPE
代表取締役/CEO/CDW
録田大啓 氏
大阪大学 医学部保健学科 医学系
研究科 助教(専任)

介護サービス事業の生産性向上に関する厚生労働省事業に2017年の発足期より参加。介護現場の生産性向上、働き方改革、専門人材育成、Well-Being教育などを通じて各方面で介護の業界をリードしている。

公式HP・お申込

公式ホームページ URL
<https://www.nttdata-strategy.com/newsrelease/evn/seisenseiseminar2024/>

お申込お問合せ

公式HPのWebお申込みフォームよりお申し込みください
メール: kaigoseisensei-seminar@nttdata-strategy.com
セミナー事務局 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所 詳細はウラ面へ

ビギナーセミナー募集対象・開催日程

募集対象

- 介護事業所の経営層・従事者
- 自治体
- 生産性向上総合相談センター
- プラットフォーム事業相談窓口
- 関係団体 等

どなたでもご参加いただけます!

Web開催(2地域) 13:00~15:00

全国の都道府県を対象に東西2地域に分け、計6回開催

地域	回数	開催日
西日本	第1回	7月4日(木)
西日本	第2回	7月17日(水)
西日本	第3回	7月30日(火)
東日本	第1回	7月11日(木)
東日本	第2回	7月24日(水)
東日本	第3回	8月1日(木)

※各回定員 上限なし ※締切は各回開催約1週間前

セミナープログラム概要

ビギナーセミナー (基本講座)

これから生産性向上の取組を進めていこうとされている介護事業所をはじめとする方々を対象に、どのように介護現場の生産性向上に取り組んでいくべきか、その考え方や手順の基本を学んでいただきます。

- 介護現場の生産性向上における厚生労働省の取組等について (厚生労働省)
- 「介護サービスの生産性向上の基本と取組のポイント」
~介護経営としての業務改善の考え方と今日からできること~ (株式会社TRAPE)
 - 介護現場を取り巻く社会的背景と生産性向上の取組の必要性
 - 令和6年度介護報酬改定と生産性向上の取組について
 - 業務改善の考え方
 - 業務改善に向けた改善活動の標準的なステップ
 - 介護経営をとりまく環境及び介護経営に求められるもの
- 「介護現場の生産性向上の取組発表及びファシリテーターとの意見交換」 (発表:1事業所) ※発表事業所は開催日ごとに異なります
 - 取組内容・成果
 - 業務改善を進める上での苦労と工夫したこと・気付き 他 (ファシリテーター)
 株式会社TRAPE 代表取締役 録田大啓 氏
- 「課題の見える化と実行計画の作成方法」 (株式会社NTTデータ経営研究所)
 - 因果関係図の作成と課題や打ち手の言語化の方法について
 - 実行計画の作成について

フォローアップセミナー (実践講座+無料個別相談)

生産性向上の取組を実践するプログラムとなります
セミナー公式HPにて、お申込み受付中! (Web開催・定員上限あり)

※ビギナーセミナー・フォローアップセミナーの詳細は別紙の開催要綱または、公式HPよりご確認ください。

< フォローアップセミナー >

厚生労働省 令和6年度 介護現場の生産性向上に関する普及加速化事業一式

仲間と一緒に壁を乗り越えて、チャレンジしよう!

8月7日~順次開催!
参加無料

生産性向上 の取組の定着に向けた
介護事業所向け
フォローアップセミナー 2024

フォローアップセミナー講師紹介

<メイン講師>
株式会社NTTデータ経営研究所
マネージャー
大塚恒治 氏

介護サービス事業における生産性向上に関するガイドラインの第一歩の作成、改定に携わるなど、介護サービス事業の生産性向上に関する厚生労働省事業に多数参加
メイン講師を務める大塚は、介護ロボットを導入をはじめ生産性向上に関するセミナーの講師及び講演実績を豊富に有する。

公式HP・お申込

公式ホームページ URL
<https://www.nttdata-strategy.com/newsrelease/evn/seisenseiseminar2024/>

お申込お問合せ

公式HPのWebお申込みフォームよりお申し込みください
メール: kaigoseisensei-seminar@nttdata-strategy.com
セミナー事務局 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所 詳細はウラ面へ

フォローアップセミナー募集対象・開催日程

募集対象

生産性向上に取り組む意思のある介護事業所の「経営層」及び「従業者」

- 経営者層 1名
- 介護従事者 1名以上

※「経営者」と「従業者」両者の合同参加を必須としております。従業者は取組の中心となる職員複数名でご参加いただけます。詳細は開催要綱または、公式HPよりご確認ください。

Web開催(2地域 1セット全3回) 各グループ定員 30事業所 (先着順)

全国の都道府県を対象に東西2地域に分け、計6グループ(1セット全3回)にて開催

地域	グループ	第1回 13:00-15:00	第2回 13:00-15:00	第3回 13:00-16:00
西日本	A	8月7日(水)	9月25日(水)	12月13日(金)
西日本	B	8月21日(水)	10月8日(水)	12月20日(金)
西日本	C	8月28日(水)	10月16日(水)	1月15日(水)
東日本	D	8月20日(火)	9月27日(金)	12月17日(火)
東日本	E	8月27日(火)	10月10日(木)	12月23日(月)
東日本	F	9月4日(水)	10月23日(水)	1月17日(金)

※フォローアップセミナーは各地域開催(グループ)全3回の受講が必須となります。
※締切は各回第1回開催日の約10日前、定員数が限られるためお早めにお申込みください。

プログラム概要

これから生産性向上の取組を進めていこうとされている介護事業所の方々を対象に、全3回の実践的なプログラムを通じて、生産性向上の継続的な取組を実施するために必要な推進スキルの習得、課題の特定・解決策の抽出方法、取組の実施計画作成等を支援するとともに、地域におけるモデル事業所への育成を図ります。

第1回	第2回	第3回
<ul style="list-style-type: none"> 講義 「生産性向上ガイドラインを活用した業務改善の考え方と取組手順の再確認」 ワーク 「現場の課題を見える化する様々な因果関係図づくり」「実行計画の作成」 	<ul style="list-style-type: none"> 講義・ワーク 「これまでの取組の振り返り」「実行計画の見直しと成果の取りまとめ方」 講義 「業務改善の「壁」の乗り越え方」 	<ul style="list-style-type: none"> 成果報告 「成果報告」 講師からのコメント・まとめ

セミナー期間中、フォローアップセミナーの受講者は、講師陣による無料個別相談を何度でもご利用いただけます。また、ご了承いただける場合には、開催グループごとのグループチャットへご案内いたします。
※セミナーの詳細は別紙の開催要綱または、公式HPよりご確認ください。

図表 9 セミナー開催 HP の作成 (一部抜粋)

厚生労働省 生産性向上の取組に関する介護事業所向け
ビギナーセミナー/フォローアップセミナー 2024

厚生労働省 令和年度 介護現場の生産性向上に関する普及啓発事業一式

生産性向上の取組の普及・拡大に向けた介護事業所向けセミナー (ビギナーセミナー)
生産性向上の取組の促進セミナー (フォローアップセミナー)

2024.06.03

趣旨

介護業界においては、中長期的に人材不足が深刻化される状況の中でも、介護の質を向上させ、同時に介護現場の働く環境を向上させなければなりません。

そのため、厚生労働省は介護現場における生産性向上に向けた取組を推進しています。例えば、介護スタッフ間の役割分担や季節の認識、記録や業務の作業の効率化、介護ロボットやICT (通信、AI等) のアプリケーション) を活用した介護業務オペレーションの改善です。また、それぞれの介護サービス事業所が、こうした取組を進めようとする際、季節ごとの取組をどのように進めようとするか、その考え方や季節ごとの取組に活用できるツールを提供しています。

本ビギナーセミナーは、厚生労働省による生産性向上に関する取組の普及啓発の一環として、これから生産性向上の取組を進めようとしている介護サービス事業所の経営者、マネージャー、スタッフをはじめとする関係者を対象に、どのような介護現場の生産性向上に取り組んでいくべきか、その考え方や季節ごとの取組を進めようとする際、季節ごとの取組をどのように進めようとするか、その考え方や季節ごとの取組に活用できるツールを提供しています。

また、本フォローアップセミナーでは、介護サービス事業所の経営者を対象に、全3回の実践的なプログラムを通じて、生産性向上の取組を進めるために必要な実践スキルを習得し、課題の特定や解決策の抽出方法、取組の実施計画を作成します。さらに、セミナー後も実際の取組をサポートし、継続的な課題解決を支援し、地域におけるモデル事業所への育成を図ります。

・ ビギナーセミナーのご案内、お申込みはこちらへ

■ ビギナーセミナー開催日時・申込

- ・ 全日とも、【Zoom】によるオンラインにて、開催予定です。
- ・ 原則、自事業所・法人の所在地の開催回にお申込みください。ただし、日程のご都合が合わない場合は、所在地以外地域の開催回にもお申込み可能です。

地域	開催回	開催日時	申込期限
東日本	第1回	2024年7月4日 (水) 13:00-15:00	2024年6月28日 (金) 17:00
	第2回	2024年7月17日 (水) 13:00-15:00	2024年7月11日 (水) 17:00
	第3回	2024年7月30日 (水) 13:00-15:00	2024年7月23日 (水) 17:00
西日本	第1回	2024年7月11日 (水) 13:00-15:00	2024年7月5日 (金) 17:00
	第2回	2024年7月24日 (水) 13:00-15:00	2024年7月18日 (水) 17:00
	第3回	2024年8月6日 (水) 13:00-15:00	2024年7月28日 (金) 17:00

申込方法

以下の「参加申し込みフォーム」よりお申込みください。

参加お申し込みフォーム

- ・ URL : <https://forms.gle/c2AFnsdfrQ5Wb78>
- ・ 二次元バーコード

- ※ 原則、自事業所が所在地の開催回にお申込みください。
- ※ 自事業所が所在地の開催回に参加できない場合は、その他の地域の開催回へのお申込みも可能です。
- ※ 参加申し込みフォームの送信ができない場合は、下記【お問合せ窓口】までご連絡ください。
- ※ Web申込フォームまたは公式ホームページへのアクセスが難しい場合は、URLをWebブラウザのアドレスバーにコピーペーストを行うことでアクセスできる可能性があります。または二次元バーコードを読み取ってください。

図表 10 ビギナーセミナーオンデマンドページ (厚生労働省 HP) 掲載用サムネイル、編集動画等の作成 (一部抜粋)

< ビギナーセミナーオンデマンドページ >

ホーム > 政策について > 分野別の政策一覧 > 福祉・介護 > 介護・高齢者福祉 > 2024介護事業所向け生産性向上セミナー

2024介護事業所向け生産性向上セミナー

生産性向上ビギナーセミナー

プログラム・資料

- ・ [PDF 介護現場の生産性向上における厚生労働省の取組等について \(厚生労働省\) \[5.8MB\]](#)
- ・ [PDF 介護サービスの生産性向上の基本と取組のポイント〜介護経営としての業務改善の考え方と今日からできること〜 \(株式会社TR APE\) \[4.6MB\]](#)
- ・ 介護現場の生産性向上の取組発表・ファシリテーターとの意見交換

PDF 東日本1 介護老人保健施設御所苑 [3.9MB]
PDF 東日本2 特別養護老人ホームさくらの里 [1.7MB]
PDF 東日本3 リバービル長井 (介護老人保健施設) [2.9MB]
PDF 西日本1 ケアプランハウスクッキー (居宅介護支援) [2.2MB]
PDF 西日本2 愛と結いの街 (通所リハビリテーション) [2.9MB]
PDF 西日本3 ナーシングホームこころ (訪問看護) [2.3MB]
- ・ [PDF 課題の見える化と実行計画の作成方法 \[3.9MB\]](#)
- ・ 【参考資料】

PDF 【因果関係図】気づきシート [660KB]
PDF 【因果関係図】気づきシートの使い方 [1.2MB]
PDF ワークシート [380KB]
X 業務改善活動 実行計画 [131KB]

動画 (YouTubeチャンネル)

[東日本第1回](#) [東日本第2回](#) [東日本第3回](#)
[西日本第1回](#) [西日本第2回](#) [西日本第3回](#)

<ビギナーセミナー動画・サムネイル>



介護現場の生産性向上における厚生労働省の取組等について

限定公開

厚生労働省 / Ministry of Health, Labour and Welfare
チャンネル登録者数 20.1万人

チャンネル登録

10 共有 保存



- 1 介護現場の生産性向上における厚生労働省の取組等について
厚生労働省 / Ministry of Health, Labour and Welfare • 4152 回視聴 • 6 か月前
- 2 「介護サービスの生産性向上の基本と取組のポイント」～介護経営としての業務改善の考え方と今日からできること～
厚生労働省 / Ministry of Health, Labour and Welfare • 3237 回視聴 • 6 か月前
- 3 介護現場の生産性向上の取組発表
厚生労働省 / Ministry of Health, Labour and Welfare • 1615 回視聴 • 6 か月前
- 4 発表事業所・ファシリテーターの意見交換・まとめ
厚生労働省 / Ministry of Health, Labour and Welfare • 779 回視聴 • 6 か月前
- 5 課題の見える化と実行計画の作成方法
厚生労働省 / Ministry of Health, Labour and Welfare • 716 回視聴 • 6 か月前

第2項 ビギナーセミナー

1. 開催目的

介護現場における生産性向上の取組の考え方や取組手順等、生産性向上ガイドラインの内容を踏まえた生産性向上の基本的な取組について、介護現場に具体的な取組方法を広く普及させることを目的とする。

2. 開催概要

(1) 当日プログラム

ビギナーセミナーのプログラム及び講師は下記の通り。

図表 11 ビギナーセミナーのプログラム

プログラム	時間	内容
開会	13 : 00- 13 : 05 (5分)	開会挨拶
第一部 講義	13 : 05- 13 : 55 (50分)	介護現場の生産性向上における厚生労働省の取組等について (15分) 厚生労働省 「介護サービスの生産性向上の基本と取組のポイント」 ～介護経営としての業務改善の考え方と今日からできること～ (35分) 株式会社 TRAPE ・介護現場を取り巻く社会的背景と生産性向上の取組みの必要性 ・介護における生産性向上をどう捉えたらいいのか ・業務改善に向けた改善活動の標準的なステップ ・経営者とリーダーの役割 ・令和6年度介護報酬改定と生産性向上の取組みについて
第二部 発表・ 意見交換	13 : 55- 14 : 25 (30分)	「介護現場の生産性向上の取組発表」 ＜介護事業所による発表＞ (1事業所 20分) 取組内容 ・業務改善に取り組む体制づくり ・課題の見える化、課題と打ち手の言語化、実行計画の作成 ・テクノロジー導入等の具体的取組 取組の成果 業務改善を進める上での苦労と工夫したこと・気付き 参加者へのメッセージ 他 ＜発表事業所・ファシリテーターの意見交換・まとめ＞ (約10分) (ファシリテーター) 株式会社 TRAPE 代表取締役 鎌田大啓 氏
第三部 講義	14 : 25- 14 : 55 (30分)	「課題の見える化と実行計画の作成方法」 株式会社 NTT データ経営研究所 ・ 因果関係図の作成と課題や打ち手の言語化の方法について ・ 実行計画の作成について
事務連絡 閉会	14 : 55- 15 : 00 (5分)	事務連絡 閉会挨拶

(2) 申込者数及び参加者数

ビギナーセミナーの各開催回の申込数・参加数は以下のとおり。

図表 12 ビギナーセミナーの申込数・参加数

開催回 (オンライン形式)	申込数	申込内訳					参加数
		介護事業所	介護サービス提供法人本部	自治体	関連団体	その他	
<ビギナーセミナー>	4,700	3,525	652	131	30	362	4,153
各回定員：上限なし							
西日本第1回	1026	751	161	26	9	79	881
西日本第2回	946	732	117	27	4	66	849
西日本第3回	807	622	110	23	1	51	689
東日本第1回	790	549	133	21	9	78	704
東日本第2回	572	422	82	16	6	46	524
東日本第3回	559	449	49	18	1	42	506

第3項 フォローアップセミナー

1. 開催目的

生産性向上の取組による業務の改善活動は、一過性の活動ではなく、継続的活動として取り組むことでその成果は一層大きくなるものである。本セミナーでは、そのために必要な推進スキルを習得し、取組の実施計画を作成すること及び実際の取組状況を踏まえた課題の解決等に向けた支援を行い、地域におけるモデル事業所への育成支援を行うことを目的とする。

2. 開催概要

(1) 当日プログラム

フォローアップセミナーのプログラム及び講師は下記の通り。

図表 13 フォローアップセミナーのプログラム

<第1回 フォローアップセミナー>

講師：株式会社NTTデータ経営研究所

プログラム	時間	内容
開会	13:00- 13:05 (5分)	開会挨拶
第一部 講義	13:05- 13:25 (20分)	「生産性向上ガイドラインを活用した業務改善の考え方と取組手順の再確認」 ・業務改善の先に目指すもの ・業務改善に向けた改善活動の標準的なステップとポイント
第二部 講義・ ワーク	13:25- 14:25 (60分)	「現場の課題を見える化する、ゆるやかな因果関係図づくりワークショップ」 ・因果関係図づくりの手法について ・因果関係図の作成 ・優先課題・生産性向上の取組（打ち手）の決定
第三部 講義・ ワーク	14:25- 14:55 (30分)	【実行計画の作成をはじめよう】 ・課題解決の道筋を文章化しよう（課題・打ち手の言語化） ・実行計画の作り方の解説と一部作成
事務連絡 閉会	14:55- 15:00 (5分)	事務連絡 閉会挨拶

<第2回 フォローアップセミナー>

講師：株式会社 NTT データ経営研究所

プログラム	時間	内容
開会	13:00- 13:05 (5分)	開会挨拶
第一部 講義・ ワーク	13:05- 14:00 (55分)	「これまでの取組の振り返り」 <ul style="list-style-type: none">・ 前回のおさらい・ 業務改善の取組状況と課題・気づきの整理・ 発表・意見交換
第二部 講義	14:00- 14:15 (15分)	「業務改善の「壁」の乗り越え方」 <ul style="list-style-type: none">・ 業務改善の障壁と乗り越え方のポイント
第三部 講義・ ワーク	14:15- 14:55 (40分)	「実行計画の見直しと成果の取りまとめ方」 <ul style="list-style-type: none">・ 実行計画の見直し・ 成果のとりまとめ方法について（成果報告会の説明）・ 質疑・応答
事務連絡 閉会	14:55- 15:00 (5分)	事務連絡 閉会挨拶

<第3回 フォローアップセミナー 成果報告会>

講師：株式会社 NTT データ経営研究所

プログラム	時間	内容
開会	13:00- 13:05 (5分)	開会挨拶
前半	13:05- 14:30 (85分)	「成果報告（前半）」（各事業所×5分 予定） ・ 成果報告の説明（報告） ・ 取組概要 ・ 取組の成果 ・ 業務改善を進める上での苦勞と工夫したこと・気付き（質疑・応答） ・ 質疑・応答（5分）
後半	14:30- 15:55 (85分)	「成果報告（後半）」（各事業所×5分 予定） （報告） ・ 取組概要 ・ 取組の成果 ・ 業務改善を進める上での苦勞と工夫したこと・気付き（質疑・応答） ・ 全体への質疑・応答（5分） （まとめ） ・ 講師からのコメント・まとめ（10分）
事務連絡 閉会	15:55- 16:00 (5分)	事務連絡 閉会挨拶

(2) 申込者数及び参加者数

フォローアップセミナーの各開催回の申込数・参加数は以下のとおり。

図表 14 フォローアップセミナーの申込数・参加数

開催回 (オンライン形式6グループ)	申込数 (傍聴数)	申込内訳					参加数 (傍聴数) ・上段1回目 ・中段2回目 ・下段3回目
		介護事業所 (傍聴数)	介護サービス 提供法人本部 (傍聴数)	自治体	関連団体	その他	
<フォローアップセミナー> 各回定員：約30事業所 ※以降の申込は傍聴とした。	500 (243)	396 (205)	38 (19)	19	6	41	183 (211)
							152 (164)
							146 (134)
西日本A第1回：8月7日(水)、第2回：9月25日(水)、第3回：12月13日(金)	92 (47)	65 (35)	4 (2)	5	1	17	30 (35)
							23 (31)
							23 (25)
西日本B第1回：8月21日(水)、第2回：10月8日(火)、第3回：12月20日(金)	91 (50)	74 (45)	8 (3)	3	0	6	29 (43)
							28 (37)
							27 (23)
西日本C第1回：8月28日(水)、第2回：10月16日(水)、第3回：1月15日(水)	77 (38)	65 (32)	7 (4)	1	0	4	35 (33)
							32 (18)
							29 (19)
東日本D第1回：8月20日(火)、第2回：9月27日(金)、第3回：12月17日(火)	80 (33)	55 (27)	7 (3)	6	4	8	27 (30)
							20 (21)
							17 (16)
東日本E第1回：8月27日(火)、第2回：10月10日(木)、第3回：12月23日(月)	65 (25)	55 (22)	3 (1)	3	1	3	33 (22)
							24 (18)
							27 (18)
東日本F第1回：9月4日(水)、第2回：10月23日(水)、第3回：1月17日(金)	95 (50)	82 (44)	9 (6)	1	0	3	29 (48)
							25 (39)
							23 (33)

※一部の開催回はキャンセルを見込み、定員数の上限を引き上げている。

第4項 アンケートの実施について

1. セミナー参加者に対するアンケートの概要

今後の生産性向上の普及啓発や取組推進の参考材料とするため、ビギナーセミナー、フォローアップセミナーの申込者及び参加者に対し、以下のアンケートを実施した。

図表 15 実施したアンケートの一覧

実施アンケート一覧
(1) ビギナーセミナー申込アンケート結果
(2) ビギナーセミナー受講後（直後）アンケート結果
(3) ビギナーセミナー受講後（取組状況確認）アンケート結果
(4) フォローアップセミナー申込アンケート結果
(5) フォローアップセミナー受講後（1回目）アンケート結果
(6) フォローアップセミナー受講前（2回目直前）アンケート結果
(7) フォローアップセミナー受講後（2回目）アンケート結果
(8) フォローアップセミナー受講後（3回目）アンケート結果

2. アンケート結果概要

(1) ビギナーセミナー申込時アンケート結果

有効件数：4700 件

アンケート結果は以下のとおり。

<全ての回答>

1) 参加開催回（1つ選択）

参加開催回をみると、「西日本（第1回）：2024年7月4日（木）13：00-15：00」が21.8%と最も高く、次いで「西日本（第2回）2024年：7月17日（水）13：00-15：00」が20.1%、「西日本（第3回）：2024年7月30日（火）13：00-15：00」「東日本（第1回）：2024年7月11日（木）13：00-15：00」が17.0%となっている。

図表 16 参加開催回

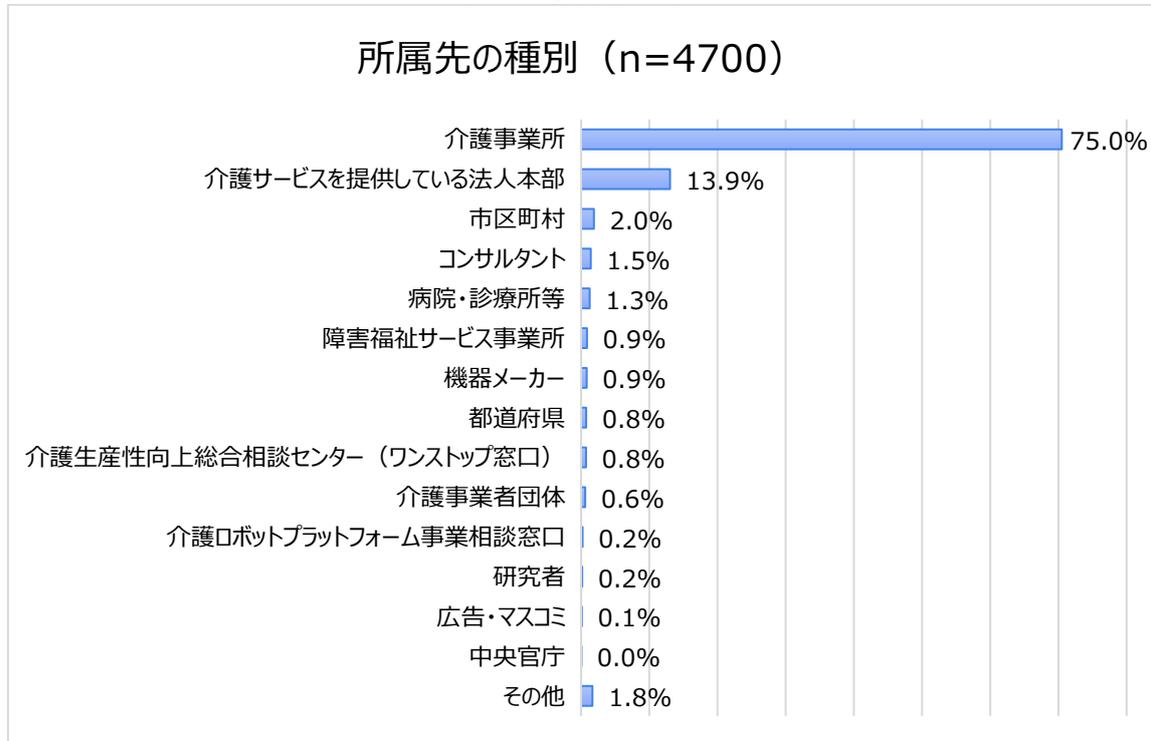


※時間は13：00-15：00

2) 所属先の種別（1つ選択）

所属先の種別をみると、「介護事業所」が75.0%と最も高く、次いで「介護サービスを提供している法人本部」が13.9%、「その他」が1.8%となっている。

図表 17 所属先の種別



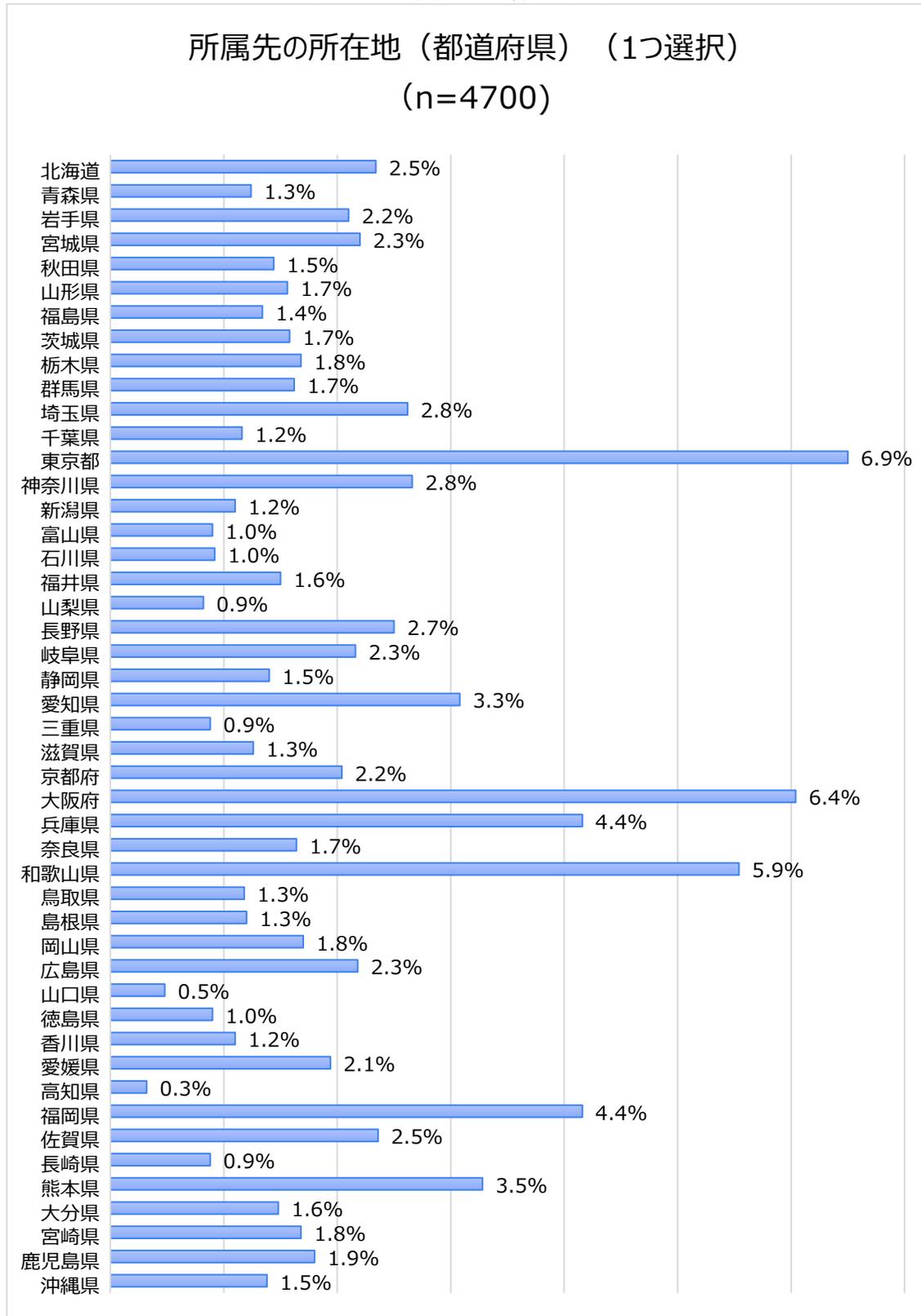
図表 18 その他の内容（主な回答）

その他の内容（自由記述）
販売店
福祉用具貸与事業所
訪問看護ステーション
職能団体
地域包括支援センター

3)所在地（都道府県）（1つ選択）

所在地（都道府県）をみると、「東京都」が6.9%と最も高く、次いで「大阪府」が6.4%、「和歌山県」が5.9%となっている。

図表 19 所在地（都道府県）

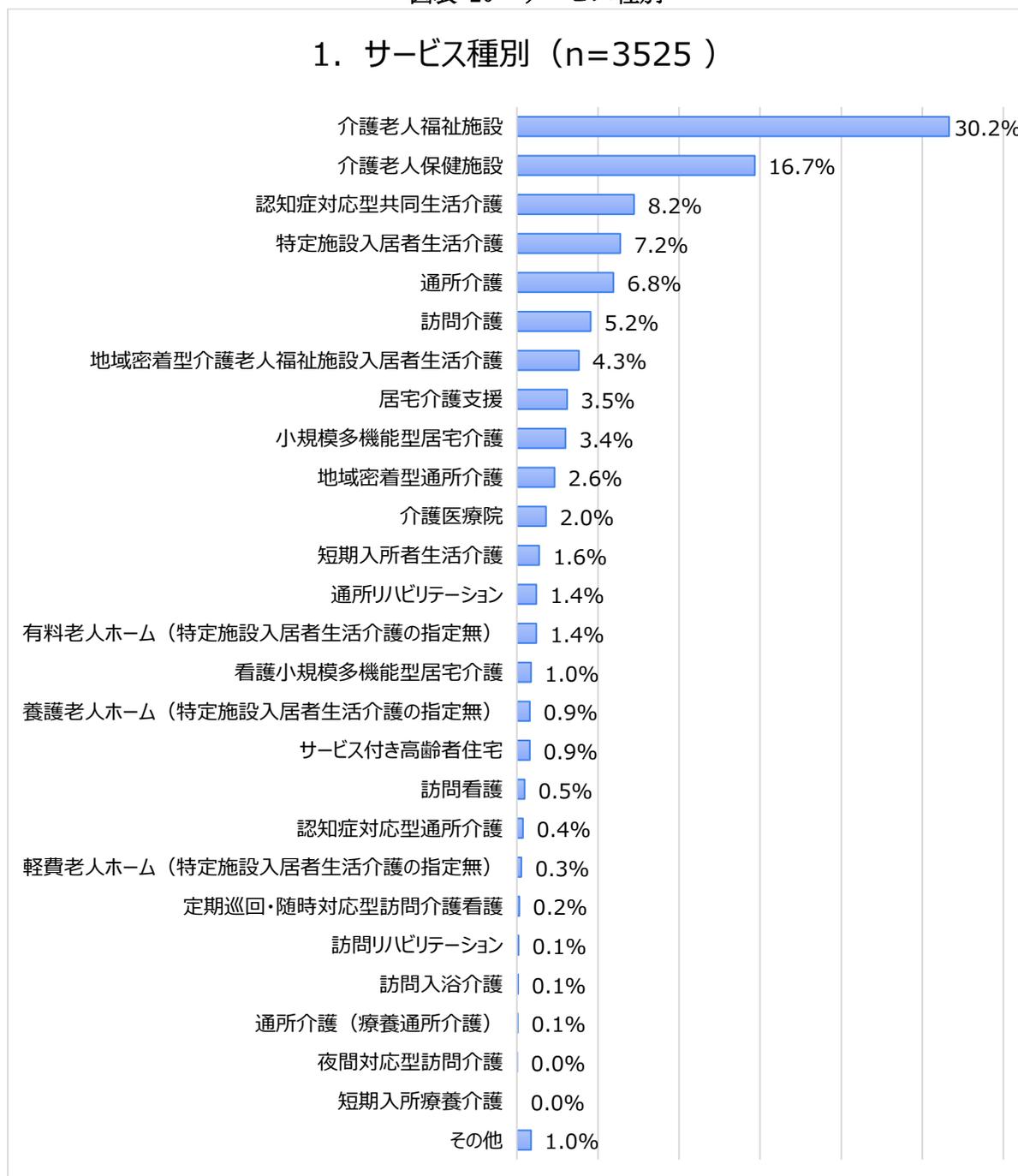


<「所属先の種別」で「介護事業所」と回答した方のみ>

4) サービス種別 (1つ選択)

サービス種別をみると、「介護老人福祉施設」が30.2%と最も高く、次いで「介護老人保健施設」が16.7%、「認知症対応型共同生活介護」が8.2%となっている。

図表 20 サービス種別

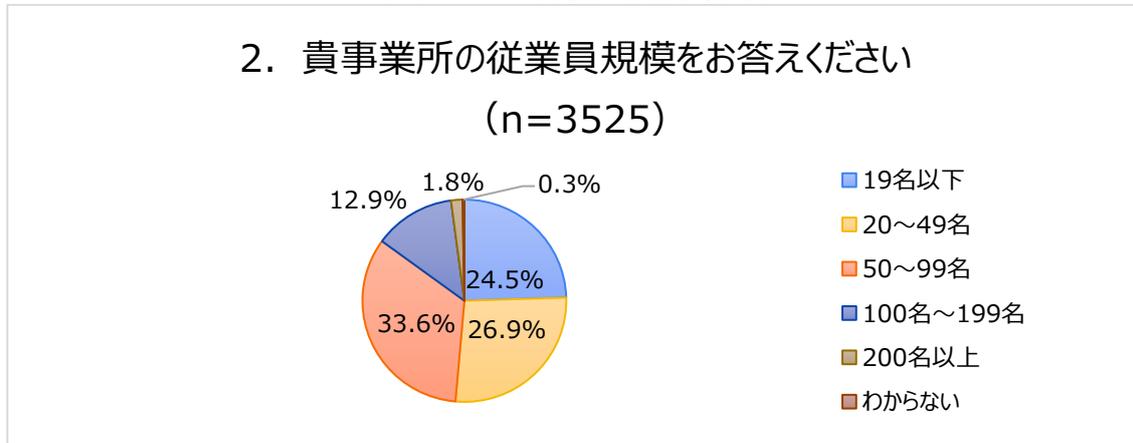


※サービス付き高齢者住宅は (特定施設入居者生活介護の指定無)

5) 事業所の従業員規模（1つ選択）

事業所の従業員規模をみると、「50～99名」が33.6%と最も高く、次いで「20～49名」が26.9%、「19名以下」が24.5%となっている。

図表 21 事業所の従業員規模

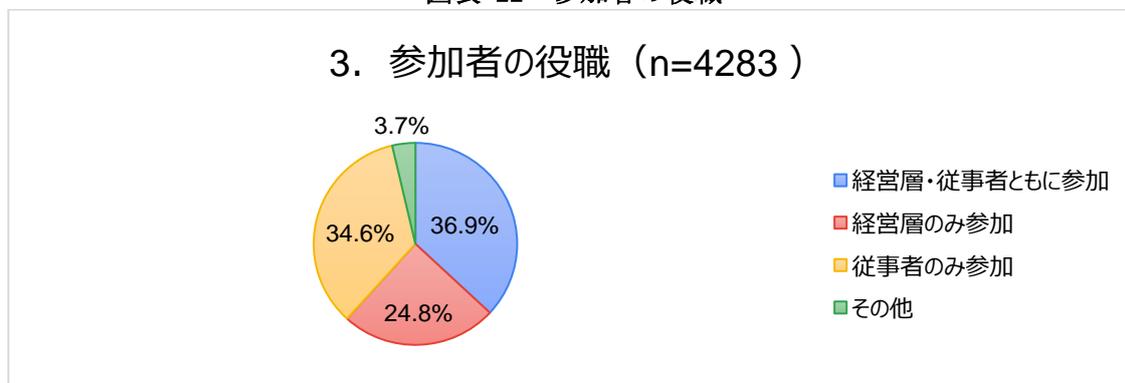


<「所属先の種別」で「介護事業所」「介護サービスを提供している法人本部」「病院・診療所等」「障害福祉サービス事業所」と回答した方のみ>

6) 参加者の役職（1つ選択）

参加者の役職をみると、「経営層・従事者ともに参加」が36.9%と最も高く、次いで「従事者のみ参加」が34.6%、「経営層のみ参加」が24.8%となっている。

図表 22 参加者の役職



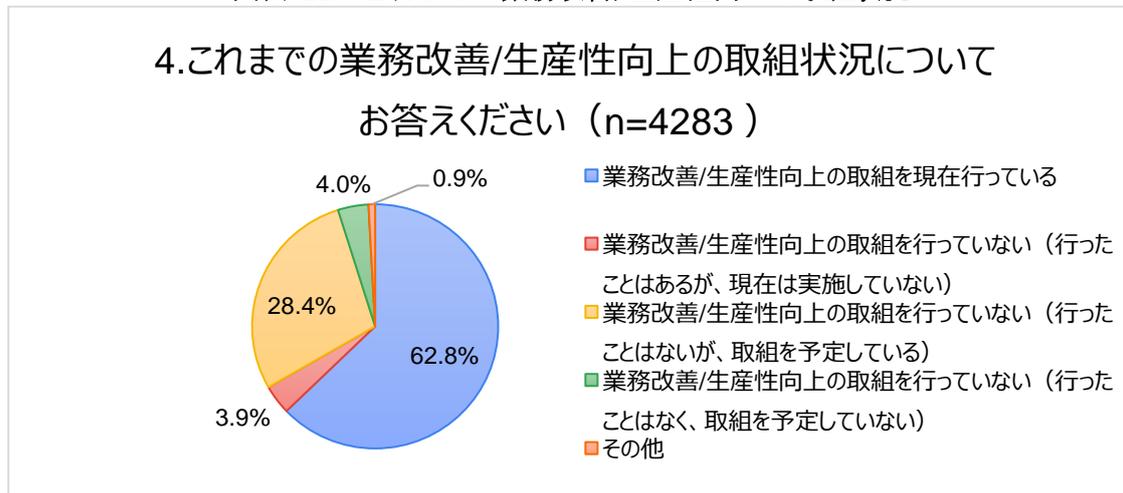
図表 23 その他の内容（主な回答）

その他の内容（自由記述）
管理者・計画作成担当者
施設長
施設管理者
事務員
生活相談員

7) これまでの業務改善/生産性向上の取組状況（1つ選択）

これまでの業務改善/生産性向上の取組状況をみると、「業務改善/生産性向上の取組を現在行っている※準備段階も含む」が62.8%と最も高く、次いで「業務改善/生産性向上の取組を行っていない（行ったことはないが取組を予定している）」が28.4%、「業務改善/生産性向上の取組を行っていない（行ったことはなく、取組を予定していない）」が4.0%となっている。

図表 24 これまでの業務改善/生産性向上の取組状況



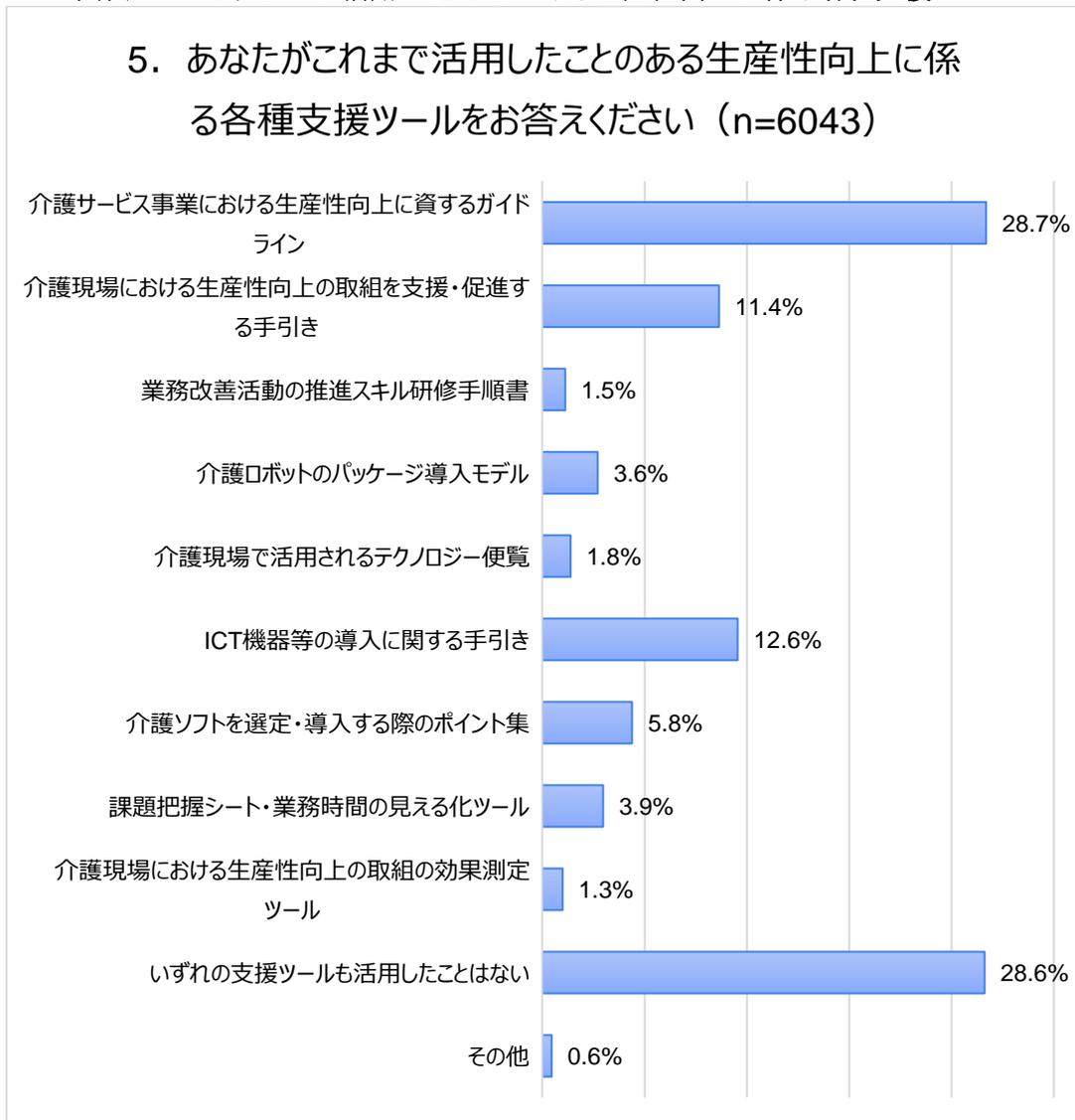
図表 25 その他の内容（主な回答）

その他の内容（自由記述）
セミナーを参考に検討したい。
何が該当するか基本から知りたいです。
教育として関わるケースがほとんど。
行ったことはないが必要性を感じる。どこから手を付けたらよいかわからない。
全くわからないので受けてみた。

8) これまで活用したことがある生産性向上に係る各種支援ツール（複数選択可）

これまで活用したことがある生産性向上に係る各種支援ツールをみると、「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン」が 28.7%と最も高く、次いで「いずれの支援ツールも活用したことはない」が 28.6%、「ICT 機器等の導入に関する手引き」が 12.6%となっている。

図表 26 これまでに活用したことがある生産性向上に係る各種支援ツール



図表 27 その他の内容（主な回答）

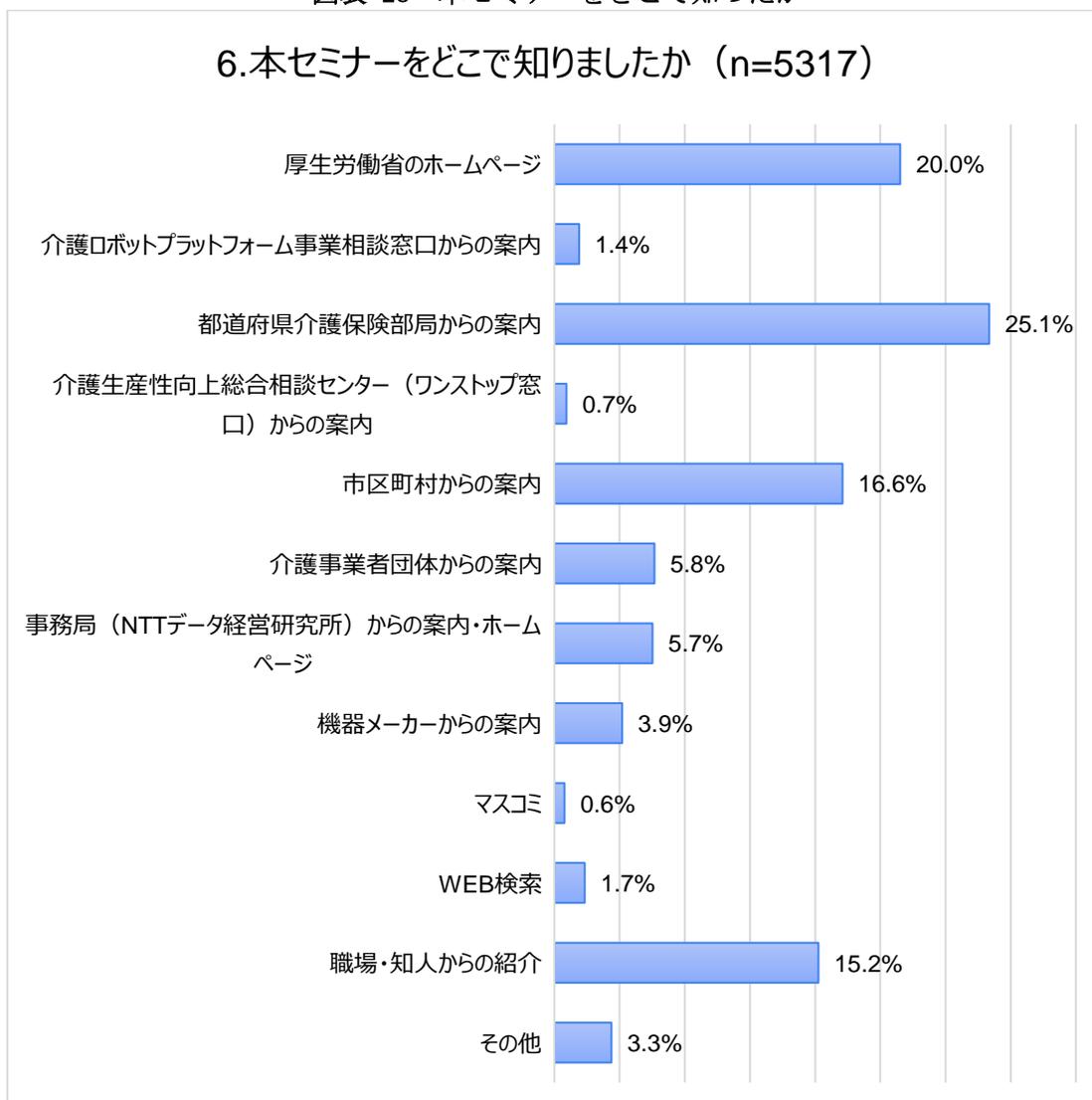
その他の内容（自由記述）
不明
民間の業務改善セミナー
市の開催する研修

<全ての回答>

9)本セミナーをどこで知ったか（複数選択可）

本セミナーをどこで知ったかをみると、「都道府県介護保険部局からの案内」が25.1%と最も高く、次いで「厚生労働省のホームページ」が20.0%、「市区町村からの案内」が16.6%となっている。

図表 28 本セミナーをどこで知ったか



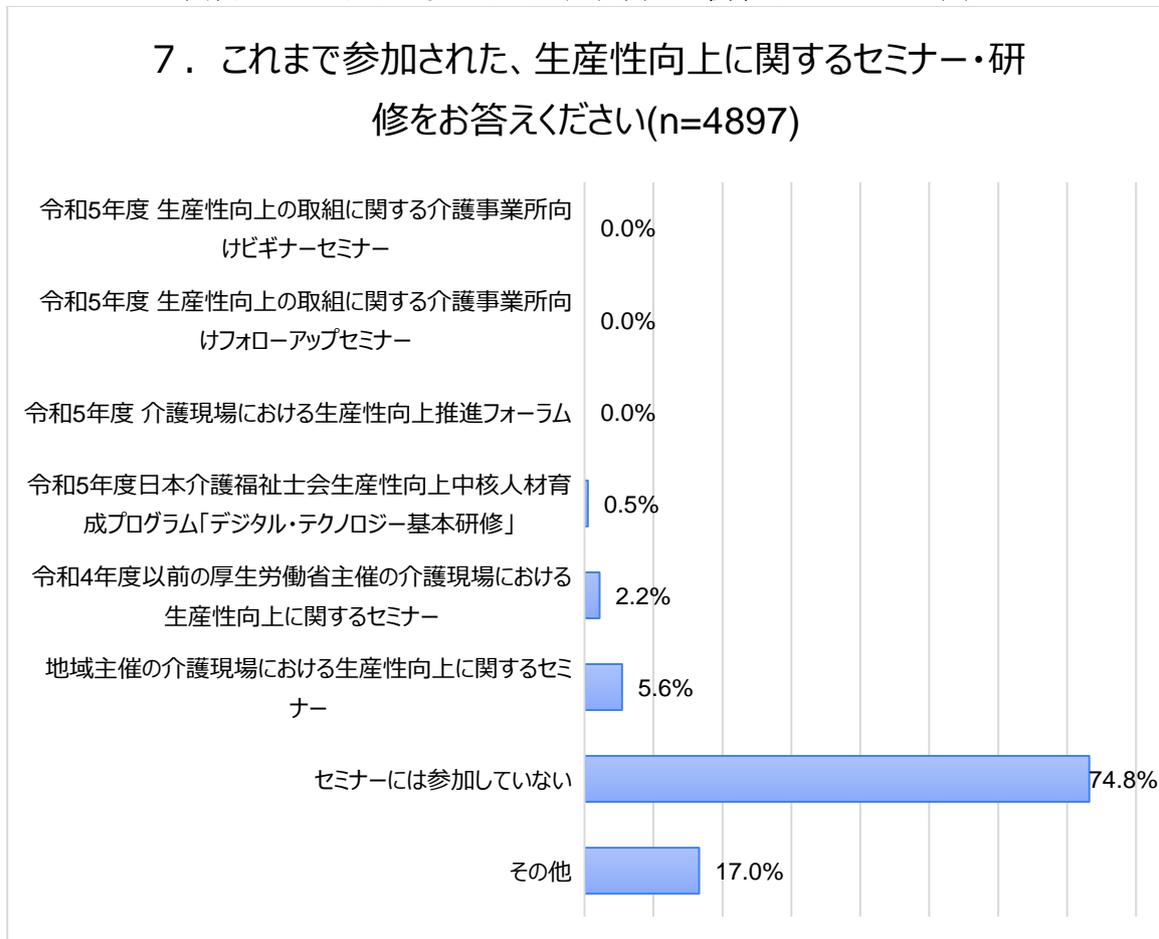
図表 29 その他の内容（主な回答）

その他の内容（自由記述）
WAMNET
ケアマネドットコム
上司指示
法人からの連絡
SNS
Google トピック
参加したイベントでの案内

10) これまで参加した生産性向上に関するセミナー・研修（複数選択可）

これまで参加した生産性向上に関するセミナー・研修をみると、「セミナーには参加していない」が74.8%と最も高く、次いで「その他」が17.0%、「地域主催の介護現場における生産性向上に関するセミナー」が5.6%となっている。

図表 30 これまで参加した生産性向上に関するセミナー・研修



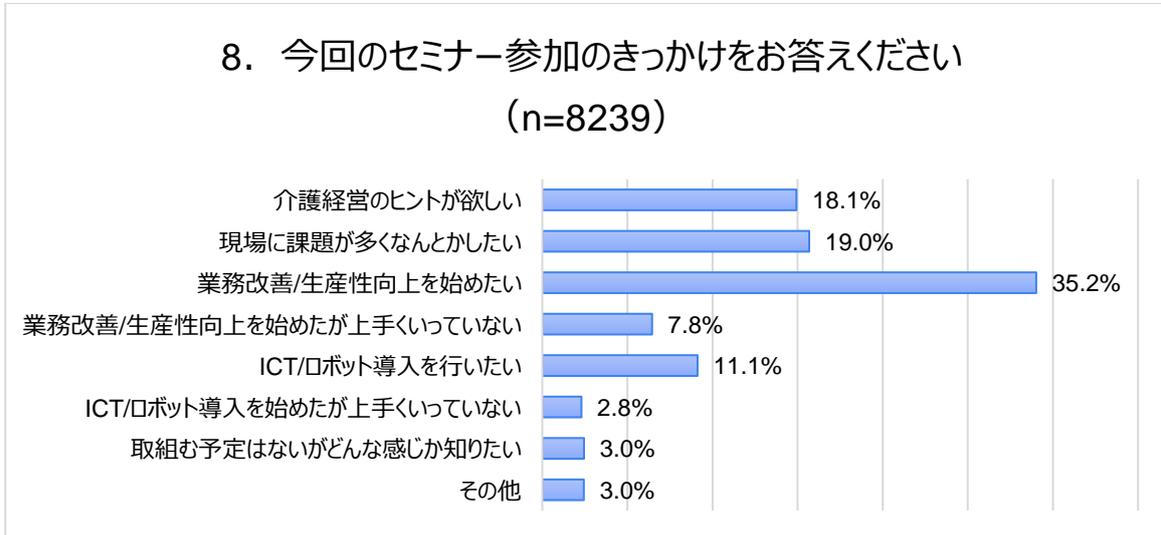
図表 31 その他の内容（主な回答）

その他の内容（自由記述）
生産性向上リーダー養成研修
民間の業務改善セミナー
社協主催の研修
このセミナーの別日
参加はしたが、どの内容だったか覚えていない

1 1) 今回のセミナー参加のきっかけ（複数選択可）

今回のセミナー参加のきっかけをみると、「業務改善/生産性向上を始めたい」が 35.2%と最も高く、次いで「現場に課題が多くなんとかしたい」が 19.0%、「介護経営のヒントが欲しい」が 18.1%となっている。

図表 32 今回のセミナー参加のきっかけ



図表 33 その他の内容（主な回答）

その他の内容（自由記述）
業務改善/生産性向上を更に極めたい
上司のすすめ
情報収集のため
生産性向上の取組について勉強させていただきたい
相談窓口として様々な情報収集をしたい

1 2) 本ビギナーセミナーに関するご意見等（自由記述）

図表 34 本セミナーに関するご意見等（主な回答）

本セミナーに関するご意見等（自由記述）
FAX、郵送、紙保存文化を根絶させたい。
どんな話しになるか、少し見ると申し込みの参考になる。
まず初めに何から取り掛かるかを具体的にご教示いただきたいです。
意識の薄い職員に対しても導入に向けてどう指導をしていくべきかプロセスを知りたい。
過去に参加した事例紹介が、母体の大きな事業所しか取り組めないような非現実的なものばかりでした。財政の厳しい地方の小さな事業所でも高い効果が得られるようなヒントが欲しいです。
介護ロボット導入後のイメージを生産性向上の知識のない職員及び経営陣にどう周知していけばいいのかわ、プラスのイメージを持ってもらうにはどうすればいいのかわ取組の案などあれば教えて欲しい。
介護医療における業務改善/生産性向上とはなにか。その内容と進め方を知りたいです。
業界全体のことも含めてキャッチアップできると嬉しいです。
現場の巻き込み方、PC やデジタル系が苦手な方に対するフォローの工夫。マニュアル以外で。
今年度から必須となった生産性向上委員会の具体的な活動内容を知りたい。

(2) ビギナーセミナー受講直後アンケート結果

有効件数：2261 件

アンケート結果は以下のとおり。

<全ての回答>

1) 参加開催回（1つ選択）

参加開催回をみると、「西日本（第1回）：2024年7月4日（木）」が24.9%と最も高く、次いで「西日本（第2回）2024年：7月17日（水）」が19.3%、「西日本（第3回）：2024年7月30日（火）」が18.1%となっている。

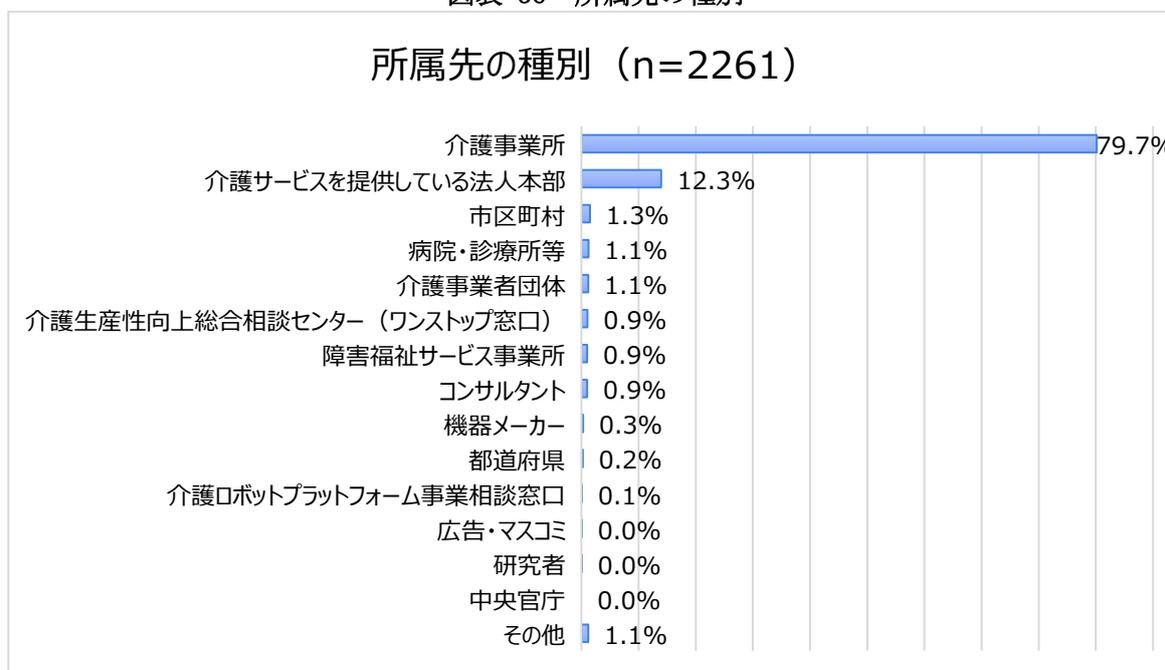
図表 35 参加開催回



2) 所属先の種別（1つ選択）

所属先の種別をみると、「介護事業所」が79.7%と最も高く、次いで「介護サービスを提供している法人本部」が12.3%、「市区町村」が1.3%となっている。

図表 36 所属先の種別



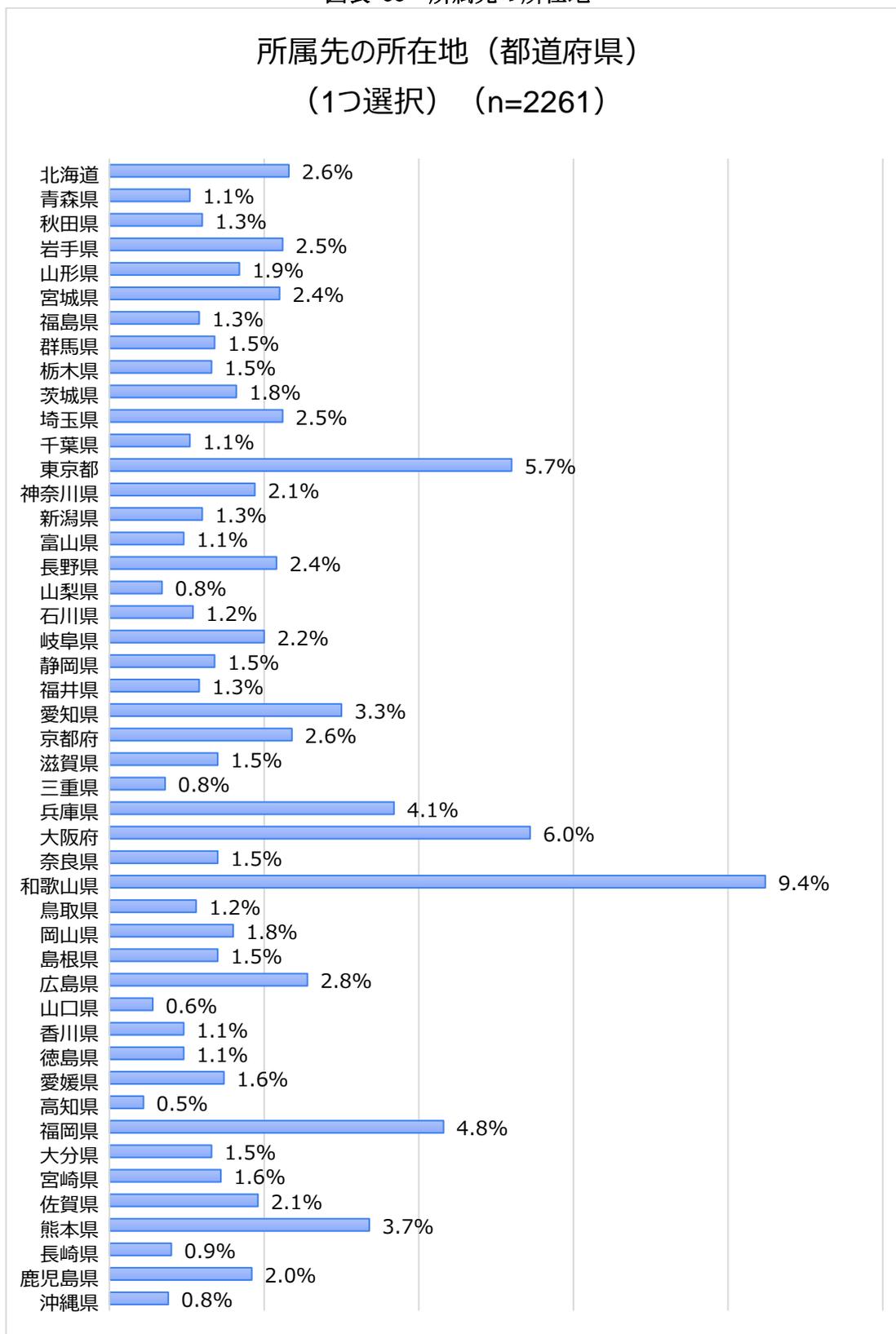
図表 37 その他の内容（主な回答）

その他の内容（自由記述）
介護用品卸
社会保険労務士
地域包括支援センター
福祉用具販売・貸与事業所

3) 所属先の所在地（都道府県）（1つ選択）

所属先の所在地（都道府県）をみると、「和歌山県」が9.4%と最も高く、次いで「大阪府」が6.0%、「東京都」が5.7%となっている。

図表 38 所属先の所在地

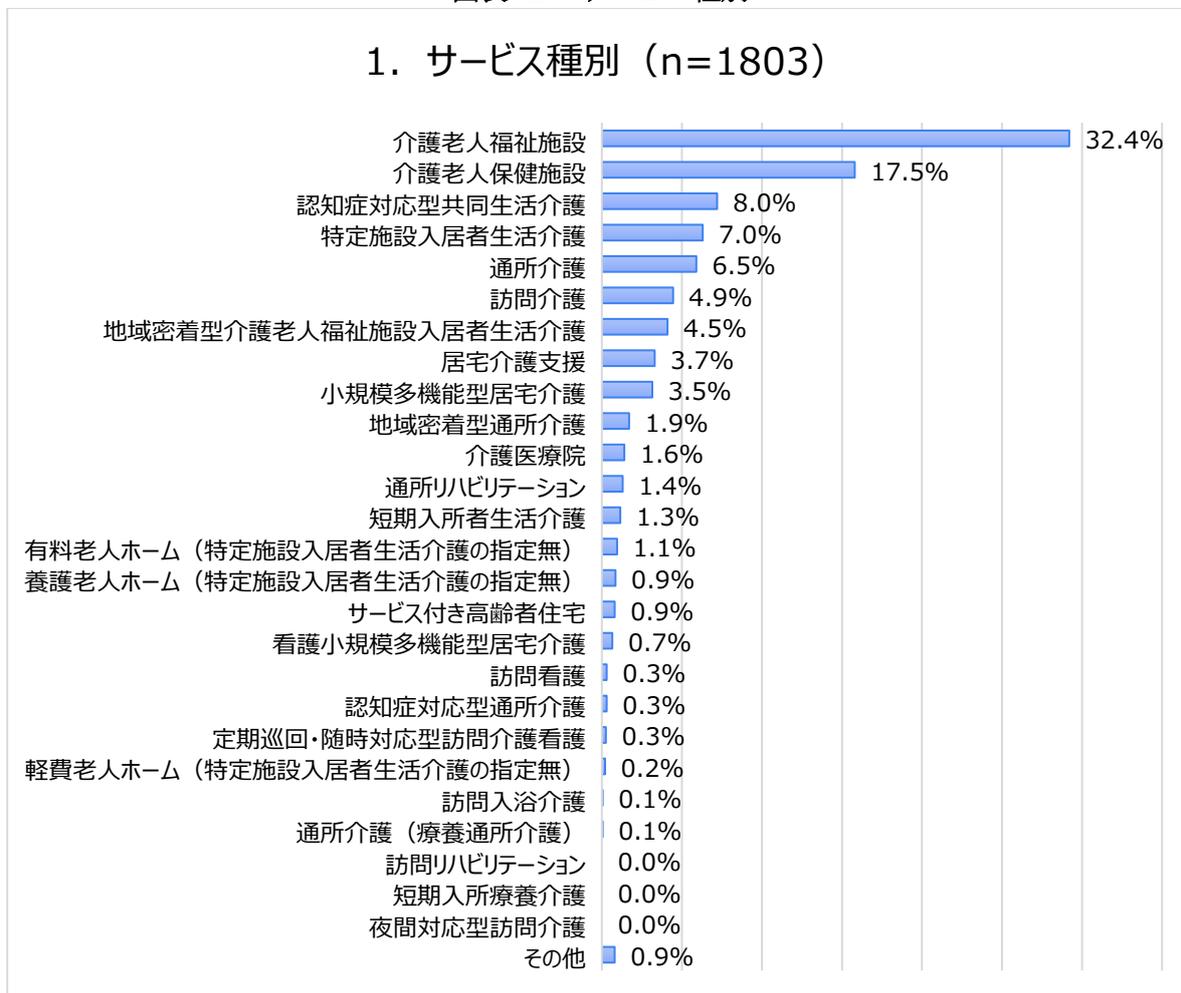


<「所属先の種別」で「介護事業所」と回答した方のみ>

4) サービス種別（1つ選択）

サービス種別をみると、「介護老人福祉施設」が32.4%と最も高く、次いで「介護老人保健施設」が17.5%、「認知症対応型共同生活介護」が8.0%となっている。

図表 39 サービス種別



※サービス付き高齢者住宅は（特定施設入居者生活介護の指定無）

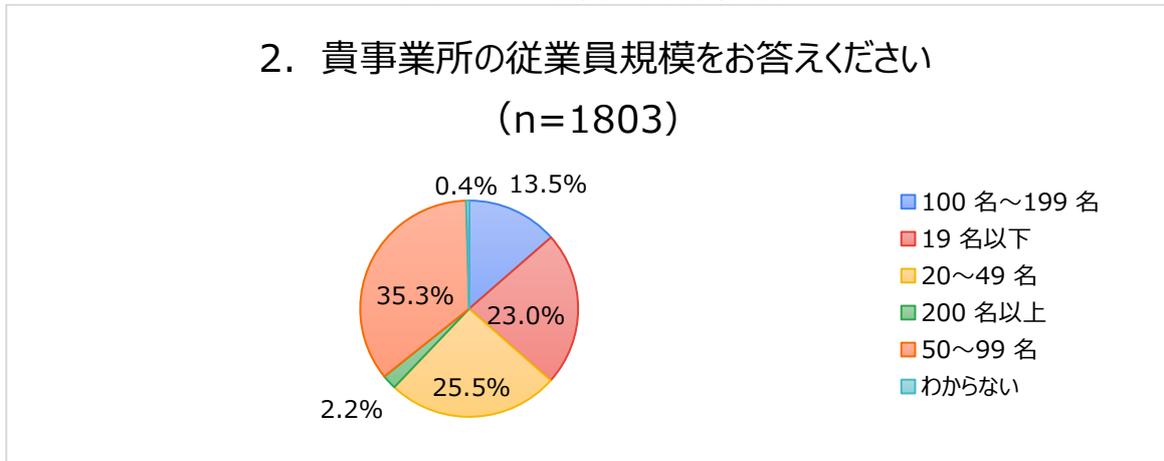
図表 40 その他の内容（主な回答）

その他の内容（自由記述）
自立支援サービス事業所
総合事業 通所型サービス
訪問薬剤管理指導

5) 事業所の従業員規模（1つ選択）

事業所の従業員規模をみると、「50～99名」が35.3%と最も高く、次いで「20～49名」が25.5%、「19名以下」が23.0%となっている。

図表 41 事業所の従業員規模

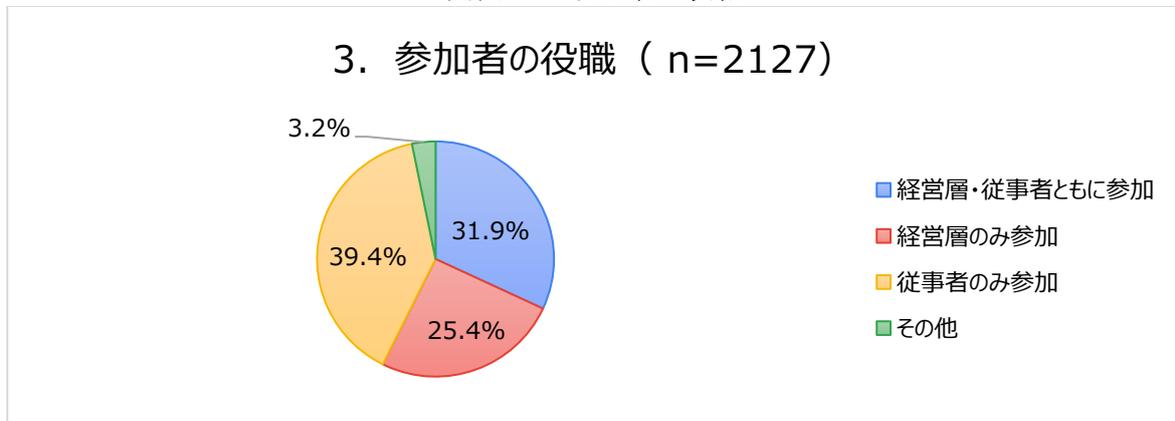


<「所属先の種別」で「介護事業所」「介護サービスを提供している法人本部」「病院・診療所等」「障害福祉サービス事業所」と回答した方のみ>

6) 参加者の役職（1つ選択）

参加者の役職をみると、「従事者のみ参加」が39.4%と最も高く、次いで「経営層・従事者ともに参加」が31.9%、「経営層のみ参加」が25.4%となっている。

図表 42 参加者の役職



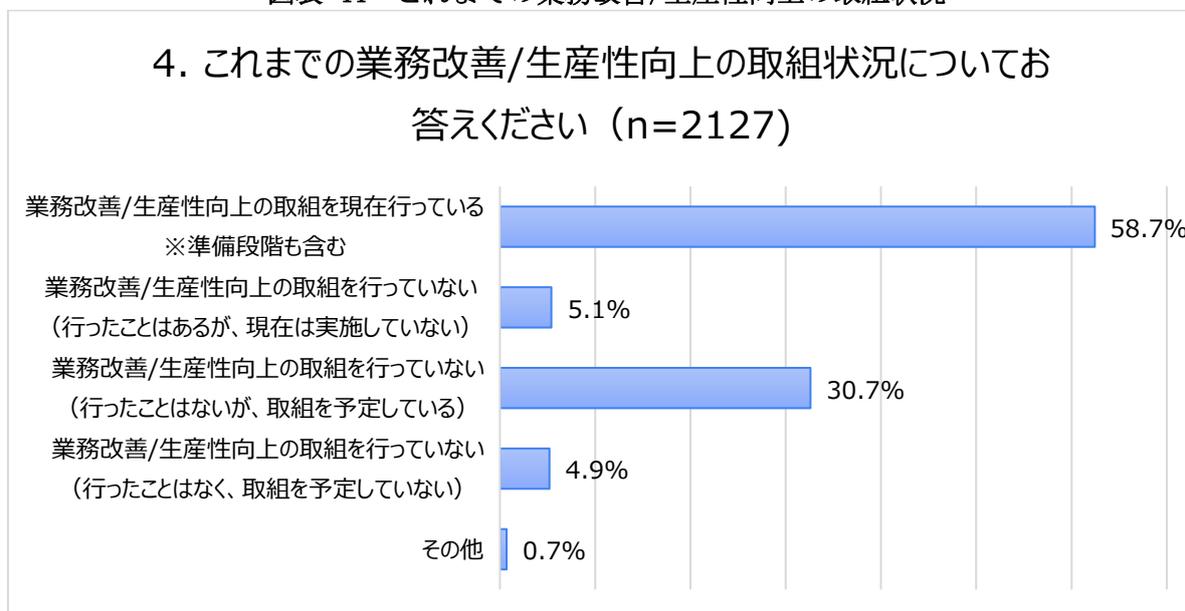
図表 43 その他の内容（主な回答）

その他の内容（自由記述）
管理者・施設管理者
看護部長
事務員・事務職員
生活相談員
サービス提供責任者

7) これまでの業務改善/生産性向上の取組状況（1つ選択）

これまでの業務改善/生産性向上の取組状況をみると、「業務改善/生産性向上の取組を現在行っている※準備段階も含む」が58.7%と最も高く、次いで「業務改善/生産性向上の取組を行っていない（行ったことはないが、取組を予定している）」が30.7%、「業務改善/生産性向上の取組を行っていない（行ったことはあるが、現在は実施していない）」が5.1%となっている。

図表 44 これまでの業務改善/生産性向上の取組状況



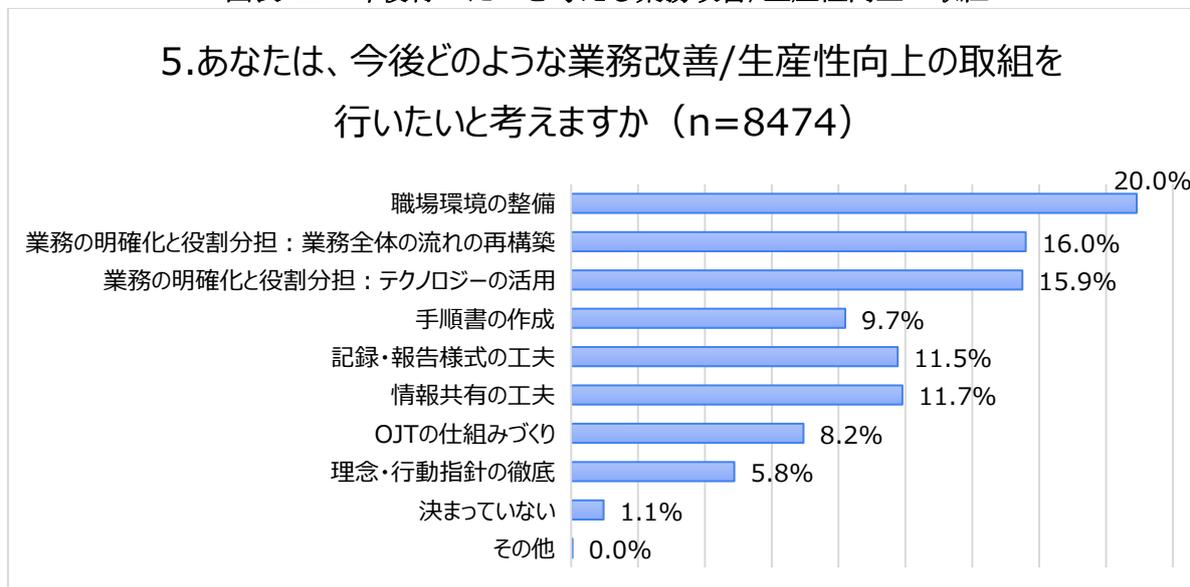
図表 45 その他の内容（主な回答）

その他の内容（自由記述）
介護ロボットは導入済みであるが、更に他を検討中。
業務改善/生産性向上の取組を行ったことはないが取組の検討中である。
業務改善は、その都度行なっているが、生産性向上という内容で意識しては行なっていなかった。
生産性向上の取り組みを行なっているが、一部の職員のみになっている。
必要に応じて実施をしてきた。今後も必要に応じて行うが、継続実施や定期実施の流れは作られていない。

8) 今後行いたいと考える業務改善/生産性向上の取組（複数選択可）

今後行いたいと考える業務改善/生産性向上の取組をみると、「職場環境の整備」が20.0%と最も高く、次いで「業務の明確化と役割分担：業務全体の流れの再構築」が16.0%、「業務の明確化と役割分担：テクノロジーの活用」が15.9%となっている。

図表 46 今後行いたいと考える業務改善/生産性向上の取組



図表 47 その他の内容（主な回答）

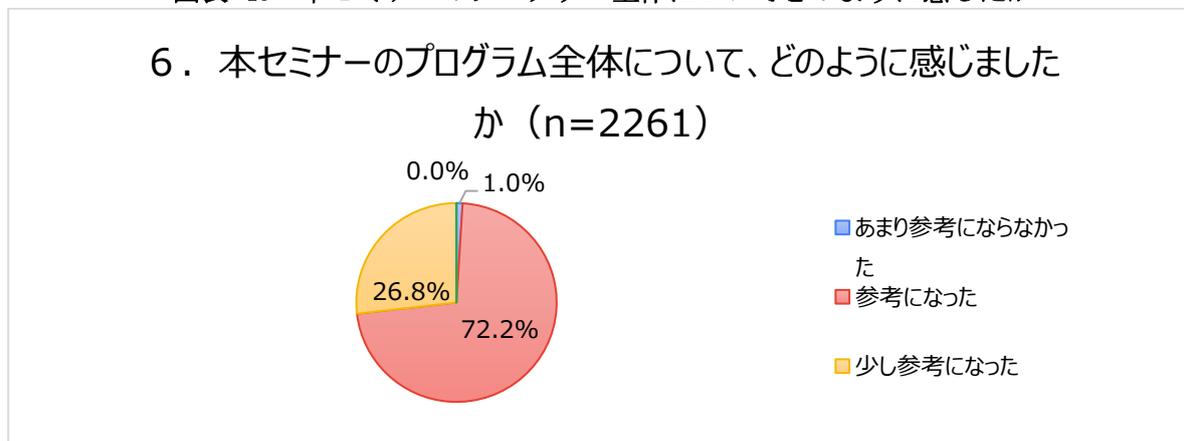
その他の内容（自由記述）
経営層への啓蒙から。
事業所によって課題は異なるが、無駄（過剰業務）の削減は課題の一つととらえている。
生産性向上推進体制加算の算定要件を満たすには。

<全ての回答>

9) 本セミナーのプログラム全体についてどのように感じたか（1つ選択）

本セミナーのプログラム全体についてどのように感じたかをみると、「参考になった」が72.2%と最も高く、次いで「少し参考になった」が26.8%、「あまり参考にならなかった」が1.0%となっている。

図表 48 本セミナーのプログラム全体についてどのように感じたか



6 の設問で「あまり参考にならなかった」「全く参考にならなかった」を回答した方の理由（自由記述）

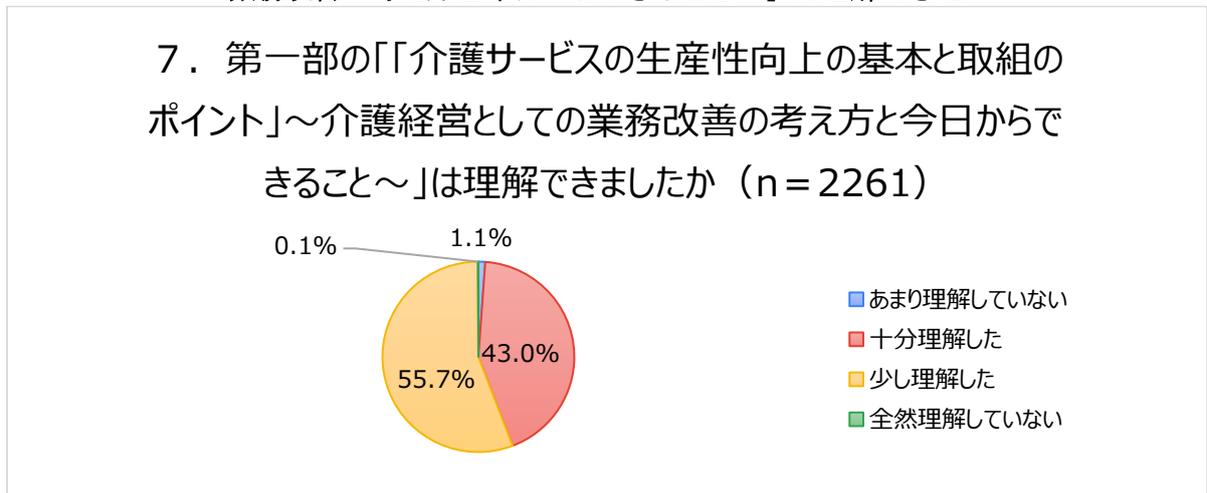
図表 49 6で「あまり参考にならなかった」「全く参考にならなかった」を回答した方の理由（主な回答）

参考にならなかった理由（自由記述）
ICT活用の具体例があればイメージしやすく、事業所としても取り組みやすくなるかと感じました。加算の算定要件にある「見守り機器、インカム等、介護記録ソフト」とあるが、具体的にベッド下に設置するセンサーマット、PHS、タブレットから送受信できる介護記録ソフト等と、どのような介護ロボットなのかの解説もあれば尚、導入に向けての取り組みが円滑にすすめられると感じた。
テクノロジー、補助を活用した取組み事案、手法など、もう少し講義があればよかった。
なぜ生産性向上の取組みを行う必要があるのか、そして取組みを行うことでどう変化するのか、それらの説明をもっと分かり易く行ってほしかった。
手法は違いますが同様のことをすでに行っていた。
生産性の向上を目標とするにもかかわらず、会議などの業務負担が多くなるため。
導入事例を多く知りたかった。

10) 第一部の『介護サービスの生産性向上の基本と取組のポイント』～介護経営としての業務改善の考え方と今日からできること～」は理解できたか（1つ選択）

第一部の『介護サービスの生産性向上の基本と取組のポイント』～介護経営としての業務改善の考え方と今日からできること～」は理解できたかをみると、「少し理解した」が55.7%と最も高く、次いで「十分理解した」が43.0%、「あまり理解していない」が1.1%となっている。

図表 50 第一部の『介護サービスの生産性向上の基本と取組のポイント』～介護経営としての業務改善の考え方と今日からできること～」は理解できたか



7 の設問で「あまり理解していない」「全く理解していない」を回答した方の理由（自由記述）

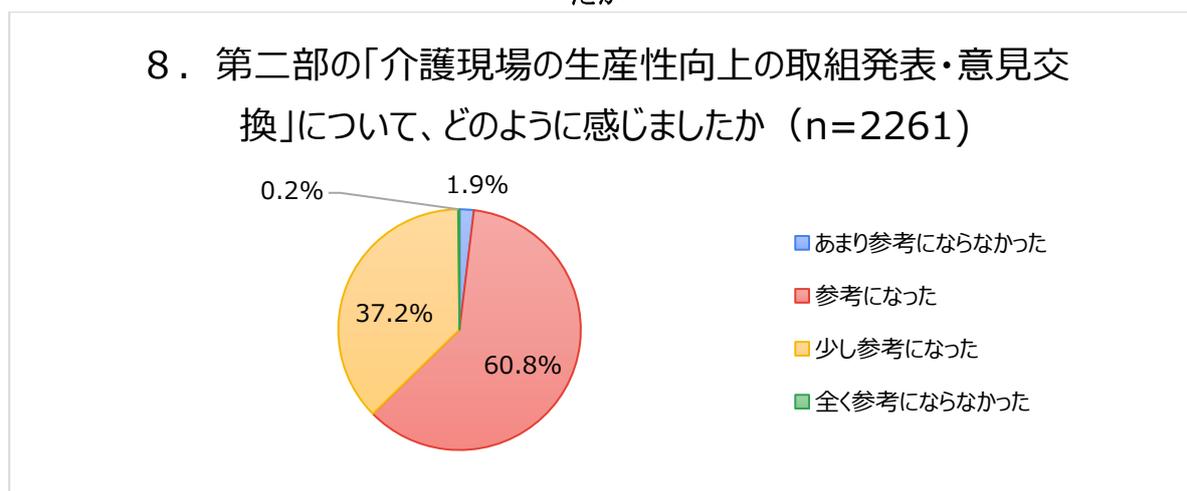
図表 51 7で「あまり理解していない」「全く理解していない」を回答した方の理由
（主な回答）

理解していない理由（自由記述）
横文字がやや多用されており、その意味の分かりづらいものがあった。そのため、結局何を言わんとしているのか、理解できなかった部分があった。
私には難しい部分がありました。見返したいので録画の共有など頂けると助かります。
早口過ぎて、資料のどこ部分の言っているのか追いつかないことがありました。
参加におくれてしまったため。

1 1) 第二部の「介護現場の生産性向上の取組発表・意見交換」についてどのように感じたか（1つ選択）

第二部の「介護現場の生産性向上の取組発表・意見交換」についてどのように感じたかをみると、「参考になった」が60.8%と最も高く、次いで「少し参考になった」が37.2%、「あまり参考にならなかった」が1.9%となっている。

図表 52 第二部の「介護現場の生産性向上の取組発表・意見交換」についてどのように感じたか



8 の設問で「あまり参考にならなかった」「全く参考にならなかった」を回答した方の理由（自由記述）

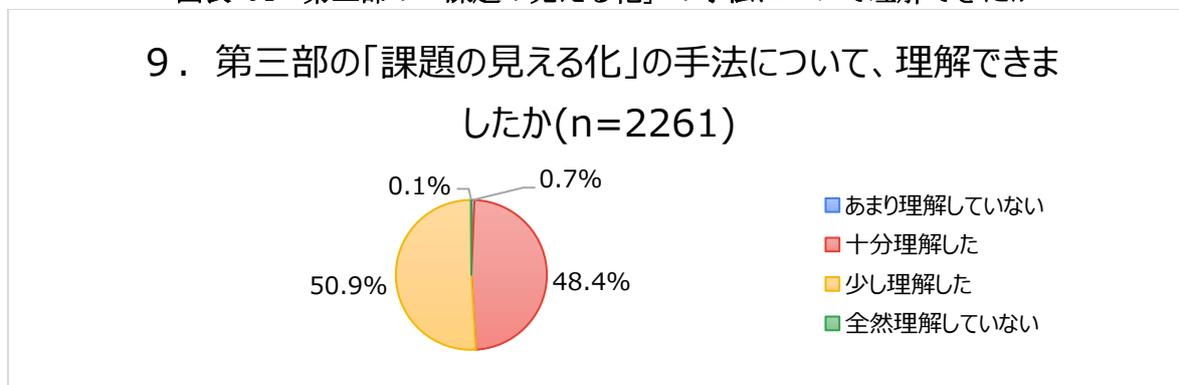
図表 53 8で「あまり参考にならなかった」「全く参考にならなかった」を回答した方の理由（主な回答）

参考にならなかった理由（自由記述）
ICT 機器の導入とそれまでの経緯についてお聞きしたかった。
ツールを活用することなく取り組める課題であり、難渋課題に対してツールを活用した解決過程をきいてみたかった。
意見交換の際、音声聞きづらくなり残念でした。
改善を行うのに必要な具体的な言葉かけ等を聞きたかった。
業種が異なったのでなかなか結び付きませんが多少の参考程度で拝聴させていただきました。
少人数の取組みで、シフト制の比較的中規模の事例を伺いたい。
発表の資料をいただきたい。また、このやり取りのアーカイブを職員で参考に見たい。
訪問介護事業所の例も挙げてほしかった。既にマニュアル化もしている、介護システムも導入している、スタッフ一人ひとりからの意見をマメに聞くようにし、緊急対応など出来るようになってから一人で現場を任せるようにしている、SNSなども活用している場合は他に生産性向上するためには何が必要なのか？
訪問系の事業所さんの事例だったので、施設系の事例も見てみたかった。

1 2) 第三部の「課題の見える化」の手法について理解できたか（1つ選択）

第三部の「課題の見える化」の手法について理解できたかをみると、「少し理解した」が 50.9%と最も高く、次いで「十分理解した」が 48.4%、「あまり理解していない」が 0.7%となっている。

図表 54 第三部の「課題の見える化」の手法について理解できたか



9 の設問で「あまり理解していない」「全く理解していない」を回答した方の理由（自由記述）

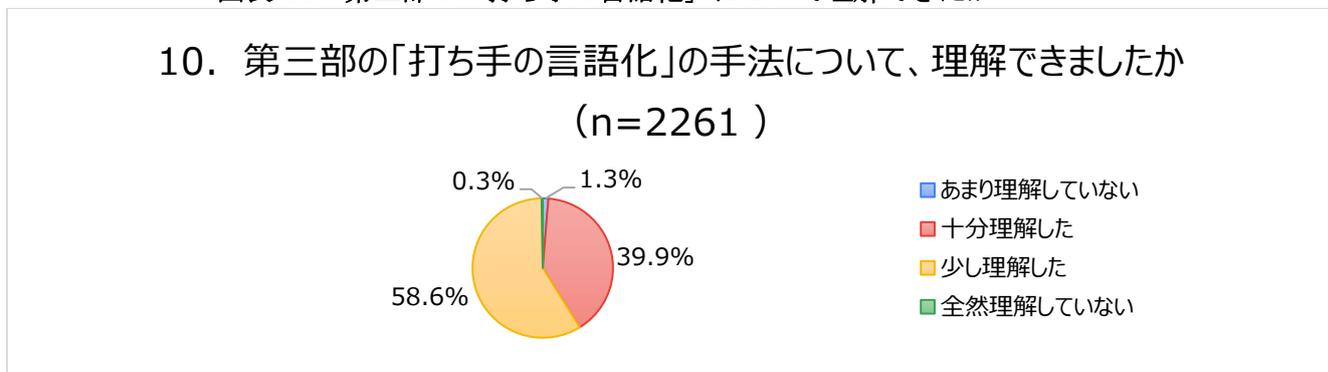
図表 55 9で「あまり理解していない」「全く理解していない」を回答した方の理由（主な回答）

理解していない理由（自由記述）
このような取り組みをいつ、誰がするのか？このような取り組みをするために、さらに残業時間を増やして行うのか？と疑問が増してばかりです。もっと簡易な方法はないのでしょうか？
課題の具体的な取り組みについての例が欲しい。
具体的な課題の発見方法がわからなかった。
具体的な例通してじゃないと理解しづらい。
見えるかすることは分かったが、因果関係図が難しいと感じた。

1 3) 第三部の「打ち手の言語化」の手法について理解できたか（1つ選択）

第三部の「打ち手の言語化」の手法について理解できたかをみると、「少し理解した」が58.6%と最も高く、次いで「十分理解した」が39.9%、「あまり理解していない」が1.3%となっている。

図表 56 第三部の「打ち手の言語化」について理解できたか



10 の設問で「あまり理解していない」「全く理解していない」を回答した方の理由（自由記述）

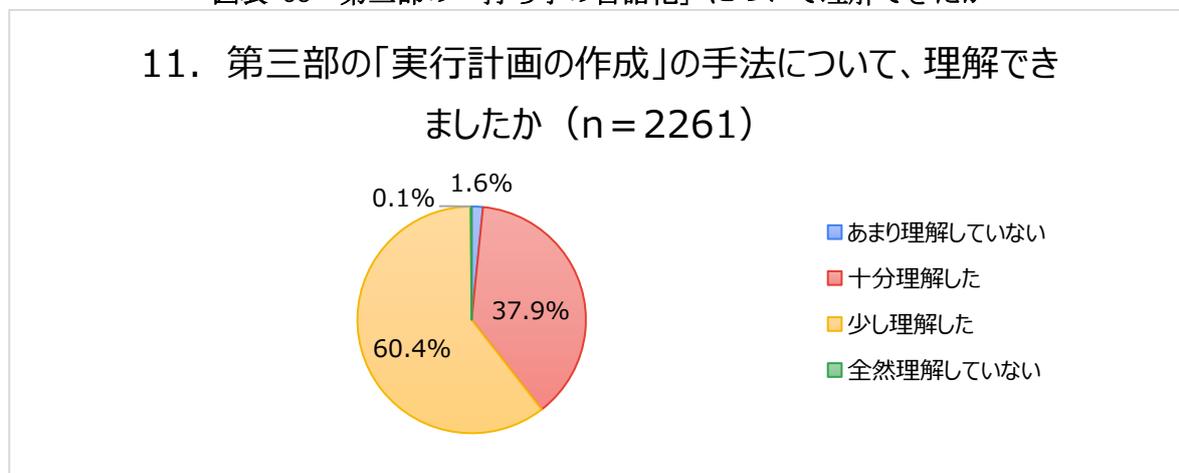
図表 57 10で「あまり理解していない」「全く理解していない」を回答した方の理由（主な回答）

理解していない理由（自由記述）
「打ち手の言語化」の手法を、どこで説明されたのか不明。7つの打ち手の内容を意味しているのでしょうか？ 課題解決の文章化を意味しているのでしょうか？
現状でも必要な書類の準備や、各種委員会の実行、研修など多忙すぎる現状を何とかしないと、これ以上新たなことは難しいと思います。
実際にやろうとすると難しそうだな、実際行った時にスムーズに進めていけるか不安を感じた。
初めて聞いたので理解が追いつきませんでした。
説明時間が短かったかと感じました。

1 4) 第三部の「実行計画の作成」の手法について理解できたか（1つ選択）

第三部の「実行計画の作成」の手法について理解できたかをみると、「少し理解した」が60.4%と最も高く、次いで「十分理解した」が37.9%、「あまり理解していない」が1.6%となっている。

図表 58 第三部の「打ち手の言語化」について理解できたか



11 の設問で「あまり理解していない」「全く理解していない」を回答した方の理由（自由記述）

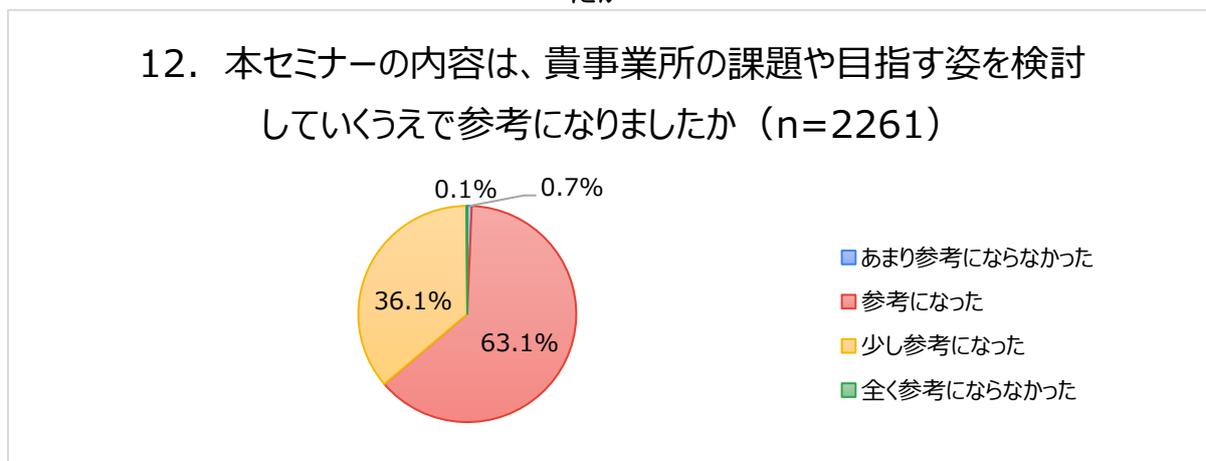
図表 59 11 で「あまり理解していない」「全く理解していない」を回答した方の理由
（主な回答）

理解していない理由（自由記述）
なかなか駆け足の部分が多くもっと事例なども多く使ってじっくりと聞きたかった。
ロジックは理解できますが、改善を行うのは「人」であり、個々人の意識、モラルの維持確保も検討しなければいけないと思います。
課題解決の道筋の文章化をおこなってからの流れとしては理解しましたが、もう少し、どの様な記入（書き方のポイント）をしていくと、ケアプランの様に理解しやすい計画書になるのかご教授いただけると良かったです。
実際にやってみないとわからないです。説明だけだとわからなかったです。
第一部からの進行が早く、前項を脳内整理している最中に次項に講義が進むため、理解が追い付かなかった。再度資料を読み込み理解に繋がります。

15) 本セミナーの内容は、貴事業所の課題や目指す姿を検討していくうえで参考になったか（1つ選択）

本セミナーの内容は、貴事業所の課題や目指す姿を検討していくうえで参考になったかをみると、「参考になった」が63.1%と最も高く、次いで「少し参考になった」が36.1%、「あまり参考にならなかった」が0.7%となっている。

図表 60 本セミナーの内容は、貴事業所の課題や目指す姿を検討していくうえで参考になったか



12 の設問で「あまり参考にならなかった」「全く参考にならなかった」を回答した方の理由（自由記述）

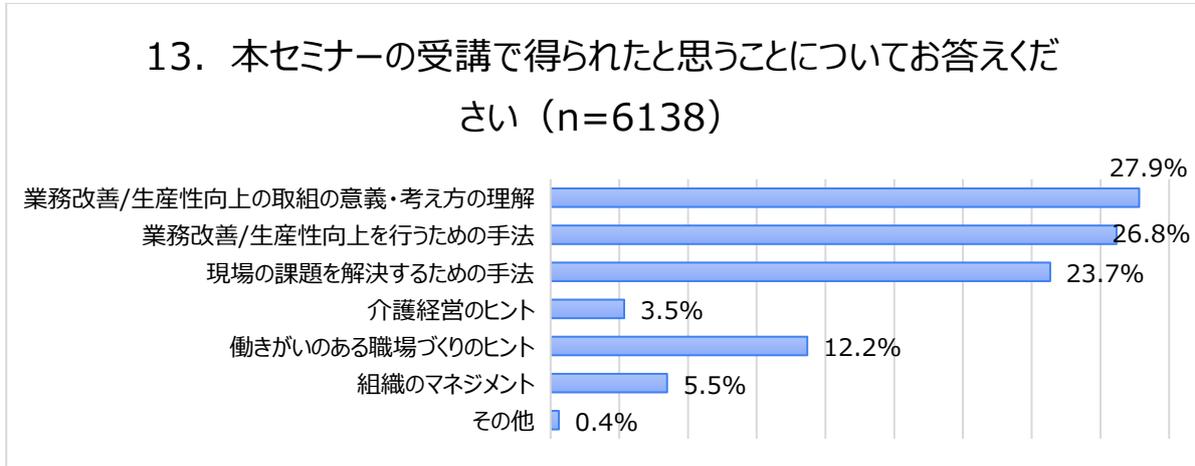
図表 61 12 で「あまり参考にならなかった」「全く参考にならなかった」を回答した方の理由
（主な回答）

参考にならなかった理由（自由記述）
すでに知っていること、行っていることしかありませんでした。
トータル人員が少ないため、勧めるのが困難である。
課題の洗い出しの必要性はわかるが、やはり時間、労力がかかりすぎる。
経営層の決断が必要だと思った。
他社の事例までは言わないが、例えばこんな感じ・・・等イメージがつく説明があると、より分かりやすかった。

16) 本セミナーの受講で得られたと思うこと（複数選択可）

本セミナーの受講で得られたと思うことをみると、「業務改善/生産性向上の取組の意義・考え方の理解」が27.9%と最も高く、次いで「業務改善/生産性向上を行うための手法」が26.8%、「現場の課題を解決するための手法」が23.7%となっている。

図表 62 本セミナーの受講で得られたと思うこと



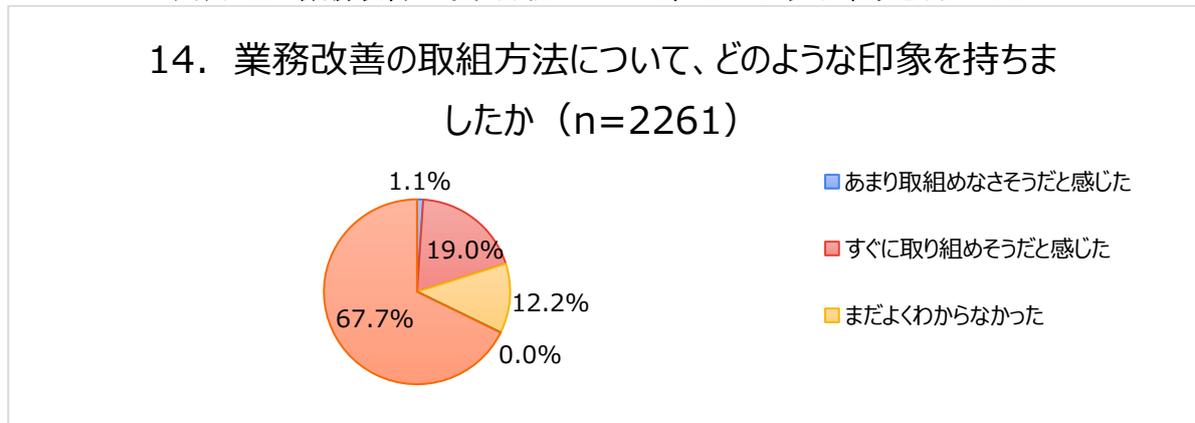
図表 63 その他の内容（主な回答）

その他の内容（自由記述）
やはり厚生労働省の考えていることと、小さな現場での日々の多忙さとの乖離が非常に大きいことを改めて痛感しました。
加算算定の具体的手続き。
取り組んでいた物の方向性として間違いではないと思えました。
伝わる伝え方の大事さ。

17) 業務改善の取組方法について、どのような印象を持ったか（1つ選択）

業務改善の取組方法について、どのような印象を持ったかをみると、「少し取り組めそうだと感じた」が67.7%と最も高く、次いで「すぐに取り組めそうだと感じた」が19.9%、「まだよくわからなかった」が12.2%となっている。

図表 64 業務改善の取組方法について、どのような印象を持ったか

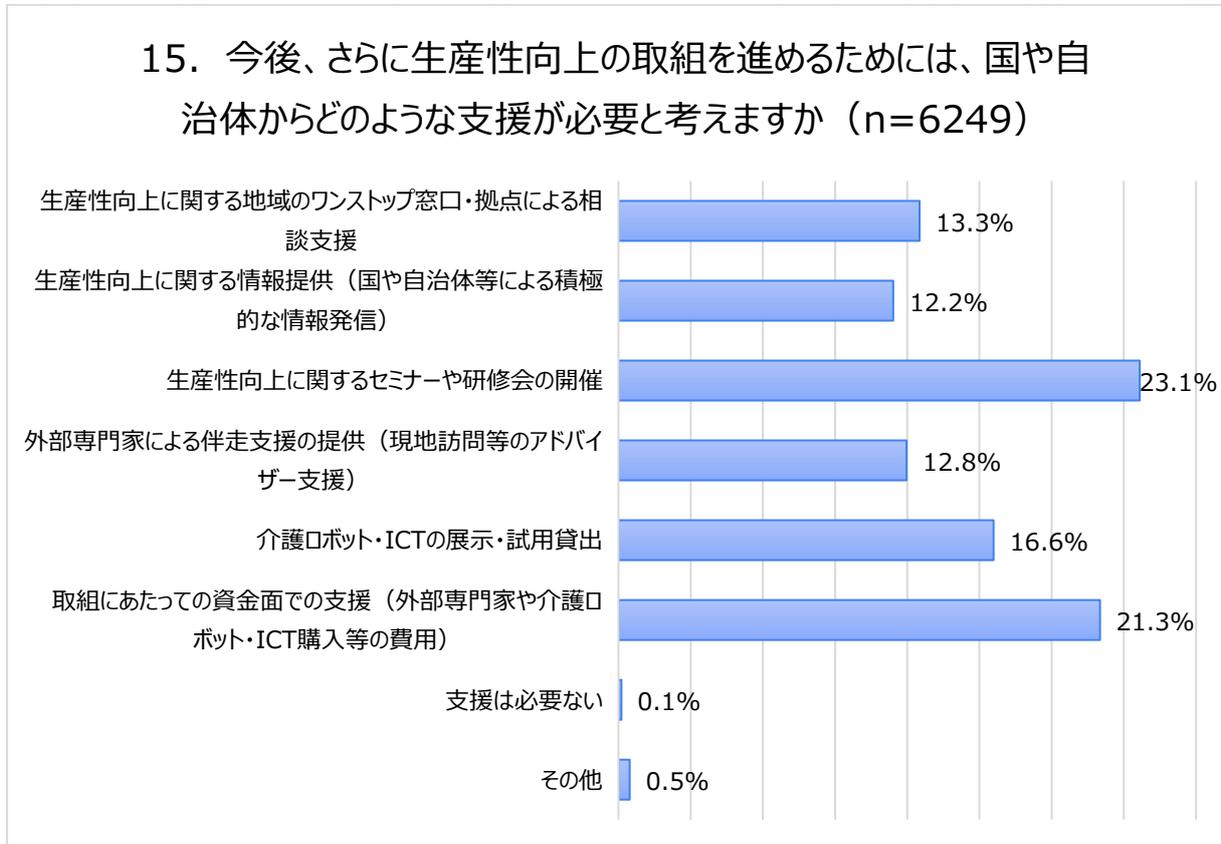


18) 今後さらに生産性向上の取組を進めるために必要と考える、国や自治体からの支援（複数選択可）

今後さらに生産性向上の取組を進めるために必要と考える、国や自治体からの支援をみると、

「生産性向上に関するセミナーや研修会の開催」が23.1%と最も高く、次いで「取組にあたっての資金面での支援（外部専門家や介護ロボット・ICT購入等の費用）」が21.3%、「介護ロボット・ICTの展示・試用貸出」が16.6%となっている。

図表 65 今後さらに生産性向上の取組を進めるために必要と考える、国や自治体からの支援



図表 66 その他の内容（主な回答）

その他の内容（自由記述）
すでにBCPなど義務化された取り組み事案が山積しており、人員と時間が不足する中でこれ以上何かを義務化すること自体がオーバーワークに繋がっているのでは？現場の事務レベルや人員をもう少し現実的に理解してほしい。
介護保険法で規定する書類の削減（本末転倒で改定ごとに益々増えて生産性が落ちている）及び有料でも良いので統一した仕組みを構築し、保存場所を県や国のWEB上で管理出来る様にして欲しい。
現場で本当に使える介護ロボットやICT機器の創設。無駄に複雑化する制度の簡略化、膨大な書類の削除。
取り組みにあたっての資金面での支援の評価、有効なシステムの統一
処遇改善加算、事業所加算など、各種加算申請や補助金の申請、実績報告書の作成は内容が複雑で時間がかかるので、簡素化もしくは無くしてほしい。訪問介護計画書、記録などはデータ保存可能にしたり、変更届などは電子申請化にしたりなど生産性向上の相談支援やセミナーをやるより効果的だと考える。
賃金をあげて優秀な人材の確保
補助金申請時の事務手続きの簡素化

<15 の設問で「生産性向上に関する情報提供（国や自治体等による積極的な情報発信）」と回答した方のみ>どのような情報発信を求めるか（自由記述）

図表 67 <15 の設問で「生産性向上に関する情報提供（国や自治体等による積極的な情報発信）」と回答した方のみ>どのような情報発信を求めるか（主な回答）

どのような情報発信を求めるか（自由記述）
取組事例
1. 実際の改善事例 2. 生産性向上の国や自治体からの支援の案内
ICT 機器の活用・情報共有、成功事例の紹介など
サービス形態ごとに分類されたガイドラインの配布と指導相談
セミナーや資金助成などの情報
セミナー以外での情報取得方法
国から発出される最新情報
国都道府県の情報発信窓口を一本化した情報サイトが欲しい。ネット上での自己検索では古い情報、解釈の誤った情報、玉石混合で選択に迷う。
最新の ICT 機器に関する情報とともに、最新の KPI の手法の開示
実施事例とその改善効果

19)本セミナーの内容に関するご意見・ご要望等（自由記述）

図表 68 本セミナーの内容に関するご意見・ご要望等（主な回答）

本セミナーの内容に関するご意見・ご要望等（自由記述）
3回の研修で講義いただいた、各施設の資料がいただきたいです。宜しく願い致します。
ICTを活用した取り組み事例を紹介していただきたい。
YouTube等を活用していただき、時間に囚われず視聴できるとありがたいです。
あらゆる生産性向上のセミナーを受講しているため内容が重複している。ほかの施設の取り組みについては学びが多く勉強になった。
チームの人選についてお聞きしたかったです。交代しながらも可能ですか？勤務時間内の活動が不可能なので残業になると思います。その辺は職員の協力次第ですが、懸念しています。
どうしても、IOTといったところに視点が行きがちで、今日の事例をお聞きし、ハードルが下がった。必要性も、取り組みやすさも感じる事ができた。参加してよかったです。アーカイブ配信を施設責任者、委員会メンバーで拝聴したいと思います。
とても有意義な内容で勉強になったが、時間的にタイトだった。特に厚労省の説明は多岐にわたり、15分の時間配分では理解がついていかなかった。「介護現場の生産性向上の取り組み発表」は有意義だった。また、意見交換もよかった。こうしたパネルディスカッションをもう少し時間を取って実施してほしい。
もう少し実行力のある研修をして欲しい。デジタル中核人材育成研修に参加してみたいです。
わかりやすかったです。また機会があれば参加したい。特に他の事業所の取り組みは参考になるのでまたどこかの事業所の発表をききたい。
講演や説明のスピードが速くて、理解が追いつかない所が多かった。取り組み発表の内容は具体的で分かり易く、実際に取り組む際のイメージが持てた。
生産向上推進体制加算の算定までの準備の手順、様式の説明をもう少し詳しく聞きたかったです。

(3) ビギナーセミナー受講後（取組状況確認）アンケート結果

有効件数：926 件

アンケート結果は以下のとおり。

<全ての回答>

1) 参加開催回（1つ選択）

参加開催回をみると、「西日本（第2回）：7月17日（水）」が20.4%と最も高く、次いで「西日本（第3回）：7月30日（火）」が20.2%、「西日本（第1回）：7月4日（木）」が18.0%となっている。

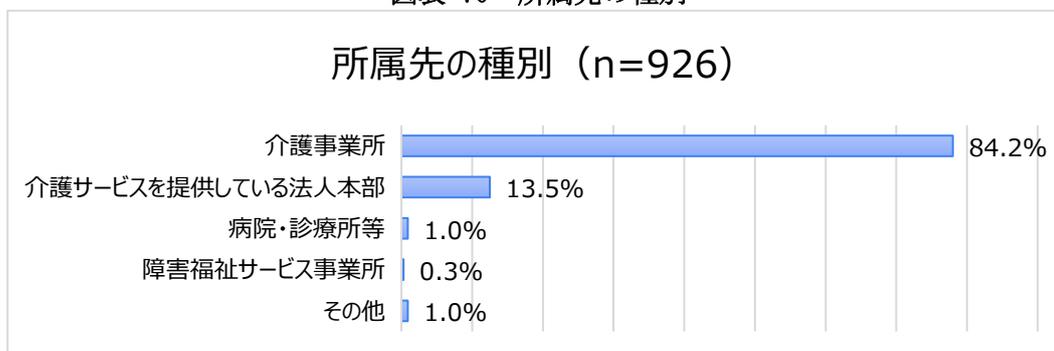
図表 69 参加開催回



2) 所属先の種別（1つ選択）

所属先の種別をみると、「介護事業所」が84.2%と最も高く、次いで「介護サービスを提供している法人本部」が13.5%、「病院・診療所等」が1.0%となっている。

図表 70 所属先の種別



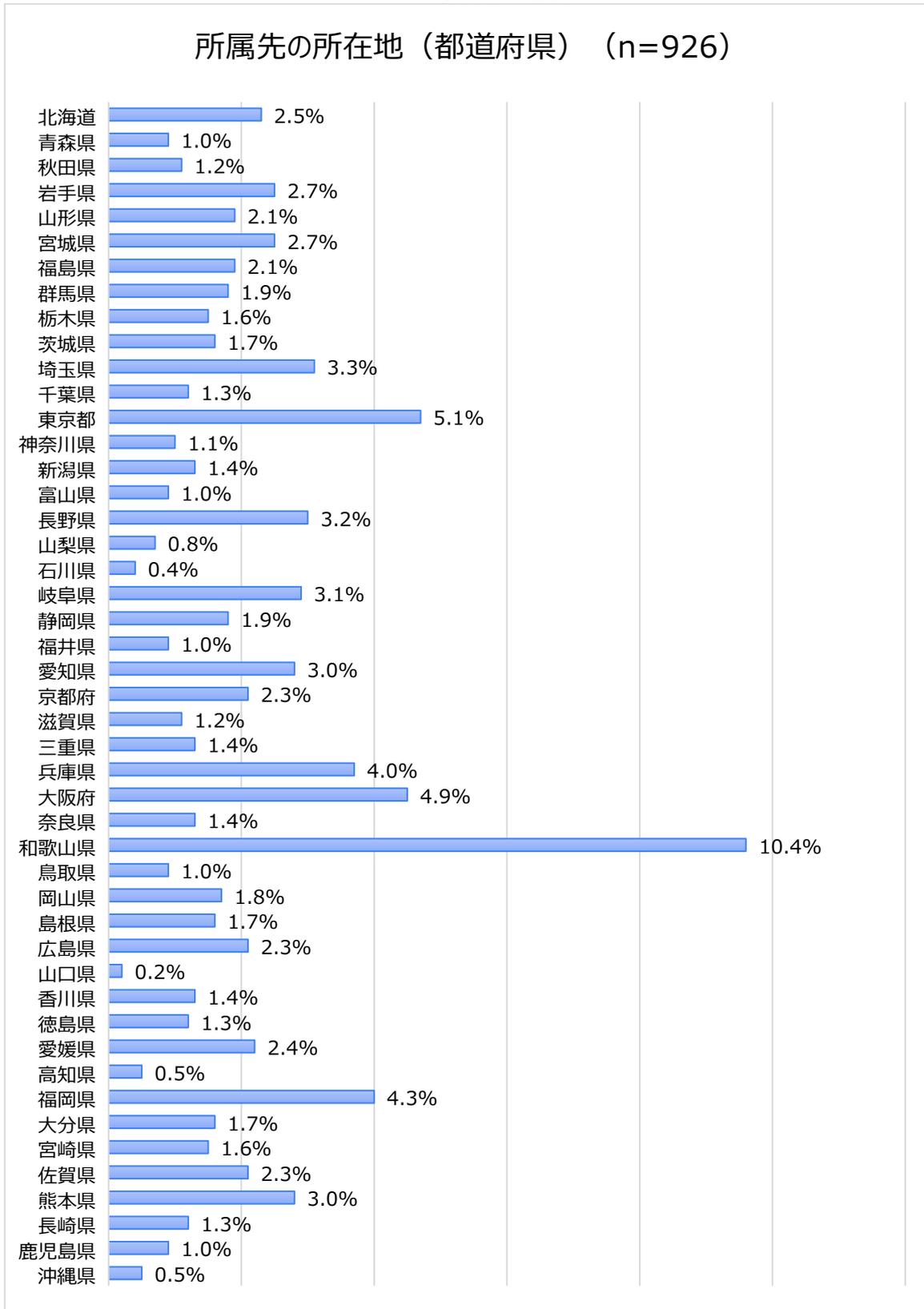
図表 71 その他の内容（主な回答）

その他の内容（自由記述）
ワンストップ窓口
介護労働安定センター
福祉用具貸与事業所
包括支援センター

3) 所属先の所在地（都道府県）（1つ選択）

所属先の所在地（都道府県）をみると、「和歌山県」が10.4%と最も高く、次いで「東京都」が5.1%、「大阪府」が4.9%となっている。

図表 72 所属先の所在地

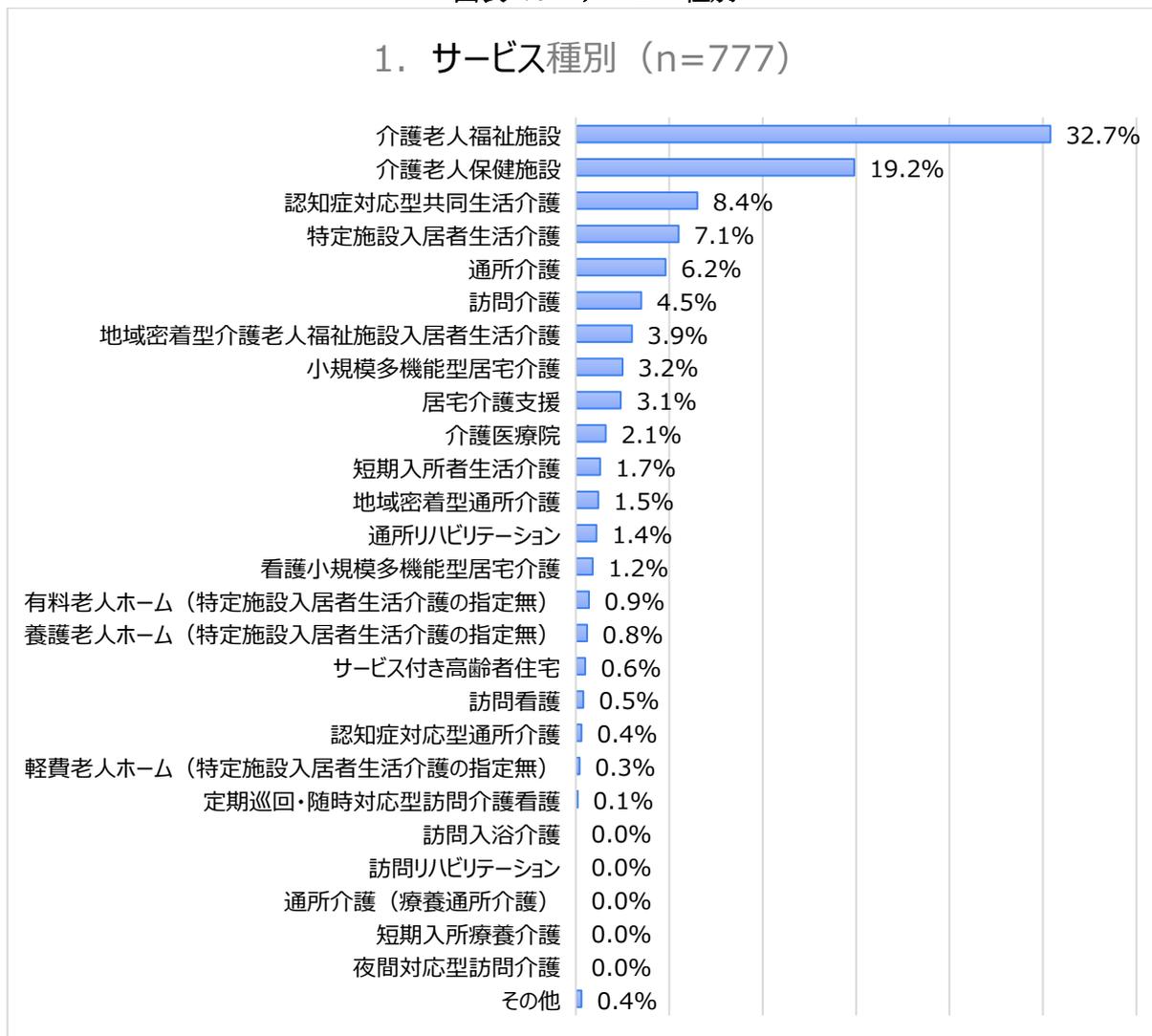


<「所属先の種別」で「介護事業所」と回答した方のみ>

4) サービス種別 (1つ選択)

サービス種別をみると、「介護老人福祉施設」が32.7%と最も高く、次いで「介護老人保健施設」が19.2%、「認知症対応型共同生活介護」が8.4%となっている。

図表 73 サービス種別



※サービス付き高齢者住宅は (特定施設入居者生活介護の指定無)

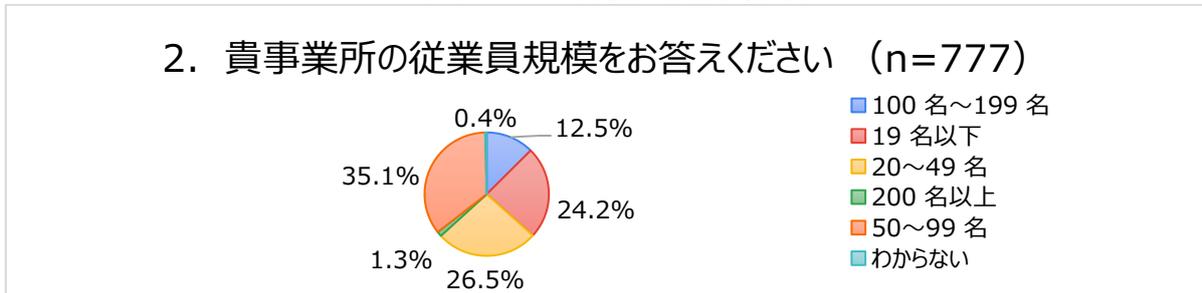
図表 74 その他の内容 (主な回答)

その他の内容 (自由記述)
地域密着型小規模特別養護老人ホーム
地域密着型特定施設入居者生活介護

5) 事業所の従業員規模（1つ選択）

事業所の従業員規模をみると、「50～99名」が35.1%と最も高く、次いで「20～49名」が26.5%、「19名以下」が24.2%となっている。

図表 75 事業所の従業員規模

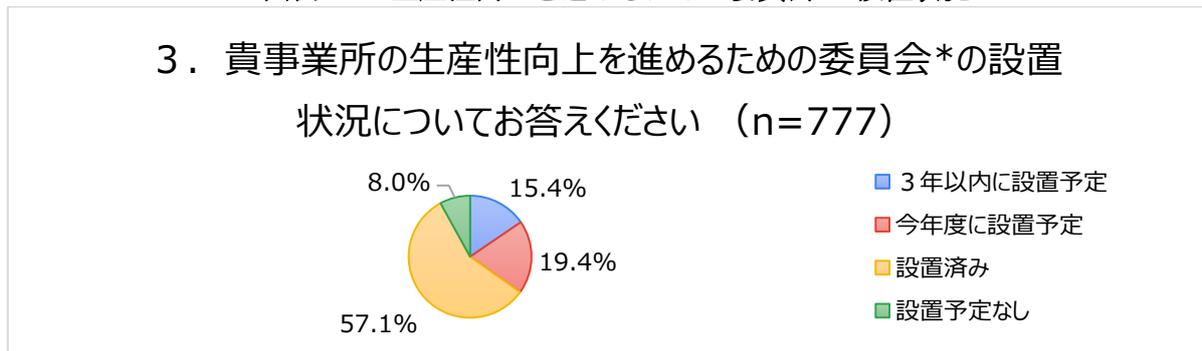


6) 生産性向上を進めるための委員会*の設置状況（1つ選択）

*生産性向上を進めるための委員会：令和6年度介護報酬改定において施設・居住・入所系サービスに義務づけられた、「利用者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減に資する方策を検討するための委員会」及びこれに準じる委員会を想定したものです。義務づけられたサービス種別に関わらず全サービスにおいてお答えください。

生産性向上を進めるための委員会*の設置状況をみると、「設置済み」が57.1%と最も高く、次いで「今年度に設置予定」が19.4%、「3年以内に設置予定」が15.4%となっている。

図表 76 生産性向上を進めるための委員会*の設置状況

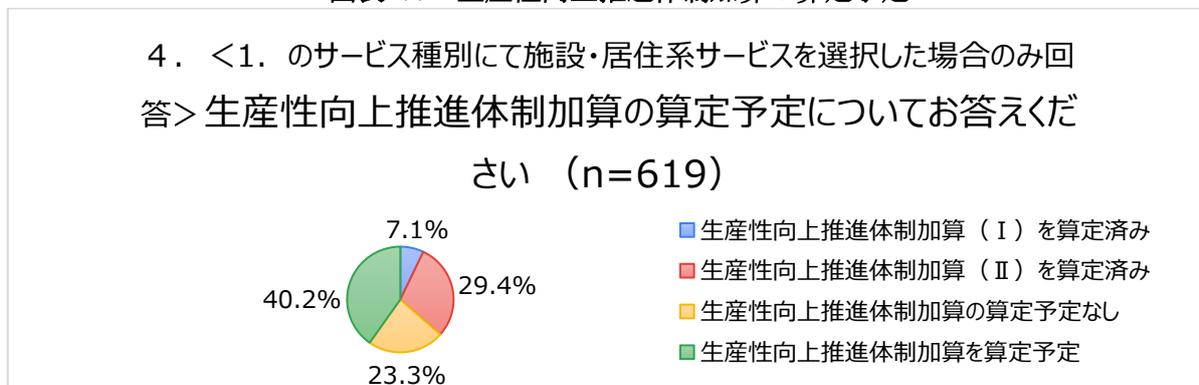


<1のサービス種別にて事業所（施設・居住系サービス）を選択した場合のみ>

7)生産性向上推進体制加算の算定予定（1つ選択）

生産性向上推進体制加算の算定予定をみると、「生産性向上推進体制加算を算定予定」が40.2%と最も高く、次いで「生産性向上推進体制加算（Ⅱ）を算定済み」が29.4%、「生産性向上推進体制加算の算定予定なし」が23.3%となっている。

図表 77 生産性向上推進体制加算の算定予定



<「所属先の種別」で「介護事業所」「介護サービスを提供している法人本部」「病院・診療所等」「障害福祉サービス事業所」と回答した方のみ>

8)回答者の役職（1つ選択）

回答者の役職をみると、「経営層・従事者ともに参加」が38.8%と最も高く、次いで「従事者層のみ参加」が33.7%、「経営層のみ参加」が25.0%となっている。

図表 78 回答者の役職



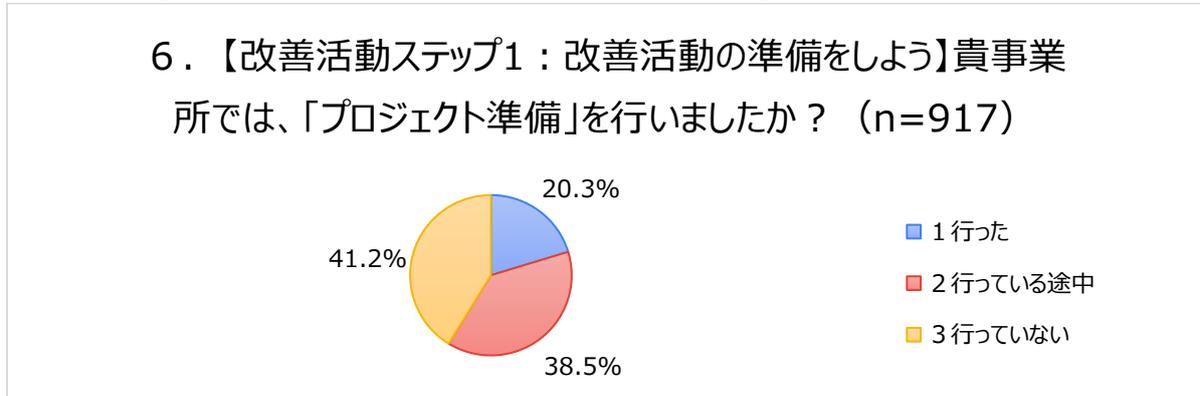
図表 79 その他の内容（主な回答）

その他の内容（自由記述）
管理者
管理者・看護師で参加
施設長のみ
事務員のみ参加
総務課

9) 【改善活動ステップ1：改善活動の準備をしよう】「プロジェクト準備」を行ったか（1つ選択）

【改善活動ステップ1：改善活動の準備をしよう】「プロジェクト準備」を行ったかをみると、「行っていない」が41.2%と最も高く、次いで「行っている途中」が38.5%、「行った」が20.3%となっている。

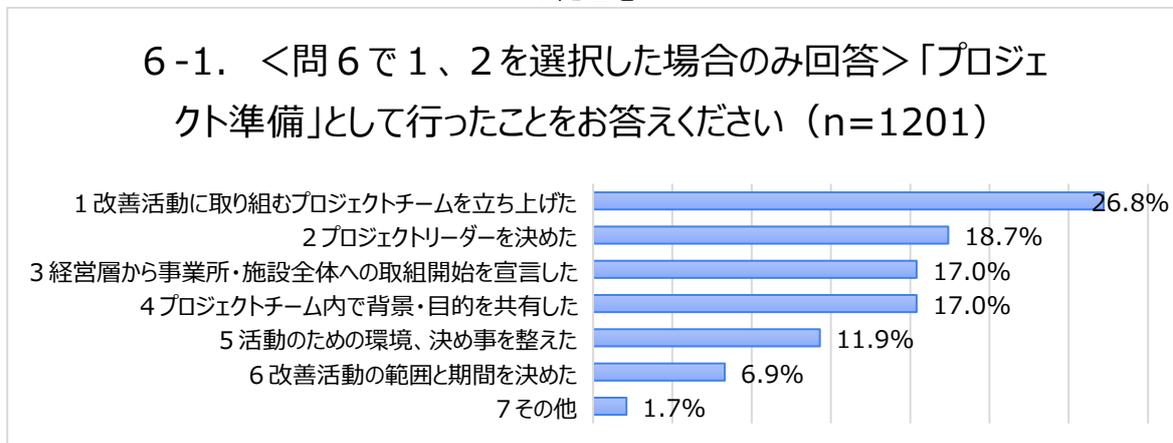
図表 80 【改善活動ステップ1：改善活動の準備をしよう】「プロジェクト準備」を行ったか



6 の設問で「1 行った」「2 行っている途中」を回答した方が「プロジェクト準備」として行ったこと（複数選択可）

6 の設問で「1 行った」「2 行っている途中」を回答した方が「プロジェクト準備」として行ったことをみると、「1 改善活動に取り組むプロジェクトチームを立ち上げた」が26.1%と最も高く、次いで「2 プロジェクトリーダーを決めた」が18.7%、「3 経営層から事業所・施設全体への取組開始を宣言した」「4 プロジェクトチーム内で背景・目的を共有した」が17.0%となっている。

図表 81 6で「1 行った」「2 行っている途中」を回答した方が「プロジェクト準備」として行ったこと



図表 82 その他の内容（主な回答）

その他の内容（自由記述）
すでに委員会として令和5年度から活動している
まずはリーダー等にプロジェクトの意味を共有してもらった
メンバー選定等法人内でキックオフ前段階
改善に向け、機器導入済
経営部門への相談
職員にアンケート

10) 【改善活動ステップ2：現場の課題を見える化しよう】「現場課題の見える化」を行ったか（1つ選択）

【改善活動ステップ2：現場の課題を見える化しよう】「現場課題の見える化」を行ったかをみると、「行っていない」が50.9%と最も高く、次いで「行っている途中」が37.7%、「行った」が11.3%となっている。

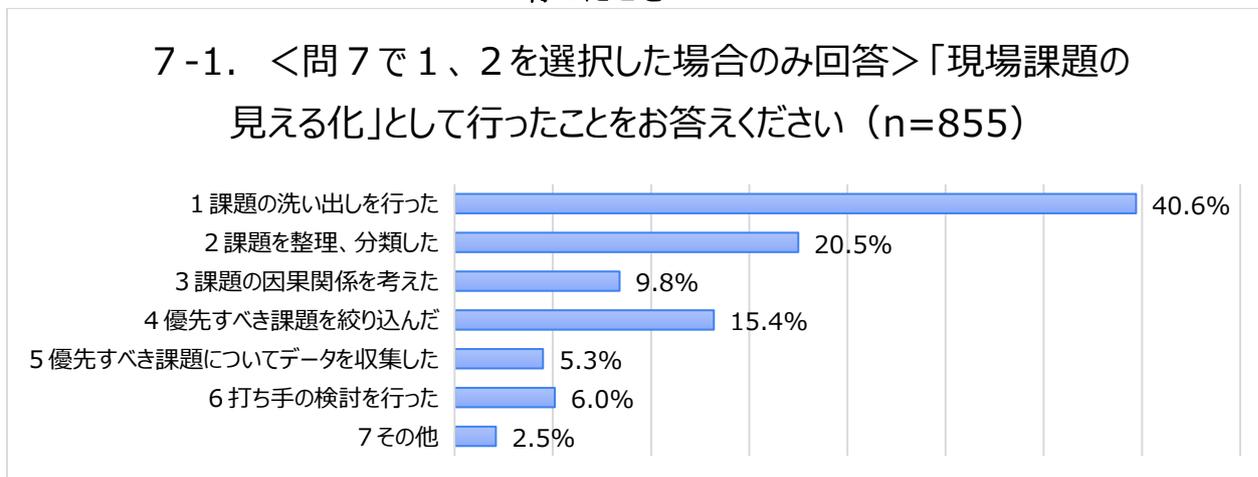
図表 83 【改善活動ステップ2：現場の課題を見える化しよう】「現場課題の見える化」を行ったか



7の設問で「1 行った」「2 行っている途中」を回答した方が「現場課題の見える化」として行ったこと（複数選択可）

7の設問で「1 行った」「2 行っている途中」を回答した方が「現場課題の見える化」として行ったことをみると、「1 課題の洗い出しを行った」が40.6%と最も高く、次いで「2 課題を整理、分類した」が20.5%、「4 優先すべき課題を絞り込んだ」が15.4%となっている。

図表 84 7で「1 行った」「2 行っている途中」を回答した方が「現場課題の見える化」として行ったこと



図表 85 その他の内容（主な回答）

その他の内容（自由記述）
職員の問題意識に関するアンケートを実施。
チーム立ち上げの準備と並行して課題の洗い出し行う。
課題の洗い出しをするための方法（ヒアリング、アンケート等）を検討中
各スタッフの役割業務内容の確認と拡大へのシフト作り
気づきシートを配布した
職員の理解を得ている所

- 1) 1) 【改善活動ステップ3：実行計画を立てよう】「実行計画の立案」を行ったか（1つ選択）
 【改善活動ステップ3：実行計画を立てよう】「実行計画の立案」を行ったかをみると、「行っていない」が70.8%と最も高く、次いで「行っている途中」が23.3%、「行った」が5.9%となっている。

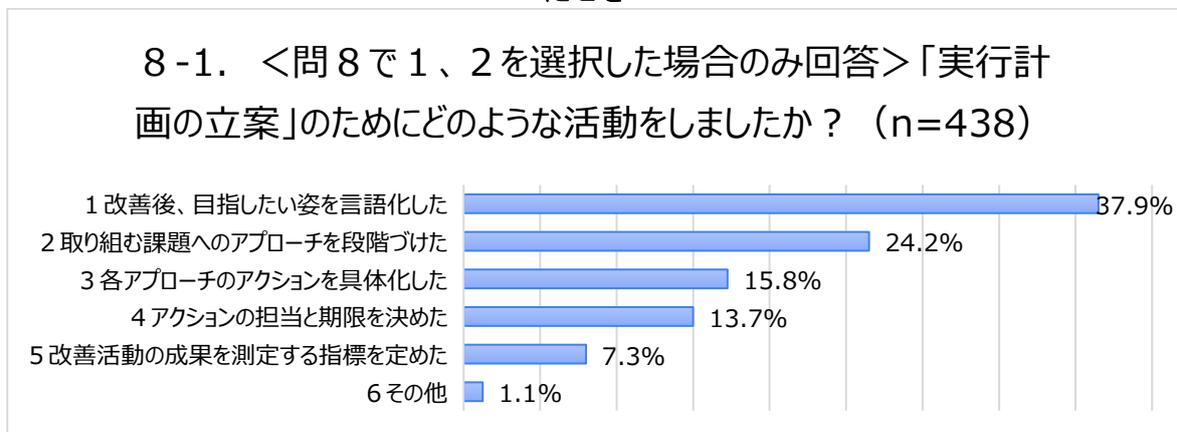
図表 86 【改善活動ステップ3：実行計画を立てよう】「実行計画の立案」を行ったか



8 の設問で「1 行った」「2 行っている途中」を回答した方が「実行計画の立案」として行ったこと（複数選択可）

8 の設問で「1 行った」「2 行っている途中」を回答した方が「実行計画の立案」として行ったことをみると、「1 改善後、目指したい姿を言語化した」が37.9%と最も高く、次いで「2 取り組む課題へのアプローチを段階づけた」が24.2%、「3 各アプローチのアクションを具体化した」が15.8%となっている。

図表 87 8で「1 行った」「2 行っている途中」を回答した方が「実行計画の立案」として行ったこと

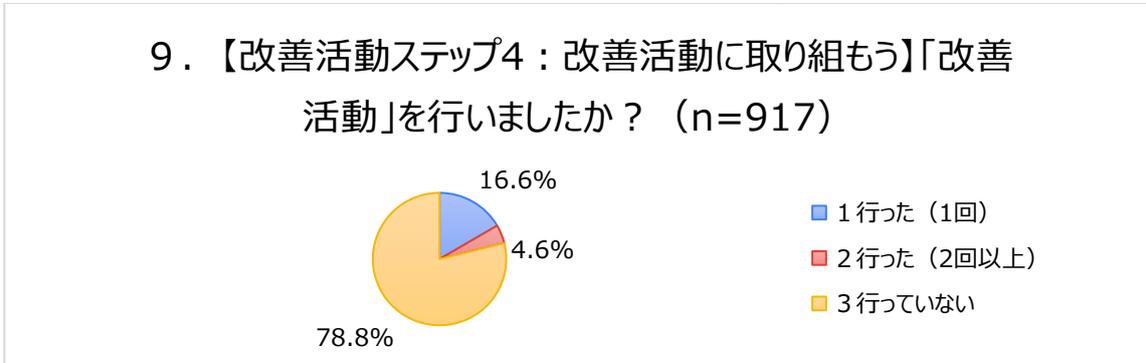


図表 88 その他の内容（主な回答）

その他の内容（自由記述）
プロジェクトチームを立ち上げたので、今後の活動方針をチームで協議する。
わかりづらいところがある為できていない
解決するための課題を出しているところ
今後詳細を決める予定
取り組むセクションを検討中

- 1 2) 【改善活動ステップ4：改善活動に取り組もう】「改善活動」を行ったか（1つ選択）
 【改善活動ステップ4：改善活動に取り組もう】「改善活動」を行ったかをみると、「行っていない」が78.8%と最も高く、次いで「1行った（1回）」が16.6%、「2行った（2回以上）」が4.6%となっている。

図表 89 【改善活動ステップ4：改善活動に取り組もう】「改善活動」を行ったか



9の設問で「1行った（1回）」「2行った（2回以上）」を回答した方が「改善活動」のために行った取組や工夫（複数選択可）

9の設問で「1行った（1回）」「2行った（2回以上）」を回答した方が「改善活動」のために行った取組や工夫をみると、「1取組の中で、試行錯誤を行っている。」が45.5%と最も高く、次いで「3対話の量・機会を増やした」が26.6%、「2小さな成功事例を積み重ねている」が22.7%となっている。

図表 90 9で「1行った」「2行っている途中」を回答した方が「改善活動」のために行った取組や工夫



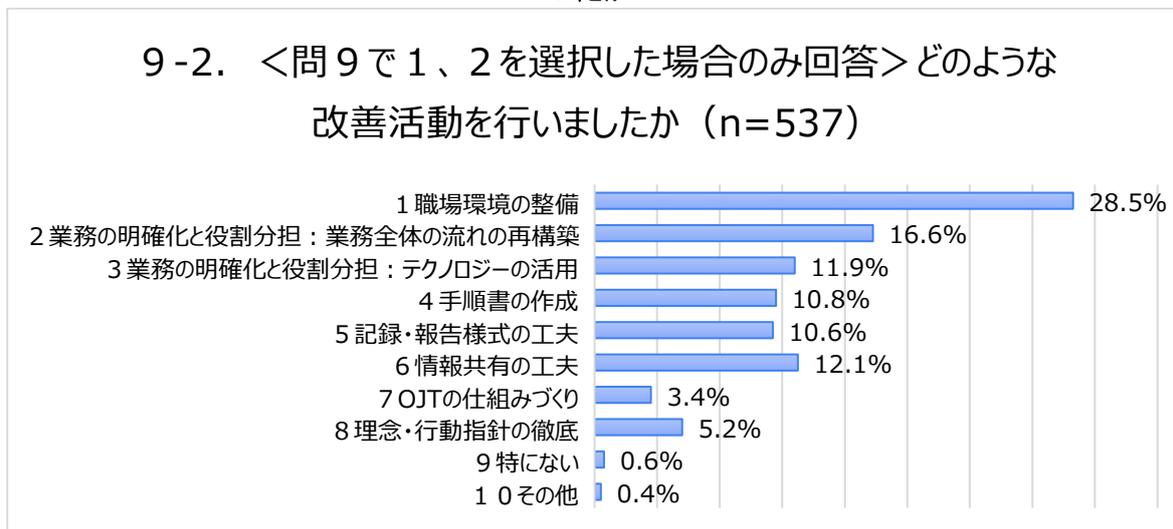
図表 91 その他の内容（主な回答）

その他の内容（自由記述）
研修を探したり、どのように委員会を作ったり、動いていくのか検討している

9の設問で「1行った(1回)」「2行った(2回以上)」を回答した方が、どのような「改善活動」を行ったか(複数選択可)

9の設問で「1行った(1回)」「2行った(2回以上)」を回答した方が、どのような「改善活動」を行ったかをみると、「1 職場環境の整備」が28.5%と最も高く、次いで「2 業務の明確化と役割分担」が16.6%、「6 情報共有の工夫」が12.1%となっている。

図表 92 9で「1行った」「2行っている途中」を回答した方が、どのような「改善活動」を行ったか

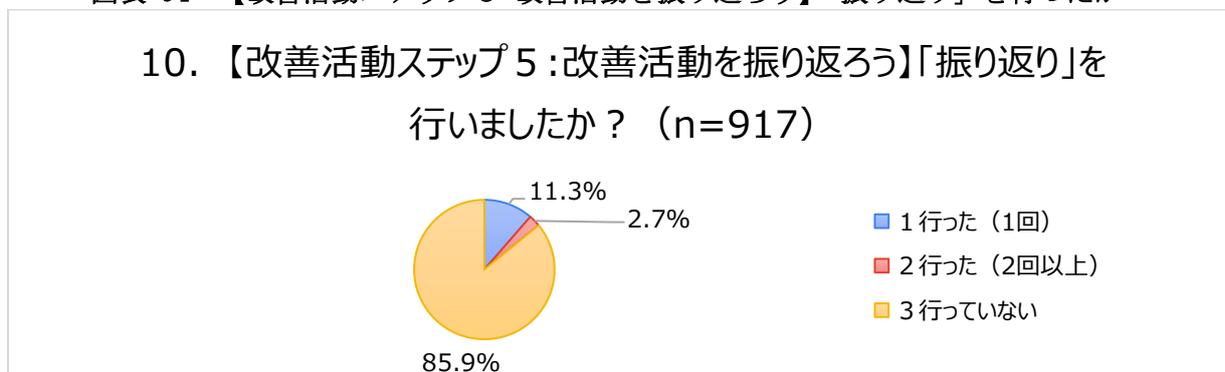


図表 93 その他の内容 (主な回答)

その他の内容 (自由記述)
業務上の気づきを提出して頂いている最中
生産性向上に取り組むため、研修会やICTフェアなどに参加しているところ

13) 【改善活動ステップ5:改善活動を振り返ろう】「振り返り」を行ったか(1つ選択)
 【改善活動ステップ5:改善活動を振り返ろう】「振り返り」を行ったかをみると、「行っていない」が85.9%と最も高く、次いで「1行った(1回)」が11.3%、「2行った(2回以上)」が2.7%となっている。

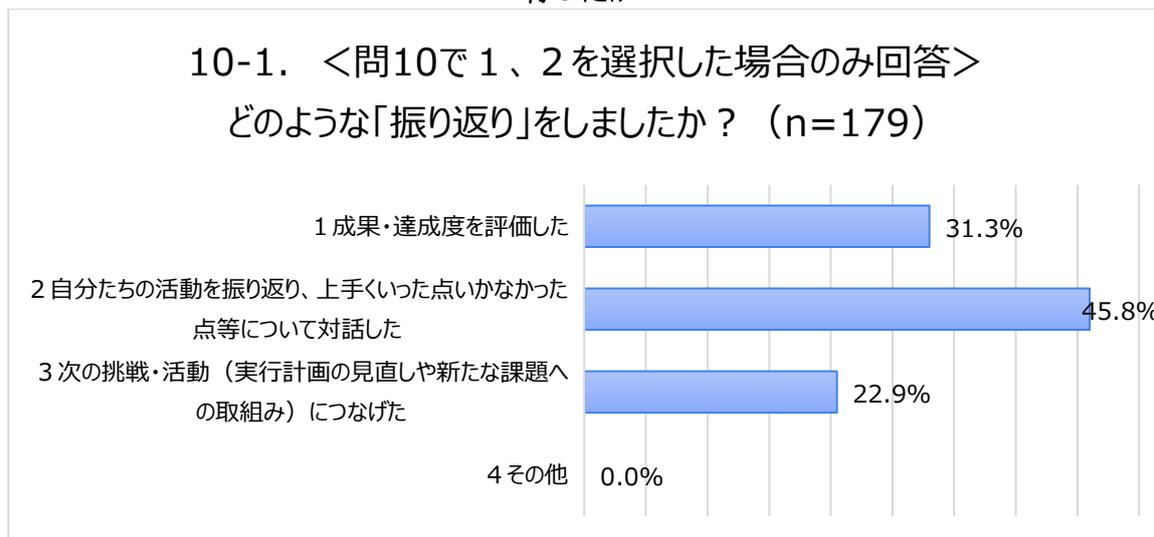
図表 94 【改善活動ステップ5:改善活動を振り返ろう】「振り返り」を行ったか



10の設問で「1行った(1回)」「2行った(2回以上)」を回答した方が、どのような「振り返り」を行ったか(複数選択可)

10の設問で「1行った(1回)」「2行った(2回以上)」を回答した方が、どのような「振り返り」を行ったかをみると、「2自分たちの活動を振り返り、上手くいった点いかなかった点等について対話した」が45.8%と最も高く、次いで「1成果・達成度を評価した」が31.3%、「3次の挑戦・活動(実行計画の見直しや新たな課題への取組み)につなげた」が22.9%となっている。

図表 95 10で「1行った」「2行っている途中」を回答した方が、どのような「振り返り」を行ったか



14)業務改善を行うにあたり、あなたが感じる一番のハードル(自由記述)

図表 96 業務改善を行うにあたり、あなたが感じる一番のハードル(主な回答)

業務改善を行うにあたり、あなたが感じる一番のハードルをお答えください(自由記述)
抽出した課題の因果関係などを検討する過程
「いつまでに 誰が 何をするか」を決めて進めることが出来ていない
「当たり前」に感じている業務を変えることへの抵抗感
職員の意向・意見の取りまとめ、時間の確保
アンケート調査を行う予定であるがすべてに対応を期待される事への不安。
この活動を継続的にやっていけるのか、ということ。
これまでの経験からは、業務改善が定着するまでに効果が実感できない時期があるので、そこをどのように乗り越えるか、という部分。
スタッフによって業務に対しての負担の差があるので課題の特定が難しい
チーム連携
プロジェクトチームの運営時間の捻出
プロジェクトの中心となる(特定の)職員の業務量、負荷がかかる
意識改革(問題の共有)、コスト対策
課題の多様化
経営層との意見の食い違い。金銭面。
経営層や従業員への意識統一等

15) 業務改善を行うにあたり、あなたが今最も必要としているサポート（自由記述）

図表 97 業務改善を行うにあたり、あなたが今最も必要としているサポート（主な回答）

業務改善を行うにあたり、あなたが今最も必要としているサポートをお答えください（自由記述）
業務改善の取り組み事例紹介（困難事例等）・事務作業の負担軽減。・介護機器の使用が定着できるような定期的な指導力。
他施設の取組み報告、改善事例（ICT化の成功例）・人材育成面へのサポート
11の質問で記載したように、課題抽出からアプローチの手順を具体的に教えて欲しい。
ICT機器の有効な活用の仕方、業務改善成功事例参照、細かい洗い出しの意見
IT機器導入のための資金
アドバイザーの派遣
オンラインではなく、職員が受講できるセミナーを地域で開催して欲しい
サポートデスク的な気軽に相談できる期間。電話でもチャットでも良いかと思います。操作方法や各種のシートなどやり方がわからなくなってしまった時に気軽に相談ができないとそこでストップしてしまいます。
スタッフの協力
チャート図のようにになっている手順書があるとわかりやすい
もう少し簡単な生産性向上の取り組みシート等を作成してほしい。業務の省力化が少しでもできる改善があった場合には、それを1枚のシートで問題点・課題・改善点・現在などの項目をつけたものなど。
やらなければならない業務とやりたいと思っている業務、どうしても、やらなければならない事が優先されてしまう。特に事務作業は管理者の自分でなくてもできるので、事務作業に追われる現状について改善が欲しい。事務員が欲しい。
ロボット等導入する際のサポート
加算Ⅱの他事業所の取り組みや事例を知りたい
介護職が増えるように、しんどい辛いという当たり前を変えて欲しい。人員配置を増やし、給金を上げて欲しい。

16)本セミナーに関するご意見・ご要望等（自由記述）

図表 98 本セミナーに関するご意見・ご要望等（主な回答）

本セミナーに関するご意見・ご要望等があればご記入下さい（自由記述）
「生産性向上」というキーワードは今後の施設運営に大きな影響を与えてくると思っています。私たち管理者がどのように考え・現場と共に前に進んでいくことが出来るのか。今後も定期的な研修の実施をお願いします。
2時間という短時間のセミナーであったので、進行スピードが速かった。
ICTを取り入れた取組事例を導入経緯から詳しく聞きたい（事業種別ごとに）
アーカイブがあれば繰り返し視聴したい。
アンケートが mail で送られていて、研修の後の分と重複しています。何度も送信があるので、チェック機能のためであれば、送らないとならないかと思いました。
アンケートツールや課題分析方法等、具体的に知ることができて、ありがたかったです。まずはアンケートを実施しようとやる気が出ました。
ウェブによる相談はしましたが、前に進みません。出張を2〜3回いただければ意識改革も異なるかと感じました。
すごくいい研修でしたので、もう少し時間を取ってしっかり内容まで勉強させていただけるというように思います
すでに介護の周辺業務の効率化については、介護助手などを導入して目標を達成している。残るは、3大介護といわれる入浴・排泄・食事の介助である。この領域の効率化、生産性向上をどのように進めていけばよいか。具体例なども含めてご教示願いたい。
セミナーでの事例発表や、講師のお話がとてもわかりやすく、取り組みに前向きになれる内容でした。参加したメンバー以外にも、同じものを見てもらうのが効果は高いと思うので、ぜひ、配信などをしてみられる環境を用意していただけると助かります。
だいたいの流れを理解出来ましたが、取り組みは難しさを感じました。
何から手をつけるべきか不安だったが、事例の発表もあり、わかりやすく参考になりました。
加算取得のための LIFE の様式に沿った内容が聞きたい
業務改善、課題の見える化について大変参考になった
具体的に見える化の方法等があり、少し実施のイメージが出来た。今後も実践的な分析・指導をお願いしたい。

(4) フォローアップセミナー申込アンケート結果

有効件数：500件

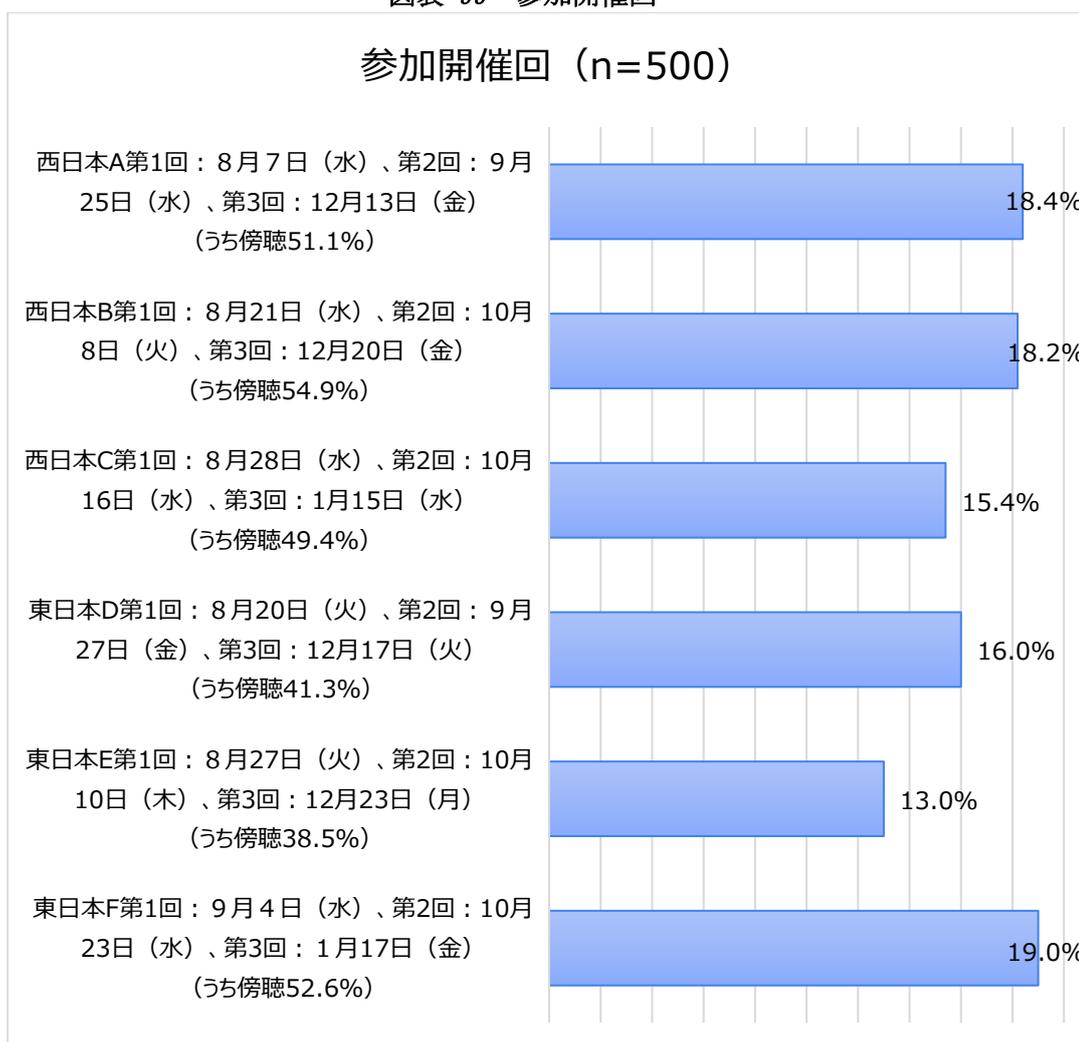
アンケート結果は以下のとおり。

<全ての回答>

1) 参加開催回 (1つ選択)

参加開催回をみると、「東日本F_第1回：9月4日(水)、第2回：10月23日(水)、第3回：1月17日(金)」が19.0%と最も高く、次いで「西日本A_第1回：8月7日(水)、第2回：9月25日(水)、第3回：12月13日(金)」が18.4%、「西日本B_第1回：8月21日(水)、第2回：10月8日(火)、第3回：12月20日(金)」が18.2%、「西日本C_第1回：8月28日(水)、第2回：10月16日(水)、第3回：1月15日(水)」が15.4%、「東日本D_第1回：8月20日(火)、第2回：9月27日(金)、第3回：12月17日(火)」が16.0%、「東日本E_第1回：8月27日(火)、第2回：10月10日(木)、第3回：12月23日(月)」が13.0%、「東日本F_第1回：9月4日(水)、第2回：10月23日(水)、第3回：1月17日(金)」が18.2%となっている。

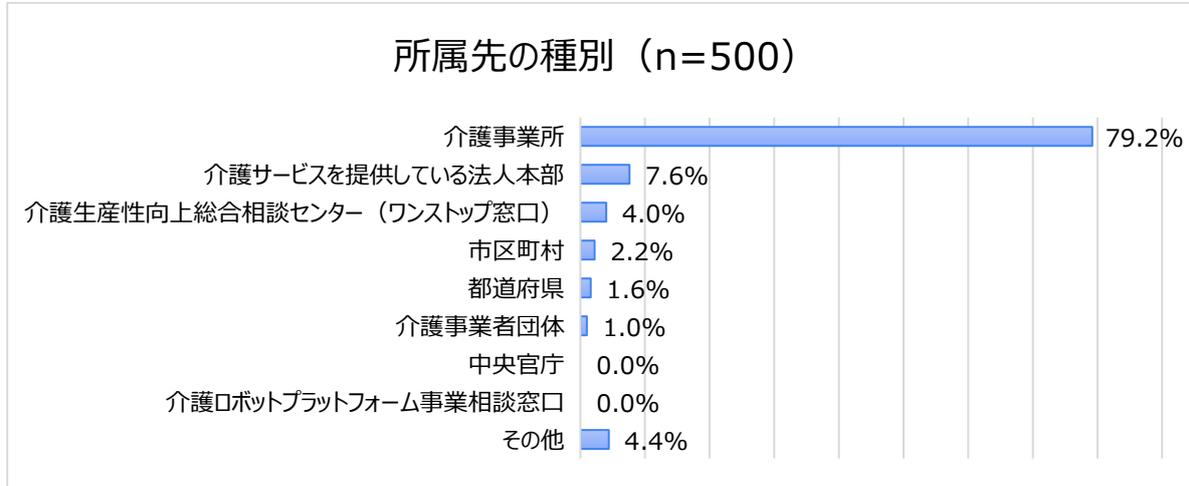
図表 99 参加開催回



2) 所属先の種別（1つ選択）

所属先の種別をみると、「介護事業所」が79.2%と最も高く、次いで「介護サービスを提供している法人本部」が7.6%、「その他」が4.4%となっている。

図表 100 所属先の種別



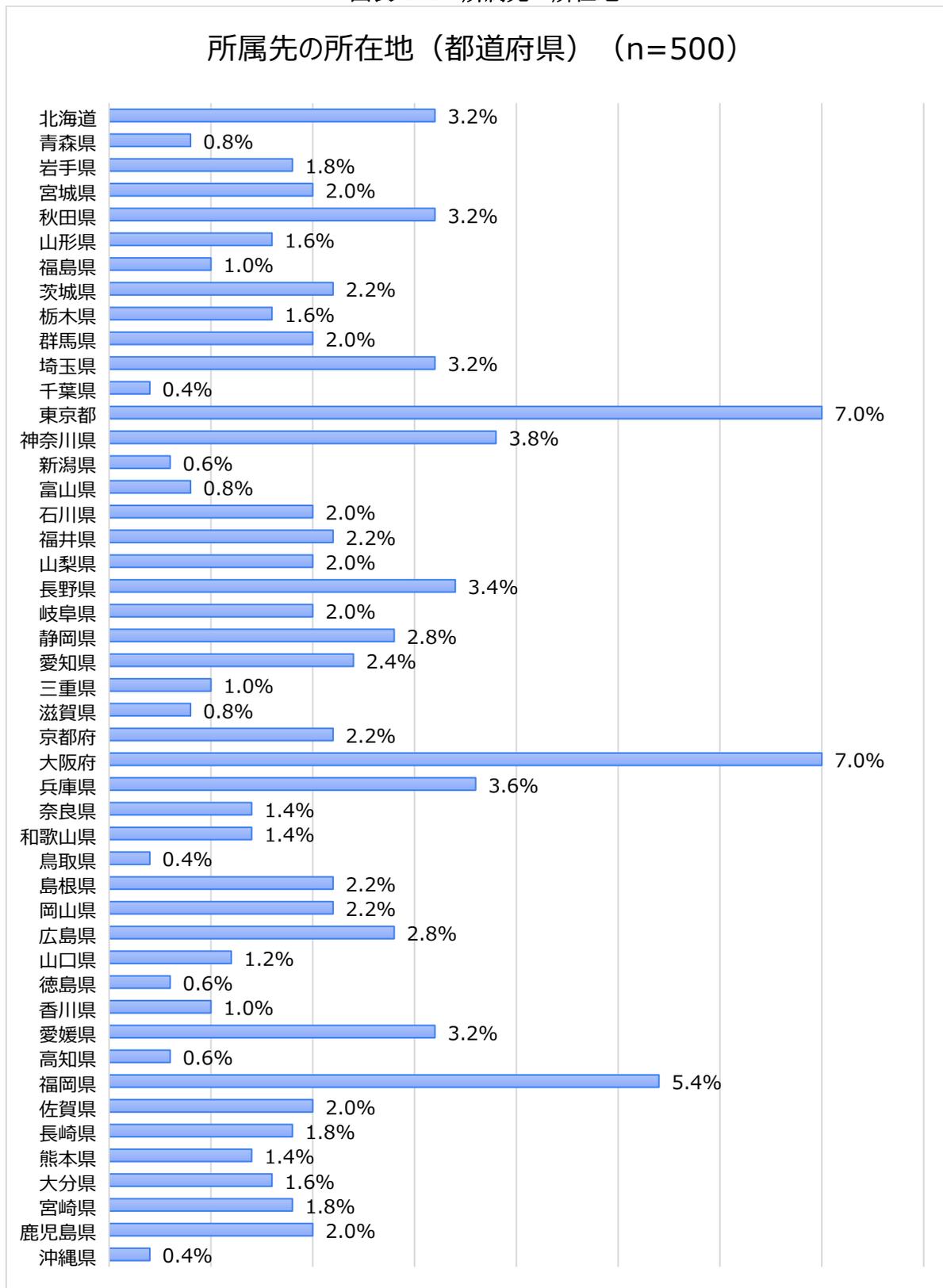
図表 101 その他の内容（主な回答）

その他の内容（自由記述）
介護生産性向上・改善に関する提案を行っているコンサルタント会社
システム販売・機器代理店
福祉機器メーカー
病院
一般社団法人全国介護福祉普及振興機構
介護DX推進事業者
介護労働安定センター
障がい福祉サービス
障害福祉事業所
ディーラー
介護ソフトメーカー
介護現場革新会議の委員
研究者

3) 所属先の所在地（都道府県）（1つ選択）

所属先の所在地（都道府県）をみると、「東京都」「大阪府」が7.0%と最も高く、次いで「福岡県」が5.4%、「神奈川県」が3.8%となっている。

図表 102 所属先の所在地

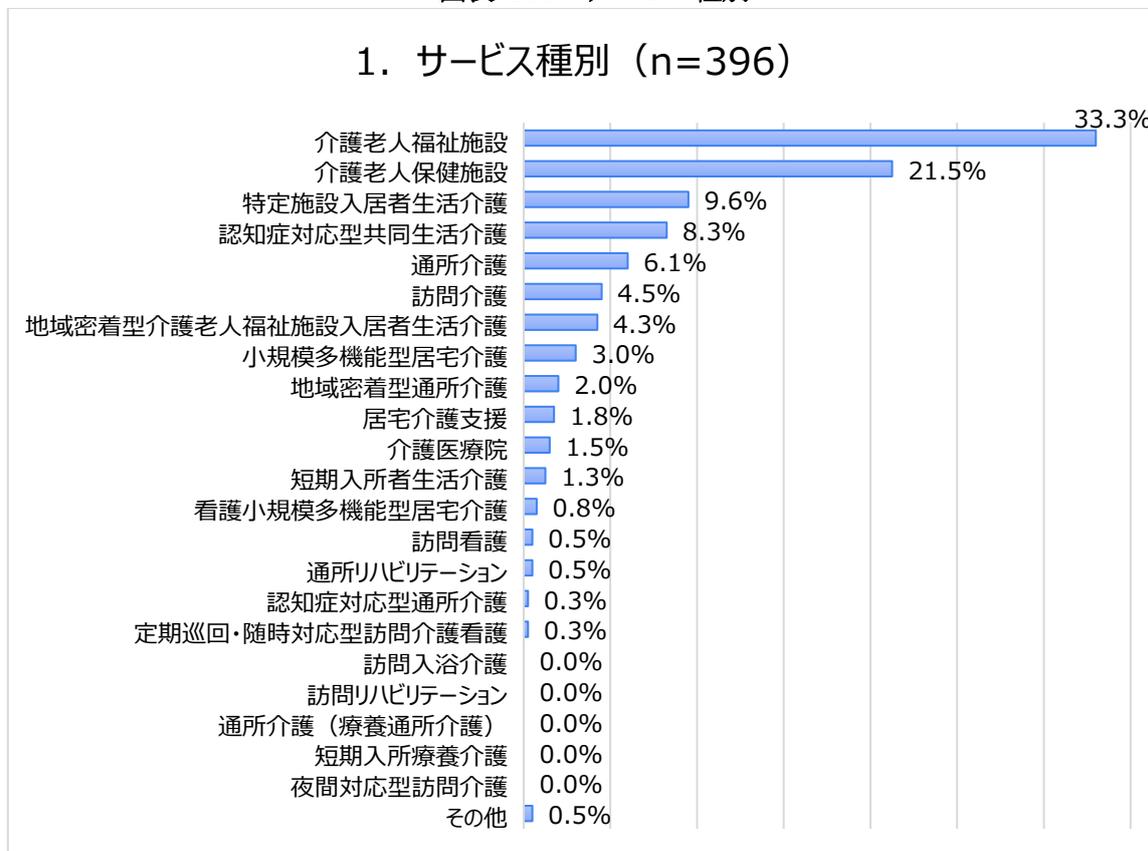


<「所属先の種別」で「介護事業所」と回答した方のみ>

4) サービス種別 (1つ選択)

サービス種別をみると、「介護老人福祉施設」が30.6%と最も高く、次いで「介護老人保健施設」が19.9%、「特定施設入居者生活介護」が9.6%となっている。

図表 103 サービス種別



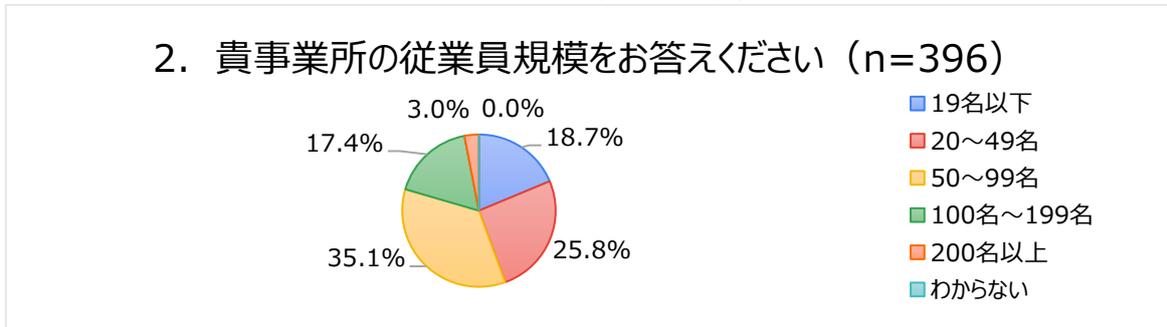
図表 104 その他の内容 (主な回答)

その他の内容 (自由記述)
サービス付き高齢者向け住宅

5) 事業所の従業員規模（1つ選択）

事業所の従業員規模をみると、「50～99名」が35.1%と最も高く、次いで「20～49名」が25.8%、「19名以下」が18.7%となっている。

図表 105 事業所の従業員規模

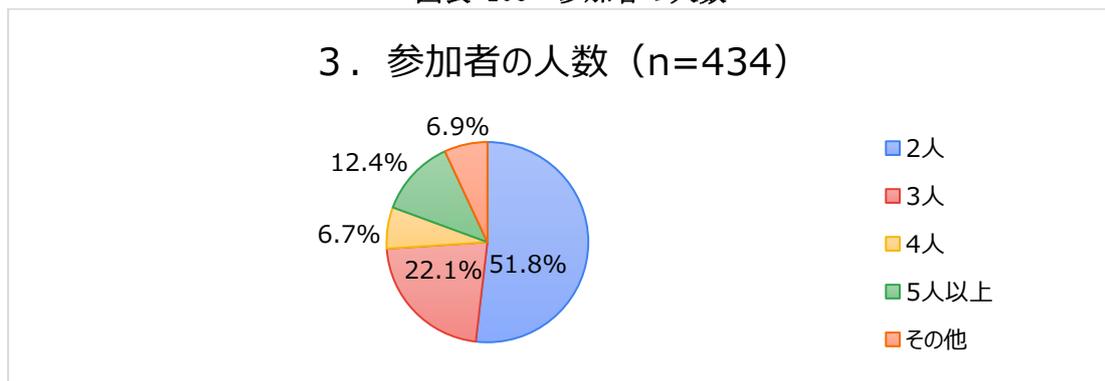


<「所属先の種別」で「介護事業所」「介護サービスを提供している法人本部」「病院診療所等」「障害福祉サービス事業所」と回答した方のみ>

6) 参加者の人数（1つ選択）

参加者の人数をみると、「2人」が51.8%と最も高く、次いで「3人」が22.1%、「5人以上」が12.4%となっている。

図表 106 参加者の人数



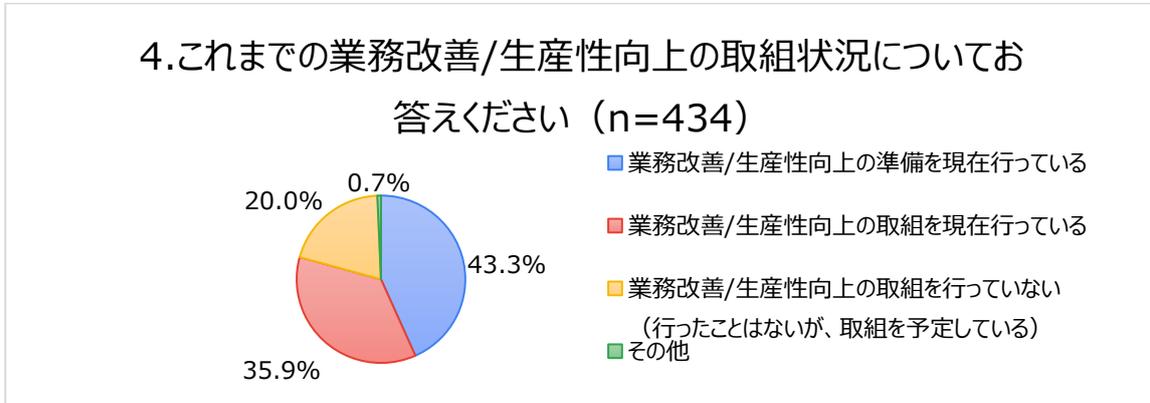
図表 107 その他の内容（主な回答）

その他の内容（自由記述）
1人
2人以上予定
3～6人
従事者1名で参加（経営層はBで傍聴）
日程によって人数が変わる可能性あり

7) これまでの業務改善/生産性向上の取組状況（1つ選択）

これまでの業務改善/生産性向上の取組状況をみると、「業務改善/生産性向上の準備を現在行っている」が43.3%と最も高く、次いで「業務改善/生産性向上の取組を現在行っている」が35.9%、「業務改善/生産性向上の取組を行っていない（行ったことはないが、取組を予定している）」が20.0%となっている。

図表 108 これまでの業務改善/生産性向上の取組状況



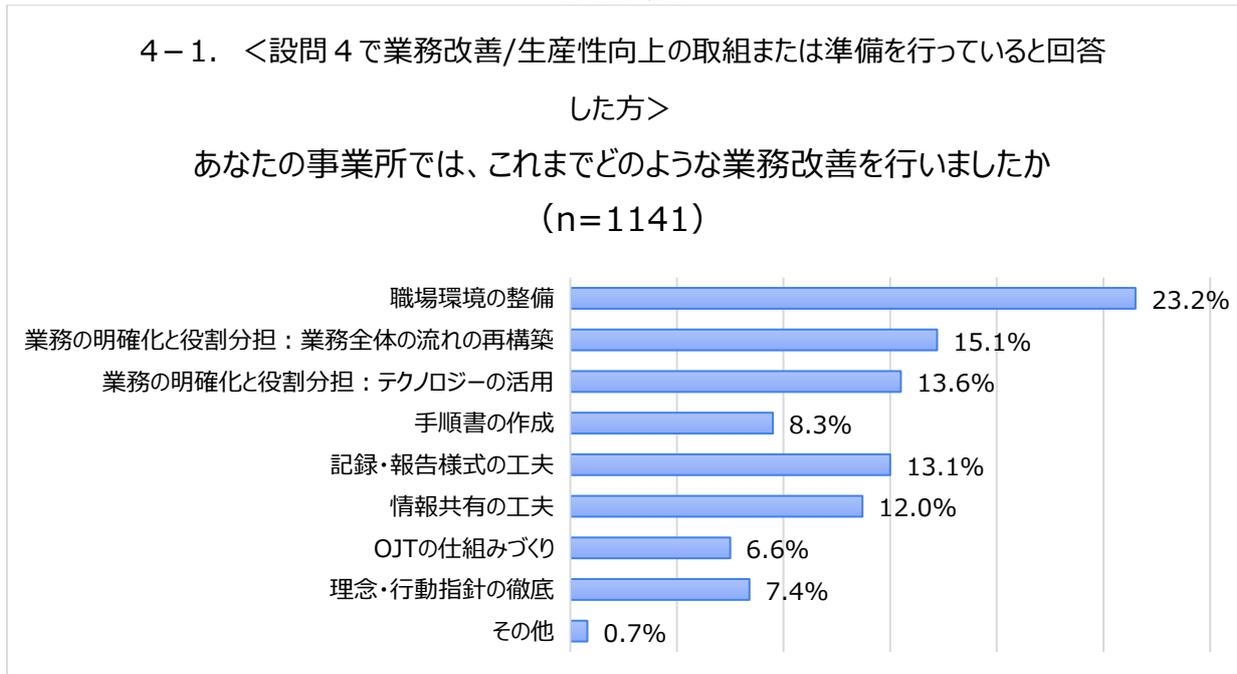
図表 109 その他の内容（主な回答）

その他の内容（自由記述）
過去に単発でケアサポの導入、タブレットの導入は行ったが、継続出来ていない
業務改善は行っているが、生産性向上としての考えでは取り組んでいなかった

8) 4 の設問で「業務改善/生産性向上の取組または準備を行っている」と回答した方が、どのような「業務改善」を行ったか（複数選択可）

4 の設問で「業務改善/生産性向上の取組または準備を行っている」と回答した方が、どのような「業務改善」を行ったかをみると、「職場環境の整備」が 23.2%と最も高く、次いで「業務の明確化と役割分担：業務全体の流れの再構築」が 15.1%、「業務の明確化と役割分担：テクノロジーの活用」が 13.6%となっている。

図表 110 4で「業務改善/生産性向上の取組または準備を行っている」と回答した方が行った「業務改善」



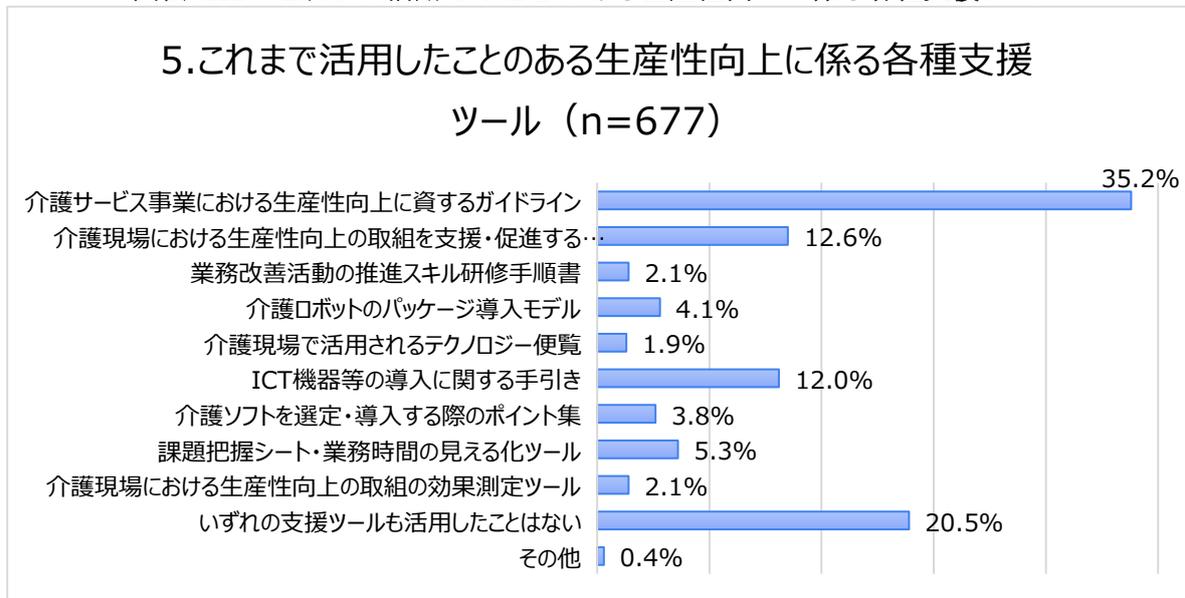
図表 111 その他の内容（主な回答）

その他の内容（自由記述）
委員会立上げまで7/24 開催のビギナーセミナー受講まで
介護記録にITの活用
見守りシステムの導入
見守りセンサーの導入等

9) これまで活用したことがある生産性向上に係る各種支援ツール（複数選択可）

これまで活用したことがある生産性向上に係る各種支援ツールをみると、「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン」が 35.2%と最も高く、次いで「いずれの支援ツールも活用したことはない」が 20.5%、「介護現場における生産性向上の取組を支援・促進する手引き」が 12.6%となっている。

図表 112 これまで活用したことがある生産性向上に係る各種支援ツール



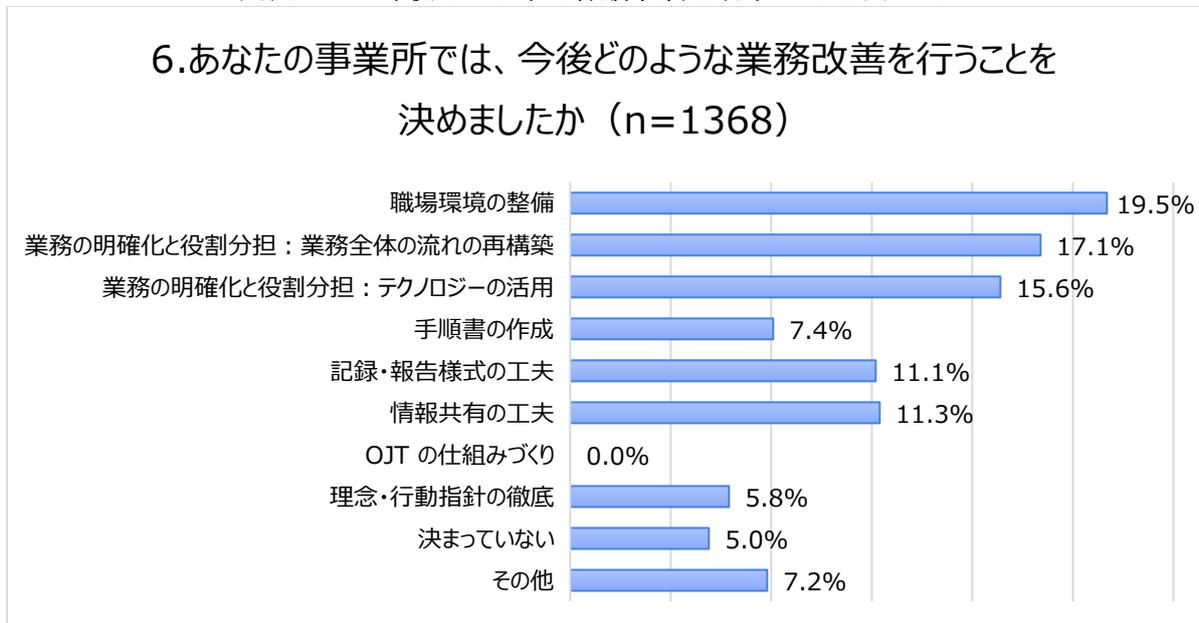
図表 113 その他の内容（主な回答）

その他の内容（自由記述）
わからない
第1回大分県介護生産性向上セミナー
令和5年の生産性向上セミナー資料

10) 今後どのような業務改善を行うことを決めたか（複数選択可）

今後どのような業務改善を行うことを決めたかをみると、「職場環境の整備」が19.5%と最も高く、次いで「業務の明確化と役割分担：業務全体の流れの再構築」が17.1%、「業務の明確化と役割分担：テクノロジーの活用」が15.6%となっている。

図表 114 今後どのような業務改善を行うことを決めたか



図表 115 その他の内容（主な回答）

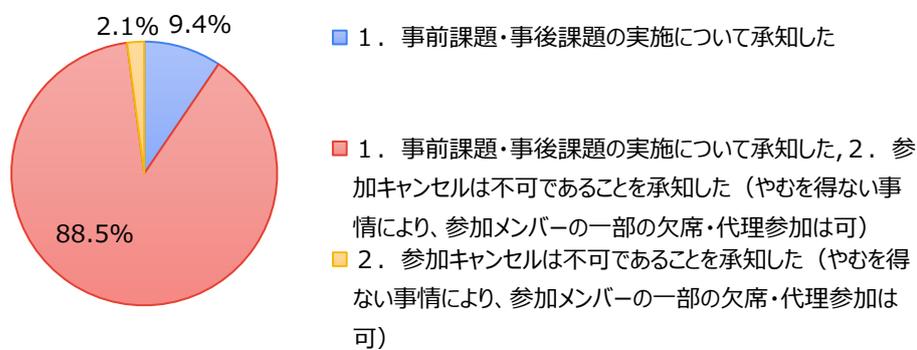
その他の内容（自由記述）
何を最優先に取り組むべきか、今から考えると
タスクシフト
全職種の残業時間を削減したい

1 1) 事前課題・事後課題の実施、直前キャンセル不可の確認（了承なら選択肢「1」「2」へチェックを入れる）

事前課題・事後課題の実施、直前キャンセル不可の確認をみると、「1. 事前課題・事後課題の実施について承知した」「2. 参加キャンセルは不可であることを承知した（やむを得ない事情により、参加メンバーの一部の欠席・代理参加は可）」とも承知が 88.5%と最も高く、次いで「1. 事前課題・事後課題の実施について承知した」のみ承諾が 9.4%、「2. 参加キャンセルは不可であることを承知した（やむを得ない事情により、参加メンバーの一部の欠席・代理参加は可）」のみ承諾が 2.1%となっている。

図表 116 事前課題・事後課題の実施、直前キャンセル不可の確認

7.本フォローアップセミナーは、セミナーの効果を高めるため、参加者の皆様へ事前課題ならびに事後課題を予定しております。また、定員数が限られていることから、直前のキャンセル等は基本的に不可となります。ご了承いただきましたら選択肢「1」「2」へチェックを入れてください。

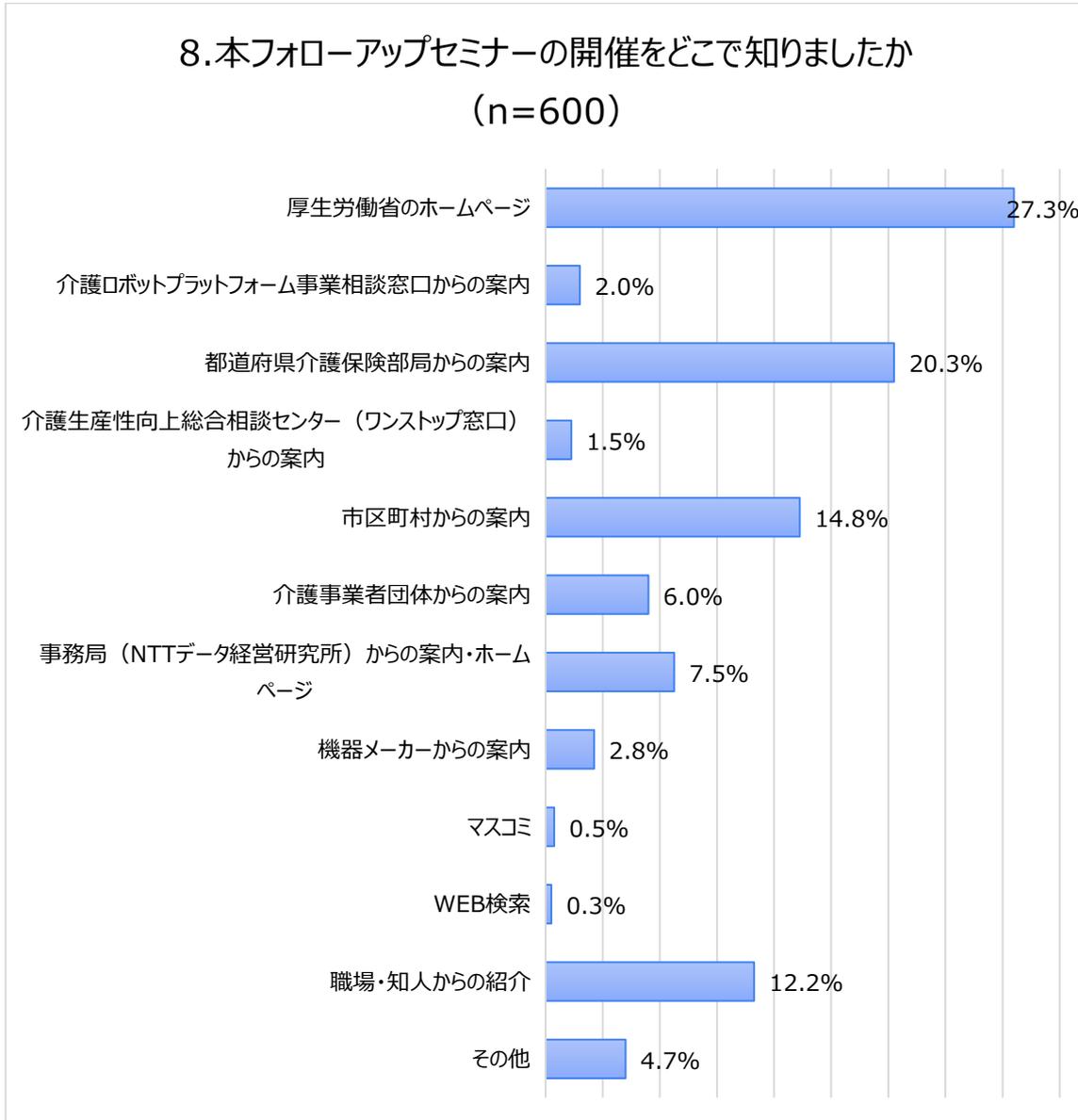


<全ての回答>

12)本フォローアップセミナーの開催をどこで知ったか（複数選択可）

本フォローアップセミナーの開催をどこで知ったかをみると、「厚生労働省のホームページ」が27.3%と最も高く、次いで「都道府県介護保険部局からの案内」が20.3%、「市区町村からの案内」が14.8%となっている。

図表 117 本フォローアップセミナーの開催をどこで知ったか



図表 118 その他の内容（主な回答）

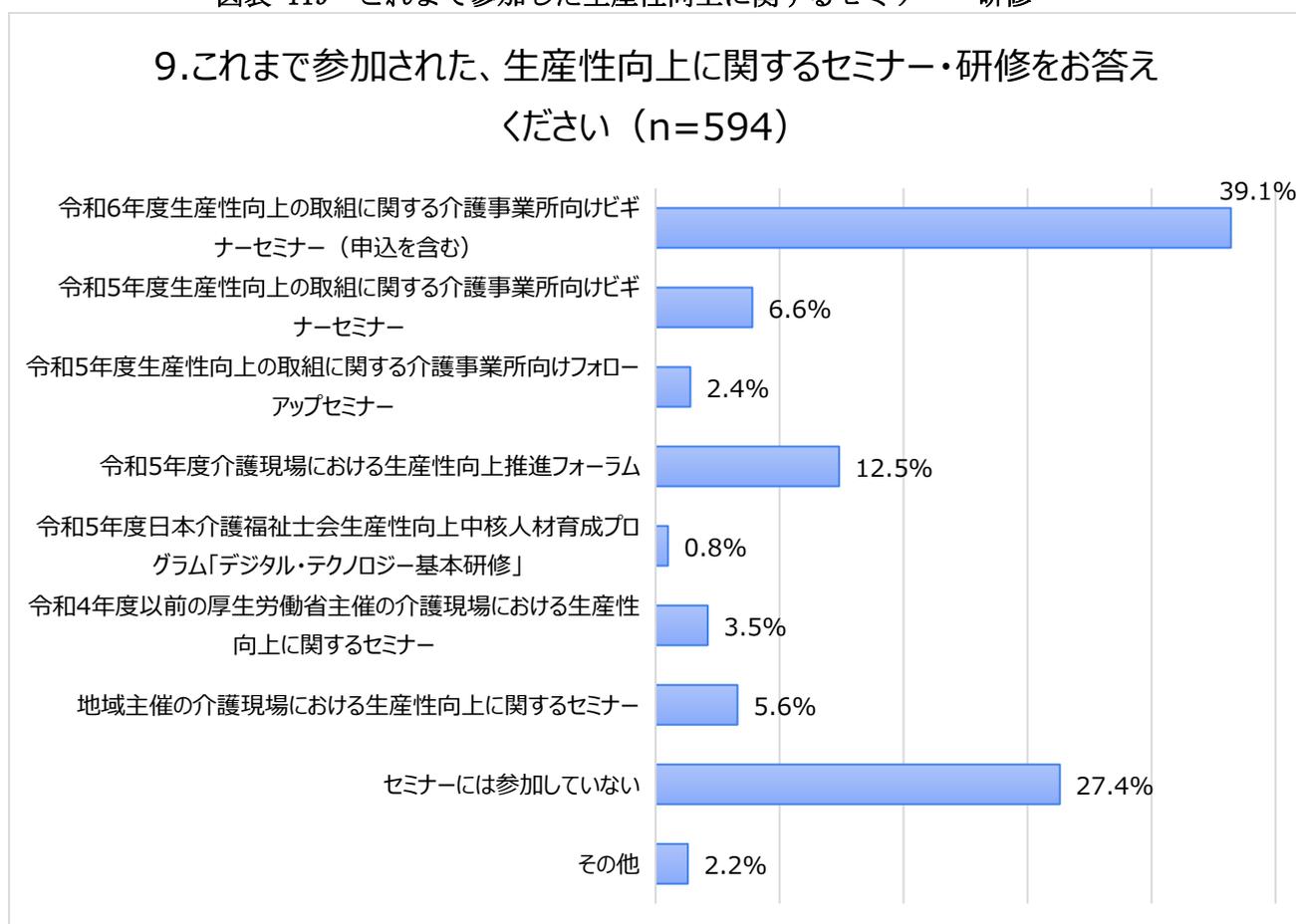
その他の内容（自由記述）
WAMからの案内
ソフト会社
何かは忘れましたが介護ICTに関するメディア
過年度の厚生労働省主催の生産性向上セミナー・生産性向上推進フォーラム
介護ビジョン
介護新聞

介護保険最新情報
介護報酬請求システム会社の案内
厚生労働省からのメール
高齢者新聞
職場上司
法人からの勧め

1 3) これまで参加した生産性向上に関するセミナー・研修（複数選択可）

これまで参加した生産性向上に関するセミナー・研修をみると、「令和6年度生産性向上の取組に関する介護事業所向けビギナーセミナー（申込を含む）」が39.1%と最も高く、次いで「セミナーには参加していない」が27.4%、「令和5年度介護現場における生産性向上推進フォーラム」が12.5%となっている。

図表 119 これまで参加した生産性向上に関するセミナー・研修



図表 120 その他の内容（主な回答）

その他の内容（自由記述）
6年度ビギナーセミナーを8/1受講予定
ICT・介護ロボット導入支援研修
エイジレスセンター大阪で開催されたセミナー
介護ロボット活用などによる業務改善セミナー
介護業界における生産性向上の取組株式会社 TRAPE
企業の研修
今年度ビギナーセミナー7月参加申込済み
県企業内デジタル人材育成事業
令和5年開催の「第5回生産性向上ビギナーセミナー」動画を視聴した

14) 今回のフォローアップセミナー参加のきっかけ・目的（自由記述）

図表 121 今回のフォローアップセミナー参加のきっかけ・目的（主な回答）

今回のフォローアップセミナー参加のきっかけ・目的（自由記述）
2025年1月頃のICT化導入を決定したため。施設全体の体制整備に向けて取り組んでいるためICT機器導入を検討しているので、しっかりした事前学習が必要だった為うまく回せて行けていないから
ガイドラインを元に取り組みを始めたが、進め方に不安がある。効果のある取り組みを進めたい。
さらなる職員の意識向上や生産性向上を実施継続していくため
どのように生産性向上委員会に取り組みばよいか把握したいため
ビギナーセミナーで学んだ内容をより実践したい
ビギナーセミナー受講を予定しているので、さらにスキルアップを図りたい。
より業務改善を行い、週休3日制を構築したいため
ワークエンゲージメントを高めたい
県の介護テクノロジー定着支援事業費補助交付の申請のため
委員会の設置に伴い、有意義な委員会を運営するため
加算取得と体制整備
過去に見様見真似で取り組んでは見たが職員への周知と目的や目標の共有がうまくできないことや一時的に業務が煩雑になることもため、途中で挫折した。再チャレンジ。
介護保険法改正に伴い行う必要がある為。また、以前から実施してきたことをより理解し実施していく為。
会社からの指示
会社の事業拡大に伴い整備が必要なため
具体的な取り組み事例とその効果について知りたい。
現場の業務負担を改善したい。
厚労省のガイドブックを見ながら生産性向上に取り組んでいるが、客観的なアドバイスを頂きたい。
今後の計画について知りたい。
昨年度より生産性向上に取り組みましたが、ツール等の活用が十分にできていません。手探りで進めており施設独自の取り組み方になっているため、見直したいと思します。
情報収集のため
人員不足を嘆くだけではダメであり、何かをしなければ…と考えたため。
生産性向上がいまいちわかってないため、理解を深めたいのと、どうしたら良いか分からず参加を希望しました。
働き続けられる職場作りを目的として施設全体で取り組む

15)本フォローアップセミナーに関するご意見等（自由記述）

図表 122 本フォローアップセミナーに関するご意見等（主な回答）

本フォローアップセミナーに関するご意見等（自由記述）
アンケート長すぎる。
サービス形態によっての差異があり、難しいとは思いますが、改善方法の導入と定着化までの進め方。参考例があるとより具現化できそうです。
とても良い時期に研修が開催されて、大変良かったです。
ビギナーセミナーでは時間的なタイトさを感じた。フォローアップセミナーは3回シリーズなので時間配分の問題がないと思うが、有意義な受講がしたい。
機器の導入となると当事業所では事務負担が大きく現実的ではないため、機器を増やさない形で生産性向上の取組や同じ規模の事業所が取り入れている活動や取り組みの紹介を多めに取り入れていただきたい。
具体的な取り組み事例の難易度と導入時の課題あれば伺いたい。
具体的且つ詳細な方策を知りたい。
今後、事業所内部のみで運営を行う事となりますが、課題への取り組み方や、考え方の方向性など偏りを出さないよう取り組んでいくための、指標になればと考えております。
事業成果の見える化を示す方法を教えてほしい。
事務職の人であれば提出物の省略やオンライン申請の導入など、取り組みやすく効果も見込めるのですが、介護職にとっての生産性向上が難しいと感じています。ロボットの導入等は敷居が高く小さな事業所には向きません。財政的な負担が小さく効果があるような方策がないか期待しています。
質疑等の機会を設けて頂ければありがたい。
実践していく上で大切なこと。気を付けなければならないこと。を知りたい。
取り組むための方法・考え方を勉強したいビギナーセミナー未受講のため、ビギナーセミナー動画の送付を希望します。
少しでも事業所に役立つ情報を得たいと思います。
生産性向上といえば聞こえがいいが、この取り組みの本質は何なのかを知りたい。
生産性向上推進体制加算算定にあたり、厚生労働省にデータ提出する詳細を知りたい。
入所定員28名で、職員の数も限られている中での業務改善や、効率化についての方法や、検討事項などについて考えたい。
率直な施設の方々の取組み状況等をお聞かせいただきたくよろしくお願いたします。

- (5) フォローアップセミナー受講後（1回目）アンケート結果
 有効件数：304件
 アンケート結果は以下のとおり。

<全ての回答>

1) 参加開催回（1つ選択）

参加開催回をみると、「東日本F第1回：9月4日（水）」が19.1%と最も高く、次いで「西日本B第1回：8月21日（水）」が18.8%、「西日本C第1回：8月28日（水）」が17.1%となっている。

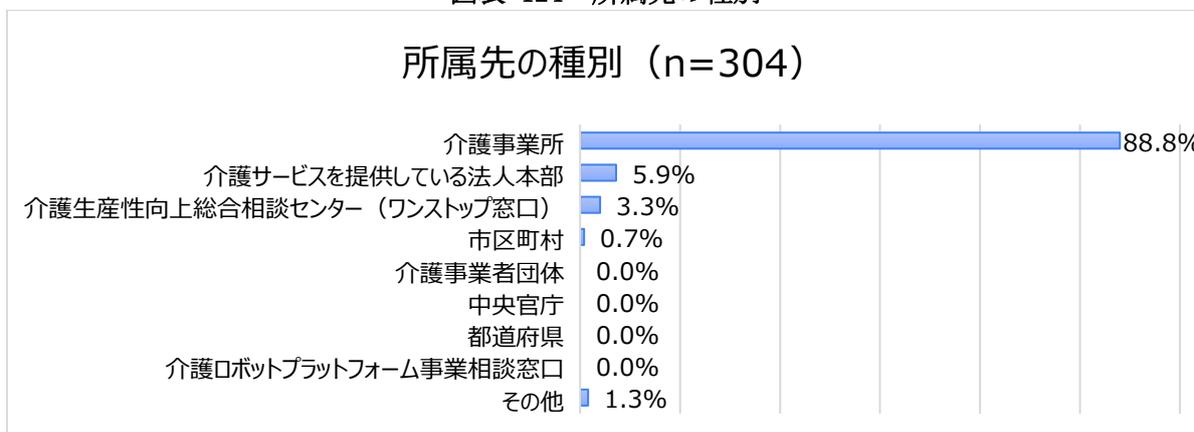
図表 123 参加開催回



2) 所属先の種別（1つ選択）

所属先の種別をみると、「介護事業所」が88.8%と最も高く、次いで「介護サービスを提供している法人本部」が5.9%、「介護生産性向上総合相談センター（ワンストップ窓口）」が3.3%となっている。

図表 124 所属先の種別



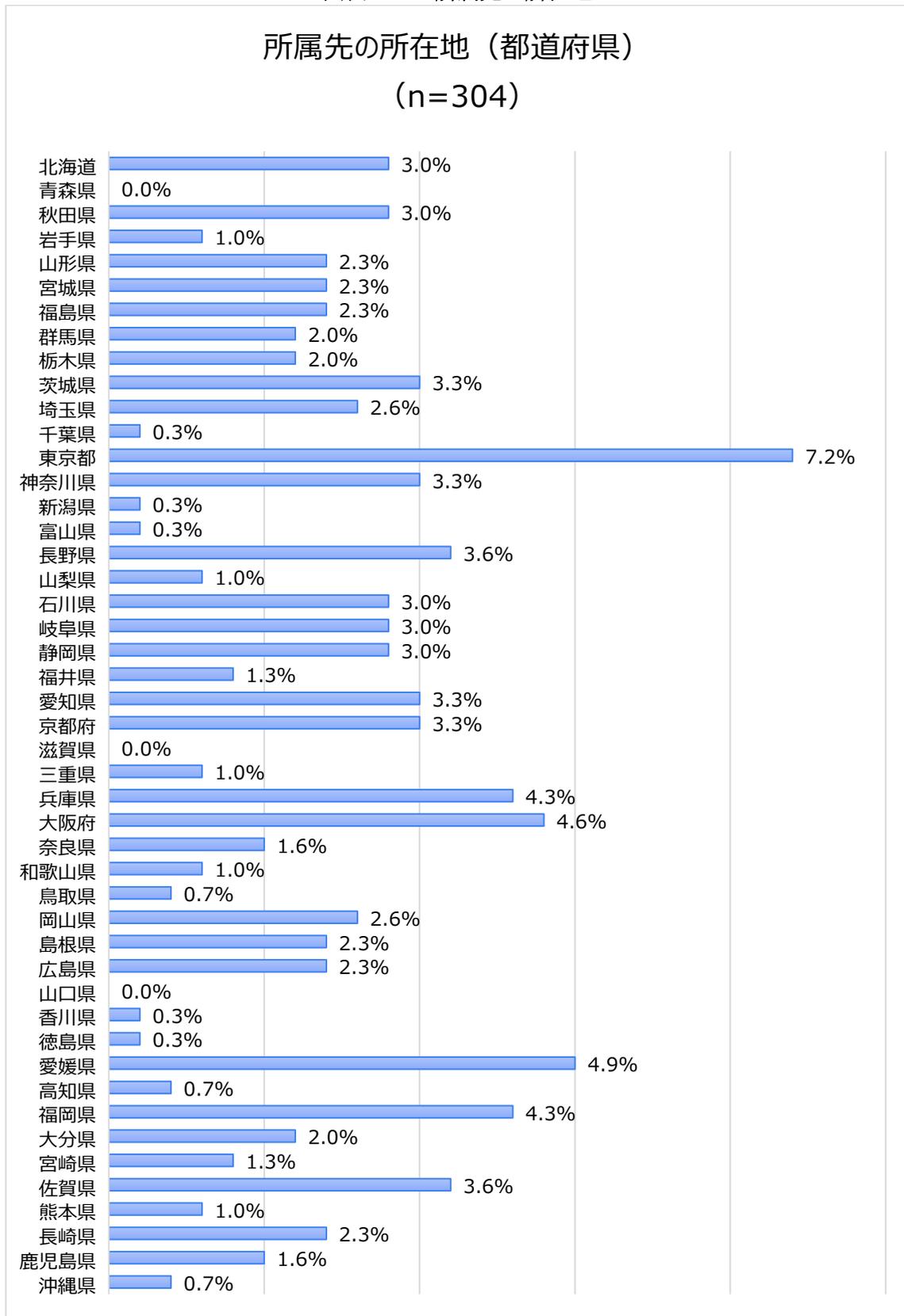
図表 125 その他の内容（主な回答）

その他の内容（自由記述）
ワンストップ窓口準備室
介護現場の生産性向上（業務改善）支援事業窓口（市委託事業）
病院

3) 所属先の所在地（都道府県）（1つ選択）

所属先の所在地（都道府県）をみると、「東京都」が7.2%と最も高く、次いで「愛媛県」が4.9%、「大阪府」が4.6%となっている。

図表 126 所属先の所在地

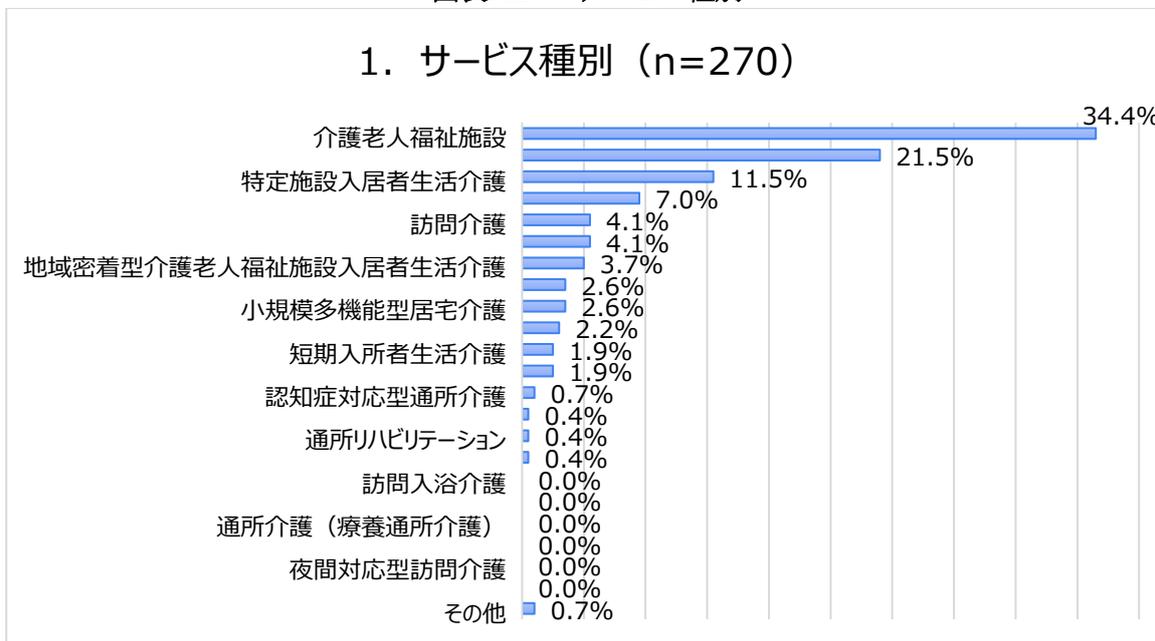


<「所属先の種別」で「介護事業所」と回答した方のみ>

4) サービス種別 (1つ選択)

サービス種別をみると、「介護老人福祉施設」が34.4%と最も高く、次いで「介護老人保健施設」が21.5%、「特定施設入居者生活介護」が11.5%となっている。

図表 127 サービス種別



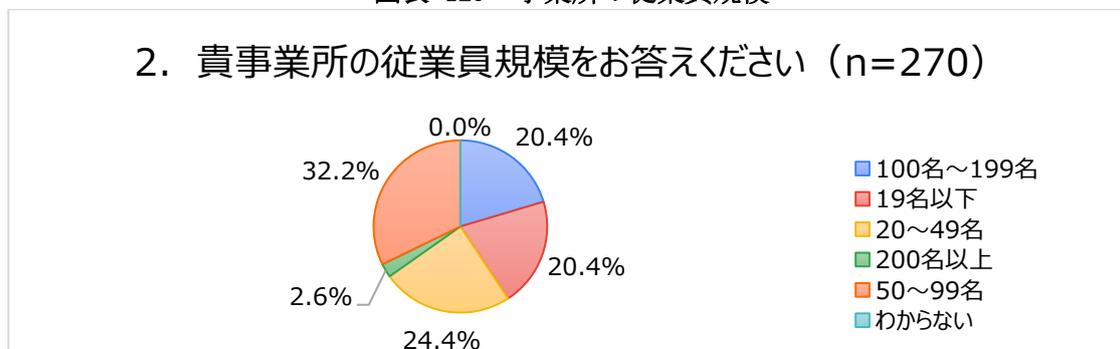
図表 128 その他の内容 (主な回答)

その他の内容 (自由記述)
有料老人ホーム (特定施設入居者生活介護の指定無)
サービス付き高齢者住宅 (特定施設入居者生活介護の指定無)
養護老人ホーム (特定施設入居者生活介護の指定無)
軽費老人ホーム (特定施設入居者生活介護の指定無)

5) 事業所の従業員規模 (1つ選択)

事業所の従業員規模をみると、「50～99名」が32.2%と最も高く、次いで「100名～199名」「20～49名」が24.4%、「19名以下」が20.4%となっている。

図表 129 事業所の従業員規模

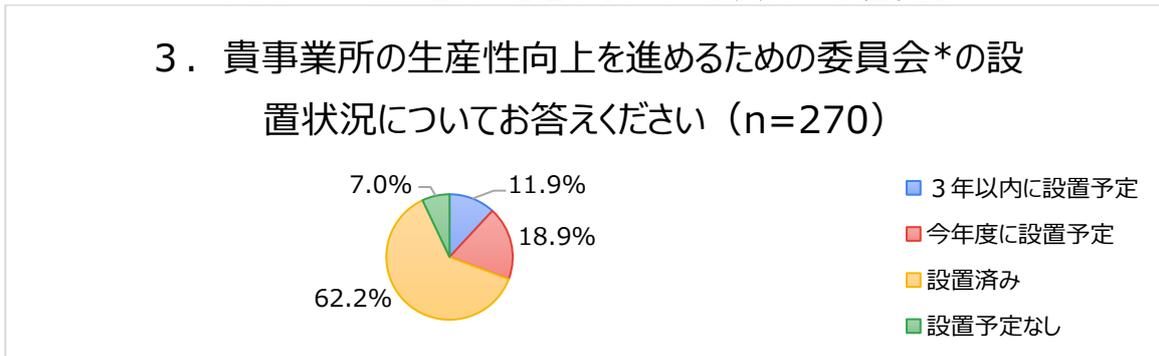


6)生産性向上を進めるための委員会*の設置状況（1つ選択）

*生産性向上を進めるための委員会：令和6年度介護報酬改定において施設・居住・入所系サービスに義務づけられた、「利用者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減に資する方策を検討するための委員会」及びこれに準じる委員会を想定したものです、義務づけられたサービス種別に関わらず全サービスにおいてお答えください。

生産性向上を進めるための委員会*の設置状況をみると、「設置済み」が62.2%と最も高く、次いで「今年度に設置予定」が18.9%、「3年以内に設置予定」が11.9%となっている。

図表 130 生産性向上を進めるための委員会*の設置状況

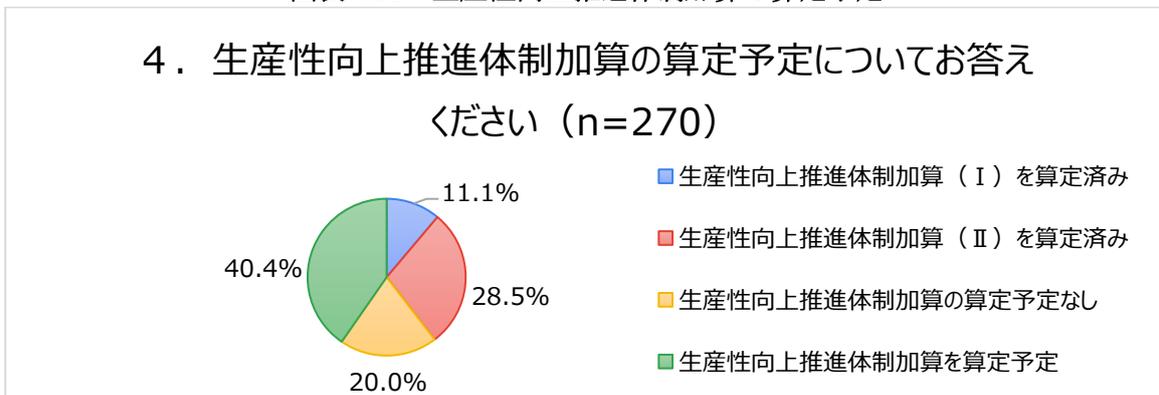


< 1. のサービス種別にて事業所（施設・居住系サービス）を選択した場合のみ >

7)生産性向上推進体制加算の算定予定（1つ選択）

生産性向上推進体制加算の算定予定をみると、「生産性向上推進体制加算を算定予定」が40.4%と最も高く、次いで「生産性向上推進体制加算（Ⅱ）を算定済み」が28.5%、「生産性向上推進体制加算の算定予定なし」が20.0%となっている。

図表 131 生産性向上推進体制加算の算定予定

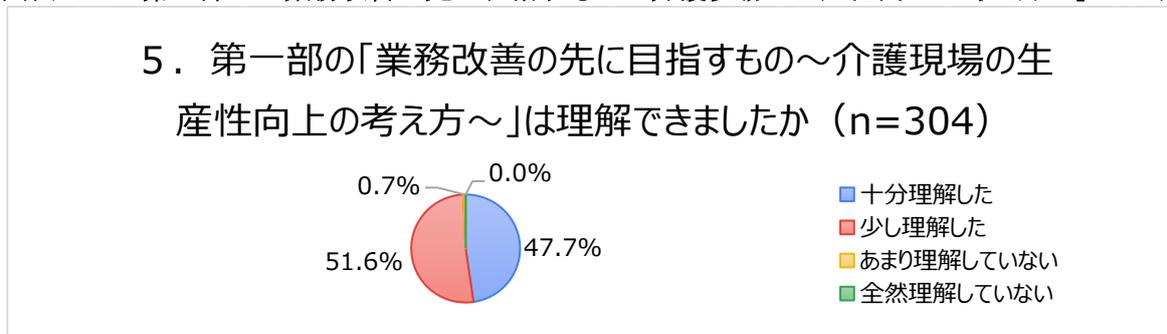


<全ての回答>

8) 第一部の「業務改善の先に目指すもの～介護現場の生産性向上の考え方～」の理解（1つ選択）

第一部の「業務改善の先に目指すもの～介護現場の生産性向上の考え方～」の理解をみると、「少し理解した」が51.6%と最も高く、次いで「十分理解した」が47.7%、「あまり理解していない」が0.7%となっている。

図表 132 第一部の「業務改善の先に目指すもの～介護現場の生産性向上の考え方～」の理解



① 5 の設問で「あまり理解していない」「全く理解していない」を回答した方の理由（自由記述）

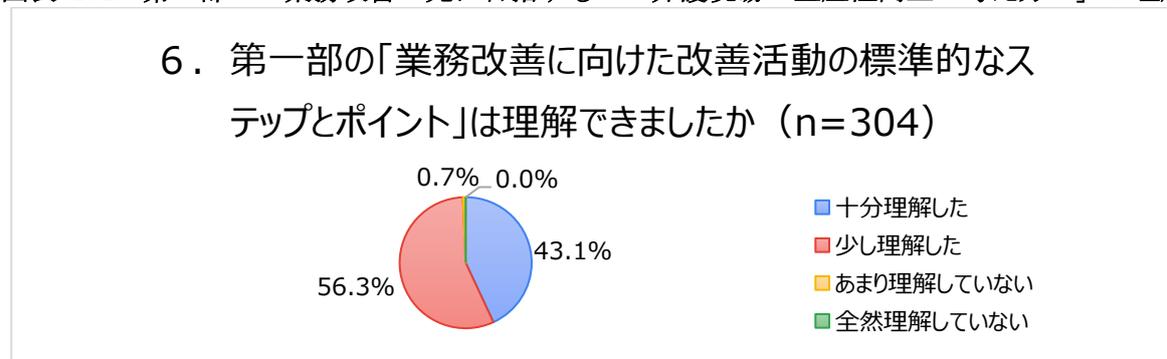
図表 133 5 で「あまり理解していない」「全く理解していない」を回答した方の理由（主な回答）

理解していない理由（自由記述）
因果関係に正解がないことが多いこと。やるべきことが明確になってもその課題に取り組む時間が確保できないため。
実際にやってみないとわからない。
頭ではイメージは出来るが、相手へ情報をフィードバックする際の説明が難しい。

9) 第一部の「業務改善に向けた改善活動の標準的なステップとポイント」の理解（1つ選択）

第一部の「業務改善に向けた改善活動の標準的なステップとポイント」の理解をみると、「少し理解した」が56.3%と最も高く、次いで「十分理解した」が43.1%、「あまり理解していない」が0.7%となっている。

図表 134 第一部の「業務改善の先に目指すもの～介護現場の生産性向上の考え方～」の理解



6 の設問で「あまり理解していない」「全く理解していない」を回答した方の理由（自由記述）

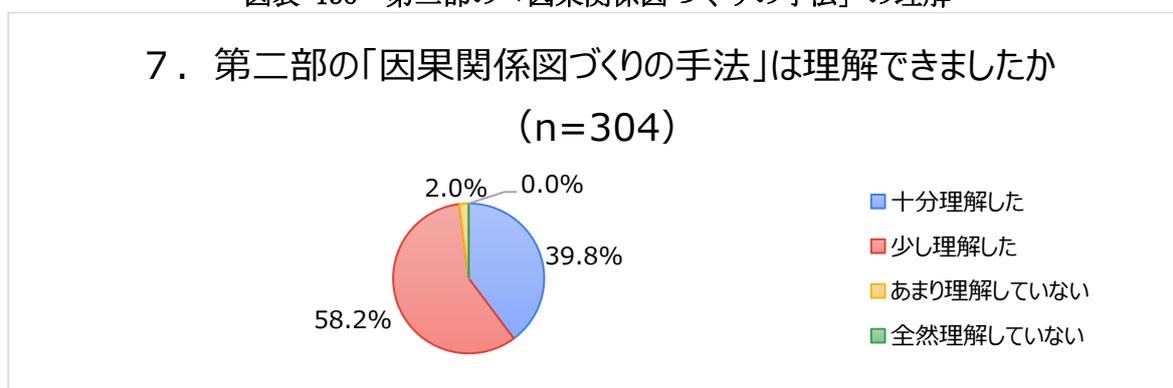
図表 135 6で「あまり理解していない」「全く理解していない」を回答した方の理由
(主な回答)

理解していない理由（自由記述）
時間配分が上手く出来ておらず、内容があまり理解できなかった。もう少し時間をかけて研修を受けたい。
正直今一つピンとこない。

10) 第二部の「因果関係図づくりの手法」の理解（1つ選択）

第二部の「因果関係図づくりの手法」の理解をみると、「少し理解した」が58.2%と最も高く、次いで「十分理解した」が39.8%、「あまり理解していない」が2.0%となっている。

図表 136 第二部の「因果関係図づくりの手法」の理解



7 の設問で「あまり理解していない」「全く理解していない」を回答した方の理由（自由記述）

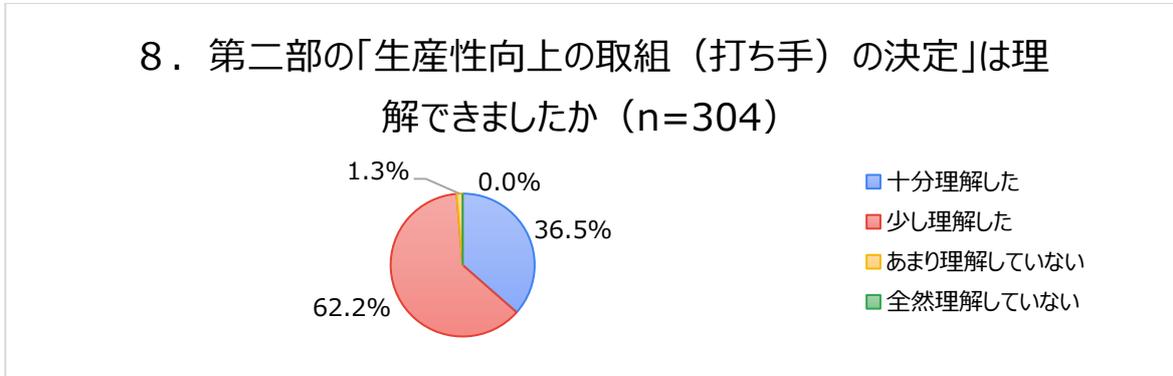
図表 137 7で「あまり理解していない」「全く理解していない」を回答した方の理由
(主な回答)

理解していない理由（自由記述）
なぜなぜ分析から理解に躓いてしまい、そこから理解が追い付かなかった。
関係図の組み立て方が理解できていない。
時間配分が上手く出来ておらず、内容があまり理解できなかった。もう少し時間をかけて研修を受けたい。
質問が本末転倒になってしまうかもしれないが、マンダラチャートやロジックツリー等と何が違うのか。

1 1) 第二部の「生産性向上の取組（打ち手）の決定」の理解（1つ選択）

第二部の「生産性向上の取組（打ち手）の決定」の理解をみると、「少し理解した」が62.2%と最も高く、次いで「十分理解した」が36.5%、「あまり理解していない」が1.3%となっている。

図表 138 第二部の「生産性向上の取組（打ち手）の決定」の理解



8 の設問で「あまり理解していない」「全く理解していない」を回答した方の理由（自由記述）

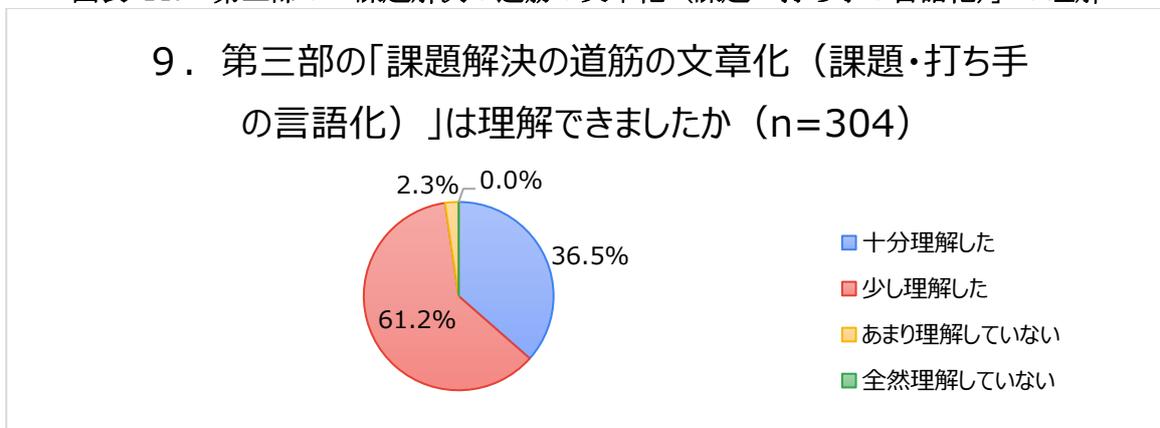
図表 139 8 で「あまり理解していない」「全く理解していない」を回答した方の理由（主な回答）

理解していない理由（自由記述）
ほかにも対応策があるのでは。
解決策の把握が不十分だから。
時間配分が上手く出来ておらず、内容があまり理解できなかった。もう少し時間をかけて研修を受けたい。
難しい。
理解しないまま話が進んだので理解が難しかった。

1 2) 第三部の「課題解決の道筋の文章化（課題・打ち手の言語化）」の理解（1つ選択）

第三部の「課題解決の道筋の文章化（課題・打ち手の言語化）」の理解をみると、「少し理解した」が61.2%と最も高く、次いで「十分理解した」が36.5%、「あまり理解していない」が2.3%となっている。

図表 140 第三部の「課題解決の道筋の文章化（課題・打ち手の言語化）」の理解



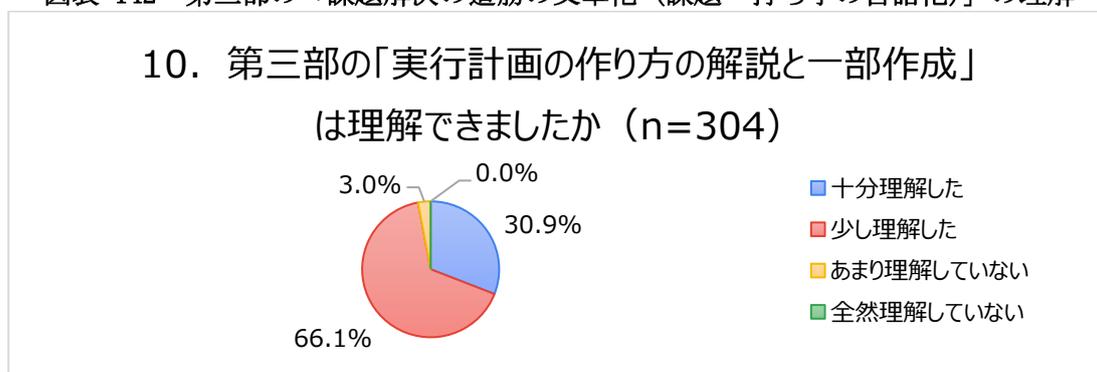
9 の設問で「あまり理解していない」「全く理解していない」を回答した方の理由（自由記述）

図表 141 9で「あまり理解していない」「全く理解していない」を回答した方の理由（主な回答）

理解していない理由（自由記述）
8-1 設問と同じ（あまり理解していない）
作成してみないとわからないような気がします。
時間配分が上手く出来ておらず、内容があまり理解できなかった。もう少し時間をかけて研修を受けたい。
打ち手は一つでは無いと数個上げたにも関わらず、ワークシート1に転記する際に、1個に絞るのなら、なぜ何個もあげたのかが分からない。

- 1 3) 第三部の「課題解決の道筋の文章化（課題・打ち手の言語化）」の理解（1つ選択）
 第三部の「課題解決の道筋の文章化（課題・打ち手の言語化）」の理解をみると、「少し理解した」が66.1%と最も高く、次いで「十分理解した」が30.9%、「あまり理解していない」が3.0%となっている。

図表 142 第三部の「課題解決の道筋の文章化（課題・打ち手の言語化）」の理解



10 の設問で「あまり理解していない」「全く理解していない」を回答した方の理由（自由記述）

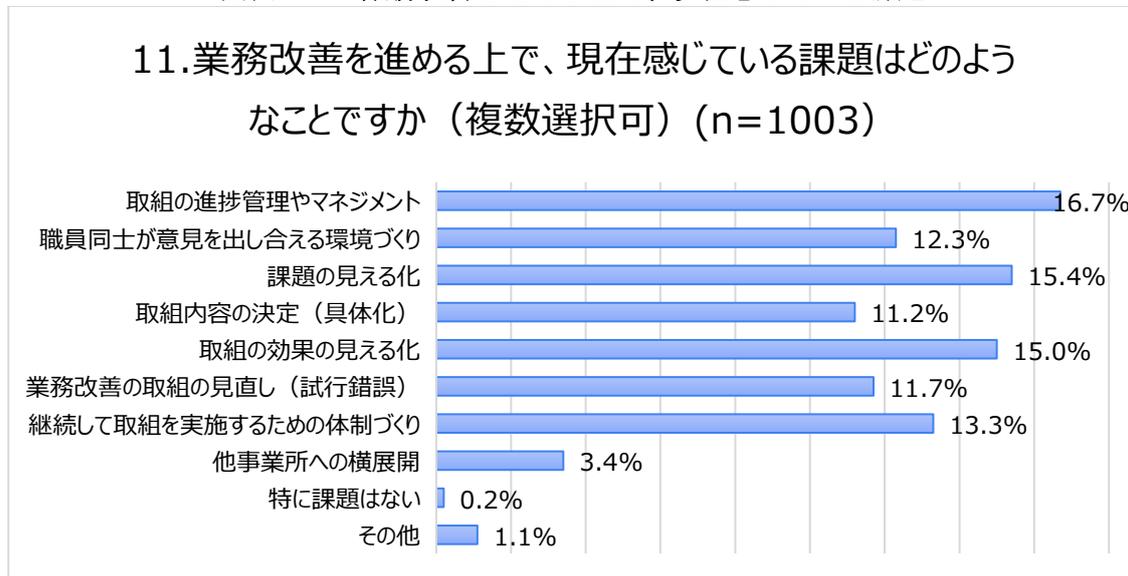
図表 143 10で「あまり理解していない」「全く理解していない」を回答した方の理由（主な回答）

理解していない理由（自由記述）
KPIについて無知であったため、説明に追いつくことができなかった。
時間がなく説明が中途半端になってしまった。もう少ししっかり聞きたかった。
時間配分が上手く出来ておらず、内容があまり理解できなかった。もう少し時間をかけて研修を受けたい。
実行計画書の作成方法がわかりません。
手法はわかるが言うは易し、の感が強い。実際に進める際にはつまづく部分が出てくると思う。

1 4) 業務改善を進める上で、現在感じている課題（複数選択可）

業務改善を進める上で、現在感じている課題をみると、「取組の進捗管理やマネジメント」が 16.7%と最も高く、次いで「課題の見える化」が 15.4%、「取組の効果の見える化」が 15.0%となっている。

図表 144 業務改善を進める上で、現在感じている課題



図表 145 その他の内容（主な回答）

その他の内容（自由記述）
経営者の協働理解ではないかと思う。
今の所はありませんが、今後やっていく中で出てくると思います。
削れるところは削った先に見えてしまう人の手でしか補う事の出来ない業務の切り貼り。

15)本フォローアップセミナーに関するご意見等（自由記述）

図表 146 本フォローアップセミナーの内容に関するご意見等（主な回答）

本セミナーの内容に関するご意見・ご要望等（自由記述）
オンラインでなく対面でできれば色々な意見や考え方が聞けて理解できたと思います。
どちらかという、訪問系よりも入所系・居住系施設に関わる内容であるような印象を受けた。
ビギナーセミナーを受けてから、生産性向上について取り組んでいるが、フォローアップセミナーを受講し以前よりも明確になった部分が広がったように思います。
ブレイクアウトセッションにて実際やってみるといのはわかりやすかった。
ワークがスムーズに進まず、講師が進めて（答えを出してしまっていた）印象であり。ディスカッションしたいと思った。
因果関係作りの際、映像の文字が読み取れず大変不便でした。講義と一緒に展開していきかけたので残念でした。
因果関係図の中の「付箋」「打ち手」のひな形があると助かります。
加算算定要件である、一年以内ごとに提出するデータの作成方法についてご教授願いたい。
掘り下げすぎて考えてしまうことで、道筋を見失わないようにしたい。
厚生労働省ガイドラインの課題分析方法より、文章構成までのフォローがあると思う。しかし、ガイドライン上のツール（シート）と分化しているが、これは何故なのだろう？と疑問です。プラットフォーム事業が推奨する方法で進むか、厚生労働省ガイドラインツールで進むかは、各事業所の決定でよろしいか？
今回の内容を伝達するのが大変難しいと感じたため、課題のためのチームメンバー全員で参加する必要があったと感じた。
視覚化することで改善のフローがわかりやすくなり意見が出やすくなると感じました。
傍聴でしたが、やはり実際聞いてみてわかりやすかったです
提出期限が早すぎます。もう少し遅くならないでしょうか？できれば一か月ほど・・・。

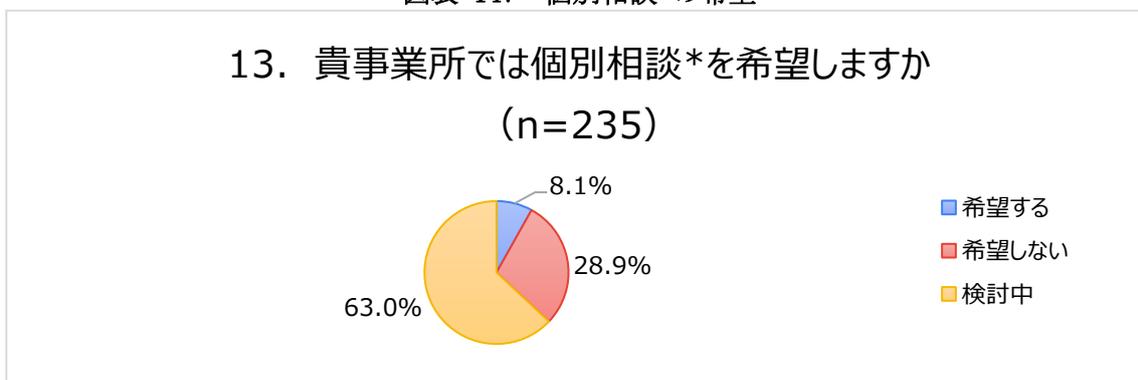
<全ての回答>

16)個別相談*の希望（1つ選択）

*個別相談：本セミナー講師によるセミナー参加者向けの個別相談

個別相談*の希望をみると、「検討中」が63.0%と最も高く、次いで「希望しない」が28.9%、「希望する」が8.1%となっている。

図表 147 個別相談*の希望



13 の設問で「希望する」を回答した方の相談概要（自由記述）

図表 148 13で「希望する」を回答した方の相談概要（主な回答）

相談概要（自由記述）
IT分野の知見がなければ効果は薄いと思っていますので、生産性向上とITかの連携についてまだ取り組みを始めようとしているところで、実際の場面での難所は不明です。ただ、短時間非常勤が多い中での業務改善をした後の理解、合意形成、組織への落とし込み、実行などに困難さを生じるのではないかと危惧しています。以前からのやり方に固執する人も多くいる印象です。そういった難所でのマネジメントなどご教授いただきたくなるような推測です。
関係図の組み立て方
計画した内容についてのアドバイス
生産性向上による取り組みの一連のマネジメント内容を確認したい。
生産性向上に関して体制等が構築されておらず、なにかから取り組んだらよいかわからないため個別相談会を希望します。
打ち手の考え方が難しい。
弊社は既に居宅サービス分の改訂版ガイドラインで活動に取組み中なのですが、中身が違うので、最初からやり直すべきか困っています。
壁にぶつかったときのアドバイスが欲しいです。

(6) フォローアップセミナー受講前（2回目前）アンケート結果

有効件数：113件

アンケート結果は以下のとおり。

<全ての回答>

1) 参加開催回（1つ選択）

参加開催回をみると、「西日本C第2回：10月16日（水）」が19.5%と最も高く、次いで「西日本A第2回：9月25日（水）」が18.6%、「東日本E第2回：10月10日（木）」が17.7%となっている。

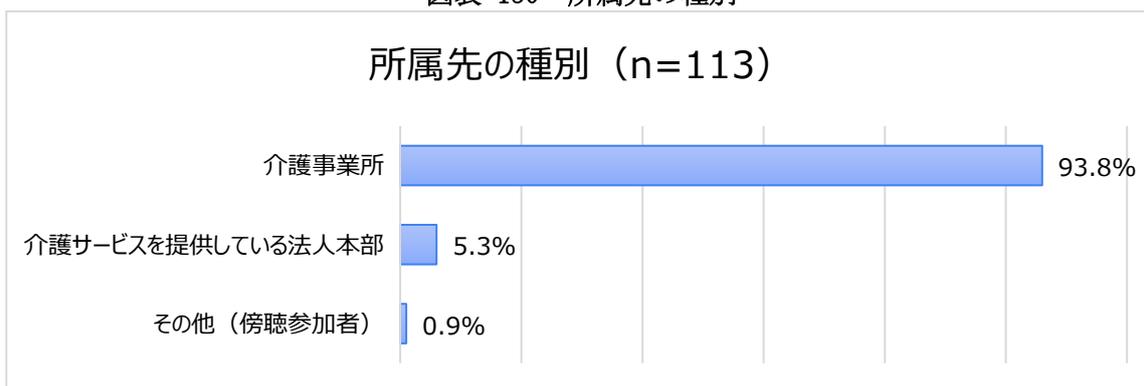
図表 149 参加開催回



2) 所属先の種別（1つ選択）

所属先の種別をみると、「介護事業所」が93.8%と最も高く、次いで「介護サービスを提供している法人本部」が5.3%となっている。

図表 150 所属先の種別



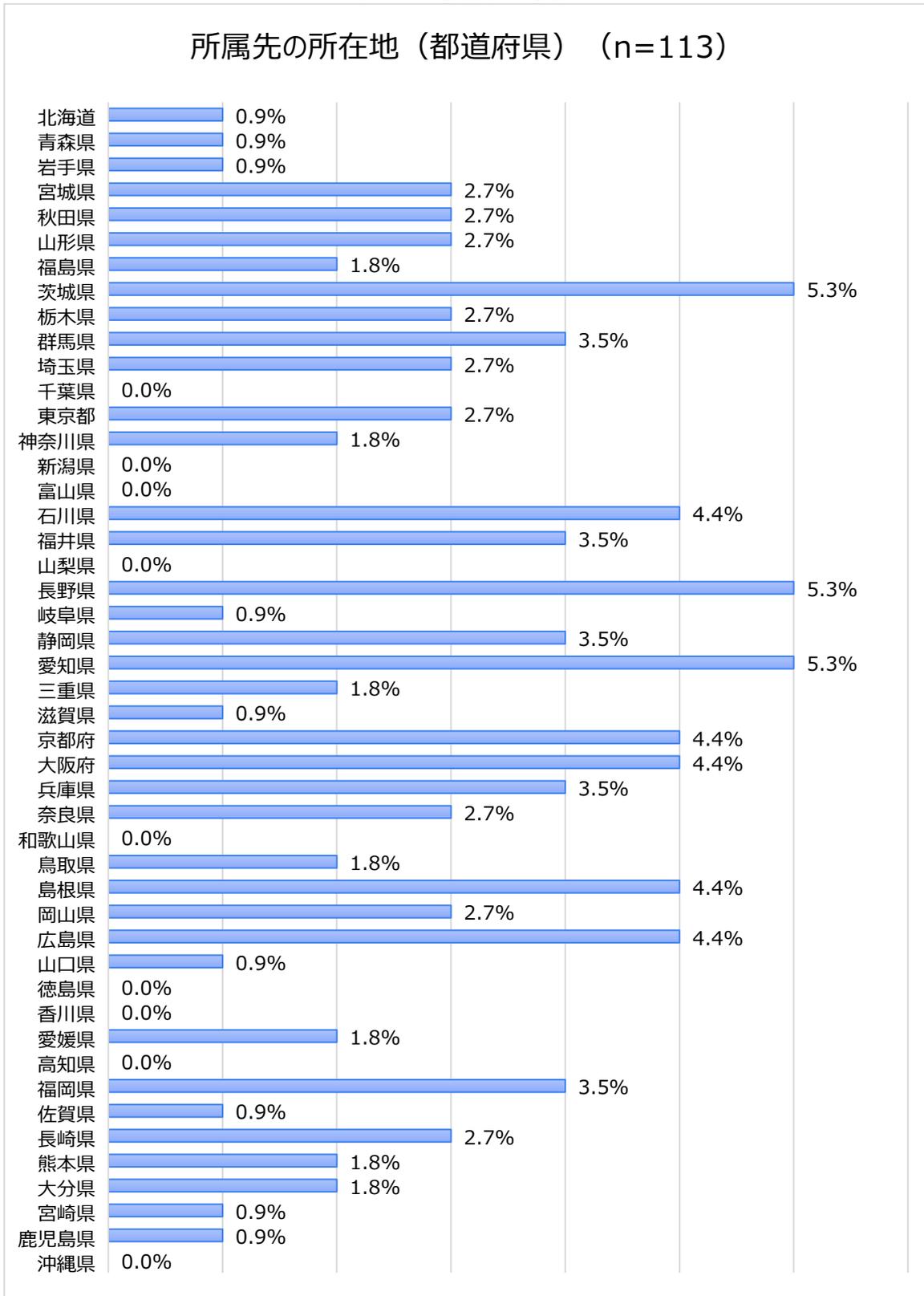
図表 151 その他の内容（主な回答）

その他（傍聴参加者）の内容（自由記述）
病院

3) 所属先の所在地（都道府県）（1つ選択）

所属先の所在地（都道府県）をみると、「東京都」が7.2%と最も高く、次いで「愛媛県」が4.9%、「大阪府」が4.6%となっている。

図表 152 所属先の所在地

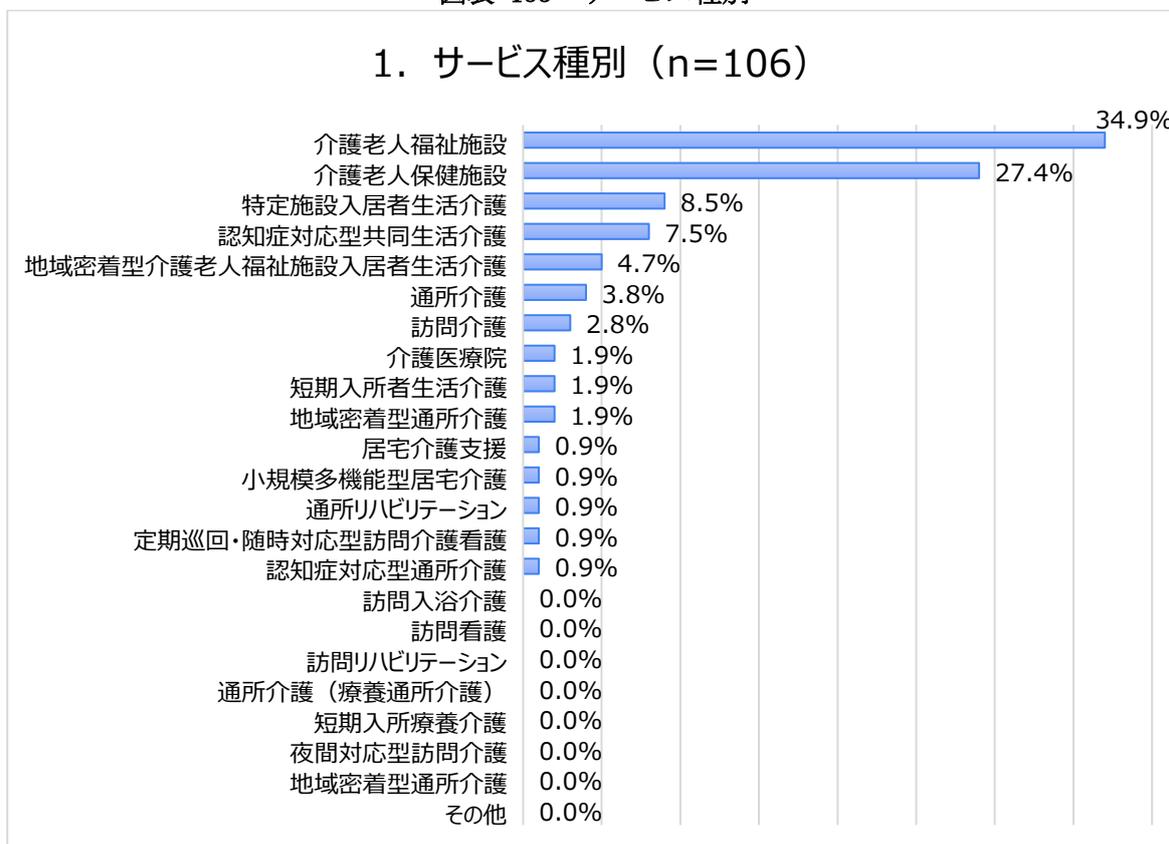


<「所属先の種別」で「介護事業所」と回答した方のみ>

4) サービス種別 (1つ選択)

サービス種別をみると、「介護老人福祉施設」が34.9%と最も高く、次いで「介護老人保健施設」が27.4%、「特定施設入居者生活介護」が8.5%となっている。

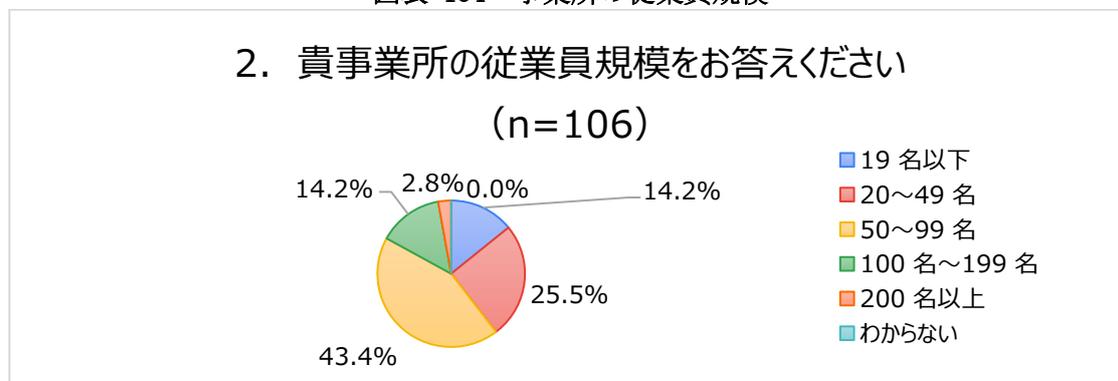
図表 153 サービス種別



5) 事業所の従業員規模 (1つ選択)

事業所の従業員規模をみると、「50~99名」が43.4%と最も高く、次いで「20~49名」が25.5%、「100名~199名」「19名以下」が14.2%となっている。

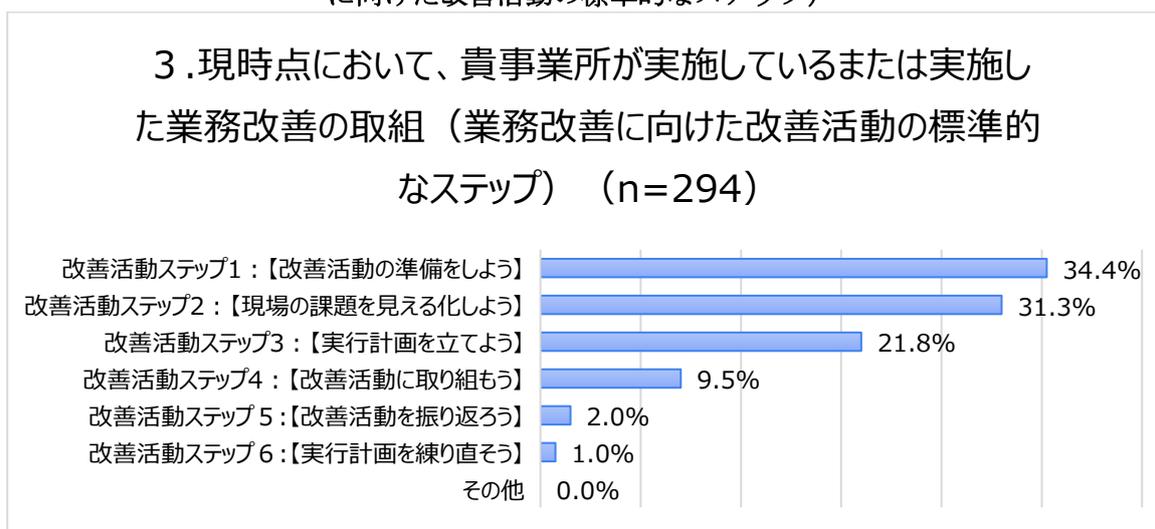
図表 154 事業所の従業員規模



<全ての回答>

- 6)現時点において、貴事業所が実施しているまたは実施した業務改善の取組（業務改善に向けた改善活動の標準的なステップ）を全て選択（複数選択可）
- 現時点において、貴事業所が実施しているまたは実施した業務改善の取組（業務改善に向けた改善活動の標準的なステップ）をみると、「改善活動ステップ1：【改善活動の準備をしよう】」が34.4%と最も高く、次いで「改善活動ステップ2：【現場の課題を見える化しよう】」が31.3%、「改善活動ステップ3：【実行計画を立てよう】」が21.8%となっている。

図表 155 現時点において貴事業所が実施しているまたは実施した業務改善の取組（業務改善に向けた改善活動の標準的なステップ）



7)3 の設問で回答した業務改善の取組状況についての詳細を具体的に回答（自由記述）

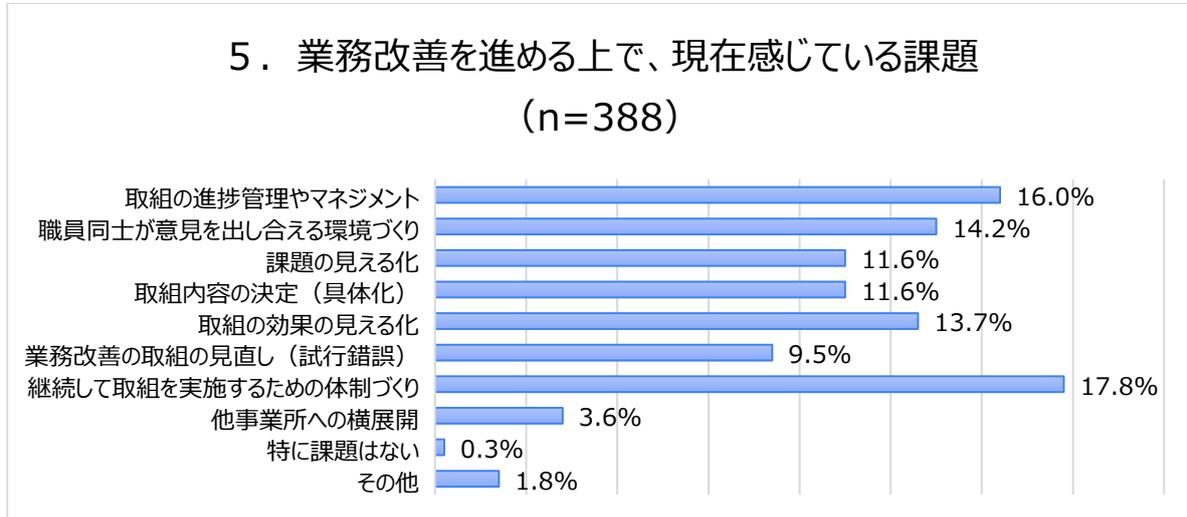
図表 156 3で回答した業務改善の取組状況についての詳細を具体的に回答（主な回答）

「3」で回答した業務改善の取組状況についての詳細を具体的に回答（自由記述）
1日の業務の流れを見直し、PJメンバーで業務のムダ・ムリ・ムラがどこなのかを分類している段階
5Sの実施、業務改善提案箱の設置と提案書の精査
PJメンバーを選出し、現場職員一丸となって業務の見直しを行う中で、間接的な業務に時間がかかっていることから、ICT機器の導入の検討をしている。
スタッフに気づきシートを記入してもらい関係図を作成。メンバーを選定中
委員会メンバーで業務分担等を検討している段階
業務にかかる時間を分析し、マニュアル作成をしようとしている段階
業務の洗い出しを継続中、リーダー会議で分類。インカムの活用、センサーのデータ読み取りについて、9月17日にメーカーとの勉強会予定。
業務の洗い出しを行い、どの分野での作業効率が悪いのかをみえる化を実施中
全職員で業務の効率化を目指した課題を出した、これから担当業務を分類するところ。有効な人材を確保するための合理的な業務になるように組み立てることを次回での目標にしている。
問題点を洗い出し、見える化、情報共有、整理整頓について始めている。利用者様に迷惑がかからないよう、日常の業務を行いながら取り組んでいるので一箇所ずつ行っている。捨てる段階でも、不要の基準を明確にしないと捨てられないことがわかった。

8)業務改善を進める上で、現在感じている課題（複数選択可）

業務改善を進める上で、現在感じている課題をみると、「継続して取組を実施するための体制づくり」が 17.8%と最も高く、次いで「取組の進捗管理やマネジメント」が 16.0%、「職員同士が意見を出し合える環境づくり」が 14.2%となっている。

図表 157 業務改善を進める上で、現在感じている課題



図表 158 その他の内容（主な回答）

その他の内容（自由記述）
職員個々の主体性の差、会議や取りまとめる時間の捻出、労力に見合ったインセンティブの不足
担当者が集まる時間が作れない。生産性向上委員会を立ち上げたが、逆に改善が進まなくなった。
生産性ガイドラインに沿って活動をしており、本セミナーが求める課題とは別の帳票を提出する格好となりましたが、今後共フォローをお願い申し上げます。
お金の工面
予算の捻出。
改善する意義をスタッフに周知させること
取組後の改善を図るタイムスタディーの算出方法

9)業務改善を行う上で工夫したこと（自由記述）

図表 159 業務改善を行う上で工夫したこと（主な回答）

業務改善を行う上で工夫したこと（自由記述）
一度に解決しようとするのではなく、小さな目標を立てて進捗状況が見える化して達成感を職員全員が共有する事が大事だと思います。
スタッフへのアプローチは、面倒な取り組みという印象を与えず、無駄な業務を省く目的であることを強調した。スタッフへのアプローチは、面倒な取り組みという印象を与えず、無駄な業務を省く目的であることを強調した。
スマホで日々の利用者の状況や、気付いた問題点を共有している。
たくさんあったマニュアルを1本化して分かりやすくしたり、手順書を作成する等を行うもなかなか更新ができなかったりという課題もある。

プロジェクトチームだけが行っていること。や、何をやっているか知らない。等とならないよう、全職員も改善活動に参加しているということの理解を促すため、プロジェクトチームの報告書を、会議録ではなくパワポ資料にして視覚的に理解を得られるよう工夫をした。
意見を言いやすい雰囲気づくり。この取り組み全体の意義をしっかりと伝える。法人としても取り組みへの期待していることを伝える。管理者の理解を得て、プロジェクトメンバーがやりやすいような雰囲気を作る。
仮説を立て一度取り組み、一定期間たった後に振り返り、次の改善を考える PDCA サイクルの考え方を取り入れたこと。
各フロアの看介護リーダー・サブリーダーをコアメンバーとし活動していること。リハや相談員、栄養士などにも協力を依頼し、課題を検討・抽出したこと。
職員とまず面談から始まり色々な意見を抽出できたことがスムーズに行えたことだったのではないかと感じています。
否定的な意見もあったので、事前に意見集約やデモンストレーションの告知を行う。各部署のリーダー格に使用法や、改善内容を通達し、全員で取り組む形をとった。

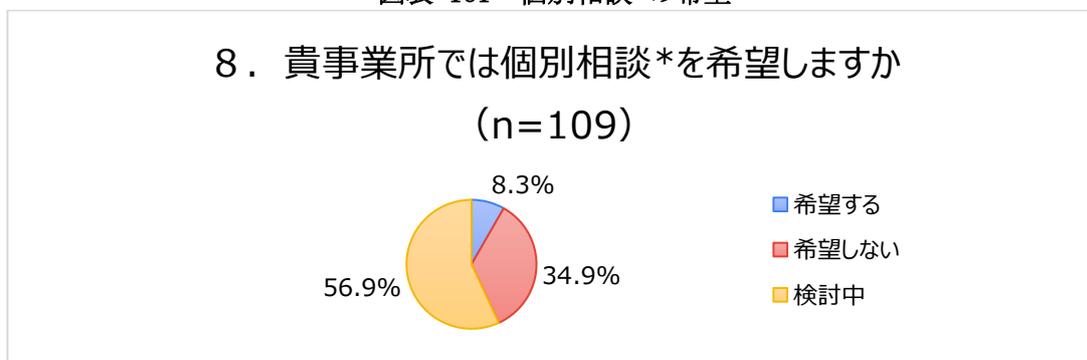
10) 現在、業務改善を行う上で得た主な気づき (自由記述)

図表 160 現在、業務改善を行う上で得た主な気づき (主な回答)

現在、業務改善を行う上で得た主な気づき (自由記述)
特定の職員が意見を述べる傾向にあるので他の職員も意見が述べられる様な工夫が必要だと感じています。
コミュニケーション不足を感じました。
これまでは問題定義し、すぐに対策を練るという形が多く、全体で取り組むというよりも支持をしていた。それゆえに、全体になかなか浸透せず、すぐに元に戻ってしまっていた。全員が気づき、取り組む体制が必要だという事に気づけた。
スタッフ一人一人がそれぞれに思いを持っている。
デスク周りの職場環境が汚れていることから、業務の開始がスムーズに開始できない、私物があふれ整理整頓ができないなどの必要なものがすぐに探せないなど効率が悪い環境であったことに気づかされました。「忙しい、時間がない」とスタッフの心の負担や入居者への悪影響があったのではないかと推測されました。
以前からマニュアル更新の必要性を感じていたが、今回の気づきシートにより、スタッフ自身も業務手順等について不具合を感じていることがわかった。
課題の原因を分析することで方法が見出せること。打ち手で問題解決ができること。
急発進、急ブレーキにならないよう、職員とのコミュニケーションを取りながら、その職員の個性、得意分野、どんなことでやる気になれるかを確認することが大切だと感じました。
具体化することでメンバーの取り組みへの意欲が向上している。
現場とのコミュニケーションの時間はビジョンを共有する為に大事だと感じました。

- 1 1) 個別相談*の希望（1つ選択） *個別相談：本セミナー講師によるセミナー参加者向けの個別相談
 個別相談*の希望をみると、「検討中」が56.9%と最も高く、次いで「希望しない」が34.9%、「希望する」が8.3%となっている。

図表 161 個別相談*の希望



8 の設問で「希望する」を回答した方の相談概要（自由記述）

図表 162 8で「希望する」を回答した方の相談概要（主な回答）

相談概要（自由記述）
生産性ガイドラインに沿って活動を進めておりますので、今後の活動方法等をレクチャーして頂きたいと思います。
経営層からは稼働率の向上を強く求められる一方で、現場では一生懸命業務を行っているがそれを理解してもらえないという空気があり、業務改善へのモチベーションが低いこと前からのやり方に固執する人も多くいる印象です。そういった難所でのマネジメントなどご教授いただきたくなるような推測です。
効果測定の指標や測定方法。
実行計画書の作り方と現在作っているものが正しく作れているかの評価。
ICT 導入の評価方法。
取り組みの方向性が、ずれていないか・・・等。
課題の抽出方法。スタッフの意見の取り入れ方・IT の具体的活用方法、IT 機器の種類。

(7) フォローアップセミナー受講後（2回目）アンケート結果

有効件数：252件

アンケート結果は以下のとおり。

<全ての回答>

1) 参加開催回（1つ選択）

参加開催回をみると、「東日本F第2回：10月23日（水）」が21.4%と最も高く、次いで「西日本A第2回：9月25日（水）」が19.0%、「西日本B第2回：10月8日（火）」が17.1%となっている。

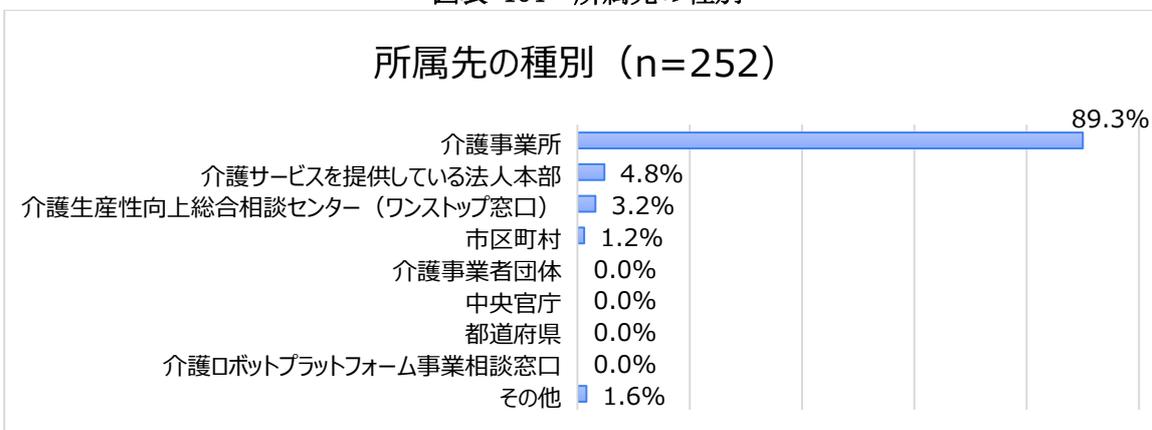
図表 163 参加開催回



2) 所属先の種別（1つ選択）

所属先の種別をみると、「介護事業所」が89.3%と最も高く、次いで「介護サービスを提供している法人本部」が4.8%、「介護生産性向上総合相談センター（ワンストップ窓口）」が3.2%となっている。

図表 164 所属先の種別



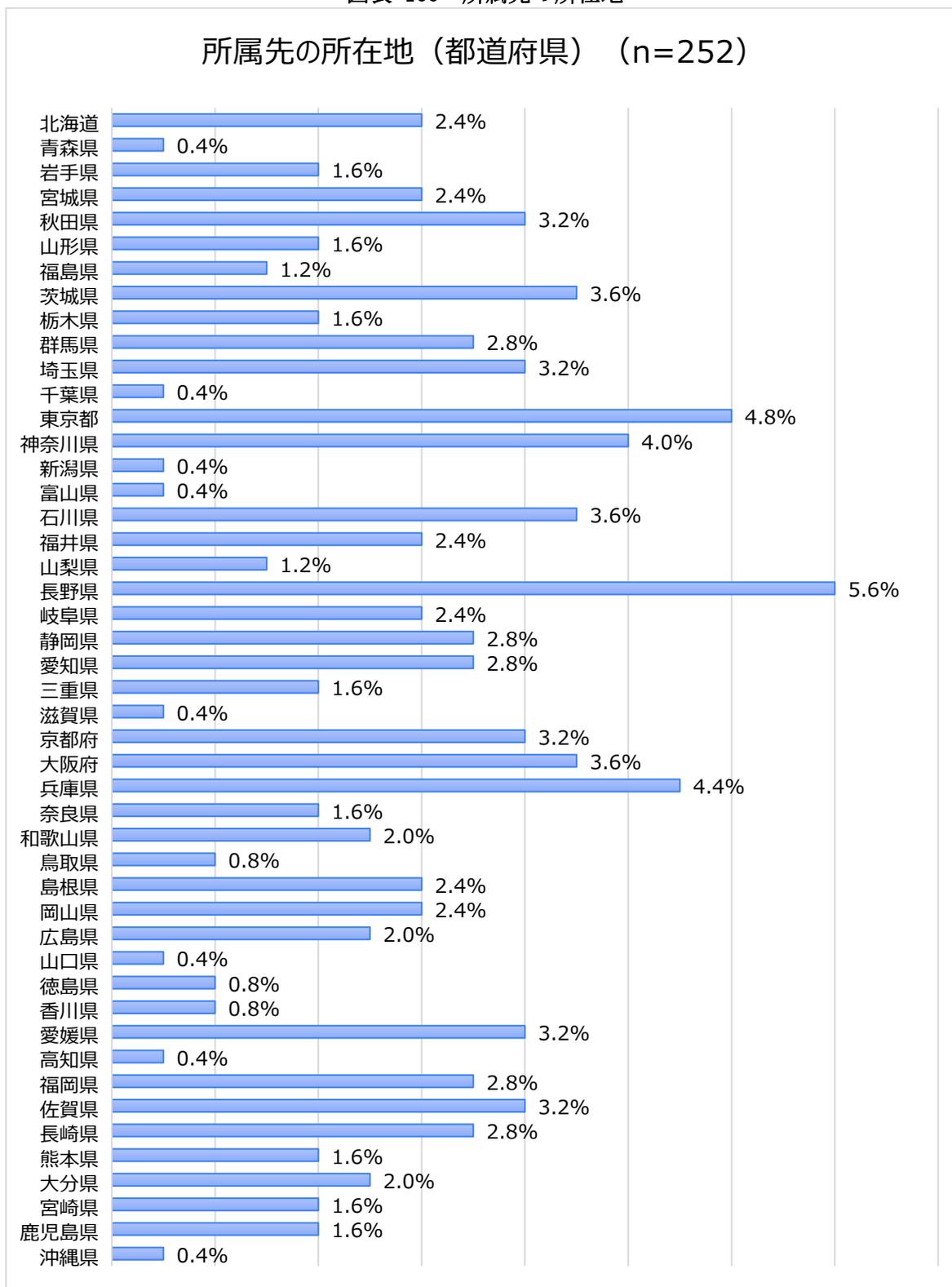
図表 165 その他の内容（主な回答）

その他の内容（自由記述）
ワンストップ窓口委託専門家
介護生産性向上総合相談センター（ワンストップ窓口）準備中
公益法人
病院

3) 所属先の所在地（都道府県）（1つ選択）

所属先の所在地（都道府県）をみると、「長野県」が5.6%と最も高く、次いで「東京都」が4.8%、「兵庫県」が4.4%となっている。

図表 166 所属先の所在地

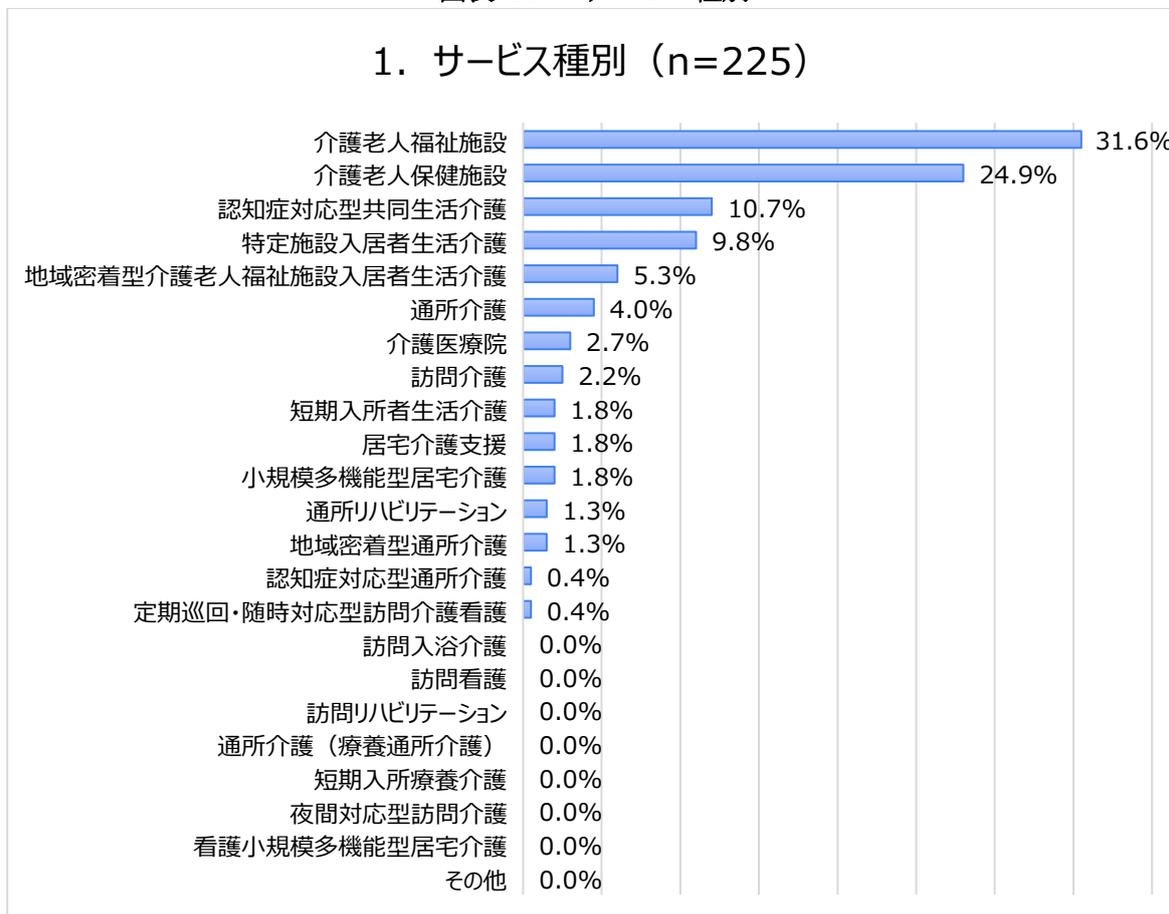


<「所属先の種別」で「介護事業所」と回答した方のみ>

4) サービス種別 (1つ選択)

サービス種別をみると、「介護老人福祉施設」が31.6%と最も高く、次いで「介護老人保健施設」が24.9%、「認知症対応型共同生活介護」が10.7%となっている。

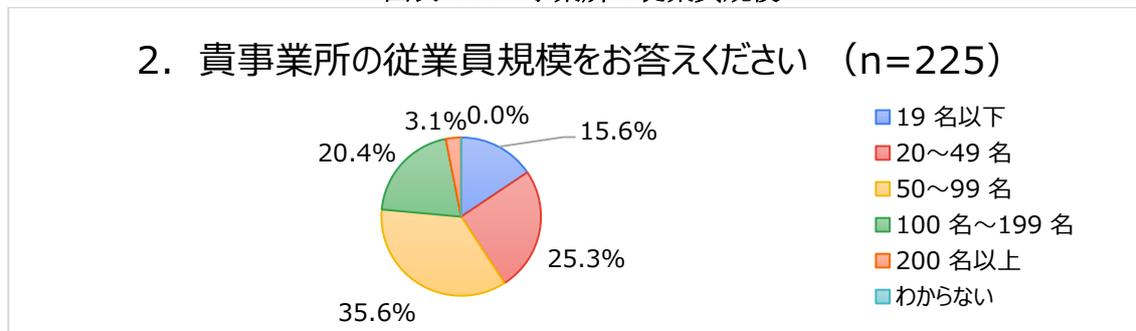
図表 167 サービス種別



1) 事業所の従業員規模 (1つ選択)

事業所の従業員規模をみると、「50～99名」が35.6%と最も高く、次いで「20～49名」が25.3%、「100名～199名」が20.4%となっている。

図表 168 事業所の従業員規模



<全ての回答>

5) 「前回のおさらい」は理解できたか (1つ選択)

「前回のおさらい」は理解できたかをみると、「十分理解した」が55.6%と最も高く、次いで「少し理解した」が42.5%、「あまり理解していない」が2.0%となっている。

図表 169 「前回のおさらい」は理解できたか



3 の設問で「あまり理解していない」「全く理解していない」を回答した方の理由 (自由記述)

図表 170 3 で「あまり理解していない」「全く理解していない」を回答した方の理由 (主な回答)

理解していない理由 (自由記述)
すみません、業務で途中参加となりました。
生産性の取り組みを始めたばかりで見直しができない。
前回参加できず、参加した職員から聞いただけだから。
展開が早すぎます。

6) 第一部の「業務改善の取組状況と課題・気づきの整理/発表・意見交換」は参考になったか (1つ選択)

第一部の「業務改善の取組状況と課題・気づきの整理/発表・意見交換」は参考になったかをみると、「参考になった」が59.9%と最も高く、次いで「少し参考になった」が38.9%、「あまり参考にならなかった」が1.2%となっている。

図表 171 第一部の「業務改善の取組状況と課題・気づきの整理/発表・意見交換」は参考になったか



4 の設問で「あまり参考にならなかった」「全く参考にならなかった」を回答した方の理由（自由記述）

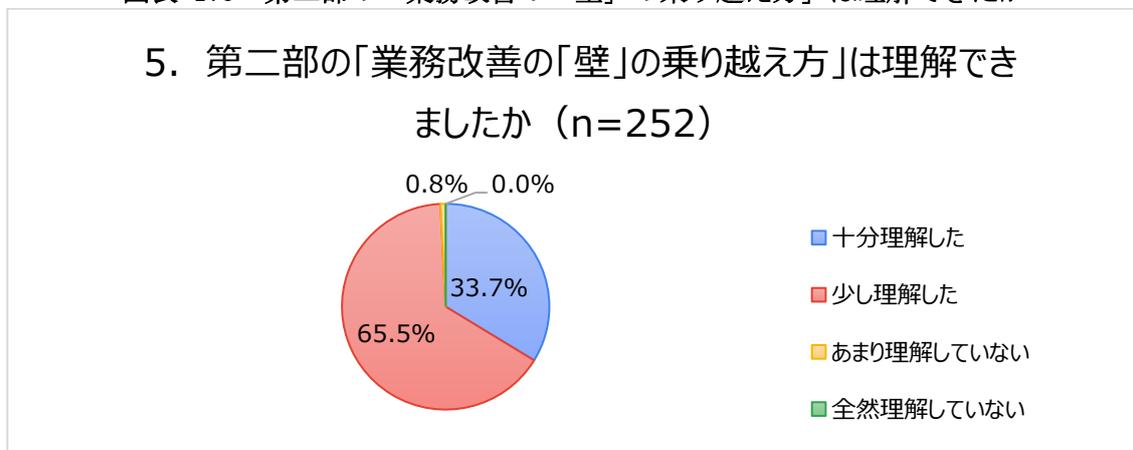
図表 172 4で「あまり参考にならなかった」「全く参考にならなかった」を回答した方の理由（主な回答）

参考にならなかった理由（自由記述）
意見交換をできていない。
各事業所の主要問題を提示されていないから。

7) 第二部の「業務改善の「壁」の乗り越え方」は理解できたか（1つ選択）

第二部の「業務改善の「壁」の乗り越え方」は理解できたかをみると、「少し理解した」が65.5%と最も高く、次いで「十分理解した」が33.7%、「あまり理解していない」が0.8%となっている。

図表 173 第二部の「業務改善の「壁」の乗り越え方」は理解できたか



5 の設問で「あまり理解していない」「全然理解していない」を回答した方の理由（自由記述）

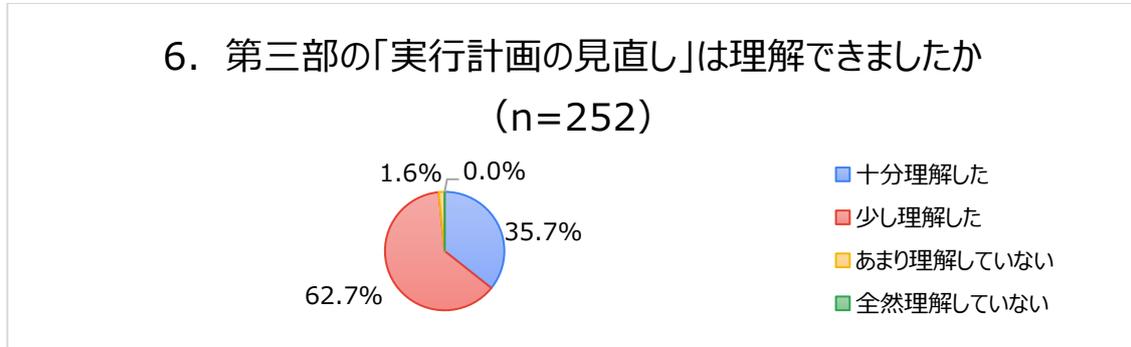
図表 174 5で「あまり理解していない」「全然理解していない」を回答した方の理由（主な回答）

理解していない理由（自由記述）
意見交換や会議の時間の抽出が難しい。利用者の対応についても最小限・最低限のケアでも時間としては足りないのが現状。何かをやらない選択をすれば、介護計画書に添えなくなってしまう。
難しかった。

8) 第三部の「実行計画の見直し」は理解できたか（1つ選択）

第三部の「実行計画の見直し」は理解できたかをみると、「少し理解した」が62.7%と最も高く、次いで「十分理解した」が35.7%、「あまり理解していない」が1.6%となっている。

図表 175 第三部の「実行計画の見直し」は理解できたか



6 の設問で「あまり理解していない」「全然理解していない」を回答した方の理由（自由記述）

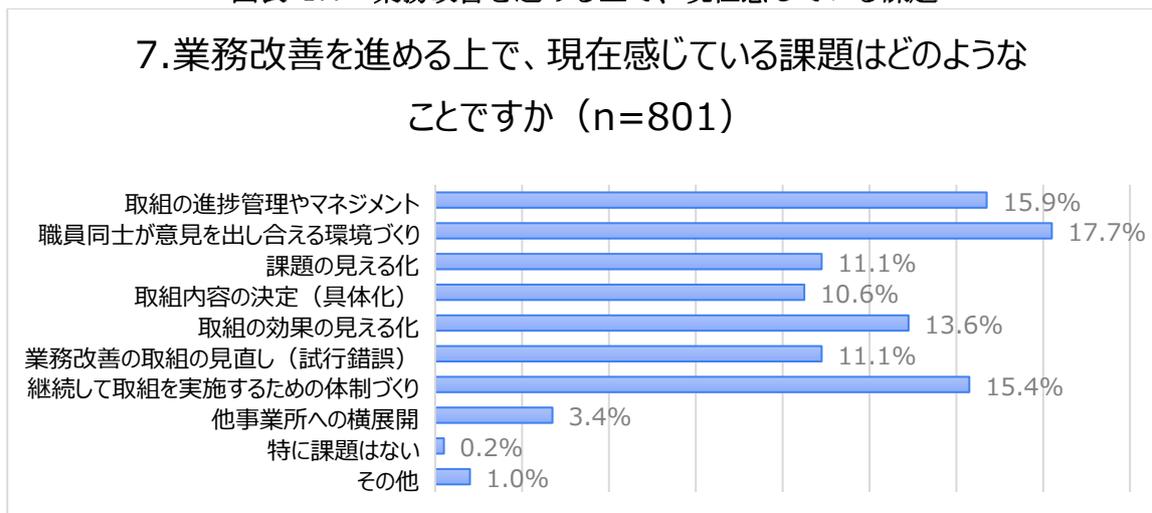
図表 176 6で「あまり理解していない」「全然理解していない」を回答した方の理由（主な回答）

理解していない理由（自由記述）
自分が悪いのです。合間、合間で、離れてしまっていました。
文字におこすことが難しかった。
様式に当てはめるのが大変。

9) 業務改善を進める上で、現在感じている課題（複数選択可）

業務改善を進める上で、現在感じている課題をみると、「職員同士が意見を出し合える環境づくり」が17.7%と最も高く、次いで「取組の進捗管理やマネジメント」が15.9%、「継続して取組を実施するための体制づくり」が15.4%となっている。

図表 177 業務改善を進める上で、現在感じている課題



図表 178 その他の内容（主な回答）

その他の内容（自由記述）
事業所全体での取り組みをどう進めるか。
話し合いの時間が取れない。
KPI の設定
OJT できるスタッフの人材育成
人員体制

10)本フォローアップセミナーに関するご意見等（自由記述）

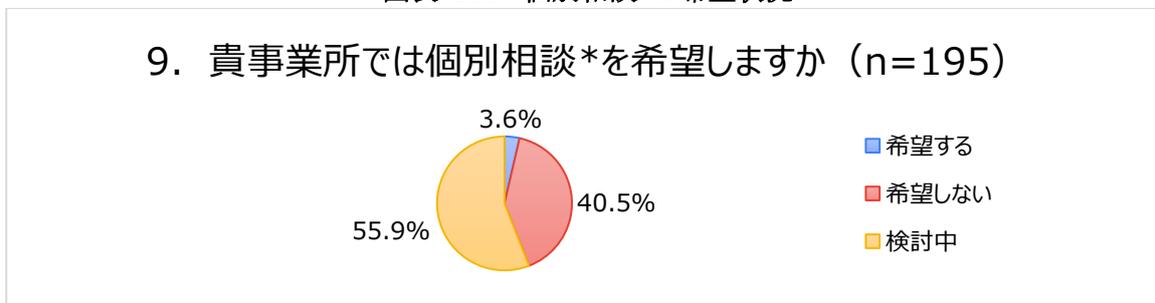
図表 179 本フォローアップセミナーに関するご意見等（主な回答）

本フォローアップセミナーに関するご意見等（自由記述）
実際、ステップ1で経営者意識（放任・現状の未理解・権限の委譲なし）が全体進度を止めているというご相談があります。すでに実施されているかとも思われますが、今一度、経営者（医療法人・社会福祉法人・NPO・株式会社など）へのセミナー拡充をお願いできますでしょうか？
計画書作成に関しまして、活用しやすくわかりやすい資料をくださりありがとうございました。ワークの中で事業所の課題について気づき、まずは取り組む事ということへの動機づけとなりました。グループワークでの他の事業所様の取り組みが聞けて大変身近に感じ参考になりました。
展開が早すぎて内容の理解が追い付くのに精いっぱいです。
グループワークの時間がもう少しあればよかったですと思います。
研修にある方法論ですべて実行することができれば大変有用であると思いますが、この取り組み自体を実行していくことに負担を感じています。現場において業務に余裕がないことを想定したうえでのフォーマット作りを考えて頂けると大変助かります。
入所型と通所型では職員の時間での配置数も異なるが、利用者のニーズや利用時間の中で業務効率化の課題や研修を行うことが難しく思う。業務時間イコール利用者の滞在時間である。効率化の研修や会議を行なうために残業となっているのが現状である。
発表の時間配分を決めないと他の施設に迷惑がかかる
KPI の指標の紹介があると良かった。
各事業所での記入時間が10分程度×2回、設けられていたが、不要だと思います。30事業所集まっているのであれば、それぞれの考え方を聞いたかったです。記入時間は、オフラインで、各事業所ですればよいと思います。
発表の資料なり、見返し動画などがあれば良いです。聞き取れないところがあったりするので、よろしくお願いいたします。

- 1 1) 個別相談*の希望状況 *個別相談：本セミナー講師によるセミナー参加者向けの個別相談（1つ選択）

個別相談*の希望状況を見ると、「検討中」が55.9%と最も高く、次いで「希望しない」が40.5%、「希望する」が3.6%となっている。

図表 180 個別相談*の希望状況



9 の設問で個別相談を「希望する」と回答した方の相談概要（自由記述）

図表 181 9で個別相談を「希望する」と回答した方の相談概要（主な回答）

相談概要（自由記述）
計画書作成、実行とその後のフォローアップをお願いしたい
事業所全体での取り組みを進める方法
今後、事業を進めていく中で相談したい事項が出てきたときに個別相談をしたい。
PDCA サイクルの回し方
理念・行動指針の徹底を図ることが全ての課題解決のベースとなると考えています。この具体的な徹底方法についてアイデアを教えてください。理念・行動指針は作成済みで、全職員への説明会も2回実施。個人面談も半年に1度事務長が全ての職員と実施。挨拶運動月間の実施などは既に取り組んでおります。
今後の展開方法、進め方、K P I の測定方法

(8) フォローアップセミナー受講後（3回目）アンケート結果

有効件数：225 件

アンケート結果は以下のとおり。

<全ての回答>

1. 参加開催回（1つ選択）

参加開催回をみると、「東日本 F 第3回：1月17日（金）」が21.8%と最も高く、次いで「西日本 C 第3回：1月15日（水）」が19.6%、「西日本 A 第3回：12月13日（金）」が17.3%となっている。

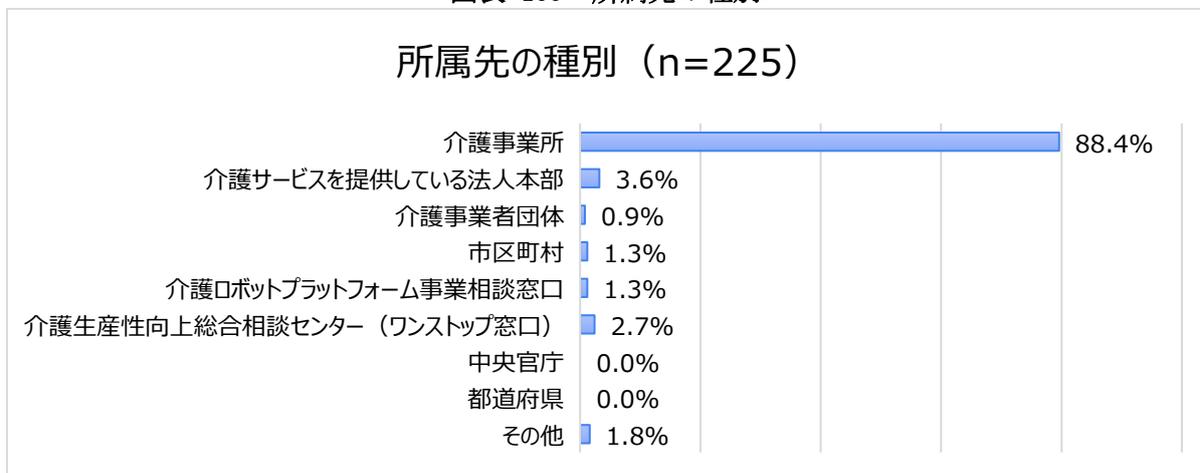
図表 182 参加開催回



2. 所属先の種別（1つ選択）

所属先の種別をみると、「介護事業所」が88.4%と最も高く、次いで「介護サービスを提供している法人本部」が3.6%、「介護事業者団体」が0.9%となっている。

図表 183 所属先の種別



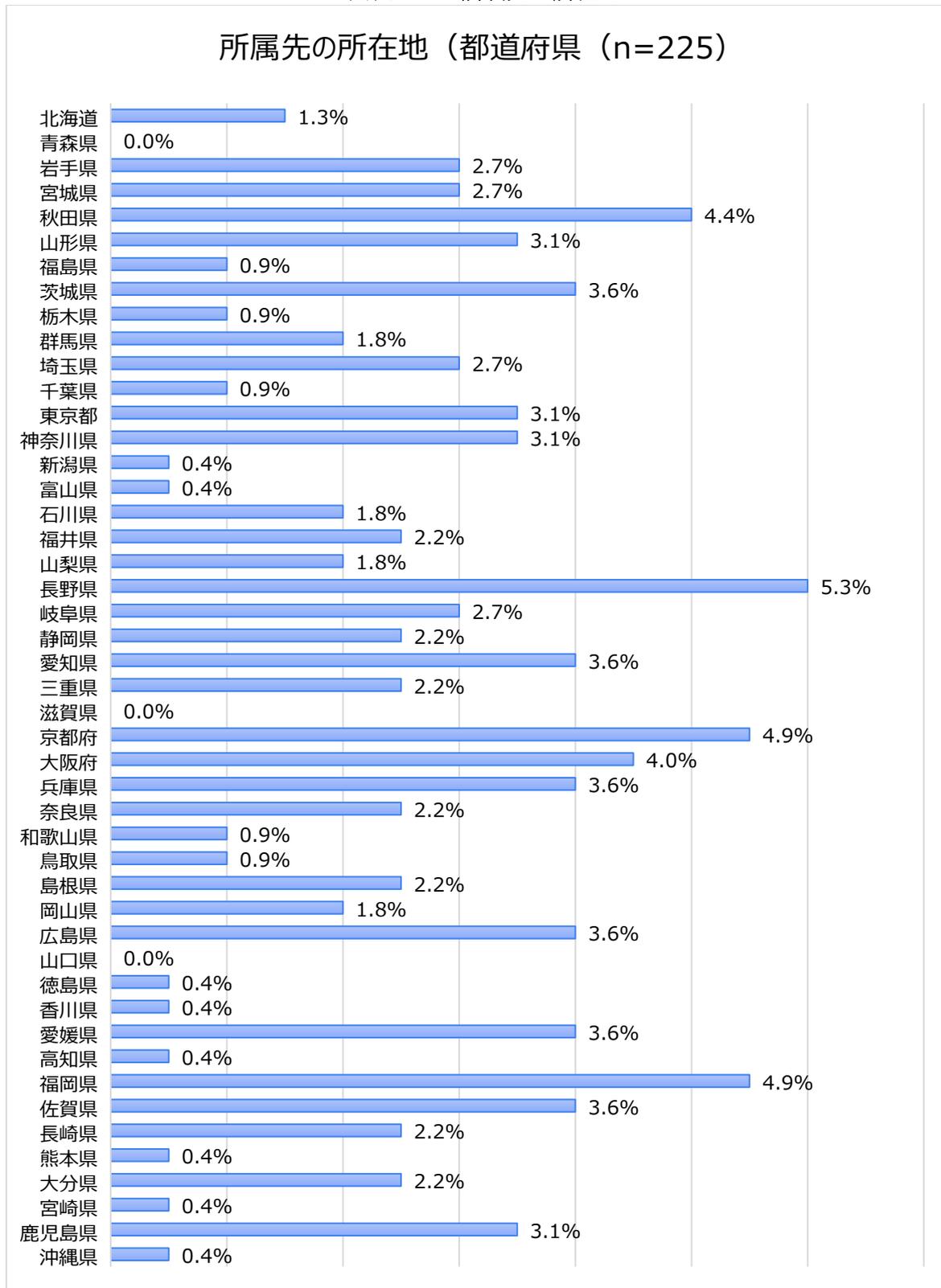
図表 184 その他の内容（主な回答）

その他の内容（自由記述）
病院
病院介護事業

3. 所属先の所在地（都道府県）（1つ選択）

所属先の所在地（都道府県）をみると、「長野県」が5.3%と最も高く、次いで「京都府」「福岡県」が4.9%、「秋田県」が4.4%となっている。

図表 185 所属先の所在地

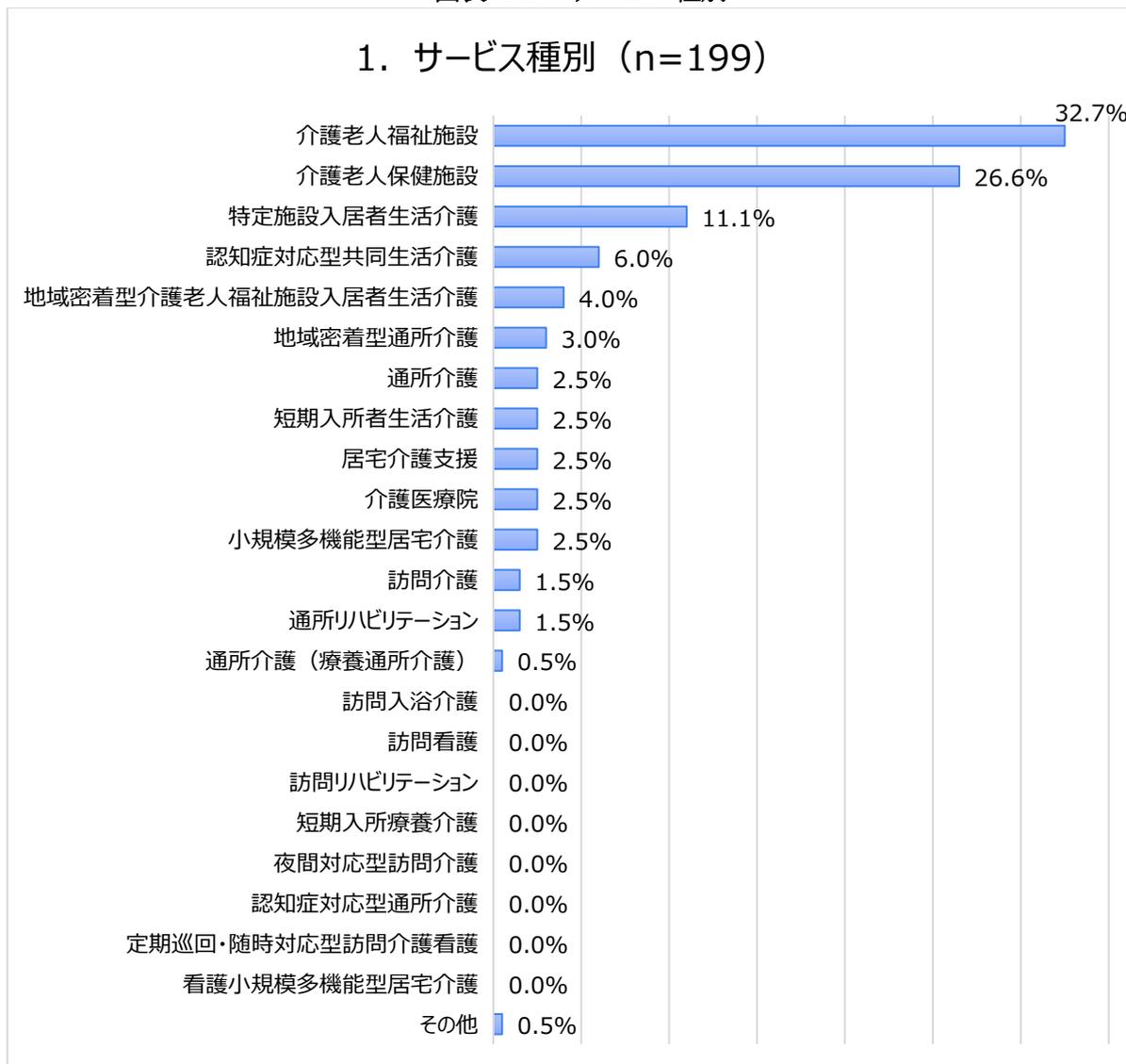


<「所属先の種別」で「介護事業所」と回答した方のみ>

4. サービス種別（1つ選択）

サービス種別をみると、「介護老人福祉施設」が32.7%と最も高く、次いで「介護老人保健施設」が26.6%、「特定施設入居者生活介護」が11.1%となっている。

図表 186 サービス種別



図表 187 その他の内容（主な回答）

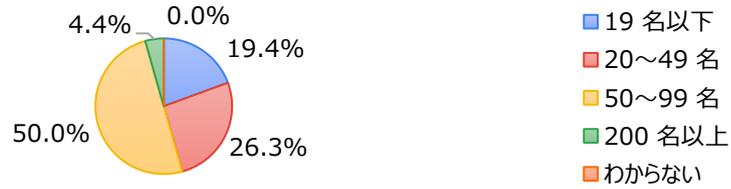
その他の内容（自由記述）
措置 養護老人ホーム

5. 事業所の従業員規模（1つ選択）

事業所の従業員規模をみると、「50～99名」が50.0%と最も高く、次いで「20～49名」が26.3%、「19名以下」が19.4%となっている。

図表 188 事業所の従業員規模

2. 貴事業所の従業員規模をお答えください (n=199)



6. 生産性向上を進めるための委員会*の設置状況 (1つ選択)

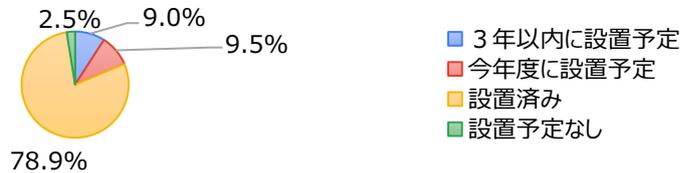
*生産性向上を進めるための委員会：令和6年度介護報酬改定において施設・居住・入所系サービスに義務づけられた、「利用者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減に資する方策を検討するための委員会」及びこれに準じる委員会を想定したものです。義務づけられたサービス種別に関わらず全サービスにおいてお答えください。

生産性向上を進めるための委員会*の設置状況をみると、「設置済み」が78.9%と最も高く、次いで「今年度に設置予定」が9.5%、「3年以内に設置予定」が9.0%となっている。

図表 189 生産性向上を進めるための委員会*の設置状況

3. 貴事業所の生産性向上を進めるための委員会*の設置状況についてお答えください (n=199)

*生産性向上を進めるための委員会：令和6年度介護報酬改定において施設・居住・入所系サービスに義務づけられた、「利用者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減に資する方策を…」



<1.のサービス種別にて事業所（施設・居住系サービス）を選択した場合のみ>

7. 生産性向上推進体制加算の算定予定 (1つ選択)

生産性向上推進体制加算の算定予定をみると、「生産性向上推進体制加算（Ⅱ）を算定済み」が33.2%と最も高く、次いで「生産性向上推進体制加算を算定予定」が31.6%、「生産性向上推進体制加算の算定予定なし」が18.1%となっている。

図表 190 生産性向上推進体制加算の算定予定

4. <1.のサービス種別にて施設・居住系サービスを選択した場合のみ回答> 生産性向上推進体制加算の算定予定についてお答えください

(n=199)

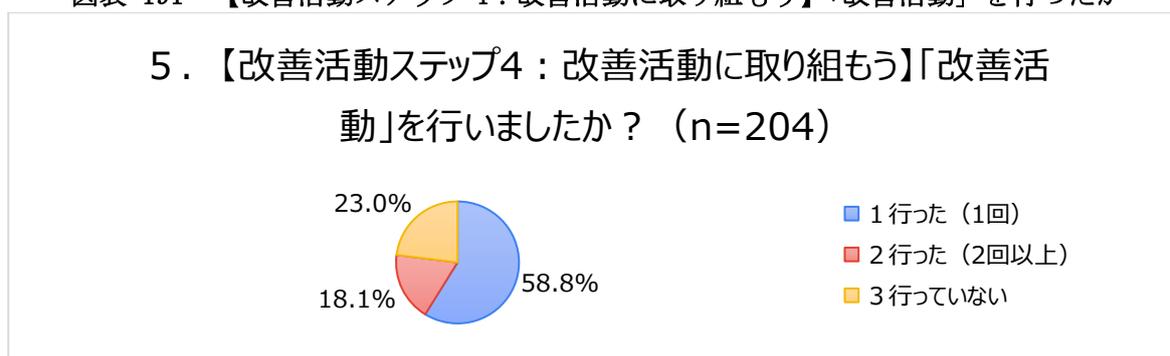


<「所属先の種別」で「介護事業所」「介護サービスを提供している法人本部」と回答した方のみ>

8. 【改善活動ステップ4：改善活動に取り組もう】「改善活動」を行ったか（1つ選択）
 *複数回 PDCA を回した場合は、「行った（2回以上）」を選択。（ここでいう PDCA は生産性向上の取組の各ステップにおける試行錯誤等の小さな PDCA サイクルを指す。

【改善活動ステップ4：改善活動に取り組もう】「改善活動」を行ったかをみると、「1行った（1回）」が58.8%と最も高く、次いで「3行っていない」が23.0%、「2行った（2回以上）」が18.1%となっている。

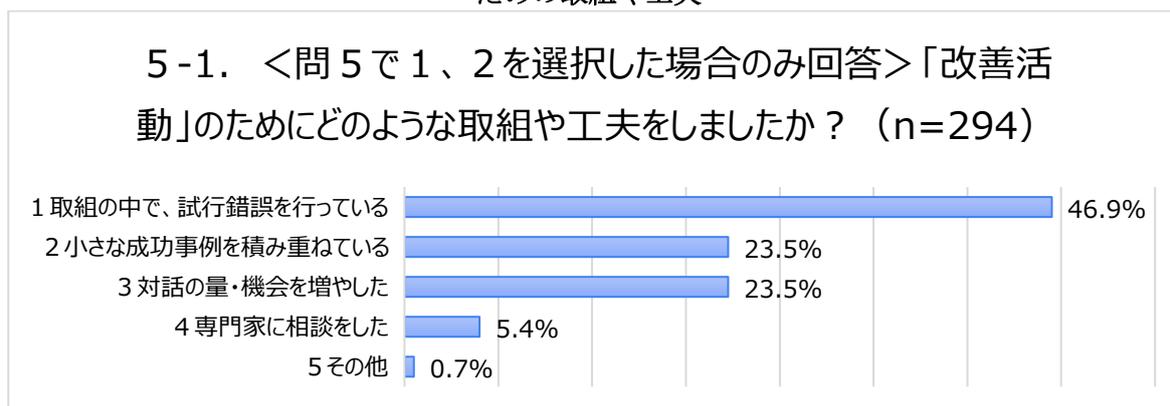
図表 191 【改善活動ステップ4：改善活動に取り組もう】「改善活動」を行ったか



5の設問で「1行った（1回）」「2行った（2回以上）」を回答した方の「改善活動」のための取組や工夫（複数選択可）

5の設問で「1行った（1回）」「2行った（2回以上）」を回答した方の「改善活動」のための取組や工夫をみると、「1取組の中で、試行錯誤を行っている」が46.9%と最も高く、次いで「2小さな成功事例を積み重ねている」「3対話の量・機会を増やした」が23.5%、「4専門家に相談をした」が5.4%となっている。

図表 192 5で「1行った（1回）」「2行った（2回以上）」を回答した方の「改善活動」のための取組や工夫



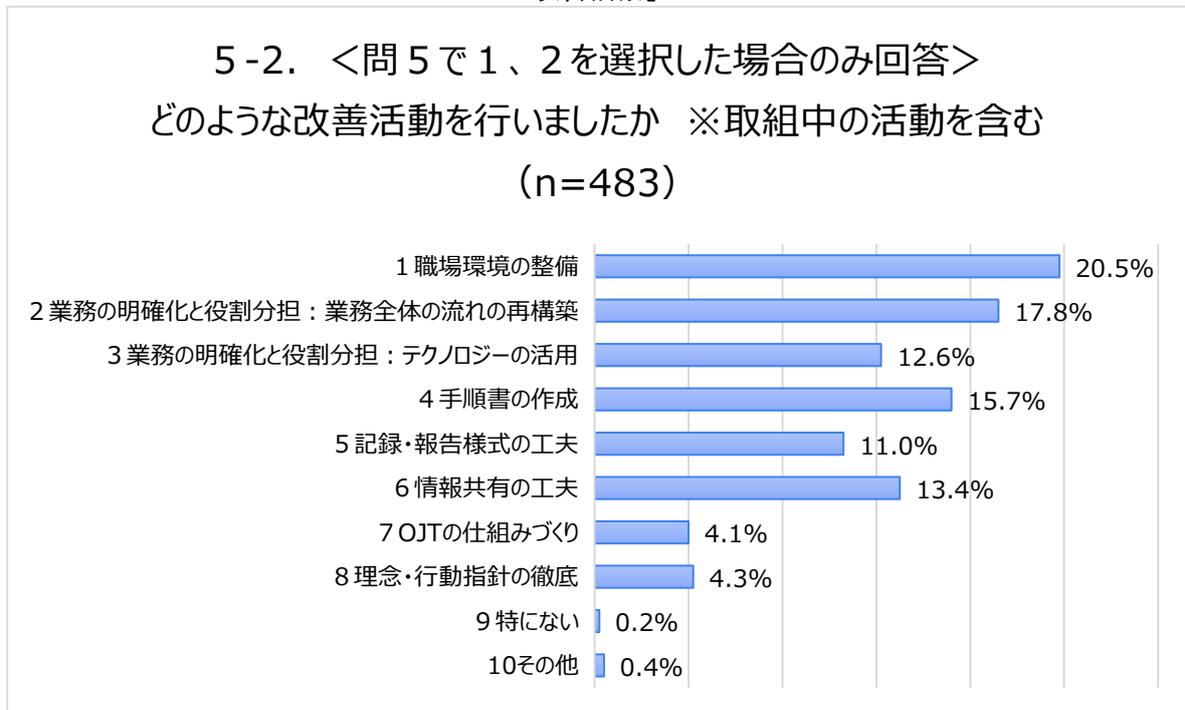
図表 193 その他の内容（主な回答）

その他の内容（自由記述）
介護ソフト・情報端末等を導入準備中のため、これから活動が始まる
目的を何度も説明し何のために行うかを話した

5 の設問で「1 行った（1 回）」「2 行った（2 回以上）」を回答した方が行った「改善活動」※取組中の活動を含む（複数選択可）

5 の設問で「1 行った（1 回）」「2 行った（2 回以上）」を回答した方が行った「改善活動」をみると、「1 職場環境の整備」が 20.5%と最も高く、次いで「2 業務の明確化と役割分担：業務全体の流れの再構築」が 17.8%、「4 手順書の作成」が 15.7%となっている。

図表 194 5 で「1 行った（1 回）」「2 行った（2 回以上）」を回答した方が行った「改善活動」



図表 195 その他の内容（主な回答）

その他の内容（自由記述）
休憩場所の見直し
変形労働制の推進

5 の設問で「3 行っていない」を回答した方の理由（原因）（自由記述）

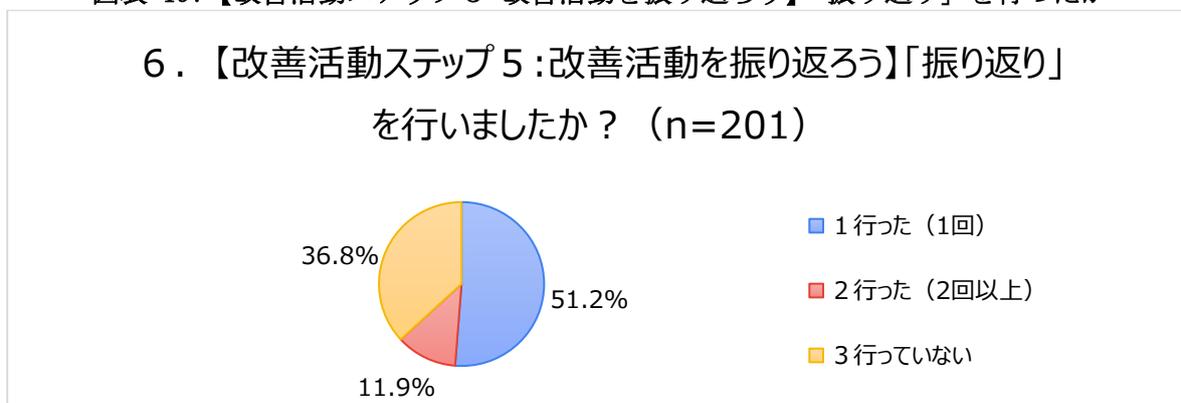
図表 196 5 で「3 行っていない」を回答した方の理由（原因）（主な回答）

改善活動を行っていない理由（原因）（自由記述）
PDCA サイクルを回す仕組みづくり、推進していくための人材育成の段階
リーダーによる委員会は設置し検討をしているが、メンバーを巻き込めていない
感染拡大やスタッフの欠員などにより行えなかった
現状の人員体制の中で上手くフィードバックが出来ていない
取り組みがうまく行えているか確認するため
取組む前の準備に時間を要している
職員の人材不足や業務の多忙で活動が難しい
途中のステップのタイムスタディー調査で客観的データ取得ができず、2 回目を実施する判断を行った為、進行スケジュールが後退している。現在は取り組み後のタイムスタディー調査とアンケートを実施し、結果を全体共有する予定
特浴の機械を新しくしたため
目標を大きく設定しすぎた

9. 【改善活動ステップ5:改善活動を振り返ろう】「振り返り」を行ったか（1つ選択）
 *複数回 PDCA を回した場合は、「行った（2 回以上）」を選択。（ここでいう PDCA は生産性向上の取組の各ステップにおける試行錯誤等の小さな PDCA サイクルを指す。

【改善活動ステップ5:改善活動を振り返ろう】「振り返り」を行ったかをみると、「1 行った（1 回）」が 51.2%と最も高く、次いで「3 行っていない」が 36.8%、「2 行った（2 回以上）」が 11.9%となっている。

図表 197 【改善活動ステップ5:改善活動を振り返ろう】「振り返り」を行ったか



6 の設問で「1 行った（1 回）」「2 行った（2 回以上）」を回答した方が行った「振り返り」（複数選択可）

6 の設問で「1 行った（1 回）」「2 行った（2 回以上）」を回答した方が行った「振り返り」をみると、「2 自分たちの活動を振り返り、上手くいった点いかなかった点等について対話した」が 54.5% と最も高く、次いで「1 成果・達成度を評価した」が 24.3%、「3 次の挑戦・活動（実行計画の見直しや新たな課題への取組み）につなげた」が 19.6% となっている。

図表 198 6 で「1 行った（1 回）」「2 行った（2 回以上）」を回答した方が行った「振り返り」



図表 199 その他の内容（主な回答）

その他の内容（自由記述）
まだできていない
見直し、改善方法を模索している状態
取組前後の感想をアンケートで答えてもらった

6 の設問で「3 行っていない」を回答した方の理由（原因）（自由記述）

図表 200 6 で「3 行っていない」を回答した方の理由（原因）（主な回答）

振り返りを行っていない理由（原因）（自由記述）
PDCA サイクルを回すための、スタッフの育成段階。推進役の育成ができていない。
イレギュラーな業務で多忙だったため
改善活動を実施し、間もないため
活動目的の共通理解を深めることを優先し、委員会メンバーとの話し合いを重ねているため時間がかかっている。
感染症などが長く続き、社員のへの感染が入居者より広がったため、実施できていない。
現在取り組み途中の為、結果を集計分析後に年内には施設全体に共有する方向で考えている。
実行が出来ていないため振り返りをしていない。
実施を開始したところで休職者が増え、退職者も出たため、人不足で日常業務を回すことが重要になったため
実施後自分がほかの研修も重なり新たな取り組みを始めたため振り返りまではできていない。
実践の評価時間がなく間に合わなかった。

10. 改善活動の結果どのような成果があったか（自由記述）

図表 201 改善活動の結果、どのような成果があったか（主な回答）

改善活動の結果、どのような成果があったか（自由記述）
話し合いの場は増えたように感じる。介護士の負担はかなり軽減された。
5Sでは、見た目の違いを感じることができ、取り組みが進んでいるというのが周りの職員にも共有されるといった効果があった。それをきっかけに他の場所も整理しよう、と職員からの声も出てきた。
5Sを行ったことで、物品や機器の場所が分かりやすくなった。職場環境が変わって働きやすくなった。間接業務の短縮ができた。マニュアルを変更したことで介助の仕方が分かりやすくなった。ICT導入で記録の時間が短縮した。見守りセンサー等で夜間帯に時間の余力が生まれた。入居者と関わる時間が増えた。
KPIとしては訪室回数の減少と、それに伴う訪室時間の減少が見込める。
マニュアル等を整備したことで、介護職員の記録業務に関する負担軽減を実感した職員が80%いた。
荷物事故が減り、サービスの質の確保につながった。事故が減ったことで事故処理の時間が削減できた。
介護事後の未然防止が行えた。転倒の件数が減った。
記録時間、申し送り時間が短縮され、残業が減った。
休憩時間の確保、利用者に関わる時間が増えた。
業務のルーティン化を防止した。職員の定着につながった。
業務効率や課題について話し合う機会がもてた。
自律的にどうケア、対応をするか考えられるようになった。ICTの機器活用につながった。
職員のモチベーションの維持・向上、物品探しの時間減少による利用者に関わる時間の増加
新しい職員に教えやすくなった
新人が困っていることに時間をかけられたので、取組前よりベテラン職員が休みやすくなった。
人材不足の解消にはならないが、利用者からのクレーム軽減につながった。
数字では評価していないが、職員の声から成果は出ている。
入浴業務において、業務効率化と職員の負担軽減、利用者満足度が向上した。
配膳時間が短くなり、ミスが減った。
夜間の睡眠状況の改善

1 1. 改善活動で特に苦勞したこと・工夫したこと（自由記述）

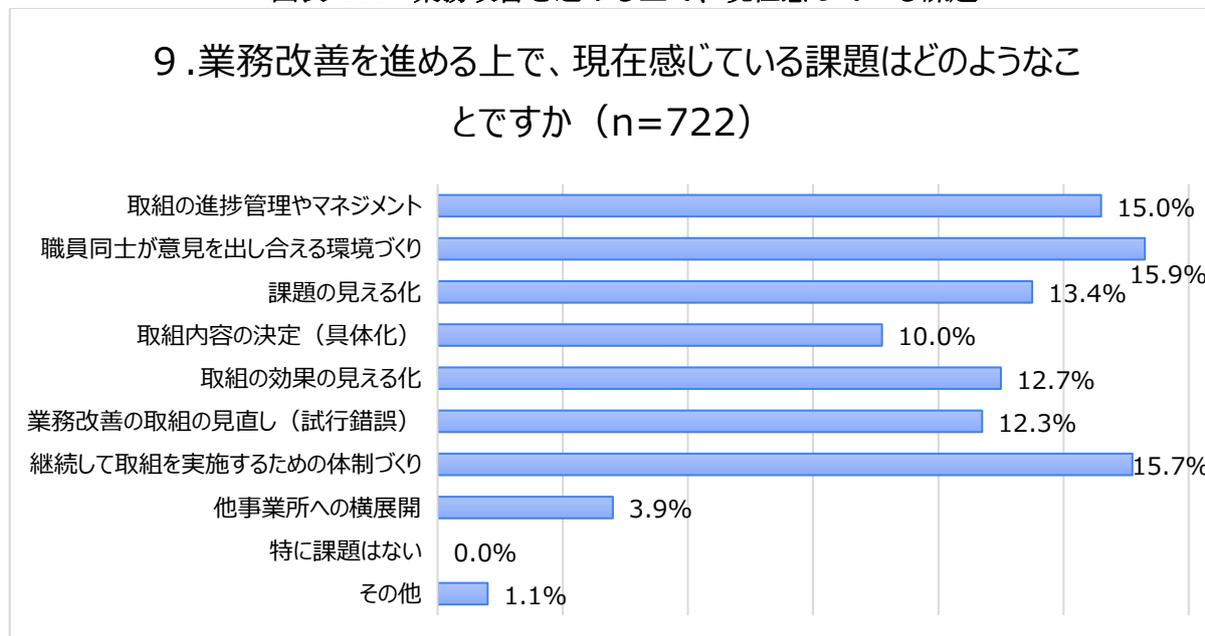
図表 202 改善活動で特に苦勞したこと・工夫したこと（主な回答）

改善活動で特に苦勞したこと・工夫したこと（自由記述）
ICT 機器導入の予算の確保
KPI の設定、予定外の事象発生時の取り組みの修正
プロジェクトを進めるための時間を割くこと、他の業務を進めながら生産性向上の取り組みを継続していくこと
課題がたくさんあり、人員不足など課題感が大きいものもあり、課題抽出の時に迷いました。
介護における生産性向上の理解が進まない。特に外国人スタッフに対して。
業務改善のための作業に、多くの時間を割かなければならなく、担当者間の負担のバラつきもある事が明確化した。通常業務との両立や、情報共有は今後も大きな課題である。
経営層、現場層とのベクトル調整。そのための、意思統一（価値観）
工夫したこと(小さくはじめる→広げる) (対話の時に正論を言わない。解決しようとしなない)
出来るだけ現場で意図や目的について話すようにしている。
小規模でスタートし、成功事例を積み上げていった。
焦らず、待てること。いつでも相談できること。
新人職員の気持ちに立って、いかに分かり易く見やすい内容のマニュアルを作成出来るかを考えることが出来た。職員間の認識の違いなどを払拭することが苦勞した。
当初設定した改善計画の見直しが必要な事態となった。これは、なぜなぜ分析による深堀が不十分であったことが原因であった。
反対意見がある中で、なぜ必要なのか、実際にこうすることでどういった改善に繋がるのかを説明し、理解を得る部分で時間が掛かりました。

1 2. 業務改善を進める上で、現在感じている課題（複数選択可）

業務改善を進める上で、現在感じている課題をみると、「職員同士が意見を出し合える環境づくり」が 15.9%と最も高く、次いで「継続して取組を実施するための体制づくり」が 15.7%、「取組の進捗管理やマネジメント」が 15.0%となっている。

図表 203 業務改善を進める上で、現在感じている課題



図表 204 その他の内容（主な回答）

その他の内容（自由記述）
業務改善について進めていく時間を割くことが困難
ICT 機器は日々進化していくため、新しい機器の入れ替えが必要となる為、補助金が多数あるとありがたい。
時間の確保と職員全員が一丸となって取り組む環境作り
インカム機器に詳しいものがおらず、当社のニーズに合う機器を決定できない。
介護サービスの質のバラツキ
加算算定を検討しているが提出書類作成が負担に感じ感じ躊躇している

13. セミナーを受けることによって得られた気づきや効果（自由記述）

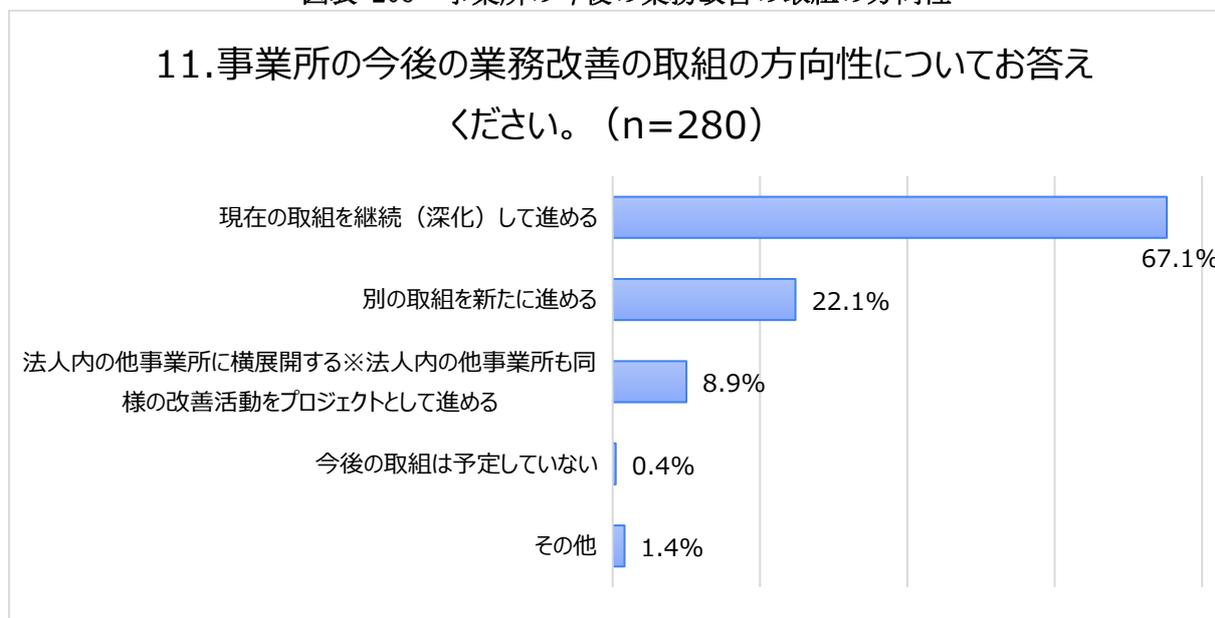
図表 205 セミナーを受けることによって得られた気づきや効果（主な回答）

セミナーを受けることによって得られた気づきや効果（自由記述）
目標に向かって継続が必要。業務改善のゴールはない。
ICT 導入が進んでいる施設の報告から、ICT 導入がゴールではないと実例を交えて教えていただけたと思います。
PDCA の考え方、取り組みを実践しながら行ったので良かった。
だいたいの施設が小さなステップから始めている印象を受けました。
どの施設も同じような問題があり、解決に向けて試行錯誤しながら取り組んでいることが分かった。とても参考になった。
より職員の率直な意見を集めることができた。
課題を見える化して一般職へも周知するという事はかなり重要だった。キックオフ宣言をして夜勤業務改善をしますといっても、どういった計画なのか、計画はどこまで進んでいるのか全職員が知れることは協力してくれる一因になっている
課題を明確化して共有し、優先順位を決めて実行していく。試行錯誤しながら楽しめることが一番大事だと思います。
介護現場の運営を考えてくれる部門ができたことが、経営層として喜ばしいことと思う。
介護現場の職員一人ひとりが感じている業務に関する課題等を出してもらったときに、想定していた内容と違っている事が分かった。
気付きシートを活用した因果関係図を作成する事で全職員がみんなの思いを知り、同じ方向を向いて支援する事ができ、今後も色んな改革が行えると気付けた瞬間でした。
業務改善について学び、実践し、他の事業所の取り組みも確認できたため、PDCA サークルの1周目を事業所全体で体験でき非常に参考となった。これからの繰り返しで、よりよい成果を出していける可能性を職員が感じる事ができた。
出てきた課題を解決することによって、言えば改善してもらえるとこの空気が醸成され、組織として前向きの流れが出てきた。
準備を周到にすることで結果に繋がり、見直しなどにもつながることを再認識しました。
小さなステップ（効果）でもいいので、続けること、癖にすることが大事…ということ
焦らず何から着手するか（優先順位）、どこまで実施するか等、ゴール・地点を決めて実施していくことが大切。目的等シンプルかつ分かりやすいものは実行に移しやすい（共通認識が持ちやすい）生産性向上は継続することが必要。
色々な施設の発表を聞き、自分たちの施設の現状を知ることができたことと、質を高めていくことを目標にすればいいのだと感じられた。
生産性向上委員会を実施する方法、記録方法などの勉強になりました。
他事業所の話を聞いたのが良かった。新しい着眼点や取り組み方等様々で聞いて良かった大変でもやること、続けることでしか改善しないことを確認できました。

1 4. 事業所の今後の業務改善の取組の方向性（複数選択可）

事業所の今後の業務改善の取組の方向性をみると、「現在の取組を継続（深化）して進める」が67.1%と最も高く、次いで「別の取組を新たに進める」が22.1%、「法人内の他事業所に横展開する※法人内の他事業所も同様の改善活動をプロジェクトとして進める」が8.9%となっている。

図表 206 事業所の今後の業務改善の取組の方向性



図表 207 その他の内容（主な回答）

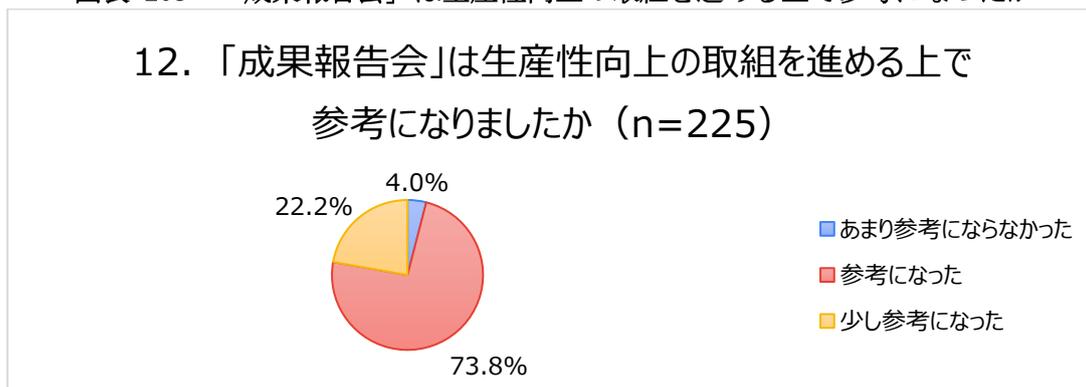
その他の内容（自由記述）
次年度から委員会を立ち上げ取り組む予定
個別相談で機器選定のノウハウなどアドバイスを依頼したい。
殊遇改善、夜勤改善
令和7年度介護職員の働きやすい職場環境づくり内閣総理大臣表彰及び厚生労働大臣表彰

<全ての回答>

15. 「成果報告会」は生産性向上の取組を進める上で参考になったか（1つ選択）
*介護事業所以外の方は傍聴の目的において参考になったかを回答。

「成果報告会」は生産性向上の取組を進める上で参考になったかをみると、「参考になった」が73.8%と最も高く、次いで「少し参考になった」が22.2%、「あまり参考にならなかった」が4.0%となっている。

図表 208 「成果報告会」は生産性向上の取組を進める上で参考になったか



12 の設問で回答した理由（自由記述）

図表 209 12 で回答した理由（主な回答）

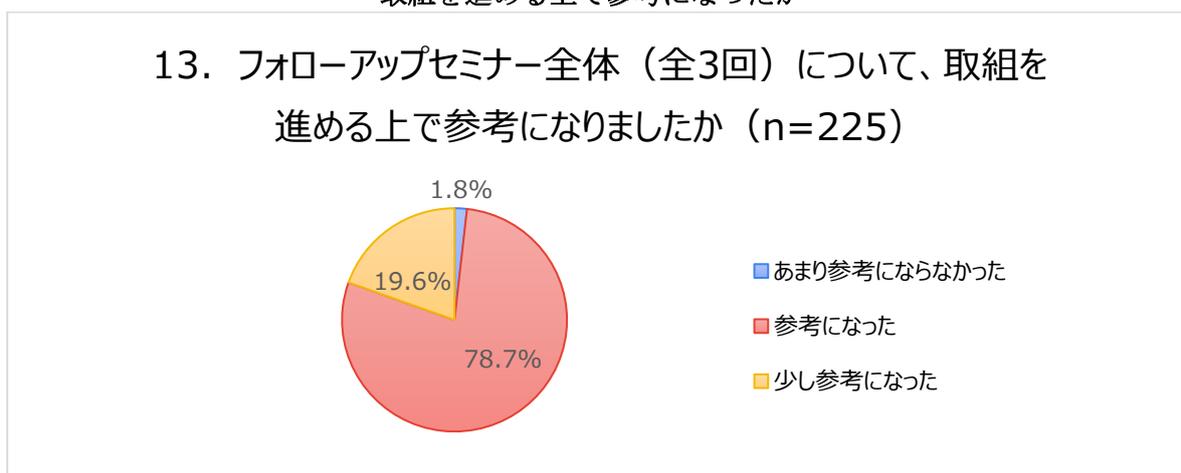
12 で回答した理由（自由記述）
あらたな生産性向上の取り組みについてのヒントを得ることができた。
いろんな課題への着眼点や、その解決方法を見聞きしたこと
デジタル化・介護ロボットなどに意識が向きがちだったが、その他でもアプローチする方法があるのだと知れた。
まとめ方や発表の仕方が参考になった。今後自施設で取組を推進、説明するときに、より理解したり、モチベーションを持ってもらうにはきちんとしてわかりやすい報告が必須であろうと思う。
委員会の進め方取り組み方等大変参考になりました。
課題抽出の仕方や、他施設の取り組みが聞けたため
皆さんが実装しているシステムが具体的にどのようなものなのか、とても興味がわきました。
各事業所、気づいていてもできなかった事は一緒であるのに、取り組み内容、結果に差がある理由が明確になってよかった。
見守りセンサーやリフトにての心身の負担軽減、外国人職員にも分かりやすくアプローチなど幅広い報告を受け大変参考になりました。
考えさせられるきっかけになった。出来なければ淘汰される時代という危機感にもなった。
職場環境の改善に前後の画像があるのは効果的だと参考になった。スキルの差や業務負担の差について課題が多いことも共感できた。
多くの事業所が課題として整理整頓を上げているところ、苦労した点として理解が得られない職員が一定数現れるところを挙げているのが興味深かったです。そして、整理整頓という当たり前のように思えることができなくて、実行することで効果が見られたという結果も面白かったと思います。この情報は管轄の介護事業所と共有したいと思いました。また、外国人への配慮も参考になりました。

16. フォローアップセミナー全体（全3回）について、取組を進める上で参考になったか（1つ選択）

*介護事業所以外の方は傍聴の目的において参考になったかを回答。

フォローアップセミナー全体（全3回）について、取組を進める上で参考になったかをみると、「参考になった」が78.7%と最も高く、次いで「少し参考になった」が19.6%、「あまり参考にならなかった」が1.8%となっている。

図表 210 フォローアップセミナー全体（全3回）について、取組を進める上で参考になったか



13 の設問で回答した理由（自由記述）

図表 211 13 で回答した理由（主な回答）

13 で回答した理由（自由記述）
「生産性の向上」について体系的に学べたこと
3回に分けていただいたことで、少しずつステップを踏みながら取り組むことができた。
PDCAを念頭に、管理者が率先して動かなければ変わらないことを、改めて認識させられました。アドバイスを受けながら取組みをすることができ、次回以降の取組み内容にもいかせるとおもわれるため
このセミナーに参加しなければ、生産性向上に向けてこんなに真面目に取り組めなかったと思います。委員会のメンバーが、次は何をしようかと主体的に動いてくれているので、本当に参加して良かったと感謝しています。
セミナーで紹介された方法そのままでは進めることが難しく、当施設なりのやり方にアレンジして取り入れている。
プロジェクトリーダー自らが発表できたことで自信が持てたことや、これから本格的に進めていくうえでの励みになったこと
まず、取組み自体が初めてで、やってみたら思うようにいかない、ということがあったが、セミナーでやり方やポイントを教えていただくととても助かった。また、成果報告と発表をする、という目標があったので、取組みを中断せずに進められた。
課題の見える化などで用いたアンケートなどは、このような機会がなければ実施しようと考えが至らなかった。
課題の見える化を行う為の手段（ひもとき）が分かった事。又、課題解決に向けての話し合いの軸がしっかりした事
具体的で基本的な手順を知ることができた。

現場の職員が職務にあたりながらの課題報告は厳しいものがあった。
小さな取組から始める事でもモチベーションの向上が大きく期待できること
色々な問題がある中でも、決められた期間で実施することについても大切なことだと感じた。
進めるうちに目標や内容がぶれてくることがあるが、セミナーで発表することで立ち返ることができた。
他施設での取り組みや苦勞した点など共有できたこと
当事業所の作業効率化や ICT 導入について考えるきっかけになったため
日頃から不満に感じている点等に関して、具体的に不満の中身を分解して問題点を抽出していくことで、根本的な問題も解決できる可能性があることを学べた。

17. 本フォローアップセミナーの「企画」に関するご意見等（自由記述）

図表 212 本フォローアップセミナーの「企画」に関するご意見等（主な回答）

本フォローアップセミナーの「企画」に関するご意見等（自由記述）
1年ほど取り組みが進んだ事例を聞いてみたい。
3回目の3時間発表聞く時間は効率的ではなかったかもしれません。
ICT機器を实际使用した事例の発表を聞いてみたい。特に紙媒体メインで動いている事業所がICT活用により生産性が向上したことが目に見て分かる事例を参考にしたい。
お互いの気づきシートだけをもっと踏み込んで、共有しても面白いのかなと思います。
サービス種別ごとに意見交換会の様な場があれば、新しい発見があるかなと感じた。
もう少しグループを細分化された方が、効果が浸透しやすいのではないかと。
事例が多く蓄積されていると思いますので、あえて反省事例や失敗事例について知りたい。これは、後続の施設が転ばぬ先の杖を得るため。
取組み期間があまりにも短いと思いました。チャットでアドバイスも頂けたので、安心して取り組むことができました。
成果報告会の短縮化
他施設の取り組みを聞くことで新たな発見もありましたが、同じ事で悩んでいる取り組みもあり知りたい所を詳しく説明して頂けたら突破口になると思いました。

18. その他、本フォローアップセミナーに関するご意見等（自由記述）

図表 213 その他、本フォローアップセミナーに関するご意見等（主な回答）

その他、本フォローアップセミナーに関するご意見等（自由記述）
とにかくやってみることだと思いました。思い切って参加して良かったです。これからも継続をお願いします。
ネガティブな意見を書きましたが、生産性に対する考え方を再認識し、意識することができました。ありがとうございます。フォローアップの上の研修があれば、また参加を検討したいです。
もう少し早く開催して欲しかった。そうすれば職場の皆で、もう少し本質を突いた活動ができたと思う。
介護施設の多くが生産性向上ガイドラインの存在を認知しておらず、認知していてもきちんと見たことがないという現実がある。そのような介護施設にとっては、とてもためになるセミナーと思った。一方で、このようなありがたいセミナーを行っていることを知っている介護施設がほとんど無いので、可能であれば周知活動にもっと力を入れてもらえたらありがたいと思う。
解らないことを聞きやすい窓口にしてほしい
今回、パソコンとタブレットで発表のスライドを視聴しましたが、文字が小さく見にくかった。

<p>今回の取り組みは、今後の生産性向上の取り組みを進めていくのに大事な基本を学ばせていただきました。まだまだ思想的にはモヤモヤがありますが、職員とのディスカッションは初心を思い返す良い機会にもなり大変だけど面白いと感じております。この勢いで令和7年度介護職員の働きやすい職場環境づくり内閣総理大臣表彰及び厚生労働大臣表彰にも挑戦します。ありがとうございました。</p>
<p>今回は県の ICT 助成の件もありビギナーから傍聴させて頂いたが、大変参考になった。各事業所の取り組み事例を論集のような形で取りまとめて頂けると幸いです。</p>
<p>社会福祉法人は職員数が多く、事業所も規模が大きいものがあり、全体として取り組みの効果が出やすいです。しかし、地方では小さな法人による小規模事業所が多く、改善しても付け焼刃的なものになりがちだと思います。そういった事業所でも大きな効果がでるような事例があれば紹介していただきたいです。</p>
<p>取り組んだことに間違いはないのですが、一定の評価をしていただけるとよかったです。毎回、課題がありましたが、そのフィードバックがあまりなかったので、試行錯誤で進めました。</p>
<p>成果報告会においては、時間を超過したことにより発表が早口になったり、途中退出となったりした。発表施設等を選定しても良かったかと思う。どこの事業所も時間に余裕はそんなになんないと思います。</p>
<p>生産性をしていくうえで、加算（I）を取得するうえで、タイムスタディー調査が必要となってくるが、10分単位ごとの記録をどのようにメモをするのか知りたい。スタッフに、業務以外でたかが5日間かもしれないが負担が大きすぎるため、負担のないやり方、実際にしている施設の具他の方法が知りたい。</p>
<p>多くの職員に聞かせたいが時間が取れない。後日聞けるようにしてほしい。</p>

第5項 生産性向上の取組に関する介護事業所向けセミナーのまとめ

1. 本セミナーの実績・効果と生産性向上の取組における課題、今後の対応策について

(1) ビギナーセミナー

<ビギナーセミナーの実績と効果について>

本事業では、生産性向上の取組を進めていこうとしている介護サービス事業所の経営者層・従事者を主な対象として、生産性向上ガイドラインの内容をふまえた介護現場における生産性向上に取り組む意義や考え方、取組手順等を全国に広く普及させること、受講事業所が生産性向上の取組をはじめの一歩を促すことを目的にビギナーセミナーを開催した。

ビギナーセミナー開催直後アンケートの結果、回答者のうち約99%が本セミナーのプログラム全体について参考になったと回答していた。さらに、セミナーの受講で得られたと思うことをみると、主に「業務改善/生産性向上の取組の意義・考え方の理解」「業務改善/生産性向上を行うための手法」「現場の課題を解決するための手法」を得られたとの回答がみられたことから、多くの参加者はビギナーセミナーを受講することで、生産性向上の考え方や業務改善を行う手法等を知ることができたことが確認された。

さらに、ビギナーセミナー受講の2週間後以降に、受講者の取組状況等を確認するアンケート（有効回収数：926件）を実施した結果、「行っている途中」との回答も含めた取組の実施状況を見ると、「プロジェクト準備」は約59%（R5年度：約38%）、「課題の見える化」は約49%

（R5年度：約42%）、「実行計画の立案」は約29%（R5年度：約26%）、「改善活動の実施」は約21%（R5年度：約31%）、「取組の振り返り」は約14%（R5年度：約15%）であった。加えて、受講者が業務改善の取組を進める上で、今最も必要としているサポートの回答を見ると、ICT導入・デジタル化支援が最も多く求められ、次いで人材育成・意識改革の支援が主な回答としてみられていた。

※上記のR5年度のアンケート（回収数：170件）は、セミナー開催後1か月後以降に実施

<ビギナーセミナーの課題と対応策について>

本ビギナーセミナーの実施を通して見えてきた課題として、ビギナーセミナーの受講後に実際に取組を進められた事業所は一部に限られていた。また、受講者が最もハードルに感じていることとして、職員の意識の統一や理解の欠如、人材不足、時間の確保が主な課題として挙げられており、プロジェクトの組成といった取組の準備段階で躓いている事業所が多いことが確認された。

そのため、ビギナーセミナーの受講者に対する今後の支援では、ビギナーセミナーの受講者へのフォローを強化し、取組の頓挫を防止する仕掛けを行う必要がある。具体的には、都道府県介護生産性向上総合相談センター等の支援機関の案内及びセンターと連携した支援体制の構築、実行体制づくりに係る解説のプログラムへの組み込み、因果関係図のより詳細な作成方法等の実践をフォローする動画の配信、フォローアップセミナーへの誘導の強化、継続した参考情報の発信等を実施することが考えられる。

(2) フォローアップセミナー

<フォローアップセミナーの実績と効果について>

本事業では、生産性向上のビギナーセミナーに参加し、生産性向上の取組を開始しようと考えている介護サービス事業所の経営者層・従事者を対象として、課題の抽出や実施計画の作成等、事業所の生産性向上の実践を伴走的に支援するプログラムを通じて、地域におけるモデル事業所としての育成を実施すること、受講者に、業務の改善活動を継続的活動として取り組むために必要な推進スキルを習得してもらうことを目的にフォローアップセミナーを開催した。

フォローアップセミナー1回目の受講後アンケートの結果、セミナープログラムごとの受講者の理解度をみると、「十分理解した」「少し理解した」は、「業務改善の先に目指すもの～介護現場の生産性向上の考え方～」では、約47.7%、約51.6%、「因果関係図づくり」では、約39.8%、約58.2%、「生産性向上の取組（打ち手）の決定」では、約36.5%、約62.2%、「課題解決の道筋の文章化（課題・打ち手の言語化）」では、約30.9%、約66.1%と、9割以上の受講者が全てのプログラムについて十分または少し理解していることが確認された。

フォローアップセミナー2 回目の受講後アンケートの結果、セミナープログラムごとの受講者の理解度や参考度をみると、「十分理解した」「少し理解した」は、「講義：前回のおさらい」では、約 55.6%、約 42.5%、「参考になった」「少し参考になった」は、「業務改善の取組状況と課題・気づきの整理/発表・意見交換」では、約 59.9%、約 38.9%、「十分理解した」「少し理解した」は、「業務改善の「壁」の乗り越え方」では、約 33.7%、約 65.5%、「実行計画の見直し」では、約 35.7%、約 62.7%、と 9 割以上の受講者が全てのプログラムについて、一部または十分に理解・参考にできていることが確認された。

フォローアップセミナー3 回目の受講後アンケートの結果、受講者の参考度をみると、「参考になった」「少し参考になった」は、「成果報告会」では、約 73.8%、約 22.2%であった。また、「フォローアップセミナー全体（全3回）について、取組を進める上で参考になったか」では、約 78.7%、約 19.6%と 9 割以上の受講者がフォローアップセミナーの一連の受講を通じて、一部または十分に参考にできていることが確認された。

さらに、フォローアップセミナー3 回目の受講者の取組の実施状況をみると、「改善活動の実施」では、約 77%、「取組の振り返り」では、約 63%の事業所が行ったと回答していた。加えて、受講者が業務改善の取組を進める上で、現在感じている課題の回答をみると、「職員同士が意見を出し合える環境づくり」が約 18%と最も高く、次いで「取組の進捗管理やマネジメント」が約 16%、「継続して取組を実施するための体制づくり」が約 15%であった。

上記より、フォローアップセミナーの受講事業所のうち、約 8 割はセミナーを通じて「改善活動」を実施でき、受講事業所の約 6 割は「取組の振り返り」のステップまで進めることができたことから、本フォローアップセミナーは業務改善の取組を進める上で一定の効果が確認された。

<フォローアップセミナーの課題と対応策について>

今年度のフォローアップセミナーでは、受講事業所が直面する課題を解決しながら取り組みを前進させる伴走的な支援プログラムを行い、一定の有効性が確認された。一方で、いくつかの課題も明らかとなった。中でも、カリキュラムの途中でセミナーの受講を離脱する事業所が一定数存在することが主要な課題である。カリキュラムの途中でセミナーを離脱した事業所のうち、キャンセル理由の聞き取りに回答が得られた事業所からは、主な理由として「感染症の影響」や「組織変更」が挙げられた。また、「業務の多忙さ」や「経営層と現場の合意形成・組織の意思決定の不十分さ」といった理由も一部で見受けられた。特に、業務の多忙さや組織内の合意形成といった課題に対しては、これまでの支援が受動的な対応にとどまっており、個別相談を活用していない事業所への支援が不十分であること、さらにセミナーを通じた支援の継続性が確保しきれないことが本質的な課題と考えられる。

このため、今後の支援策として、セミナー受講者の離脱を防ぎ、支援の継続性を確保する仕組みを強化する必要がある。具体的には、セミナー受講事業所の情報を介護生産性向上総合相談センターへ共有し、事業所の状況に応じた個別支援につなげる体制を整える。センターによるフォローコールの実施など、アウトリーチ型の支援を行うことで、事業所の進捗状況や課題を定期的に把握するとともに受講事業所が抱える課題に適切なタイミングで対応できるようにする。また、経営層の関与を高めるため、セミナーの一部を経営層向けのセッションとして設計し、現場との意思決定の橋渡しを支援することも考えられる。さらに、セミナーを離脱した事業所に対しても、都道府県や介護生産性向上総合相談センターと連携して、個別のフォローアップを実施することで、再度支援を受ける機会を提供する。特に、離脱理由の一つである「業務の多忙さ」に配慮し、短時間で視聴可能な補助教材や解説動画を提供することで、事業所が無理なく学び続けられる環境を整える。これらの施策を通じて、セミナー受講事業所への支援をより能動的かつ継続的に行い、介護現場における生産性向上の取り組みを着実に推進していく。

加えて、受講者数の増加やオンライン開催形式への対応が求められる中で、双方向のコミュニケーションの確保が難しくなっていることも課題として挙げられる。

ワークショップにおいてはグループワークの参加者数を適正に制限し、受講者と講師の対話がより活発に行われる環境を整備することが求められる。特に、受講者が積極的に意見交換しやすいよう、1 グループあたりの人数を適切な規模に設定することで、学びの質の向上を図ることができる。また、セミナー終了後の学習支援として、特に相談が多かった「因果関係図づくり」や「実行計画の作成」に関する復習用の解説動画を配信することで、受講者が学びを振り返りながら理解を深める機会を提供することも有効であると考ええる。

さらに、成果報告会では、「成果報告書の提出が負担に感じる」という意見が一部見られたものの、「発表の機会があることで最後まで取り組むモチベーションにつながった」との前向きな声も多数寄せられた。このことから、受講事業所の取組を振り返り、成果を共有する機会は、今後のフォローアップセミナーにおいても継続的に設けるべきであると考えられる。こうした取り組みを通じて、フォローアップセミナーの支援効果を最大限に引き出し、より多くの事業所が実践的な学びを得られる仕組みの構築を目指していく必要がある。

(3) 個別相談

<個別相談の実績と効果について>

今年度の個別相談の実績として、通常の申込ルートを通じた相談対応件数は41件となり、前年(R5年度:34件)を上回る結果となった。加えて、新たな試みとしてチャットワークを活用した相談対応を実施し、より迅速かつ柔軟な支援を提供する体制を強化した。

また、個別相談を積極的に活用している事業所では、業務改善のPDCAサイクルを効果的に回すことができていた。特に、成果報告会では、業務フローの見直しやICTツールの活用といった具体的な改善策が進められた事例が複数報告されており、個別相談が実践的な支援手段として機能していることが確認された。

<個別相談の課題と対応策について>

今年度のセミナーにおいては、グループチャットを活用した新たな相談支援策を講じた一方で、個別相談の利用は一部の事業所に留まり、広く活用されるには至っていないという過年度事業からの継続した課題が浮き彫りとなった。特に、相談を申し込んだ事業所に対しては有意義な支援が提供できているものの、相談を申し込まない事業所に対しては支援の機会が生まれにくいという構造的な課題がある。この要因として、事業所からの相談を契機とする受動的な支援体制が中心となっていることが挙げられる。これにより、支援を必要としながらも、自発的に相談に至らない事業所へのアプローチが十分にできていない可能性がある。こうした課題を踏まえ、令和7年度の事業では、より能動的な支援体制を構築することが不可欠である。具体的には、前述の通り、都道府県介護生産性向上総合相談センター等と参加事業所の情報を共有し、相談を申し込んでいない事業所にも適切な支援が提供できる体制を整備すること、事業所の相談を待つのではなくこちらからアプローチを行い支援の裾野を広げることが考えられる。これらの施策を通じて、事業所とセンターの連携を強化し、より多くの事業所が支援を受けられる環境を整えることで、介護事業所の生産性向上の取組を後押ししていくことが必要である。

第4節 生産性向上の取組推進フォーラムの実施

第1項 目的・実施概要等

1. 目的

全世代型社会保障構築会議における「介護の生産性・質の向上（ロボット・ICT活用、協働化・大規模化の推進等）」や令和6年度介護報酬改定における「良質な介護サービスの効率的な提供に向けた働きやすい職場づくり」に関する加算等、介護現場における生産性向上への注目が更に高まっている中、本フォーラムでは、生産性向上に関する最新の政策及び先進的な取組を共有することで、介護サービス事業所における取組の実施ならびに自治体等の取組の支援を促し、介護分野における生産性向上の取組に対する気運を盛り上げることを目的とする。

2. 実施概要

(1) フォーラムの概要

図表 214 フォーラムの概要

フォーラム名	介護現場における生産性向上推進フォーラム
開催日時・場所・定員	大阪会場（会場 300 人程度、WEB3,000 名程度） ・ 3月12日（水）13:00～17:30：コングレコンベンションセンター 東京会場（会場 300 人程度、WEB3,000 人程度） ・ 3月18日（水）13:00～17:30：ベルサール半蔵門
開催方法	ハイブリッド型形式（WEB 会議システムによる配信と会場開催）
プログラムの概要	厚生労働省による施策動向の紹介、生産性向上の考え方とポイントについての講演、介護職員の働きやすい職場環境づくり内閣総理大臣表彰・厚生労働大臣表彰受賞事業所による講演、ケアプランデータ連携システムの活用事業所による取組報告、都道府県等による取組支援状況の報告、介護ロボットや ICT 機器の展示・体験
対象者	介護施設・事業所、病院・診療所、介護・福祉関連団体、中央省庁・地方自治体、広告・マスコミ、その他
プログラム（演者）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主催者挨拶/閉会挨拶 （厚生労働省 老健局 高齢者支援課 介護業務効率化/生産性向上推進室） ・ 生産性向上の取組の考え方とポイント （株式会社 TRAPE 代表取締役社長 鎌田 大啓 氏） ・ 介護職員の働きやすい職場環境づくり内閣総理大臣表彰・厚生労働大臣表彰受賞事業所による講演 （大阪会場：特別養護老人ホーム六甲の館、特別養護老人ホームゆめあまみ、特別養護老人ホームかるべの郷さざんか） （東京会場：特別養護老人ホーム六甲の館、特別養護老人ホーム悠西苑、介護付きホームメッツ長岡、ヤザキケアセンター紙ふうせん） ・ ケアプランデータ連携システムの活用事業所による取組報告 （大阪会場：ゆうらいふ居宅介護支援事業所、株式会社 279） （東京会場：株式会社トライドマネジメント） ・ 都道府県等による取組支援状況の報告 （大阪会場：大阪府、ひょうご介護テクノロジー導入・生産性向上支援センター、介護労働安定センター佐賀支部介護ロボット・ICT 相談窓口） （東京会場：長崎県、介護職場サポートセンターTOKYO、いきいき岩手支援財団岩手県高齢者総合支援センター）

(2) プログラム

本フォーラムのプログラムは以下のとおり。

図表 215 フォーラムのプログラム

時間 (目安)		プログラム
大阪会場	東京会場	
13:00～ (15分)	13:00～ (15分)	① 主催者挨拶・政策動向説明
13:15～ (30分)	13:15～ (30分)	② 生産性向上の取組の考え方とポイント
13:45～ (20分)	13:45～ (20分)	③ 介護テクノロジー開発企業による機器紹介 (出展企業へのインタビュー)
14:05～ (10分)	14:05～ (10分)	④ 休憩 1 回目
14:15～ (45分)	14:15～ (60分)	⑤ 介護職員の働きやすい職場環境づくり内閣総理大臣表彰・ 厚生労働大臣表彰 受賞事業所による取組報告
15:00～ (30分)	15:15～ (15分)	⑥ ケアプランデータ連携システムによる生産性向上の取組 事業所の発表
15:30～ (40分)	15:30～ (40分)	⑦ 登壇者によるパネルディスカッション
16:10～ (20分)	16:10～ (20分)	⑧ 介護テクノロジー開発企業による機器紹介 (出展企業へのインタビュー)
16:30～ (10分)	16:30～ (10分)	⑨ 休憩 1 回目
16:40～ (40分)	16:40～ (40分)	⑩ 都道府県等の取組支援状況報告
17:20～ (5分)	17:20～ (5分)	⑪ 事務連絡
17:25～ (5分)	17:25～ (5分)	⑫ 閉会挨拶

3. 周知方法・周知先

(1) 周知方法

フォーラム参加者募集のための周知方法は以下のとおり。

図表 216 フォーラムの周知方法一覧

利用媒体	実施者	詳細
ホームページ	業界団体	業界団体のホームページに案内を掲載。
	事務局	事務局のホームページのイベント周知欄に案内を掲載。
	マスメディア	各種メディアのホームページに案内を掲載。
メール	厚生労働省	全国 47 都道府県の介護保険担当課宛にメールでの案内を発信。
	自治体	管轄内の市町村、介護サービス事業所に対して案内を発信。
	業界団体	各業界団体より加入している介護サービス事業所に対して案内を発信。
	事務局	事務局より関連事業で関わっている自治体、事業所に対して案内を発信。
SNS	事務局	事務局が運営する Facebook グループにて案内を発信。
	その他	主催者、登壇者の SNS より案内を発信。
口コミ・紹介	自治体	管轄内の市町村、事業所に対して直接声がけ。
	業界団体	各業界団体より加入事業所に対して直接声がけ。
	フォーラム関係者	フォーラムの関係者である事務局、登壇者、関連事業委員より職場内、知人に直接声がけ。
プレスリリース	マスメディア	各種マスメディアよりプレスリリースを発信。

※フォーラム専用ホームページ：<https://kaigo-seisansei.com/forum2024/>

(3) 周知先

本フォーラムの開催にあたって、周知を行った周知先は以下のとおり。

図表 217 フォーラムの周知先一覧

周知先種別	周知先詳細
令和6年度 本事業の委員	株式会社 TRAPE 代表取締役兼 CEO / 鎌田 大啓 氏 一般社団法人全国介護事業者連盟 理事長 / 斉藤 正行 氏 社会福祉法人 友愛十字会 / 鈴木 健太 氏 日本大学文理学部 / 内藤 佳津雄 氏 公益社団法人全国老人福祉施設協議会 介護保険事業等経営委員会 / 服部 昭博 氏 早稲田大学 人間科学学術院 教授 松原 由美 氏 公益社団法人 全国老人保健施設協会 人材対策委員会副委員長 / 光山 誠 氏 一般社団法人日本在宅介護協会 理事 / 室井 勝一郎 氏
自治体	全国 47 都道府県、県下の市町村
業界団体	公益社団法人 全国老人福祉施設協議会

周知先種別	周知先詳細
	公益社団法人 全国老人保健施設協会 一般社団法人 日本在宅介護協会 一般社団法人 『民間事業者の質を高める』全国介護事業者協議会 一般社団法人 全国介護事業者連盟 公益社団法人 日本認知症グループホーム協会 全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会 一般社団法人 全国介護付きホーム協会 全国定期巡回・随時対応型訪問介護看護協議会 全国個室ユニット型施設推進協議会 一般社団法人 シルバーサービス振興会 公益社団法人 日本介護福祉士会 一般社団法人 日本介護支援専門員協会 日本ホームヘルパー協会（長寿社会開発センターが事務局を担う） 一般社団法人 日本福祉用具供給協会 一般社団法人 全国福祉用具専門相談員協会 公益財団法人 テクノエイド協会 一般社団法人 日本福祉用具・生活支援用具協会 社会福祉法人 全国社会福祉協議会 社会福祉法人 全国社会福祉法人経営者協議会 公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会 公益財団法人 介護労働安定センター 独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構 独立行政法人 福祉医療機構 公益社団法人 国民健康保険中央会 一般社団法人 全国訪問看護事業協会 一般社団法人 全国デイケア協会 一般社団法人 日本リハビリテーション病院・施設協会 一般社団法人 日本慢性期医療協会 公益社団法人 日本医師会 公益社団法人 日本看護協会 公益社団法人 日本理学療法士協会 一般社団法人 日本作業療法士協会 一般社団法人 日本言語聴覚士協会 全国社会福祉協議会 中央福祉人材センター
介護サービス事業所	本年度及び過年度の生産性向上関連セミナー事業に参加していた介護サービス事業所
マスメディア	株式会社高齢者住宅新聞社 株式会社環境新聞社 株式会社福祉新聞 中央法規出版株式会社 第一法規 株式会社 株式会社クイック 株式会社官庁通信社（JOINT） 共同通信社 独立行政法人 福祉医療機構（WAM NET）

その他	都道府県が設置する介護生産性向上総合相談センター 「介護ロボットの開発・実証・普及広報のプラットフォーム事業」における各相談窓口、リビングラボ窓口 「介護ロボットの開発・実証・普及広報のプラットフォーム事業」における実証フィールド 「介護ロボットの開発・実証・普及広報のプラットフォーム事業/ニーズ・シーズマッチング支援事業」におけるマッチング委員、マッチングサポーター
-----	--

4. 協賛団体

本フォーラムへの協賛団体は以下のとおり。

図表 218 フォーラムへの協賛団体一覧

団体名
公益社団法人全国老人福祉施設協議会
一般社団法人日本在宅介護協会
一般社団法人全国介護事業者連盟
公益社団法人日本認知症グループホーム協会
全国定期巡回・随時対応型訪問介護看護協議会
一般社団法人シルバーサービス振興会
公益社団法人日本介護福祉士会
一般社団法人日本介護支援専門員協会
一般社団法人日本福祉用具供給協会
公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会
公益財団法人介護労働安定センター
独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
独立行政法人福祉医療機構
公益社団法人国民健康保険中央会
公益社団法人日本理学療法士協会

5. 機器展示場への出展企業・団体
 各エリアにおける出展企業については、公募枠と抽出枠に分けて選定を行った。公募枠は、一般に公募を行い、設置した選定委員会において選定を行った。抽出枠は、フォーラムの登壇事業所が活用している介護テクノロジーから公募枠での選定機器とのバランスを考慮の上選定を行った。
- (1) 選定委員会委員の構成
 選定委員会委員は以下のとおり。

図表 219 選定委員会委員

氏名	所属・役職
鎌田 大啓	株式会社 TRAPE 代表取締役兼 CEO
鈴木 健太	社会福祉法人 友愛十字会
◎内藤 佳津雄	日本大学文理学部心理学科 教授
柴田 智広	九州工業大学 教授
松原 由美	早稲田大学 人間科学学術院 教授

※50 音順 敬称略

(2) 選定基準

選定においては、以下の選定基準に基づき採点を行った。機器の採択においては、介護テクノロジーの重点分野9分野16項目の幅広い分野から採択されるように配慮しつつ、採点結果の上位のものを採択した。

図表 220 選定基準

評価項目	評価ポイント
1. 介護の「質の向上」につながる機器・ソフトウェアであること	(1) 介護の質の向上について効果があるもの 1) 介護職員への効果 2) 利用者への効果 3) その他の関係者への効果
2. 業務時間等「量的な効率化」につながる機器・ソフトウェアであること	(1) 業務時間等「量的な効率化」について効果があるもの
3. 本フォーラムにおける出展が円滑に運営できること	(1) 会場出展で複数の出展経験があること (2) パンフレット等の紹介資料があること (3) 動画を用いた紹介資料があること

(3) 出展機器の決定

機器の採択においては、介護テクノロジーの重点分野9分野16項目の幅広い分野から採択されるように配慮しつつ、採点結果の上位のものを採択した。加えて、登壇事業所へヒアリングを行い、抽出枠についても選定を行った。決定した出展機器は以下のとおり。

図表 221 出展機器一覧

分野	会社名	機器名
移乗支援	マッスル株式会社	ROBOHELPER SASUKE
	シーホネンス(株)	リコロール
	FUJI	Hug
移動支援	パナソニック株式会社	歩行トレーニングロボット
排泄支援	DFree 株式会社	排泄予測デバイス DFree
入浴支援	株式会社金星	ピュアット
	積水ホームテクノ	ウェルスリフトキャリーチルト (WLC-T)
見守り・コミュニケーション	コニカミノルタ QOL ソリューションズ株式会社	HitomeQ ケアサポート
	パラマウントベッド株式会社 /芙蓉開発株式会社	眠り CONNECT 眠り SCAN 眠り SCAN eye タイムスタディアプリ「ときKANRI」 サニタリー利用記録システム (トイレセンサー) 安診ネット
介護業務支援	株式会社最中屋	ハカルト
	ND ソフトウェア株式会社	「ほのぼの」シリーズ
	アイコム	インカム
	セントワークス株式会社	介護保険請求ソフト SuisuiRemon
機能訓練支援	株式会社 Moff	モフトレ
	TANOTECH 株式会社	モーショントレーニングツール TANO
食事・栄養管理支援	PLIMES 株式会社	ウェアラブル嚥下計 / 摂食嚥下モニタリングサービス「GOKURI」
認知症生活支援・認知症ケア支援	アーバン警備保障株式会社	iTSUM03

第2項 開催結果

1. 申込者数及び参加者数

本フォーラムの申込者数及び参加者の実績は以下のとおりとなった。

図表 222 申込者数及び参加者

開催地及び 開催日時	申込者数			参加者数		
	全体	会場	オン ライン	全体	会場	オン ライン
全体	4,232	751	3,481	3,333	522	2,811
大阪会場 3月12日(水) 13:00～	2,108	334	1,774	1,699	230	1,469
東京会場 3月18日(火) 13:00～	2,124	417	1,707	1,634	292	1,342

2. フォーラムランディングサイトへのアクセス実績

フォーラムランディングサイトにおける申込媒体ごとのアクセス実績は以下のとおりであった。

図表 223 フォーラムランディングサイトのアクセス実績 (ユーザー数)

アクセス媒体	全体	PC	スマート フォン	タブレット	不明
アクセス人数 (人)	10,771	8,822	1,895	54	0

※集計期間は、サイトのオープン 2024/12/9～3/25

第3項 フォーラムアンケート結果等

1. アンケート結果概要

(1) フォーラム申込アンケート結果

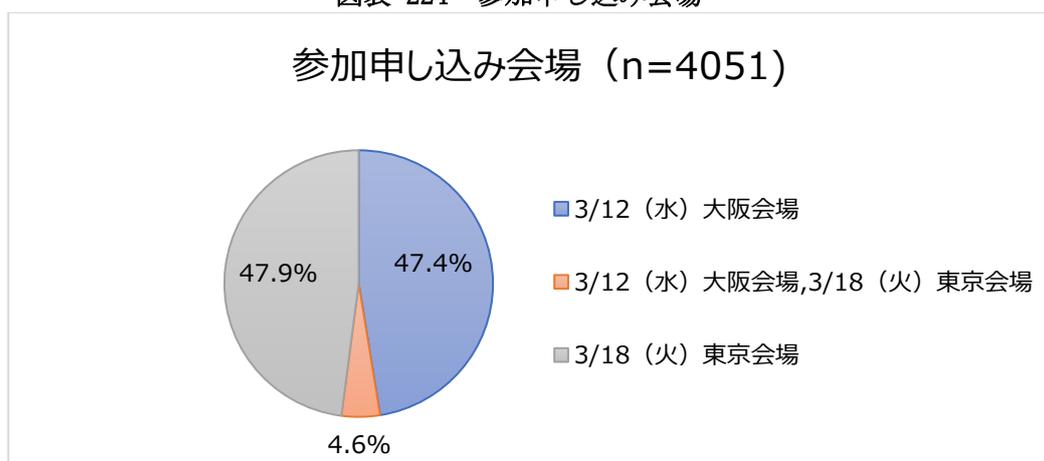
有効件数：4051 件

アンケート結果は以下のとおり。

1) 参加申し込み会場（1つ選択）

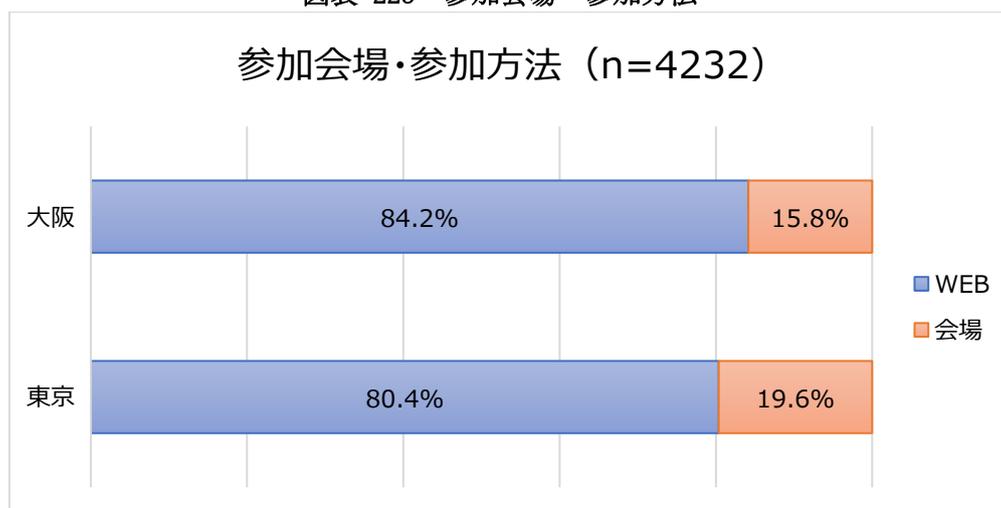
参加申し込みをしたフォーラムの会場をみると、「3/18（火）東京会場」が47.9%と最も高く、次いで「3/12（水）大阪会場」が47.4%、「3/12（水）大阪会場, 3/18（火）東京会場」が4.6%となっている。

図表 224 参加申し込み会場



参加申し込みをしたフォーラムの会場ごとの参加方法をみると、「3/12（水）大阪会場（WEB）」が84.2%と最も高く、次いで「3/18（火）東京会場（WEB）」が80.4%、「3/18（火）東京会場（会場）」が19.6%となっている。

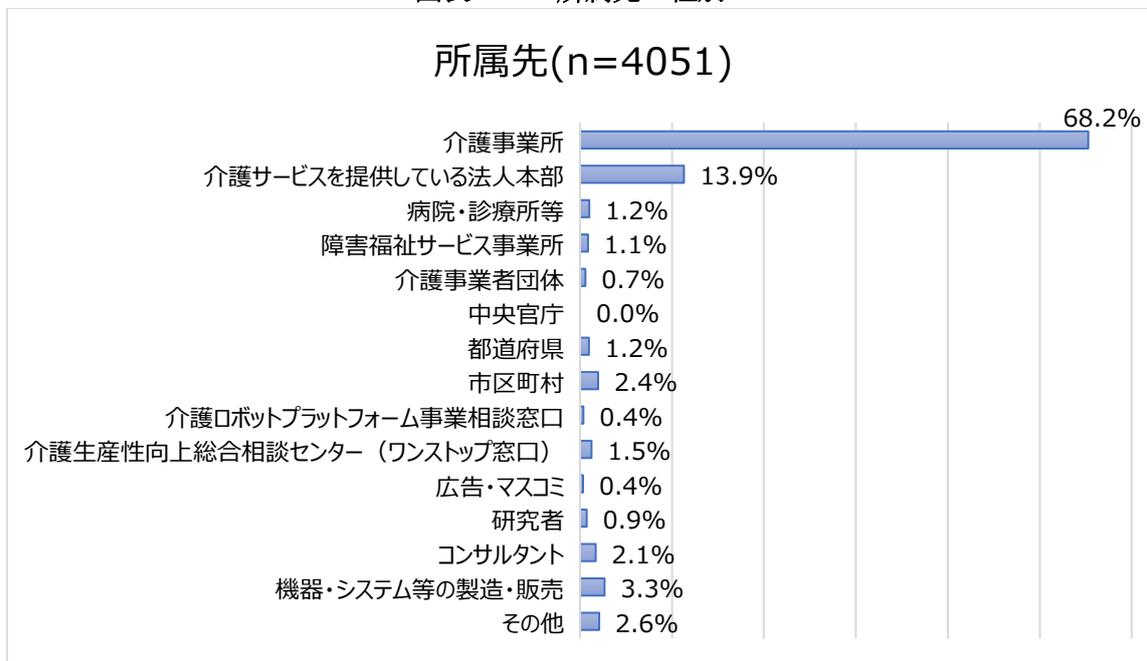
図表 225 参加会場・参加方法



2) 所属先の種別（1つ選択）

所属先の種別をみると、「介護事業所※高齢者向け住まいの方は、介護事業所を選択ください」が 68.2%と最も高く、次いで「介護サービスを提供している法人本部」が 13.9%、「機器・システム等の製造・販売」が 3.3%となっている。

図表 226 所属先の種別



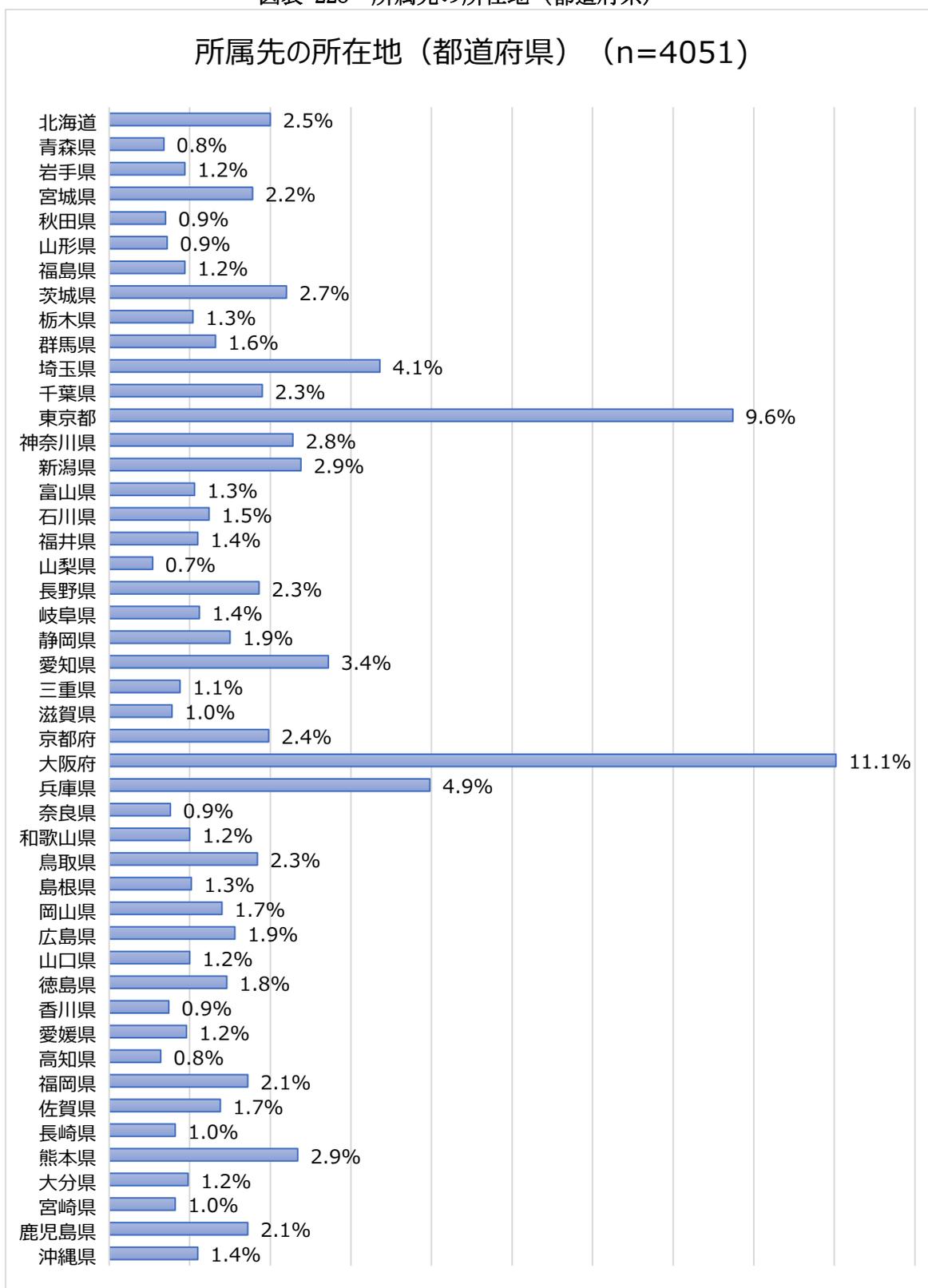
図表 227 その他の内容（主な回答）

その他の内容（自由記述）
IT 企業
シンクタンク
フリーランス
医師会
一部事務組合
介護・福祉系 NPO の中間支援団体
介護福祉士養成施設教員
介護労働安定センター
給食
金融機関
建築会社
国民健康保険団体連合会
社会福祉協議会
社会福祉士会
社会保険労務士事務所
身元保証サービス
人材サービス
地域包括支援センター
通信事業者
福祉医療機器貸与販売事業所
福祉用具製造

3) 所属先の所在地（都道府県）（1つ選択）

所属先の所在地（都道府県）をみると、「大阪府」が11.1%と最も高く、次いで「東京都」が9.6%、「兵庫県」が4.9%となっている。

図表 228 所属先の所在地（都道府県）

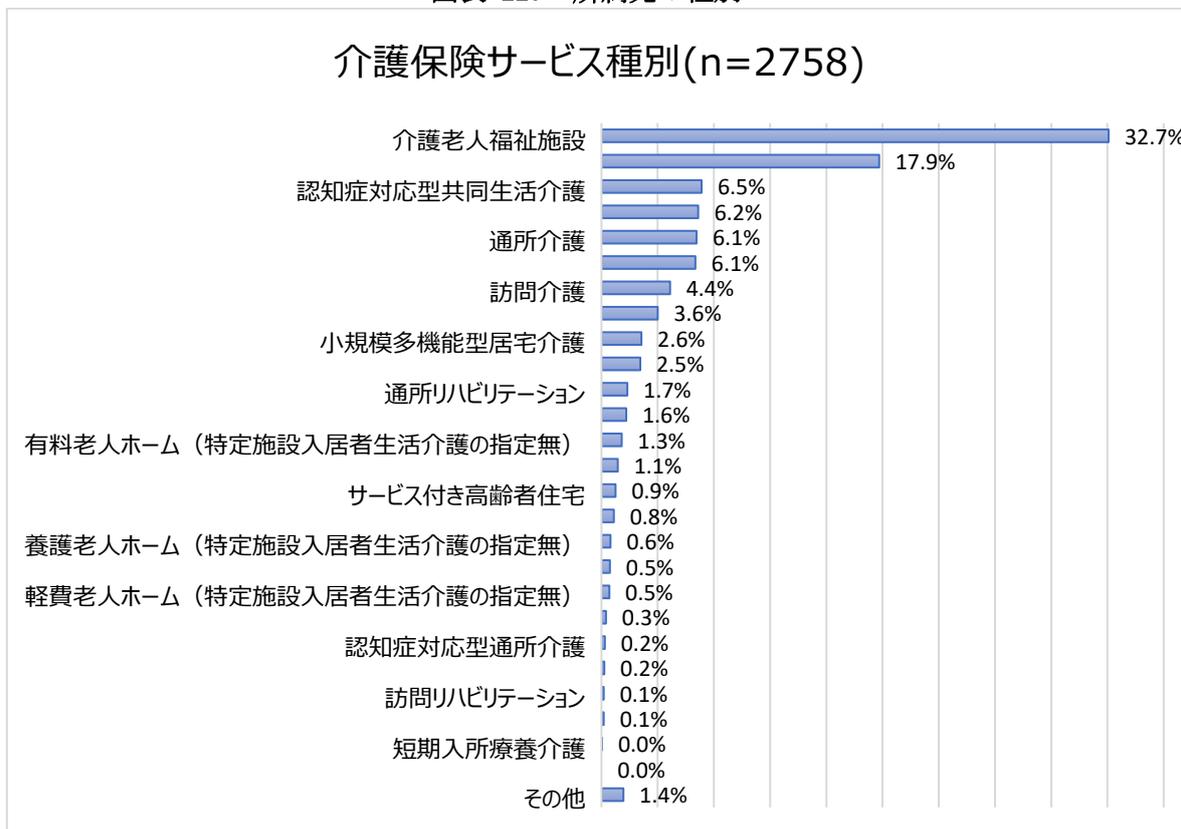


<「所属先の種別」で介護事業所と回答した方のみ>

4) サービス種別 (1つ選択)

サービス種別をみると、「介護老人福祉施設」が32.7%と最も高く、次いで「介護老人保健施設」が17.9%、「認知症対応型共同生活介護」が6.5%となっている。

図表 229 所属先の種別



※サービス付き高齢者住宅は（特定施設入居者生活介護の指定無）

図表 230 その他の内容（主な回答）

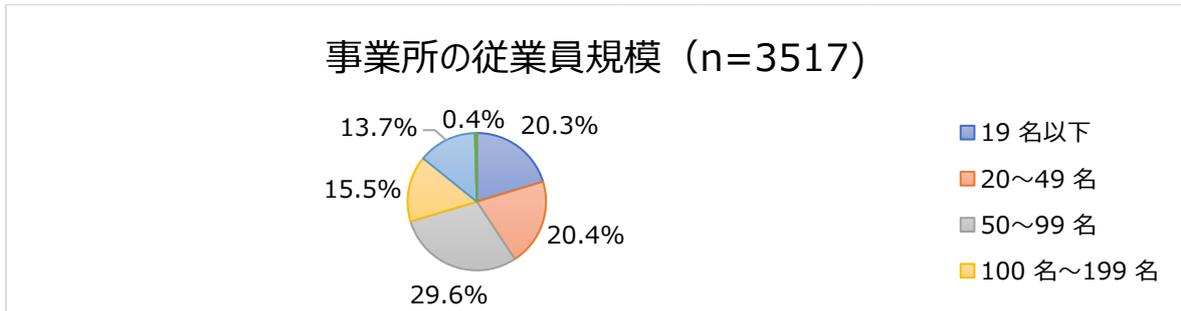
その他の内容（自由記述）
介護事業統括部所
介護事業部
介護予防公共サービス
介護予防支援事業所
相談支援専門員
総合事業（介護予防特化型）
地域包括支援センター
福祉用具貸与・販売
複合施設（小規模、認通、GH、定期巡回）
療養介護事業所 医療型障害児入所施設

5) 事業所の従業員規模 (1つ選択)

事業所の従業員規模みると、「50～99名」が29.6%と最も高く、次いで「20～49名」が

20.4%、「19名以下」が20.3%となっている。

図表 231 貴事業所の従業員規模をお答えください

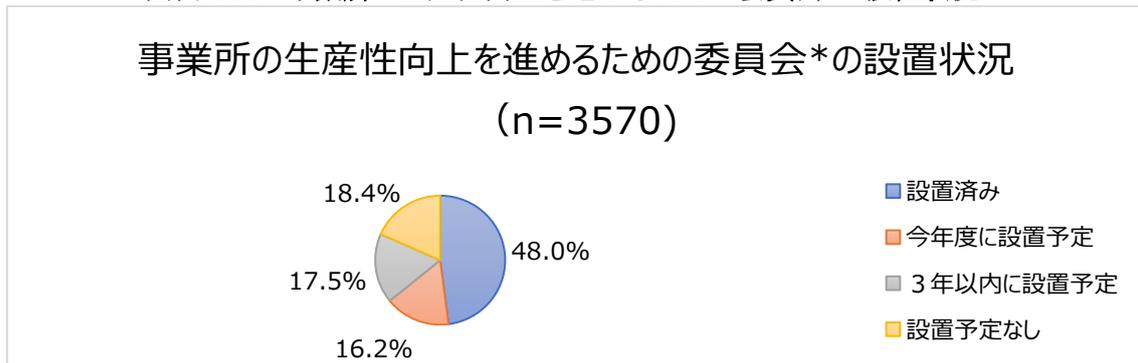


6) 事業所の生産性向上を進めるための委員会*の設置状況 (1つ選択)

事業所の生産性向上を進めるための委員会*の設置状況をみると、「設置済み」が48.0%と最も高く、次いで「設置予定なし」が18.4%、「3年以内に設置予定」が17.5%となっている。

*生産性向上を進めるための委員会：令和6年度介護報酬改定において施設・居住・入所系サービスに義務づけられた、「利用者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減に資する方策を検討するための委員会」及びこれに準じる委員会を想定したものです。義務づけられたサービス種別に関わらず全サービスにおいてお答えください。

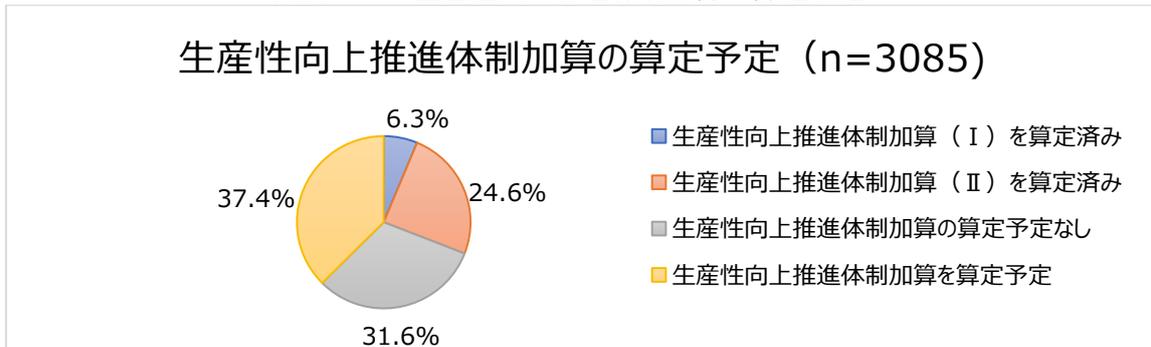
図表 232 事業所の生産性向上を進めるための委員会*の設置状況



7) 生産性向上推進体制加算の算定予定 (1つ選択)

生産性向上推進体制加算の算定予定をみると、「生産性向上推進体制加算を算定予定」が37.4%と最も高く、次いで「生産性向上推進体制加算の算定予定なし」が31.6%、「生産性向上推進体制加算(Ⅱ)を算定済み」が24.6%となっている。

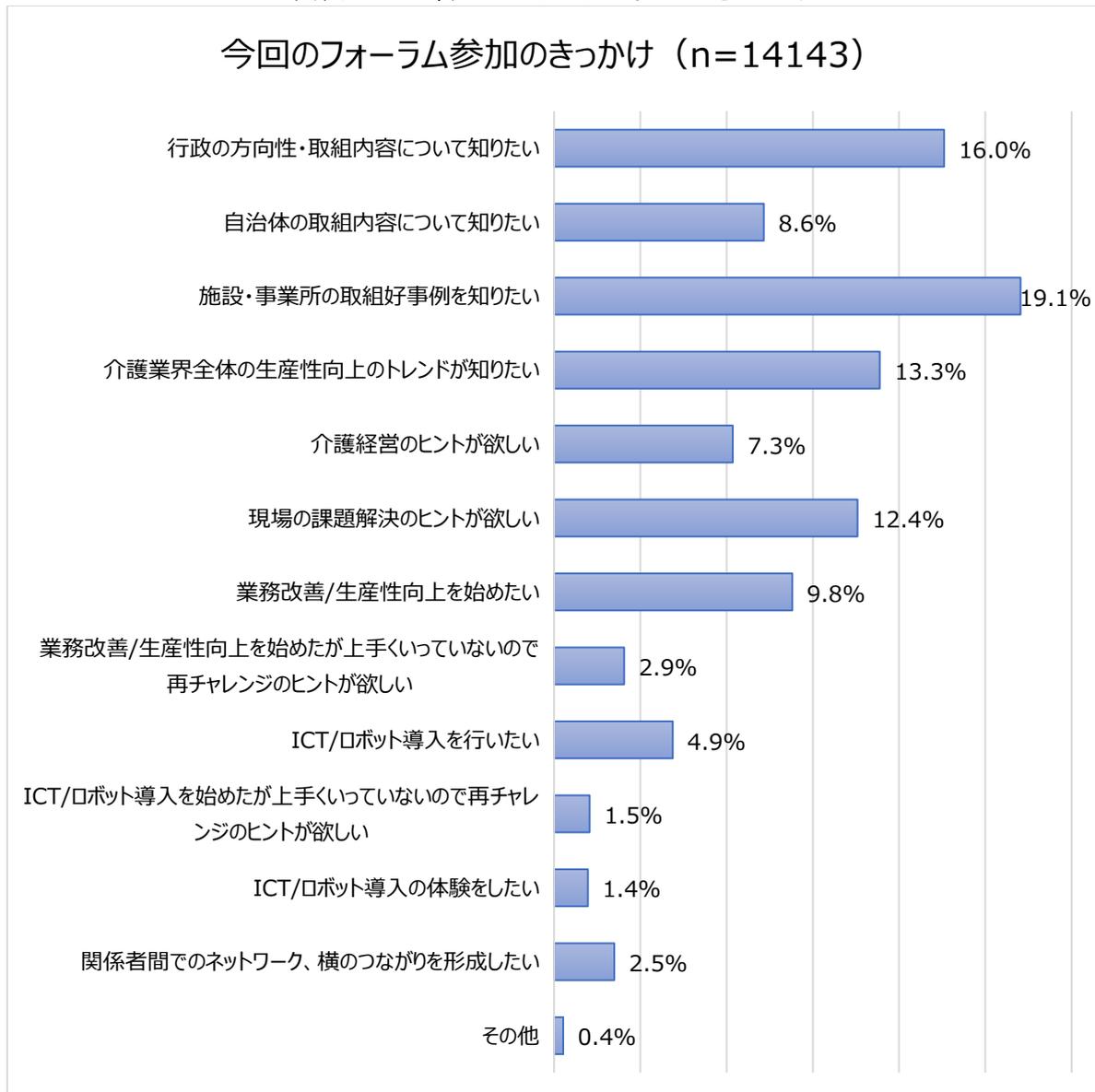
図表 233 生産性向上推進体制加算の算定予定



8) 今回のフォーラム参加のきっかけ（複数選択可）

今回のフォーラム参加のきっかけをみると、「施設・事業所の取組好事例を知りたい」が19.1%と最も高く、次いで「行政の方向性・取組内容について知りたい」が16.0%、「介護業界全体の生産性向上のトレンドを知りたい」が13.3%となっている。

図表 234 今回のフォーラム参加のきっかけ



図表 235 その他の内容（主な回答）

その他の内容（自由記述）
来年度表彰の応募をしようと考えているため
傍聴取材を行うため。
補助金の要件となっているため
生産性向上推進体制加算の算定に何が必要か知りたい
生産性向上推進事業ビギナーフォローアップセミナー
最新の情報を入手し、ケアテック製品の普及に活かしたい
今後の方向性、現場で実際どのように捉えているのか知りたい

現状を把握したい 他事業所の状況を知りたい
介護福祉士の養成教育カリキュラム
加算の事や、どのように対応していくのか知りたい
ケアプランデータ連携システムについて知りたい
ICT 等導入でどれだけ業務削減につながるか知りたい

9) フォーラムに期待すること (自由記述)

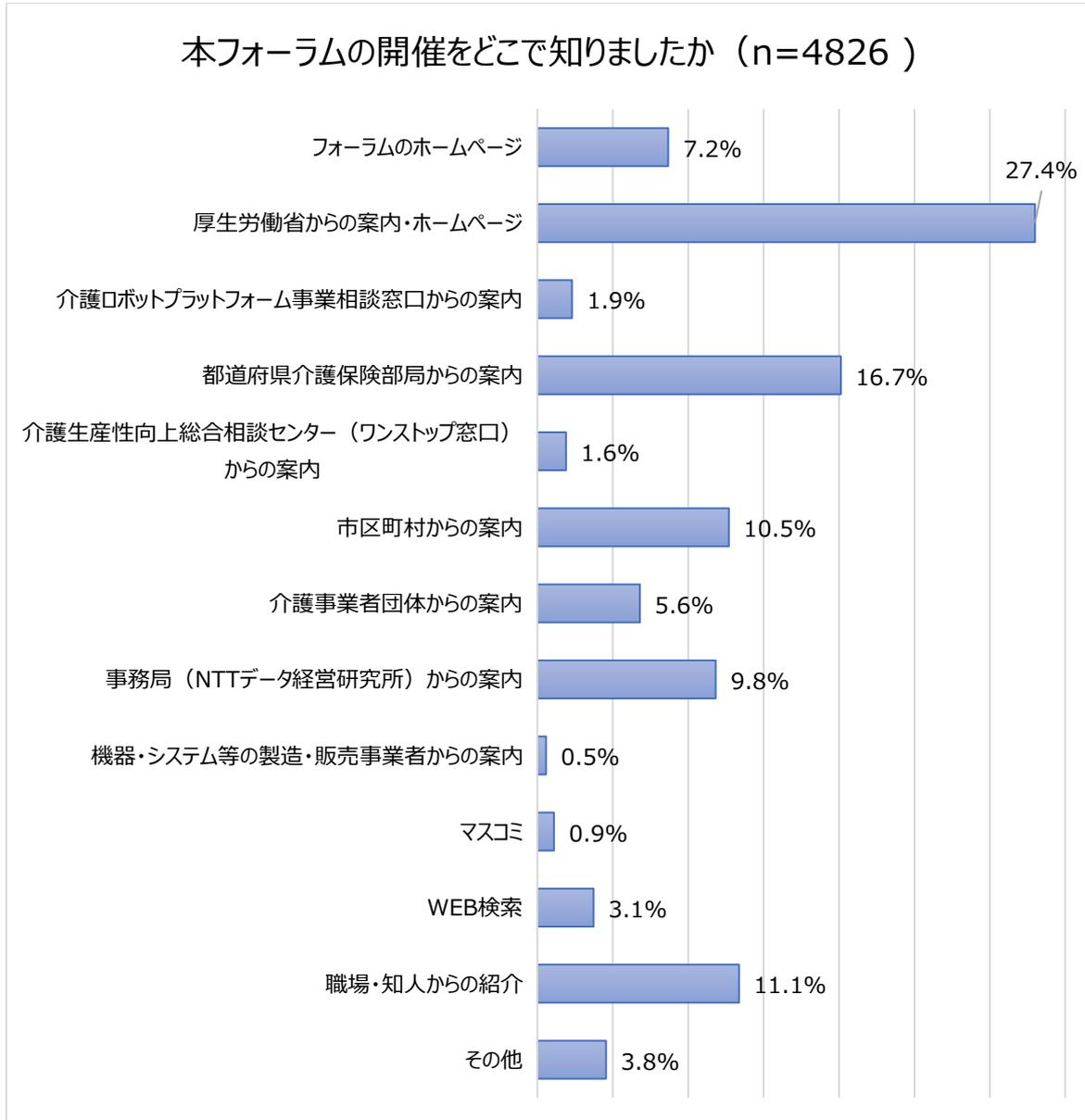
図表 236 フォーラムに期待すること (主な回答)

フォーラムに期待すること (自由記述)
令和7年度の介護関連の補助金動向を知りたい
様々な成功事例や困難事例を知り、施設の生産性向上につなげたい。
様々な角度から生産性向上に向けた取り組みを学び、更なる向上を図るためのヒントがほしいです。
本年度導入するにあたり、どうしてよいかわからない。 まずスタートを教えて欲しい。
北欧福祉と比べて生産性が非常に低いのはなぜかの解明
他事業所の取り組みから参考にできるところを取り入れたい。コスト面やメリット・デメリットもわかると、より具体的な検討材料になるので期待しています。
生産性向上推進体制加算取得について知りたい
成功例だけでなく失敗例も教えてほしい。
人手不足の中、最低限どのような体制をとったら良いのか学びたい
事業所発展のためのヒント・情報収集になる内容
現場でどう取り組んでいくか、具体例が聞きたい。事業所数が多い場合の法人としての取り組み方について聞きたい。
業務改善／生産性向上を図り、働きやすい職場づくりをどう進めたら良いか知りたい。
機器導入後の成功例 (人員確保へ繋がったかなど) を伺いたい
機械の導入などだけではなく、日々の業務を改善し、積み重ねから生産性向上をさせた事例など。

10) 本フォーラムの開催をどこで知ったか (複数選択可)

本フォーラムの開催をどこで知ったかをみると、「厚生労働省からの案内・ホームページ」が27.4%と最も高く、次いで「都道府県介護保険部局からの案内」が16.7%、「職場・知人からの紹介」が11.1%となっている。

図表 237 本フォーラムの開催をどこで知りましたか



図表 238 その他の内容 (主な回答)

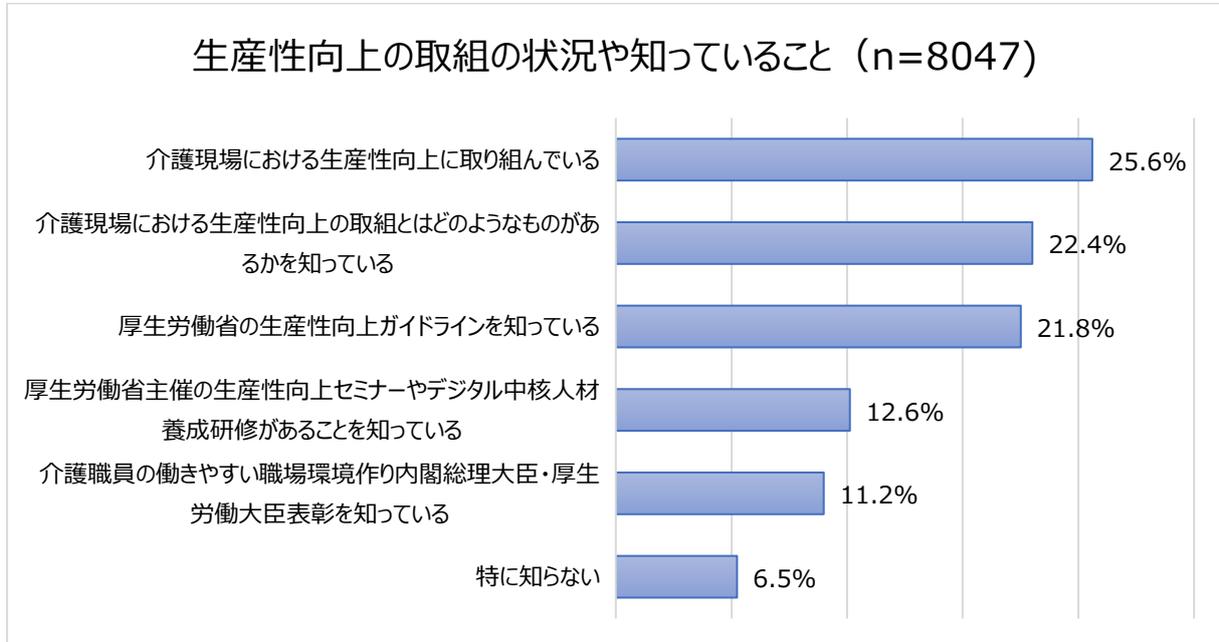
その他の内容 (自由記述)
福祉新聞
日本介護福祉士養成施設協会
日本介護支援専門員協会からの案内
日本医師会
独立行政法人福祉医療機構 (WAM) からの案内
地域包括支援センターから

全老健のHP
全国老施協より
全国介護事業所連盟
全国デイ・ケア協会
在宅協からの案内
厚生労働省のFacebook
介護労働安定センター
介護ニュースサイト JOINT
シルバーサービス振興会
ケアマネドットコム
ケアテックス東京
ATC エイジレスセンターの案内メール

1 1) 生産性向上の取組の状況や知っていること（複数選択可）

生産性向上の取組の状況や知っていることをみると、「介護現場における生産性向上に取り組んでいる」が 25.6%と最も高く、次いで「介護現場における生産性向上の取組とどのようなものがあるかを知っている」が 22.4%、「厚生労働省の生産性向上ガイドラインを知っている」が 21.8%となっている。

図表 239 生産性向上の取組の状況や知っていること



1 2) 本フォーラムに関するご意見等（自由記述）

図表 240 本フォーラムに関するご意見等（主な回答）

本フォーラムに関するご意見等があればご記入下さい（自由記述）
理解が高まるフォーラムであることを期待します。
予定と重なっており、途中で退室せねばならないため、アーカイブ配信があると助かります。
訪問介護と施設介護の壁を無くしてほしい。
補助金情報があれば知りたいです。
勉強不足で大変恐縮ではございますが、分かりやすく実効性の高いフォーラムを期待しております。
表彰される皆さんの活動内容を知り参考にしたい
年度末のデータ送信について詳しく知りたい。
定期的にフォーラムや研修会を開催して頂き、参考にしたいです。
生産性向上の理念と、それを実現する金銭的裏付け（もちろん、補助金など使える資金を含め）、現場の課題解決の優先順位の考え方、そういった成功事例からのガイドラインがあれば、と思う。
生産性向上での取り組みを現場で活かして、現場での身体的、精神的な負担を軽減できるヒントがほしい。よろしくお願ひ致します。
取り組みやすい小さな項目も参考にしています。
参加者間で名刺交換などできるきっかけがあれば良いです。
限られた資源（人・物・時間）をマネジメントし業務の改善、快適化を行う（少ない職員で最大限の成果を出す）事を学びたい

介護福祉の現場に効率や生産性向上という言葉を持ち込む際に、何を削ってはいけないのかについても発信してもらいたい 人件費を削って生産性が向上したと言われても困る
介護現場では限られた職員で運営しているため、生産性の向上を推進していくことは必須です。生産性を向上しやすくするために、一定程度の設備投資が必要であり、行政からは手厚い支援をいただきたいが、事業によっては支援を得られないものもございます。改めて包括的に全業種を補える施策が取られるようフォーラムには期待しております。
WEB があり有り難い。人員不足・予算不足で県外に行くことが出来ない。楽しみにしています。
ICT に不慣れなスタッフが扱えるようになるための工夫があったら教えていただきたいです。
5S の定着・継続していく働きかけはどういったものがあるか。5S 以外の取り組み、どういったものに取り組んでいる介護事業所が多いのか。
生産性向上に効果があると認められる機器やソフトウェアのリスト一覧を送信して欲しい。
公開討論が聞ける機会があり良かったと思います。

(2) フォーラム参加後アンケート結果

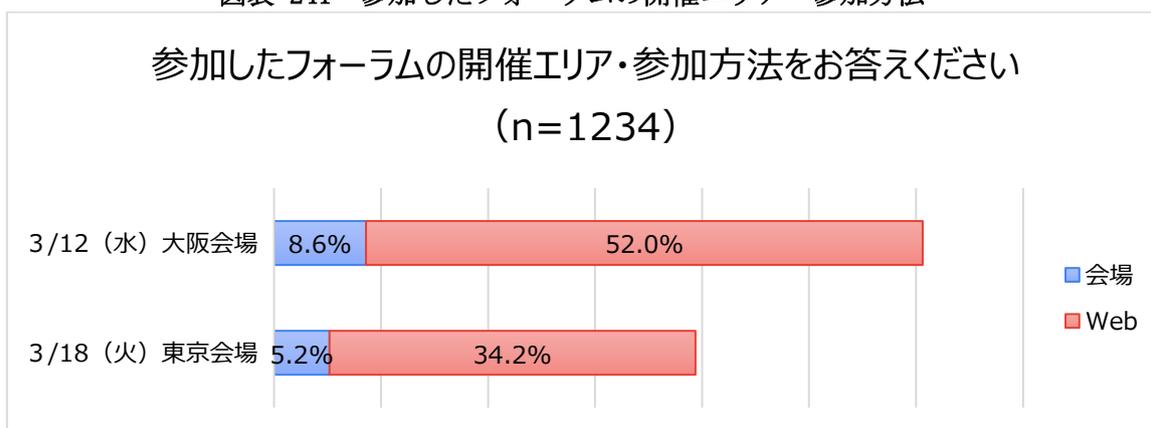
有効件数：1217 件

アンケート結果は以下のとおり。

1) 参加したフォーラムの開催エリア・参加方法（複数選択可）

参加したフォーラムの開催エリア・参加方法をみると、「3/12（水）大阪会場（Web）」が 52.0%と最も高く、次いで「3/18（火）東京会場（Web）」が 34.2%、「3/12（水）大阪会場（Web）」が 8.6%となっている。※但し 3/19（水）時点の集計

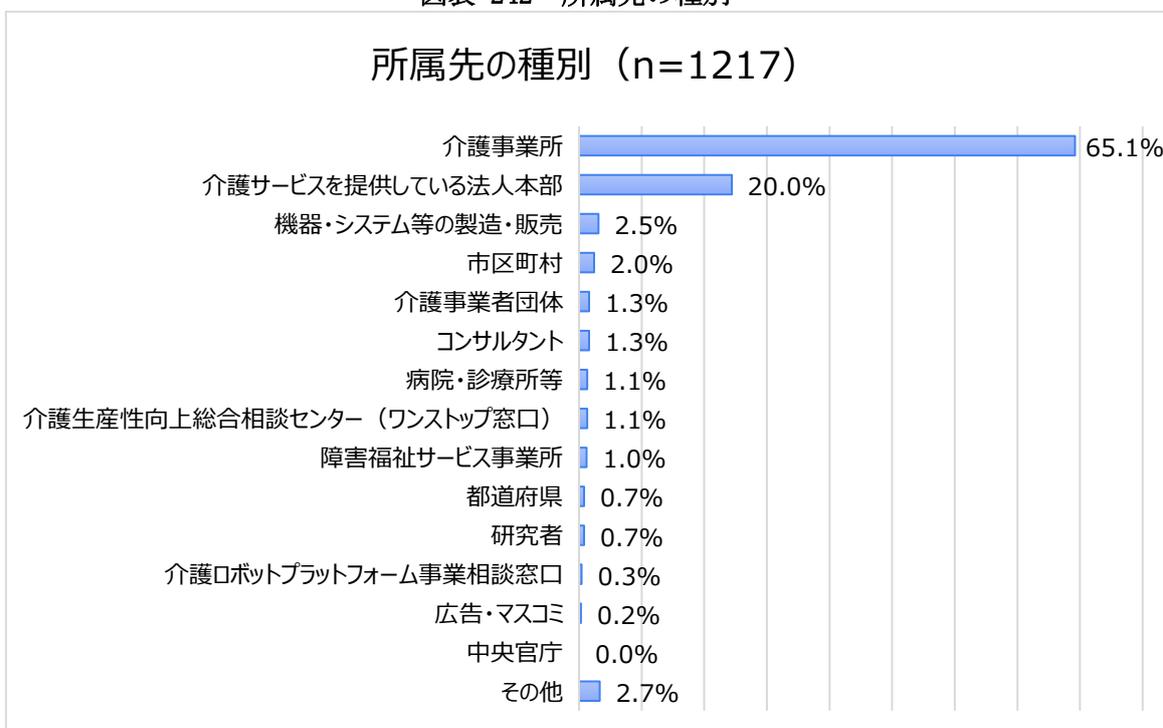
図表 241 参加したフォーラムの開催エリア・参加方法



2) 所属先の種別（1つ選択）

所属先の種別をみると、「介護事業所※高齢者向け住まいの方は、介護事業所を選択ください」が 65.1%と最も高く、次いで「介護サービスを提供している法人本部」が 20.0%、「その他」が 2.7%となっている。

図表 242 所属先の種別



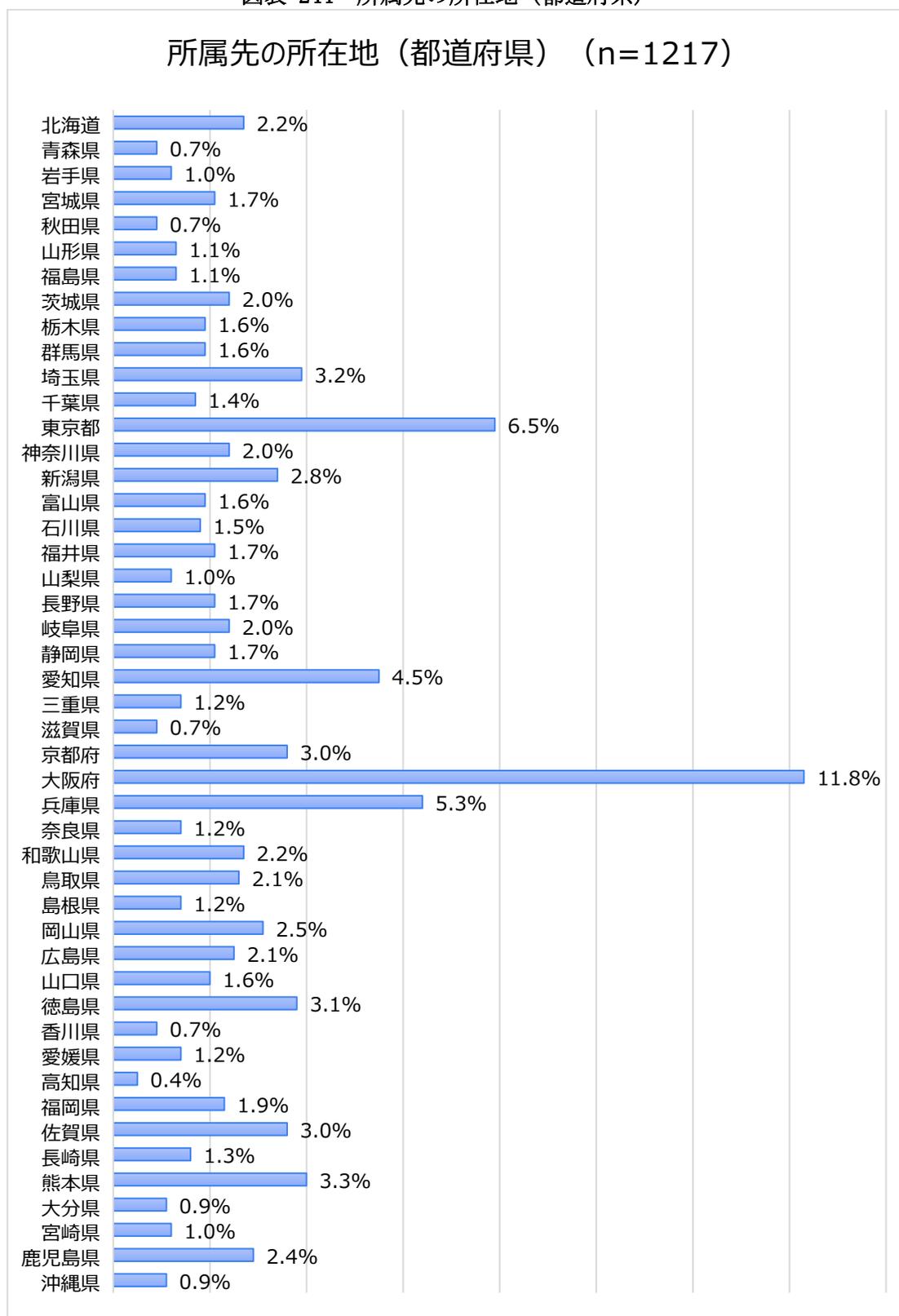
図表 243 その他の内容（主な回答）

その他の内容（自由記述）
M&A 仲介会社
一部事務組合
介護・福祉系 NPO の中間支援団体
介護職の派遣等の人材サービス
教育（介護福祉士養成）
介護労働安定センター
社会福祉施設協議会
社会保険労務士（介護事業者の人事的側面と生産性向上の総合的な経営支援を実施）
第三者評価機関
福祉用具貸与・販売

3) 所属先の所在地（都道府県）（1つ選択）

所属先の所在地（都道府県）をみると、「大阪府」が11.8%と最も高く、次いで「東京都」が6.5%、「兵庫県」が5.3%となっている。※但し3/19（水）時点の集計

図表 244 所属先の所在地（都道府県）

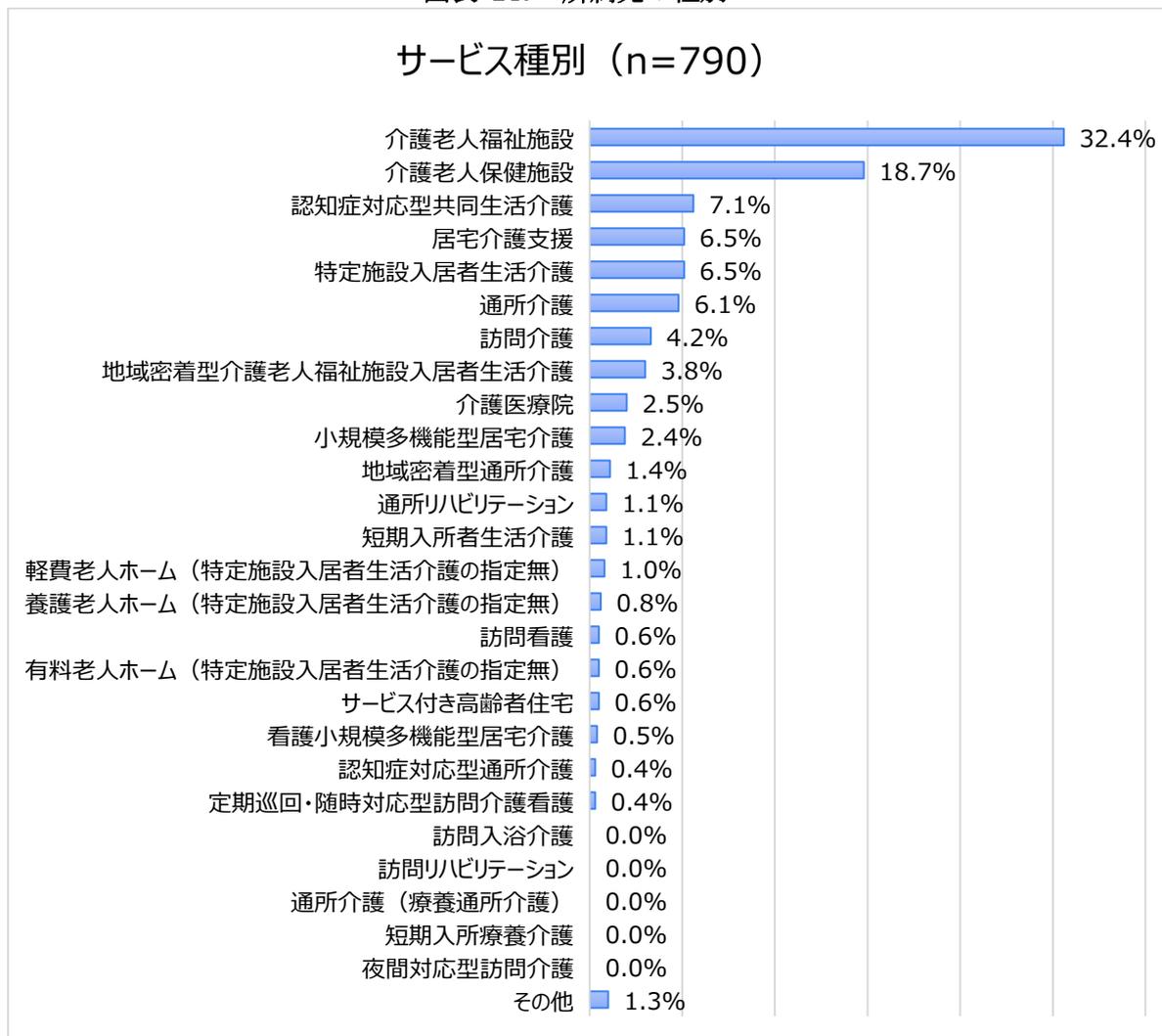


<「所属先の種別」で介護事業所と回答した方のみ>

4) サービス種別 (1つ選択)

サービス種別をみると、「介護老人福祉施設」が32.4%と最も高く、次いで「介護老人保健施設」が18.7%、「認知症対応型共同生活介護」が7.1%となっている。

図表 245 所属先の種別



※サービス付き高齢者住宅は (特定施設入居者生活介護の指定無)

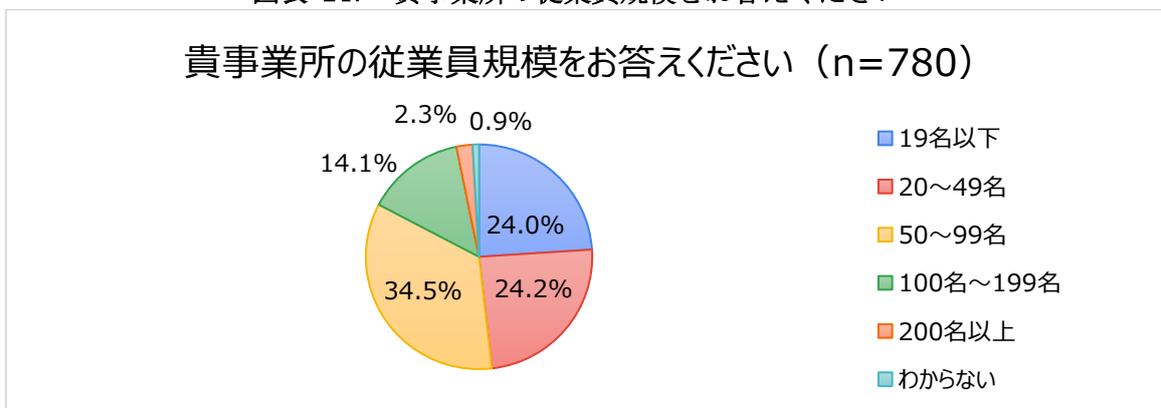
図表 246 その他の内容 (主な回答)

その他の内容 (自由記述)
介護予防施設
障害グループホーム障害デイサービス
地域包括支援センター
福祉用具貸与・販売
福祉用具貸与事業所
包括支援センター (委託)

5) 事業所の従業員規模 (1つ選択)

事業所の従業員規模をみると、「50～99名」が34.5%と最も高く、次いで「20～49名」が24.2%、「19名以下」が24.0%となっている。

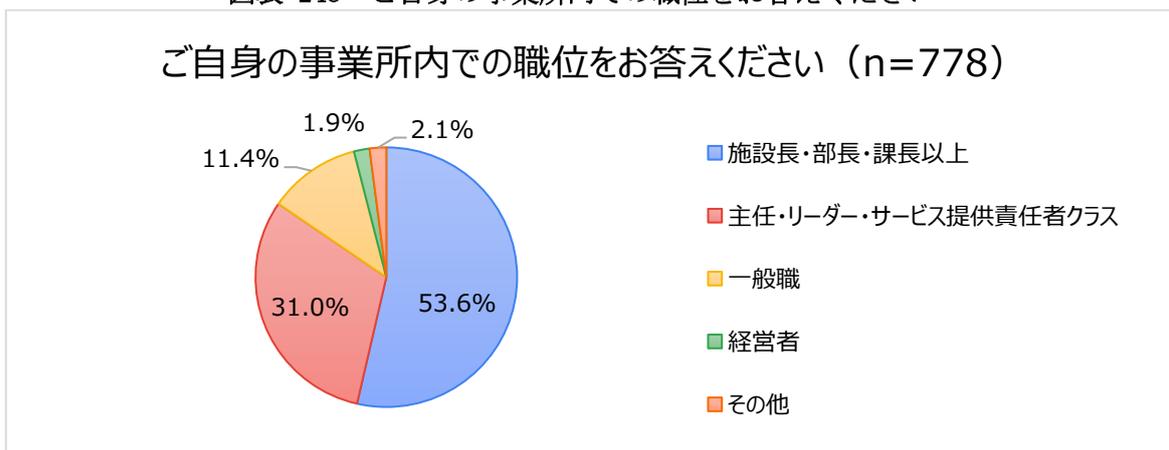
図表 247 貴事業所の従業員規模をお答えください



6) 事業所内での職位 (1つ選択)

事業所内での職位をみると、「施設長・部長・課長以上」が53.6%と最も高く、次いで「主任・リーダー・サービス提供責任者クラス」が31.0%、「一般職」が11.4%となっている。

図表 248 ご自身の事業所内での職位をお答えください



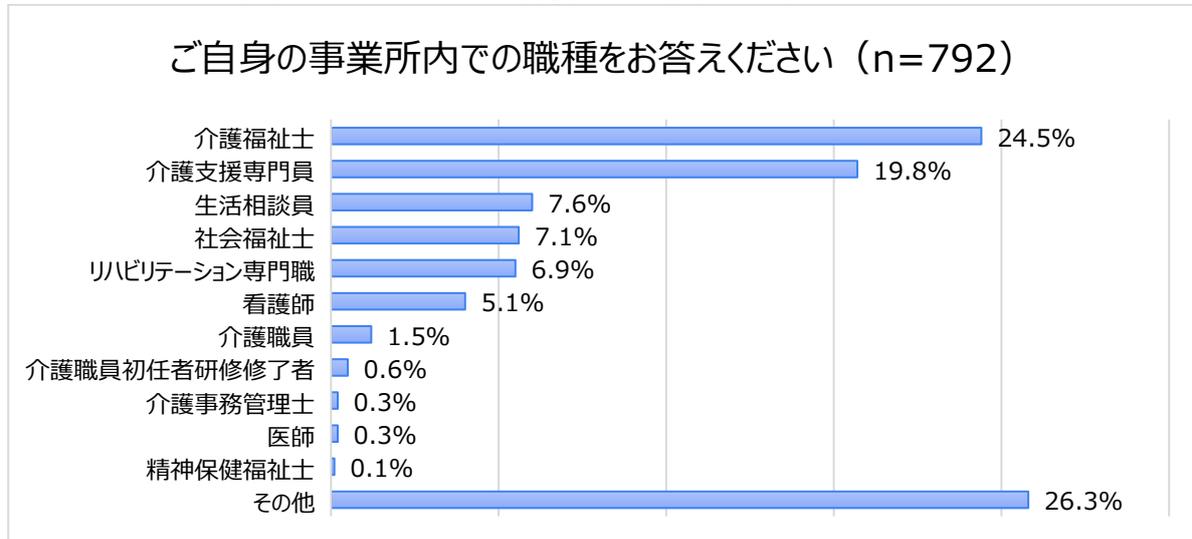
図表 249 その他の内容 (主な回答)

その他の内容 (自由記述)
アルバイト
パート介護員
管理者
係長職
常勤ヘルパー

7) 事業所内での職種 (1つ選択)

事業所内での職種をみると、「その他」が 26.3%と最も高く、次いで「介護福祉士」が 24.5%、「介護支援専門員」が 19.8%となっている。

図表 250 ご自身の事業所内での職種をお答えください



図表 251 その他の内容 (主な回答)

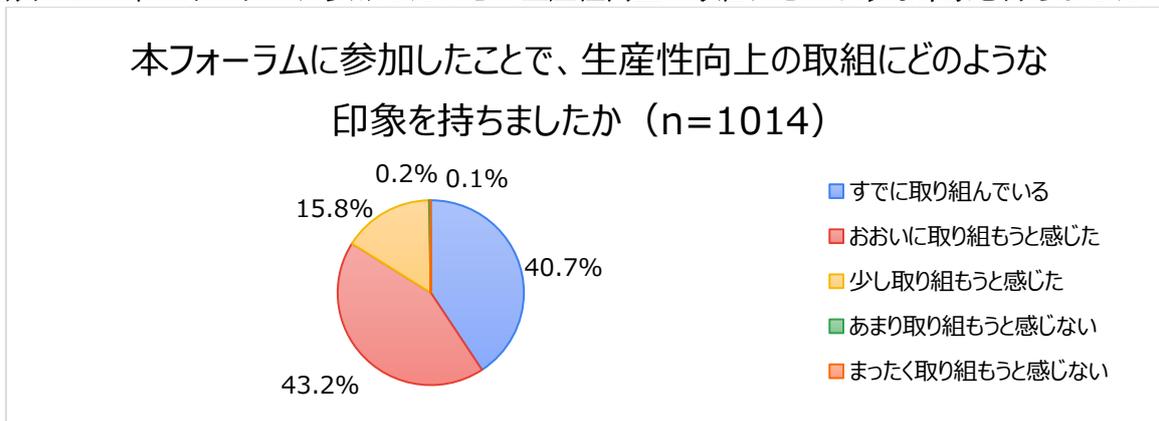
その他の内容 (自由記述)
管理栄養士
機能訓練士
経営企画
事務職
診療情報管理士
総括
福祉用具専門相談員

< 「所属先の種別」で 介護事業所、介護サービスを提供している法人本部と回答した方のみ >

8) 本フォーラムに参加したことで生産性向上の取組に持った印象 (1つ選択)

本フォーラムに参加したことで生産性向上の取組に持った印象をみると、「おおいに取り組もうと感じた」が43.2%と最も高く、次いで「すでに取り組んでいる」が40.7%、「少し取り組もうと感じた」が15.8%となっている。

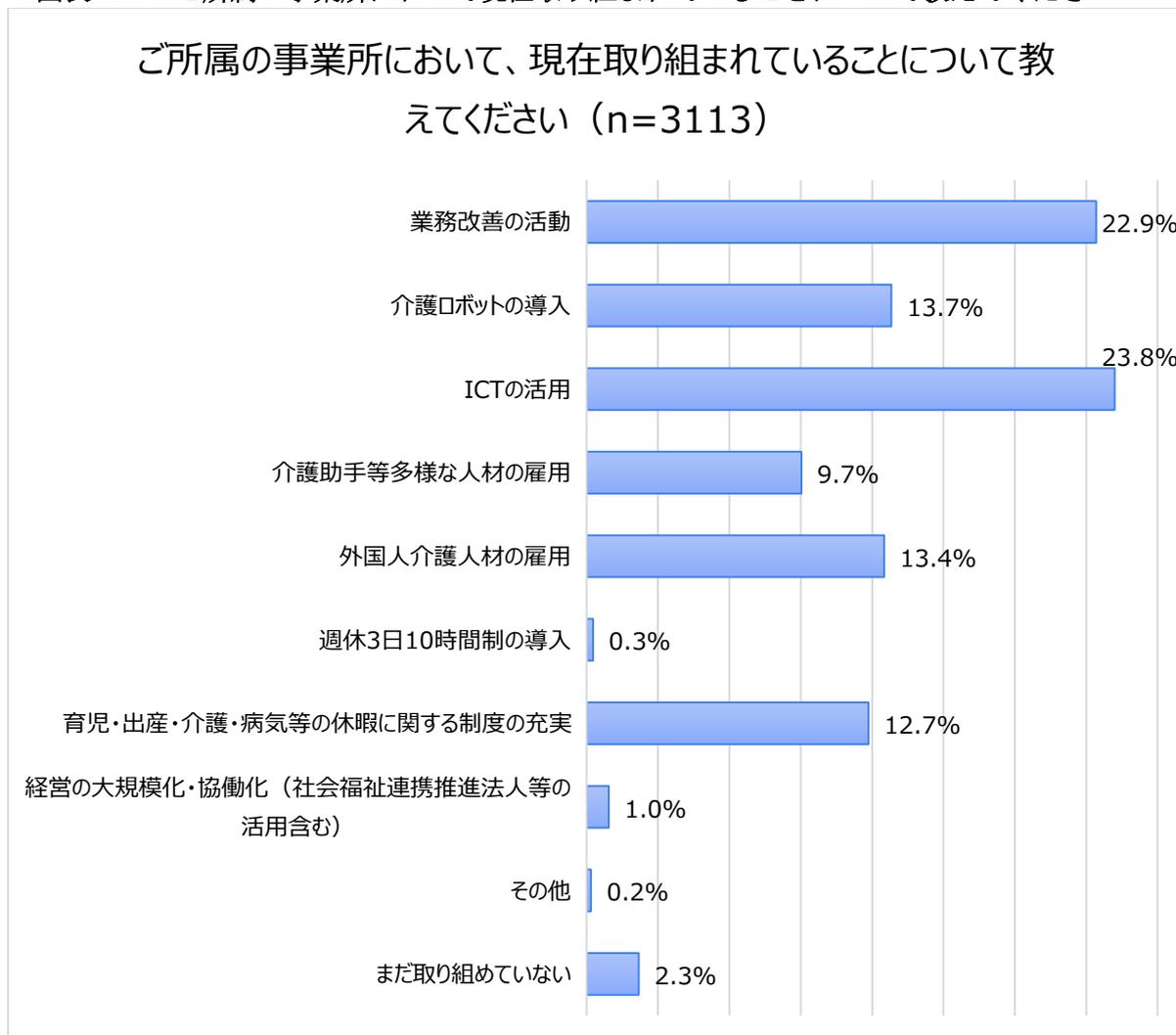
図表 252 本フォーラムに参加したことで生産性向上の取組にどのような印象を持ちましたか



9) ご所属の事業所において現在取り組まれていること（複数選択可）

ご所属の事業所において現在取り組まれていることをみると、「ICTの活用」が23.8%と最も高く、次いで「業務改善の活動」が22.9%、「介護ロボットの導入」が13.7%となっている。

図表 253 ご所属の事業所において現在取り組まれていることについて教えてください

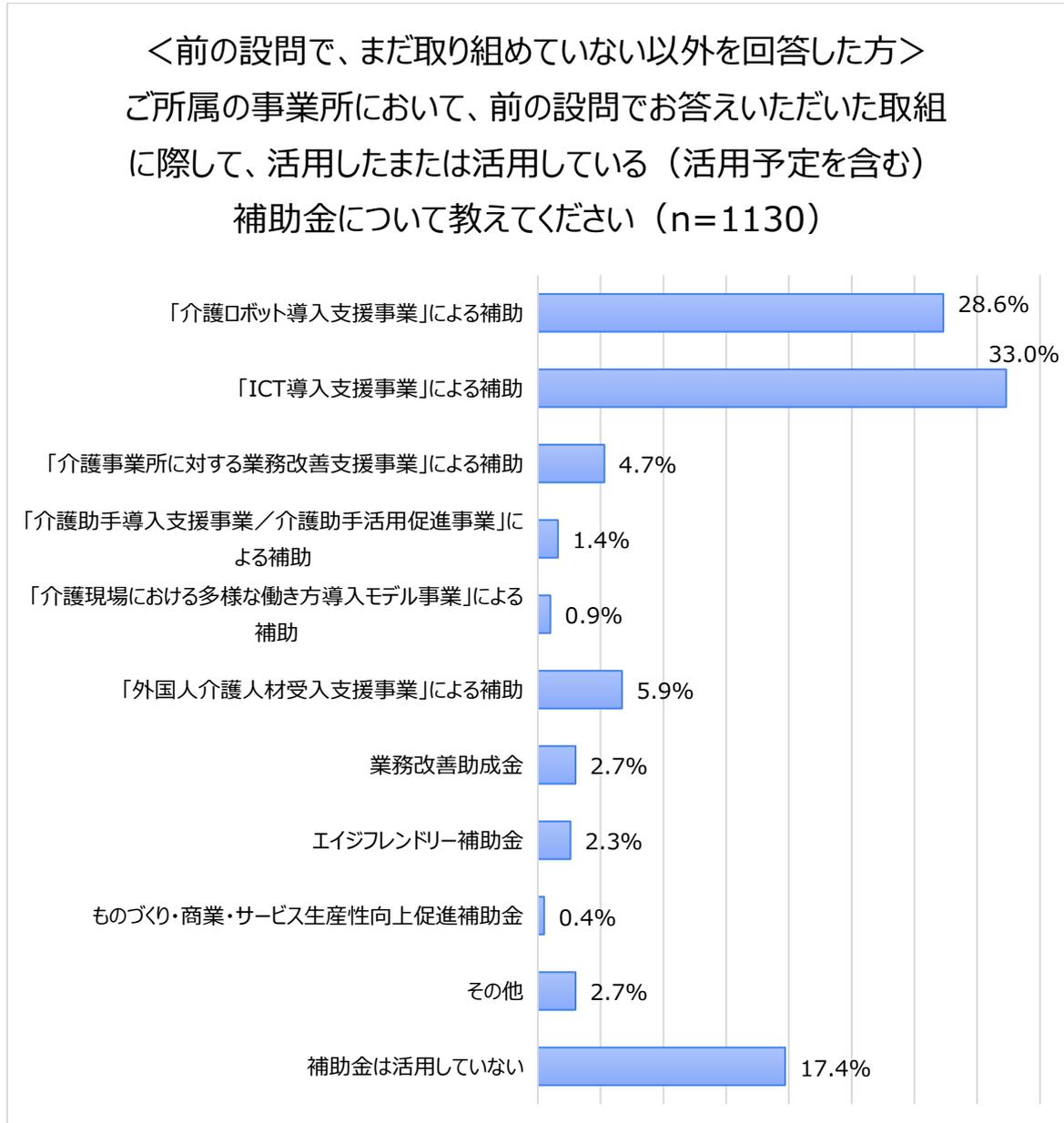


図表 254 その他の内容（主な回答）

その他の内容（自由記述）
インカム等のシステム導入による業務改善
ケアプランデータ連携システム
5S 運動
生産性向上委員会の設置

- 10) <前の設問で、まだ取り組めていない以外を回答した方>所属の事業所において活用した、または活用している（活用予定を含む）補助金（複数選択可）
- 所属の事業所において活用した、または活用している（活用予定を含む）補助金をみると、「ICT導入支援事業」による補助が33.0%と最も高く、次いで「介護ロボット導入支援事業」による補助が28.6%、「補助金は活用していない」が17.4%となっている。

図表 255 ご所属の事業所において活用した、または活用している（活用予定を含む）補助金



図表 256 その他の内容（主な回答）

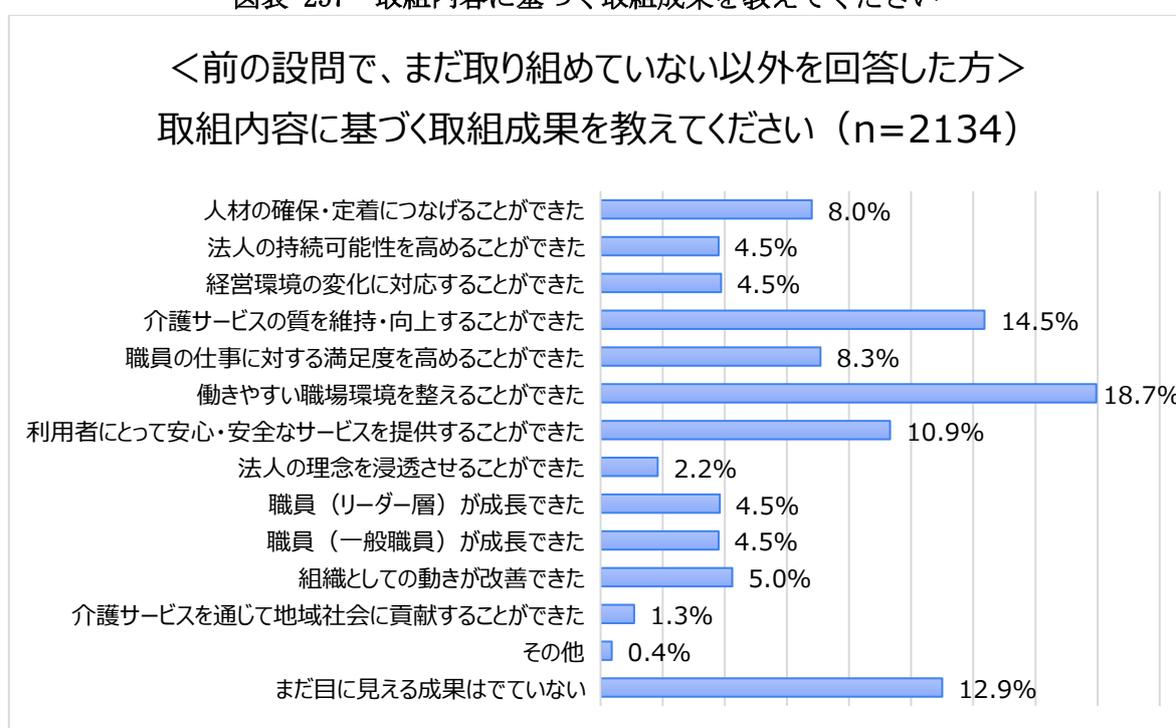
その他の内容（自由記述）
東京都居宅事務員雇用支援補助事業
介護テクノロジー定着支援事業
IT導入補助金
中央競馬馬主社会福祉財団助成金関係
スマート介護事業

見守り導入補助金
今回の補助金は利用していないが、過去の ICT 補助金を利用
在宅の訪問で今の所必要性がなし
私が来た時点でもう導入済みであったため不明です
新規立ち上げのため、上記には非該当
先進機器導入補助金
サ高住の為補助金が出ない
補助金申請を行ったが、選定漏れになった。

1 1) <前の設問で、まだ取り組めていない以外を回答した方>取組内容に基づく取組成果(複数選択可)

取組内容に基づく取組成果をみると、「働きやすい職場環境を整えることができた」が18.7%と最も高く、次いで「介護サービスの質を維持・向上することができた」が14.5%、「まだ目に見える成果はでていない」が12.9%となっている。

図表 257 取組内容に基づく取組成果を教えてください



図表 258 その他の内容(主な回答)

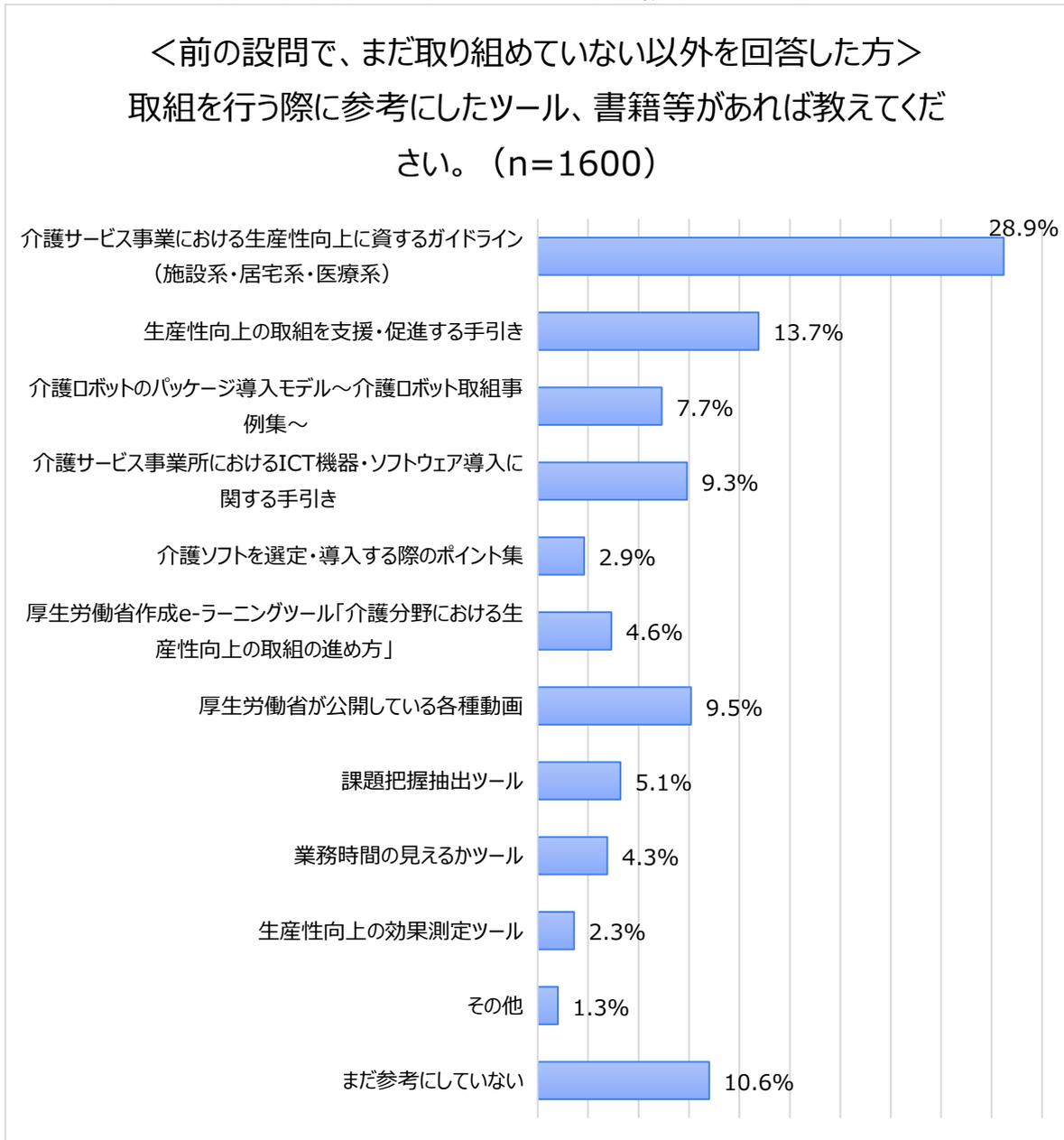
その他の内容(自由記述)
ITC 機器利用による記録の転記など無駄な作業の削減は効果あり
わからない
各サービス事業者との連携がしやすくなった。
目に見える成果が少しは出始めているが「できた」までは言えない
利用事業所が殆どなく、効果は出ていない。

1 2) <前の設問で、まだ取り組めていない以外を回答した方>取組を行う際に参考にしたツール、書籍等(複数選択可)

取組を行う際に参考にしたツール、書籍等をみると、「介護サービス事業における生産性

向上に資するガイドライン（施設系・居宅系・医療系）」が 28.9%と最も高く、次いで「生産性向上の取組を支援・促進する手引き」が 13.7%、「まだ参考にしていない」が 10.6%となっている。

図表 259 取組を行う際に参考にしたツール、書籍等があれば教えてください



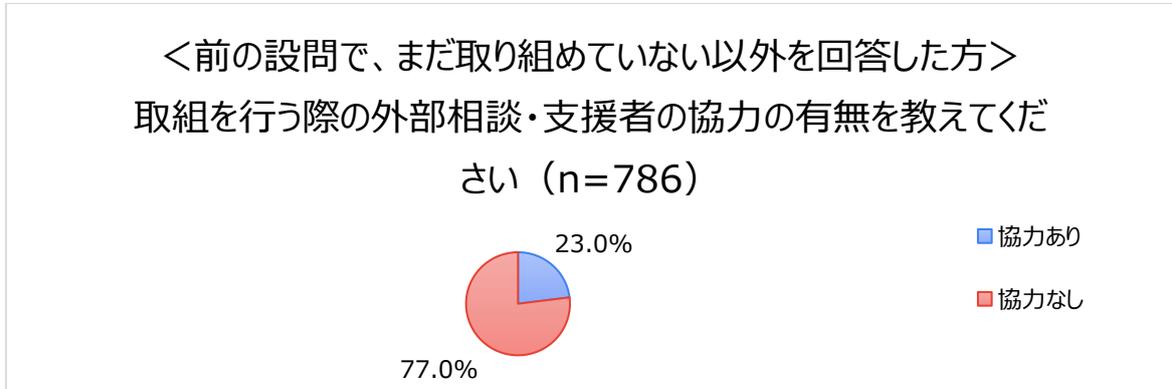
図表 260 その他の内容（主な回答）

その他の内容（自由記述）
ITC 機器利用による記録の転記など無駄な作業の削減は効果あり
わからない
各サービス事業者との連携がしやすくなった。
目に見える成果が少しは出始めているが「できた」までは言えない
利用事業所が殆どなく、効果は出ていない。

1 3) <前の設問で、まだ取り組めていない以外を回答した方>取組を行う際の外部相談・支援者の有無 (1つ選択)

取組を行う際の外部相談・支援者の有無をみると、「協力なし」が77.0%と高く、次いで「協力あり」が23.0%となっている。

図表 261 取組を行う際に参考にしたツール、書籍等があれば教えてください



1 4) <前の設問で「協力あり」と回答した方>相談・協力者名 (機関名) をお答えください (自由記述)

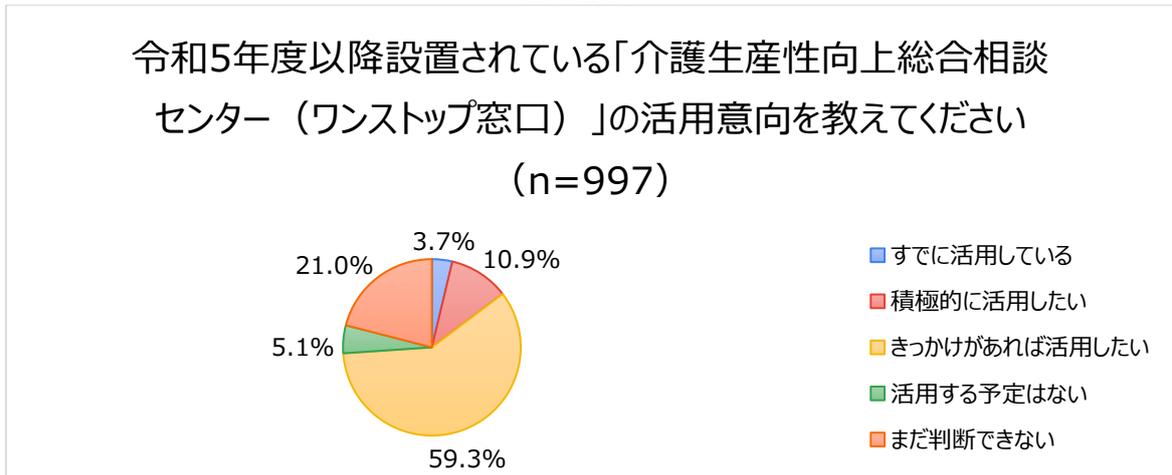
図表 262 相談・協力者名 (機関名) (主な回答)

相談・協力者名 (機関名) をお答えください (自由記述)
医療機関
自治体
全国デイケア協会
介護労働安定センター
介護生産性向上総合相談センター
日本介護福祉士会

1 5) 令和5年度以降設置されている「介護生産性向上総合相談センター(ワンストップ窓口)」の活用意向(1つ選択)

令和5年度以降設置されている「介護生産性向上総合相談センター(ワンストップ窓口)」の活用意向をみると、「きっかけがあれば活用したい」が59.3%と最も高く、次いで「まだ判断できない」が21.0%、「積極的に活用したい」が10.9%となっている。

図表 263 令和5年度以降設置されている「介護生産性向上総合相談センター(ワンストップ窓口)」の活用意向

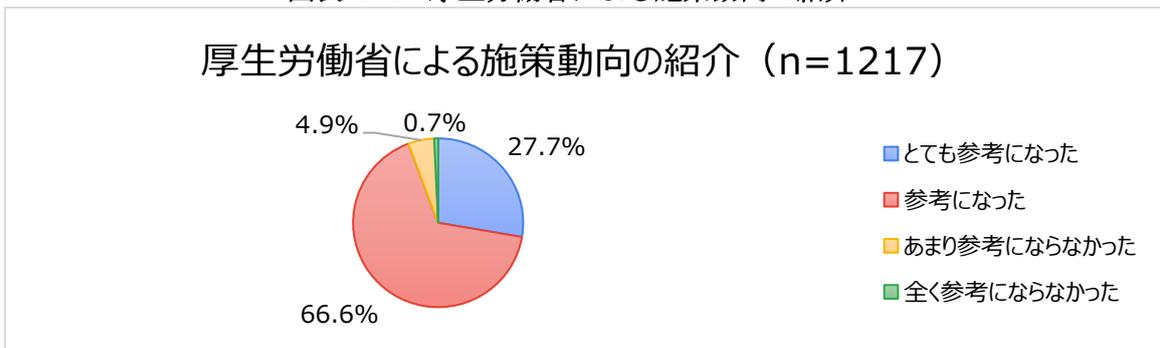


<全ての方がお答えください>本日のフォーラムのプログラム内容についてお伺いします。

1 6) 厚生労働省による施策動向の紹介(1つ選択)

厚生労働省による施策動向の紹介をみると、「参考になった」が66.6%と最も高く、次いで「とても参考になった」が27.7%、「あまり参考にならなかった」が4.9%となっている。

図表 264 厚生労働省による施策動向の紹介



1 7) 前の設問に回答した理由をお答えください(自由記述)

図表 265 前の設問に回答した理由をお答えください(主な回答)

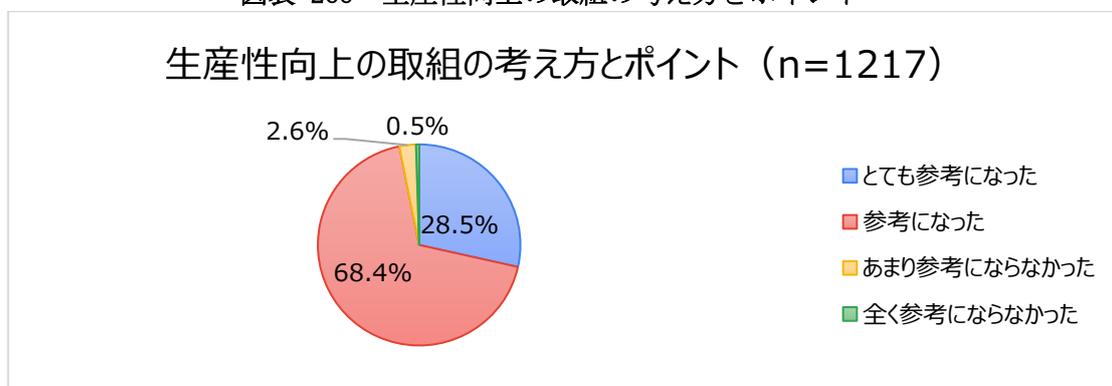
前の設問に回答した理由をお答えください(自由記述)
近い将来の介護職員の人材確保の為、介護職員の育成と離職の回避をする取り組みが理解できました。
DXの全体像がわかった
Webで音が聞こえなかった

ZOOMのせいもあるが、テンポが速すぎて理解できないままになってしまった
あまり内容が把握出来ていなかったが、今回で良く理解出来た。
おおむね理解していた内容だったから
ガイドラインやシステムについて新しく変更になる点などが知れてよかったです。
ケアプランデータ連携システムの有用性を感じることができた。
これからの人口動態を鑑み、働く人は減っていく中で少しでも、福祉業界が明るい未来を期待しているし、国がその方針を示してくれる事は、大事だと思います。
サポートしてくれる事を知った。

1 8) 生産性向上の取組の考え方とポイント (1つ選択)

生産性向上の取組の考え方とポイントを見ると、「参考になった」が 68.4%と最も高く、次いで「とても参考になった」が 28.5%、「あまり参考にならなかった」が 2.6%となっている。

図表 266 生産性向上の取組の考え方とポイント



1 9) 前の設問に回答した理由をお答えください (自由記述)

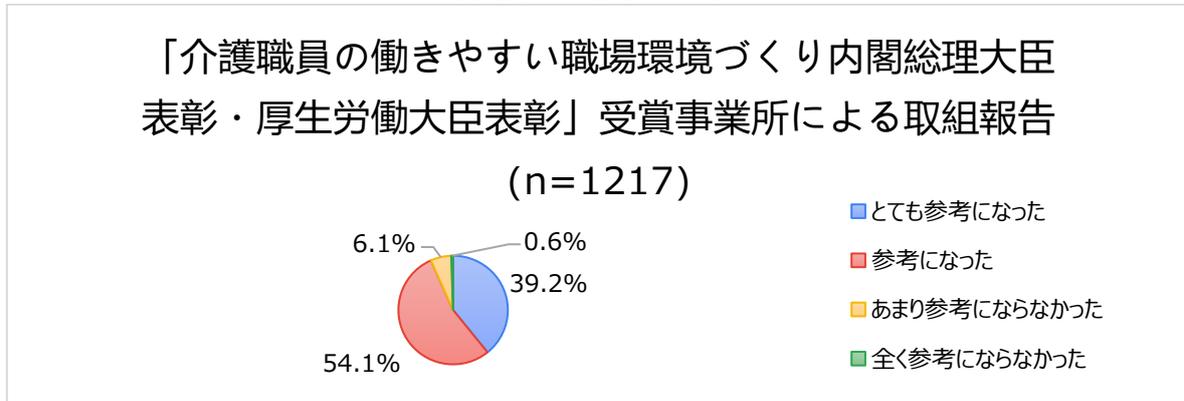
図表 267 前の設問に回答した理由をお答えください (主な回答)

前の設問に回答した理由をお答えください (自由記述)
「介護はクリエイティブな仕事、FOMOの罠、成功の秘訣「準備8割」、戦略的撤退」が非常に参考になりました。わかりやすい言葉で説明いただけ、最後まで話についていくことができました。
「出来ることから少しずつ」と言われ、取り組みやすいと感じた。
ICTに殆どを変えていく事に抵抗がありましたが、その先に職員や利用者の「ありたい姿」があることを考えが少しずつ変わりました。
こちらもいつも発信される方だと思います。全国の取り組みを見て、標準化したものを具体的にどうすべきか、その根拠を説明してくれるので、とても参考になります
スタッフへの伝え方や現場の課題をスタッフと一緒に考え理解を深めていくことを学んだ。
ステップの踏み方を再確認できました。目的を共有して、焦らず取り組むこと
トップダウンで進めるのではなく、現場と話し合いを重ね、現場の職員自身が答えを出すことが大切と知った。
どの様にして取り組めばよいか、また今の職場の課題点が見つかった。
なぜ生産性向上の取組が必要かよくわかった
介護現場の環境改善が経営に好循環を生むという考え方が好ましいと思えた。

20) 「介護職員の働きやすい職場環境づくり内閣総理大臣表彰・厚生労働大臣表彰」受賞事業所による取組報告 (1つ選択)

生産性向上の取組の考え方とポイントをみると、「参考になった」が 54.1%と最も高く、次いで「とても参考になった」が 39.2%、「あまり参考にならなかった」が 6.1%となっている。

図表 268 「介護職員の働きやすい職場環境づくり内閣総理大臣表彰・厚生労働大臣表彰」受賞事業所による取組報告



21) 前の設問に回答した理由をお答えください (自由記述)

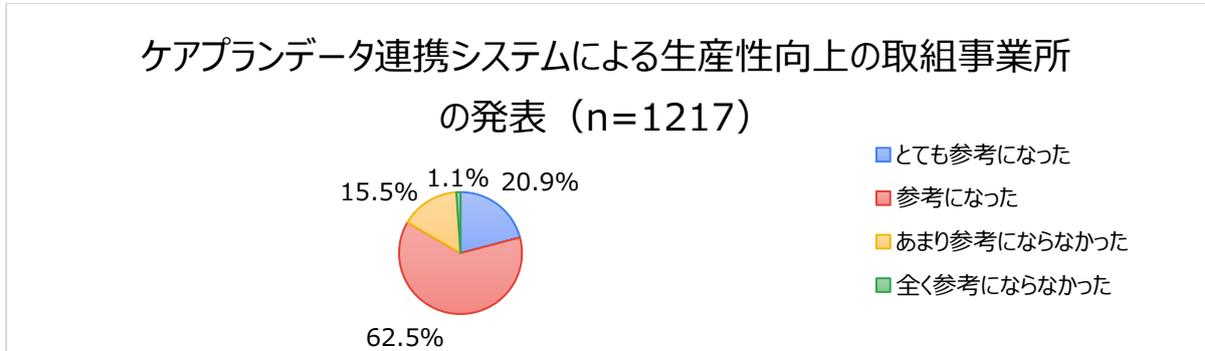
図表 269 前の設問に回答した理由をお答えください (主な回答)

前の設問に回答した理由をお答えください (自由記述)
「サポーター」というマンパワーの獲得を実現していることにが印象深い。
100%の効果を出すことにまい進するのではなく、現場とリーダーが共通の目標をもって対応することが現場の生産性向上から得る絶大な効果であることが各報告を聴講し感じた。
1つのシステムに依存するのではなく、複数のシステムを組み合わせることで、企業に最適な仕組みを構築することの重要性があると考えます。柔軟に組み合わせることで、より効率的で実用的な運用が可能になります。
1つの発表で「利用者ファーストのための職員ファースト」という題がとても印象に残った。
24通りのシフト制など求人募集で直ぐに取り組みそうなものがあった。
3法人の取組が事例で紹介して理解できた。参考にして取り組んでいきたい。
いいなと思った
いろんなところがあったが、人が足りない時間帯に人員を増やす取り組みはとても面白い試みだと思った
インカムの使用をしているが、その効果を今一感じていなかった。人を探す時間のムダの解消になるとの説明で腑に落ちた。物を探す時間、移動の時間のムダなどもよくわかった。
それぞれの施設の特性もあり、考えさせられた部分もありましたが、スタッフを大切に思う気持ちやそれに伴いやる気のスイッチが入る職場環境を実践し取り組んでいきたい。

2 2) ケアプランデータ連携システムによる生産性向上の取組事業所の発表 (1つ選択)

ケアプランデータ連携システムによる生産性向上の取組事業所の発表をみると、「参考になった」が62.5%と最も高く、次いで「とても参考になった」が20.9%、「あまり参考にならなかった」が15.5%となっている。

図表 270 「ケアプランデータ連携システムによる生産性向上の取組事業所の発表



2 3) 前の設問に回答した理由をお答えください (自由記述)

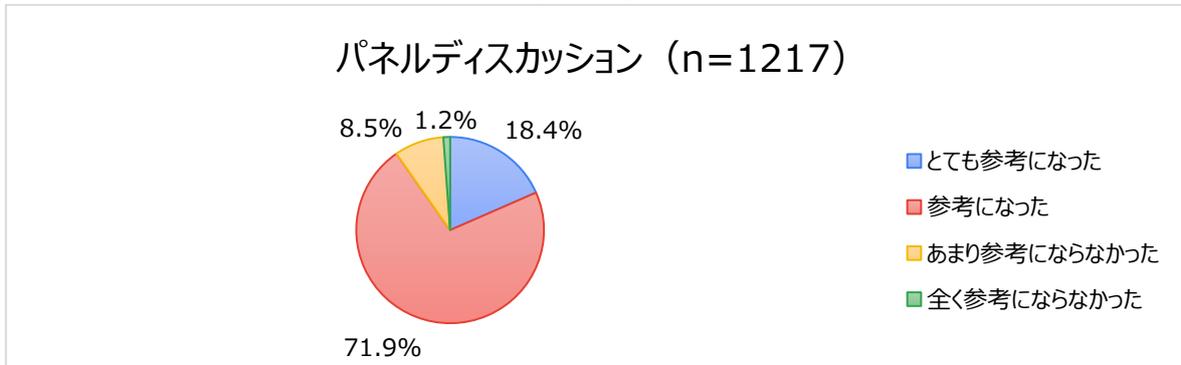
図表 271 前の設問に回答した理由をお答えください (主な回答)

前の設問に回答した理由をお答えください (自由記述)
1年間無料で使用できるので、各事業所責任者導入に向けた打合せします
いずれ当たり前のように完全ペーパーレスになり、他事業所とのやり取りがPC上になり生産性も上がっていくと思います。ただ思いもかけないアクシデントでPCが不通になってしまったら、結局頼れるのは紙媒体ではないのだろうか、とも思います。
うちの事業所でも参考にさせていただき取り組んでいきたいと思いました
ケアプランデータシステムの必要性がわかった。活用に動きたい。
ケアプランデータ連携システムとはそもそもどのような連携をするものなのか、短時間のご発表の中では、理解しがたかった。もう少し具体的に理解できればありがたかった。
ケアプランデータ連携システムは利用していきたいが、周囲の事業所が利用していないことにはメリットがないので、行政の施策として強力に後押しして欲しいと感じた。
ペーパーレス、手入力業務からの解放の取り組みは重要。現場や管理部への説得材料となる。
まだ勉強不足な分野でしたため、これから勉強しようと思いました。
居宅事業所・ケアマネジャーの今後の動向がわかった。
近隣の市町村は取り組んでいるが、当町は様子見のいう事らしいので、促進する様働きかけようと感じました。

2 4) パネルディスカッション (1つ選択)

パネルディスカッションをみると、「参考になった」が71.9%と最も高く、次いで「とても参考になった」が18.4%、「あまり参考にならなかった」が8.5%となっている。

図表 272 パネルディスカッション



2 5) 前の設問に回答した理由をお答えください (自由記述)

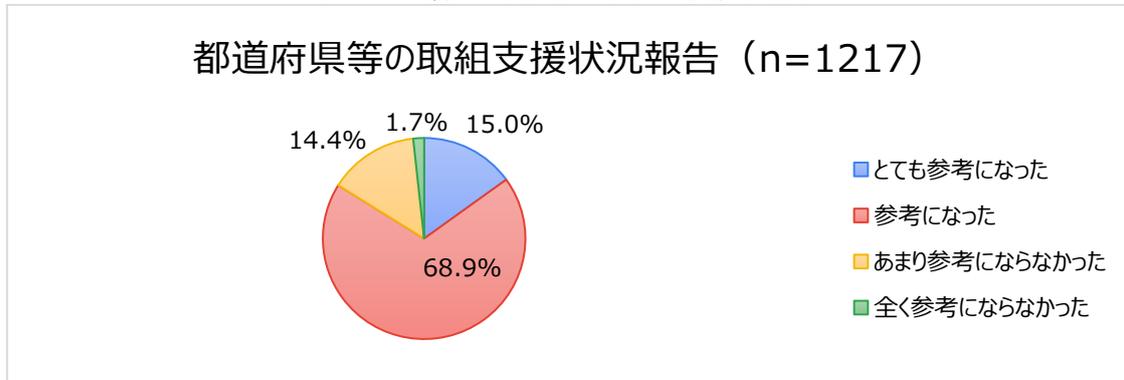
図表 273 前の設問に回答した理由をお答えください (主な回答)

前の設問に回答した理由をお答えください (自由記述)
いろいろな業種の方のお話し、各視点からの意見がとても参考になりました。
こちらの方が会話的な応答内容で分かりやすいところがあった。
さらにリアルな課題等がみえ、どこに工夫が必要等の内容が理解できた。
スムーズにいかないこと、苦勞を乗り越えることを覚悟できた。
それぞれのパネラーが、独自のことばで熱く語ってくださったため。
どの様な取り組みで取り組んだか経営層の話はあったが、現場層の話も欲しかった
パネラーの説明はわかりやすかった。それぞれの思いや考えが伝わった。
より深い考えを聞くことが出来た。取り組む上でのポイントを聞くことができ良かった。
各報告のプログラムではいいところはよくわかりますが、パネルディスカッションでは特に苦勞している点などの話がとてもリアルで参考になると思いました
管理者が強いメッセージを発することの重要性を再認識できました。

2 6) 都道府県等の取組支援状況報告 (1つ選択)

都道府県等の取組支援状況報告をみると、「参考になった」が68.9%と最も高く、次いで「とても参考になった」が15.0%、「あまり参考にならなかった」が14.4%となっている。

図表 274 都道府県等の取組支援状況報告



2 7) 前の設問に回答した理由をお答えください (自由記述)

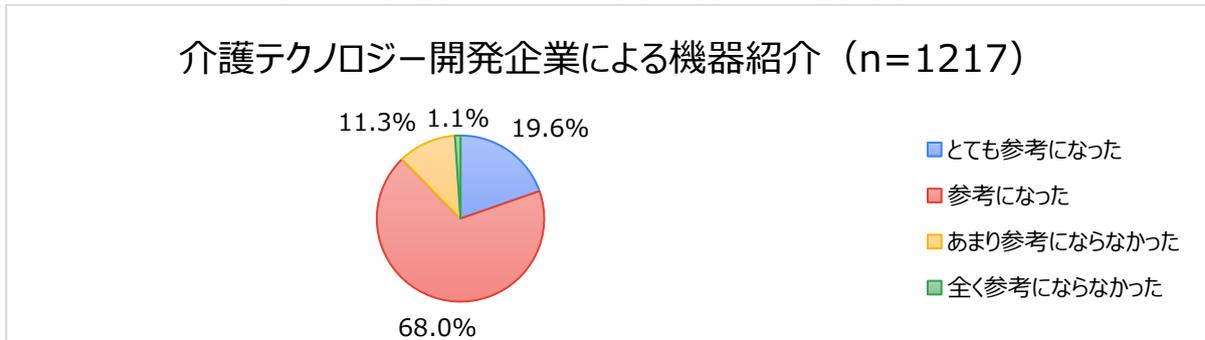
図表 275 前の設問に回答した理由をお答えください (主な回答)

前の設問に回答した理由をお答えください (自由記述)
いろいろな組織、体制、窓口、取組内容を知ることができた。
まだ調べられてないので情報収集してみたいと思いました。
リアルな数字で示されていてよかったです
ワンストップで対応するなどの行政の工夫や取り組みについても参考になります。伴走支援が具体的にどのような感じなのかももう少し聞くことができたらいいなと思いました
一部ではあるが、現状把握になった。
音量が小さく聞き取りにくかった。
介護テクノロジーなどを知るための窓口を知っておくこと、相談員派遣の取り組みをされていることが分かった
介護の仕事は地域を支えているという言葉に共感した。
効果的に運用するために相談しよう思う
行政機関も様々な取り組みや工夫をしていただきながら支援をいただけている味方だと感じた。

2 8) 都道府県等の取組支援状況報告 (1つ選択)

都道府県等の取組支援状況報告をみると、「参考になった」が68.0%と最も高く、次いで「とても参考になった」が19.6%、「あまり参考にならなかった」が11.3%となっている。

図表 276 介護テクノロジー開発企業による機器紹介



2 9) 前の設問に回答した理由をお答えください (自由記述)

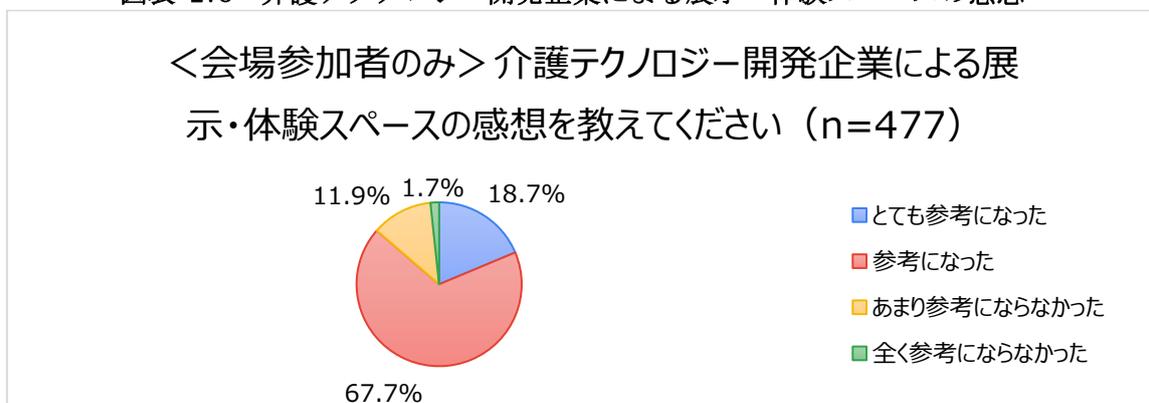
図表 277 前の設問に回答した理由をお答えください (主な回答)

前の設問に回答した理由をお答えください (自由記述)
ICT 機器に関しては実際に、操作性や実物を確認してみないと実感が持てなかった。
WEB でもカメラ越しに見せていただけたので、調べることもでき、有難かったです。
WEB 参加なので、体験ができず残念です。
インタビュー形式で説明していたのはよかったです。
かかる費用金額を知ることが出来ればもっと良かったです。
スタッフにも体験させたいと思った。
どれも介助者の負担や介護される側の負担も軽減に繋がっていていいなと感じましたがお値段気になりました。個人的に徘徊を散歩に変えるといった言葉
もっとデモンストレーションの時間があると良かった
以前より機器を見ているが、あまり内容に変化がないため
以前見たもの最新の物を見ることができ、良かった。
実際に見ることができてよかったです。通信の問題か少しカクついていて小さな動きは見られなかったですが、あまり大きな問題ではないかなとも思います。

30) <会場参加者のみ>介護テクノロジー開発企業による展示・体験スペースの感想 (1つ選択)

介護テクノロジー開発企業による展示・体験スペースの感想をみると、「参考になった」が67.7%と最も高く、次いで「とても参考になった」が18.7%、「あまり参考にならなかった」が11.9%となっている。

図表 278 介護テクノロジー開発企業による展示・体験スペースの感想



31) 前の設問に回答した理由をお答えください (自由記述)

図表 279 前の設問に回答した理由をお答えください (主な回答)

前の設問に回答した理由をお答えください (自由記述)
スペースが広く取られていて見やすかったから
セミナー参加人数が多く、説明受けるにも飽和状態かなと思った。
デジタル中核人材養成のブースに興味をもった
バックオフィス系も見なかった
リフトやインカムを実際に見ることができた。データ連携の画面を実際に見ることができた。
興味ある機器があった。ICT補助金が都道府県によってバラバラになっていることを解消してほしい
言葉で聞くよりも、実際に体験したときの驚きが大きかったです。リフトなど、機械の介助は人間が行うよりも、痛い。という印象がありましたが、むしろ機械の方が痛みは少なかったです。
実際にお話しを伺い、質問する時間もあって良かった。
年々、各メーカー(企業)がいろいろな機能を追加しており、選定に迷う場合があります。
分かりやすく説明していただいた、現場に持ち帰り自身の施設の弱い部分に使えるか考える事ができる。

32) フォーラムのプログラム内容についてのご意見・ご感想 (自由記述) (主な回答)

図表 280 フォーラムのプログラム内容についてのご意見・ご感想 (主な回答)

フォーラムのプログラム内容について、ご意見・ご感想がありましたらご記入ください (自由記述)
WEBなので、気軽に参加させて頂きましたが、予想以上に収穫があったと感じました。何より、生産性向上についてのやる気を高まった気がします。ありがとうございました。
いつも、取り組み報告は小さいことが多く、大きな成果を聞くことができ励まされた。
オンラインでの参加ができ、会場にいかななくても有意義な情報を知る事ができることは大変にありがたかった。
オンラインでも、機器の展示ブースの様子もよくわかり、興味を持ちました!

それぞれの生産性の取り組むポイントが違って、とても理解しやすかった。
テーマがたくさんある中で、時間配分がよく聞きやすかった。
できれば県単位で実施してほしい
とても楽しかった。機会があれば別の研修なども是非、参加したい。
とても参考になりました、フォーラムに関してアーカイブ配信等があれば ICT チーム等での共有ができると思い、もし配信があるようでしたら教えていただきたいです。また、近隣市町でもモデル事業等やっているところがあれば連携していきたいとも感じました。
プログラムに時間が書いてあるとありがたい。時間的にとても長いので2時間くらいにまとめてもらえるとうありがたい。

3 3) フォーラムの開催時期についてのご意見・ご感想（自由記述）（主な回答）

図表 281 フォーラムの開催時期についてのご意見・ご感想（主な回答）

フォーラムの開催時期について、ご意見・ご感想がありましたらご記入ください（自由記述）
「介護職員の働きやすい職場環境づくり内閣総理大臣表彰・厚生労働大臣表彰」への申請前の開催が好ましい。
10～11月頃
3月の開催だと、年度末で何かと業務が忙しい時期でもあるし、もう少し早い時期に開催していただければ、次年度の計画に取り組むことができるのとも感じました。
Webでの参加となるため開催時期はいつでもよい
さらに年にあと1～2回。他のスタッフにも参加させてあげたいため。
開催時期は、早めにお知らせいただきたいです。
機会は多くあった方がよいと思いますが、それぞれに御多忙なので、開催時期は問いませんが継続して欲しいと感じました。
時間が長時間に渡るため、2部制、または、午前中からの開催が嬉しいかもしれません。
時期的には新年度前で、新人教育などの参加に出来るので、丁度良い。
年度末は他の研修も立て込むので出来れば秋ごろの開催が嬉しい。また、H.C.Rの前だと実際の機器を違った目で見に行けると感じた。
令和7年度の行政（都道府県、補助金など）の具体的な支援内容も一緒に知れると嬉しいので、4月、5月がよい
予算取りの都合上秋頃の開催を希望します

3 4) フォーラムの開催場所についてのご意見・ご感想（自由記述）（主な回答）

図表 282 フォーラムの開催場所についてのご意見・ご感想（主な回答）

フォーラムの開催場所について、ご意見・ご感想がありましたらご記入ください（自由記述）
WEBでの配信があれば開催地に関係なく参加しやすかった。
アクセスしやすく、とても有難かった。
オンラインでも十分理解できたため、次回も参加したいと思う。オンラインであればどこでも積極的に参加したい。近隣の会場であれば会場にも足を運ぶかもしれない。
オンラインとのハイブリッド開催は、東京に行きづらい地方の我々としては参加しやすい。
オンライン継続を希望。Youtubeの厚労省チャンネルでも公開してください。
ハイブリッド開催をしていただければ開催場所はどちらでも結構です。
会場を大阪と東京に分けていたので参加しやすかったと思います。
現地開催に参加できるようでしたら、やはり現地で参加したいです。
交通の便が良いと感じました。

今回は最前列で参加させていただきましたが、程よい広さで見やすく聞き取りやすい環境だったと思います。

地方での開催は難しいと思いますが、検討してもらいたい。

3 5) 来年度のフォーラムについてのご意見・ご要望（自由記述）（主な回答）

図表 283 フォーラムの開催場所について、ご意見・ご感想（主な回答）

フォーラムの開催場所について、ご意見・ご感想がありましたらご記入ください（自由記述）
web形式での参加があると、参加がしやすい為、今後も継続して頂けたらと思います。
WEB参加でしたが、介護テクノロジー開発企業による展示・体験スペース紹介の際に、実際に使っている様子が拝見できると良いなと思いました。
オンラインで同時参加ができる事は非常に良い。会場の雰囲気も感じられた。
ケアプランデータ連携システムの普及のため、「ケアプー広報大使」の公募や「ケアプー実践コンテスト」などを厚生労働省で企画開催していただき、「表彰等」をしてもらえたらうれしいです。
もし可能でしたら事例発表の事業所数を増やすことをご検討いただけましたらと存じます
ロボット導入の話になるべく偏らないように、長崎の伝道師の話や長岡のサポート制度など面白い取り組みを多く集め公開してもらえると助かります。また事業者のマネジメントだけでなくより現場職員に近い声をダイレクトに聞けるといいと思います。
介護業界の変革についていけない感があります。小さな事業者が地域の中で住民と繋がりがいい介護をしたいと頑張っています。継続出来るよう小さな事業所でも身の丈に合ったレベルアップや求人募集が出来る様な内容の事例等を教えていただきたいです。
今年度が機運を高める開催なら、来年度は各事業所で取り組みを始めている段階かと思っておりますので、新たに取り組みを始めた事業所のお話もお聞きしたいですし、この1年間の途中で色んな問題にあたって、それを解決していくストーリー調の情報発信も期待したいです。
失敗した事例も聞きたい
病院と介護施設の連携がテーマだと嬉しいです
訪問介護プログラムの開催。

第4項 フォーラム当日の様子

図表 284 開会挨拶の様子（東京会場）



図表 285 政策動向説明の様子（東京会場）



図表 286 生産性向上の取組の考え方とポイントの講演の様子（大阪会場）



図表 287 事業所発表の様子（大阪会場）



図表 288 パネルディスカッションの様子（東京会場）



図表 289 都道府県等の取組支援状況報告の様子（東京会場）



図表 290 展示機器出展者インタビューの様子（東京会場）



第5項 「介護現場における生産性向上推進フォーラム」のまとめ

1. 本フォーラムの実績・効果と生産性向上の取組における課題、今後の対応策について

(1) フォーラムの実績と効果について

本事業では、「介護分野における生産性向上への機運の醸成を図ること」を目的として、大阪と東京の2会場においてフォーラムを開催した。

当フォーラムでは、介護職員の働きやすい職場環境づくりにおいて内閣総理大臣表彰および厚生労働大臣表彰を受賞した事業所による講演、都道府県等における取組支援状況の報告、生産性向上の考え方および取組を進めるためのポイントの紹介を行った。申込者数は、会場参加が2会場合計751人、オンライン参加が3,481人となり、目標数値を大きく上回る結果となった。

今回の集客の成功は、主に弊社が保有するリストを活用し、自治体や業界団体に対して周知を促し、その協力を得られたことに起因していると考えられる。また、フォーラムの開催にあたっては、15の業界団体から協賛を得ることができた。これらの団体が、本フォーラムへの協賛を通じて、介護分野における生産性向上を自分事として捉え、周知活動に積極的に協力したことにより、参加者数の増加につながったと考えられる。

さらに、フォーラムと同時に開催された介護テクノロジー等の機器展示では、合計17機器の出展があった。今年度は、単なる展示にとどまらず、各展示ブースをカメラとインタビュアーが訪問し、機器の特徴や活用場面を紹介するインタビューを実施した。これにより、参加者が機器の具体的な活用イメージをより把握できるようになった。

申込時点でのアンケート結果によれば、参加者の所属する介護保険サービス種別としては、「介護老人福祉施設」が32.7%と最も多く、次いで「介護老人保健施設」が17.9%であった。一方で、居宅系サービスである「訪問介護」(4.4%)や「通所介護」(6.1%)の割合は比較的低く、居宅系サービスに対する周知には課題が残る結果となった。

フォーラム参加の動機としては、「施設・事業所の取組事例を知りたい」が19.1%で最も多く、「行政の方向性・取組内容を知りたい」が16.0%と続いた。参加申込のきっかけについては、44.1%が厚生労働省および都道府県からの案内によるものであり、行政機関のホームページや個別の案内が周知面で大きな影響を与えたことが明らかとなった。

参加者の職位については、施設長・部長・課長以上が53.6%、主任・リーダー・サービス提供責任者クラスが31.0%であり、生産性向上の取組の中心となり得る層の参加が多かったといえる。なお、プログラム別の評価は以下のとおりである。

※いずれも「とても参考になった」「参考になった」の合計

内閣総理大臣賞・厚生労働大臣表彰（優良賞）受賞事業所による講演：93.3%

ケアプランデータ連携システムによる生産性向上の取組の発表：83.4%

登壇事業所によるパネルディスカッション：90.3%

都道府県等による取組支援状況の報告：83.9%

生産性向上の考え方とポイントの紹介：96.9%

いずれのプログラムにおいても、約8割以上の参加者が「参考になった」と回答しており、全体的に高い評価を得た。

また、フォーラムを通じて生産性向上に関する取組への意欲を高めた事業所の割合は、「すでに取り組んでいる」が40.7%、「おおいに取り組もうと感じた」が43.2%、「少し取り組もうと感じた」が15.8%であり、参加者のほぼ全ての事業所が、既に取り組んでいるか、もしくは今後取り組む意思を持ち帰ったことが確認された。

(2) フォーラムの課題と対応策について

1) プログラムについて

フォーラムでは、会場参加者とオンライン参加者ともに、途中退席する参加者が多く見受けられた。特に都道府県等の取組支援状況報告の前の休憩のタイミングでの退席が目立った。これはプログラムの長さによるものと考えられる。日ごろの業務で多忙な介護事業所の職員にとって、連続して4時間半の時間を確保するのは難しいと推測される。なお、参加者アンケートでも、時間が長いという感想が散見された。

そのため、プログラムの設計においては、開催時間の見直しや午前・午後の2部制での開催も含め、参加者を飽きさせない仕掛けが必要である。また、一部の参加者は、個々の都合等により、途中退席をしていたことも確認されていることから、参加者が退席後にプログラムの内容をあらためて確認することができるように、フォーラムのアーカイブ動画の配信を行う対応も今後継続して必要と考えられる。

2) 会場参加の申込者数と実際の参加者数の乖離について

会場参加に関する申込者数については、当初設定していた定員を超過しての申込みを受け付けたものの、実際の参加者数との間に大きな乖離が生じた（大阪会場：申込者数 334 名・参加者数 230 名、東京会場：申込者数 417 名・参加者数 292 名）。この乖離は、個別の事情を考慮する余地があるとはいえ、運営上の課題が残る結果であるといえる。

今後の対応策としては、フォーラム開催時における申込者の出席率向上を図るため、申込後にリマインドメールを複数回送付するほか、参加意思の再確認を行う仕組みの導入が求められる。また、当日の急な欠席等に備え、キャンセル待ち制度の導入など、柔軟かつ実効的な運用体制の整備が必要と考えられる。

以上

